

4. 医学部

I	医学部の教育目的と特徴	4-2
II	「教育の水準」の分析・判定	4-4
	分析項目 I 教育活動の状況	4-4
	分析項目 II 教育成果の状況	4-145
III	「質の向上度」の分析	4-181

I 医学部の教育目的と特徴

1. 教育目的

(1) 教育活動を実施する上での基本方針

本学部の教育理念は、①人間形成を基盤に、生命尊重を第一義とした医の倫理を体得させ、②高度な医学・看護学知識を修得した信頼し得る医療人及び研究者を育成し、もって③医学・看護学の進展並びに地域医療の向上に寄与すること、である。この教育理念に沿って教育活動を実施することが基本方針である。

(2) 達成しようとする基本的な成果

教育活動の基本方針に従い、医学部医学科では、①幅広い医学知識を持ち質の高い臨床能力を身につけ、②コミュニケーション能力に優れ、高い倫理観を持って患者中心の医療が実践でき、③日々進歩する医学知識・医療技術を生涯にわたり学ぶ習慣を身につけ、根拠に立脚した医療を実践できる医療人、④世界をリードする生命科学研究者や医学教育者となりうる人、⑤個人と地域・国際社会の健康増進と疾病の予防・根絶に寄与し、国際的な視野でまたは地域に根ざした活動ができる人を育成することを基本的な成果とする。

また医学部看護学科では、①看護の対象となる人間を総合的に理解でき、②高い倫理観を持ち、看護の対象となる人間の権利を守り、③健康に関わる諸問題の解決に必要な知識・技術を主体的に学び、創造する能力、④関連領域の専門家と協力し、必要に応じて調整的な役割を果たす能力、及び⑤看護を批判的に吟味し、建設的・創造的に発展させる能力を持つ医療人を育成することを基本的な成果とする。

このような基本的な成果は教育に関する本学の基本的な理念である「人々が健やかに暮らせるための科学と技術に関する世界的水準での教育・研究を推進し、地域、国及び国際社会に貢献し得る人材を育成する」ことに合致するものである。

(3) 教育研究等の質の向上に関する目標との関連

中期目標を踏まえ、①質の高い教育を実施するための体制および②全学生に対するきめ細かな支援体制を整え、③ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーに基づいた特徴ある教育を実施し、④単位の実質化を図り、⑤関係者からの期待に応える医療人を育成することにより教育の質的向上を図る。

2. 組織の特徴や特色

● 組織の特徴

医学部の前身は「医の倫理に徹した優秀な医療人を育成する」ことを教育の理念として昭和55年4月に開講した旧福井医科大学であり、平成9年に看護学科が設置され、平成15年に旧福井大学と統合し現在の医学部が発足した。医学部は医学科、看護学科、附属病院及び教育支援センター、附属先進イメージング教育研究センターから構成され、昭和61年に第1期生が卒業して以来、3,771名（平成26年3月現在）におよぶ優れた医療人を育成し福井県はもとより全国各地に送り出し、広く社会に貢献してきた。福井県内をみると、医師として567名の医学科卒業生（県内医師の約30%、平成26年末）、看護師、保健師、助産師として267名の看護学科卒業生（平成26年末）が従事しており、地域医療に高く貢献している。

● 組織の特色

医学部の位置する松岡キャンパスには28診療科等からなる附属病院が設置され、福井県内唯一の大学病院及び特定機能病院として地域医療の中核を担っている。教育地域科学部及び工学部との教育交流、高エネルギー医学研究センターや子どものこころの発達研究センターによる教育支援、臨床教員制度に代表される地域教育力の活用等、教育目

的を達成するための支援体制は整備されている。

医学部では、医学部教授会の下、医学部教育委員会、医学科及び看護学科カリキュラム委員会等によって学生教育・修学指導が統括されている。また、医学部副学部長をセンター長とした医学部教育支援センターによって教育目標等の達成を考慮した教育体制の検討・改善がなされている。

3. 入学者の状況

平成 27 年度現在、医学科では前期(定員 55 名)、後期(25 名)及び推薦(30 名)、看護学科では前期(30 名)、後期(10 名)及び推薦(20 名)によって入学者を選抜している。平成 22～27 年度では、推薦枠入学者を中心として県内高校出身者は医学科では約 30%、看護学科では約 70%を占める。多様な人材を受け入れるため、医学科では 2 年次後期編入学生(5 名)を選抜している。

[想定する関係者とその期待]

優れた医療人の育成は本邦に対する医学部の使命であることは言うに及ばないが、直接の関係者とその期待として想定したものは以下のようである；

・学生及びその保護者

高度な医学・看護学知識や高い臨床能力等、医療人として備えるべき学力や資質・能力の涵養

・医療機関

高度な医学・看護学知識や高い臨床能力等、医療人として備えるべき学力や資質・能力を有した人材の育成

・地域社会

福井県地域医療の向上に寄与する医療人の育成

II 「教育水準」の分析・判定
分析項目 I 教育活動の状況

観点 教育実施体制

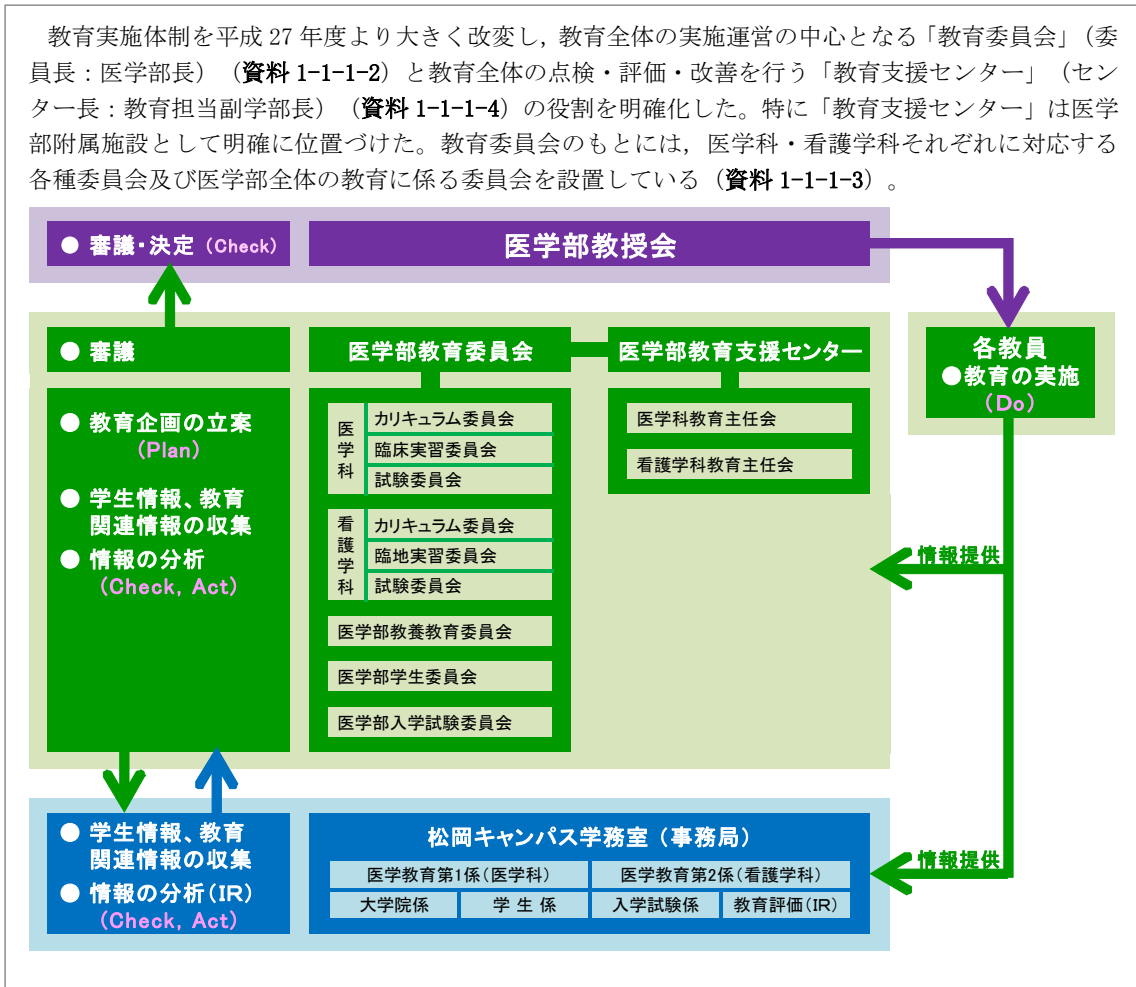
(観点に係る状況)

●教員組織編成の工夫とその効果

【教育プログラムとしての実施体制】

- ① 教育実施体制(資料 1-1-1-1)は平成 27 年度改革より医学教育分野別評価に対応すべく医学部長のもと医学部教育全体の実施運営を行う「医学部教育委員会」(資料 1-1-1-2～3)及び教育担当副学部長のもと教育全体の点検・評価・改善を行う「医学部教育支援センター」(資料 1-1-1-4)が設置され、両者の統括のもと綿密な教育実施体制を構築した。加えて、医学部教育を支援する部局として松岡キャンパス学務室は医学部に関する入学から卒業、生活や就職活動等の支援を包括的かつ一元的に行っている(資料 1-1-1-1)。

資料 1-1-1-1 医学部教育実施体制



(事務局資料)

資料 1-1-1-2 医学部教育委員会

福井大学医学部教育委員会規程	平成 27 年 2 月 19 日 福大医規程第 1 号
(設置)	
第 1 条 福井大学医学部に医学部教育委員会（以下「委員会」という。）を置く。	
(目的)	
第 2 条 委員会は、教育に関する医学部（大学院を含む）の委員会等を統括し、医学部教育の円滑な実施を図るとともに、教育改革を推進することを目的とする。	
(協議事項)	
第 3 条 委員会は、次の各号に掲げる事項について協議する。	
(1) 医学部（大学院を含む）における医学・看護学教育全般の統括、管理運営及び教育改革に関する事項	
(2) 教育に係る中期目標・中期計画に関する事項	
(3) 教育課程の編成に関する事項	
(4) 非常勤講師の招へい計画に関する事項	
(5) 学生の退学、進級及び卒業、賞罰等その身分に関する事項	
(6) その他医学部の教育に関する重要事項	
(組織)	
第 4 条 委員会は、医学部教授会の承認を得た次の各号に掲げる委員を持って組織する。	
(1) 医学部長	
(2) 副学部長（教育担当）	
(3) 医学科長又は医学系研究科博士課程小委員会委員長	
(4) 看護学科長又は医学系研究科修士課程小委員会委員長	
(5) 医学部選出の教務学生委員会委員（医学科 1 名、看護学科 1 名）	
(6) 第 8 条に規定する個別問題委員会並びに専門委員会の委員長	
(7) 松岡地区共通教育委員会委員長	
(8) 教育支援センター長	
(9) その他、外部委員を含め委員長が必要と認める者	
2 委員会に教育支援センター副センター長をオブザーバーとして置く。	
(委員長)	
第 5 条 委員会に委員長を置き、医学部長をもって充てる。	
2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。	
3 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名した委員がその職務を代行する。	
(議事)	
第 6 条 委員会は、委員の 3 分の 2 以上の出席をもって成立し、議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。	
(委員以外の者の出席)	
第 7 条 委員長は、必要があると認めたときは、委員会に委員以外の者の出席を求め、説明又は意見を聴くことができる。	
(個別問題委員会等)	
第 8 条 委員会に、第 3 条に規定する協議事項のうち医学部における教務・学生支援・入学試験に関する事項及びその他必要事項を協議するために次の個別問題委員会等を置く。	
(1) 医学部学生委員会	
(2) 医学部入学試験委員会	
2 前項の個別問題委員会等に関し必要な事項は、別に定める。	
3 第 1 項に定める個別問題委員会の他に、次の専門委員会を置く。	
(1) 医学科カリキュラム委員会	
(2) 医学科臨床実習委員会	
(3) 医学科試験委員会	
(4) 看護学科カリキュラム委員会	
(5) 看護学科臨床実習委員会	
(6) 看護学科試験委員会	
4 前項の委員会の協議事項及び委員会構成等は別表のとおりとする。	
(事務)	
第 9 条 委員会の事務は、学務部松岡キャンパス学務室において処理する。	
(雑則)	
第 10 条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員会が定める。	

(事務局資料)

資料 1-1-1-3 医学部教育委員会各委員会所轄事項一覧（医学部教育委員会規定別表）

専門委員会名称	主な協議事項	委員構成
医学科カリキュラム委員会 (委員長：医学部長が指名)	(1) 医学科のカリキュラム編成に関する事項 (2) 医学科のカリキュラムの実施に関する事項 (3) 医学科のテュートリアル教育に関する事項 (4) その他医学科のカリキュラムに関する事項	(1) 医学科の基礎系領域の教授又は准教授 4名 (2) 医学科の臨床系領域の教授又は准教授 4名 (3) 医学部教育支援センター副センター長（医学科担当2名） (4) その他委員長が必要と認める者 オブザーバーとして学生代表者を置く 6名
医学科臨床実習委員会 (委員長：医学部長が指名)	(1) 医学科臨床実習の編成に関する事項 (2) 医学科臨床実習の実施に関する事項 (3) 医学科臨床実習における電子カルテ等の取扱いに関する事項 (4) 医学科臨床実習における医療事故の対応に関する事項 (5) その他医学科の臨床実習に関する事項	(1) 医学科の臨床系領域の教授又は准教授 8名 (2) 医学部教育支援センター副センター長（医学科臨床担当） (3) その他委員長が必要と認める者
医学科試験委員会 (委員長：医学部長が指名)	(1) 医学科のアドバンストオスキー及び学科試験の計画、実施に関する事項 (2) OSCE 及び CBT の実施に関する事項 (3) 医学科学生の卒業試験の作成などに関する事項 (4) 国家試験対策に関する事項 (5) その他医学科の試験に関する事項	(1) 医学科の基礎系領域の教授又は准教授 3名 (2) 医学科の臨床系領域の教授又は准教授 5名 (3) 医学部教育支援センター副センター長（医学科担当2名） (4) その他委員長が必要と認める者
看護学科カリキュラム委員会 (委員長：医学部長が指名)	(1) 看護学科のカリキュラム編成に関する事項 (2) 看護学科のカリキュラムの実施に関する事項 (3) その他看護学科のカリキュラムに関する事項	(1) 看護学科基礎看護学の教授、准教授又は講師 1名 (2) 看護学科臨床看護学の教授、准教授又は講師 3名 (3) 看護学科地域看護学の教授、准教授又は講師 1名 (4) 医学部教育支援センター副センター長（看護学科担当） (5) その他委員長が必要と認める者 オブザーバーとして学生代表者を置く 4名
看護学科臨地実習委員会 (委員長：医学部長が指名)	(1) 看護学科臨地実習の編成に関する事項 (2) 看護学科臨地実習の実施に関する事項 (3) 看護学科臨地実習における電子カルテ等の取扱いに関する事項 (4) 看護学科臨地実習における医療事故の対応に関する事項 (5) その他看護学科の臨地実習に関する事項	(1) 看護学科基礎看護学の教授、准教授又は講師 1名 (2) 看護学科臨床看護学の教授、准教授又は講師 3名 (3) 看護学科地域看護学の教授、准教授又は講師 1名 (4) 医学部教育支援センター副センター長（看護学科担当） (5) その他委員長が必要と認める者
看護学科試験委員会 (委員長：医学部長が指名)	(1) 看護学科の試験の計画、実施に関する事項 (2) 看護学科学生の卒業試験の作成及び進級試験に関する事項 (3) 国家試験対策に関する事項 (4) その他看護学科の試験に関する事項	(1) 看護学科基礎看護学の教授、准教授又は講師 1名 (2) 看護学科臨床看護学の教授、准教授又は講師 2名 (3) 看護学科地域看護学の教授、准教授又は講師 1名 (4) 医学部教育支援センター副センター長（看護学科担当） (5) その他委員長が必要と認める者

医学部教養教育委員会 (委員長：医学部長が指名)	(1) 福井大学共通教養部統括会議から負託された事項 (2) その他委員会が必要と認めた事項	(1) 医学科及び看護学科専任教員のうち、共通教育又は医学準備教育を主として担当する教授、准教授及び講師 (2) その他委員長が必要と認めた者
医学部学生委員会 (委員長：医学部長が指名)	(1) 学生の修学支援及び厚生補導に関する事項 (2) 医学部学生支援システムに関する事項 (3) 奨学金、授業料免除に関する事項 (4) 学生の課外授業に関する事項 (5) 学生団体に関する事項 (6) 学生の福利厚生に関する事項 (7) その他学生の支援に関する事項	(1) 医学科長 (2) 看護学科長 (3) 医学部教育支援センター副センター長 (4) 医学部選出の教務学生委員会委員（医学科 1名、看護学科 1名） (5) 松岡キャンパス学務室長 (6) その他、委員長が必要と認める者
医学部入学試験委員会 (委員長：医学部長が指名)	(1) 募集要項及び入学者選抜方法に関する事項 (2) 入学試験の計画及び実施に関する事項 (3) 合格者の判定に関する事項 (4) 大学入試センター試験の実施に関する事項 (5) その他委員長が必要と認めた事項	(1) 医学部長 (2) 医学部選出の入試委員会委員（医学科教授 1名、看護学科教授 1名） (3) 医学科教授 5名 (4) 看護学科教授 1名 (5) その他委員長が必要と認める者

(事務局資料)

資料 1-1-1-4 医学部教育支援センターの概要

医学部教育支援センターは、医学部（大学院を含む）における医学・看護学教育の点検・評価を行い、情報を提供することにより、医学部における教育改善に資することを目的として設置された。

センターでは医学部教育委員会並びに関連する委員会、教育研究施設等と連携をとりつつ、主に以下の業務を行うとともに、学生・教職員に医学部の教育に関する情報を発信している。

センターには、センター長（教育担当副学部長）及び医学科・看護学科専任教員が兼任するとともに、専任特命准教授を配し各種業務を所轄している。

1. 医学部・大学院医学系研究科に係る教育全般の点検・評価・改善に関する事項
2. 医学・看護学教育における新たな教育方法の開発・導入に関する事項
3. FD 活動に関する事項
4. 教育に係るデータベースの構築・管理・情報の提供に関する事項
5. 医学・看護学教育に係る研究活動に関する事項
6. その他、医学部における教育に係る諸問題への対応に関する事項

■ ホームページ (<http://mesc.med.lab.u-fukui.ac.jp/ja>)



(事務局資料)

- ② 各領域・診療科グループの教育に関する情報収集・実施等を主導する教育主任・教育副主任を設け、医学科・看護学科それぞれの教育主任会を設置した（資料 1-1-1-5）。

資料 1-1-1-5 教育主任と主任会

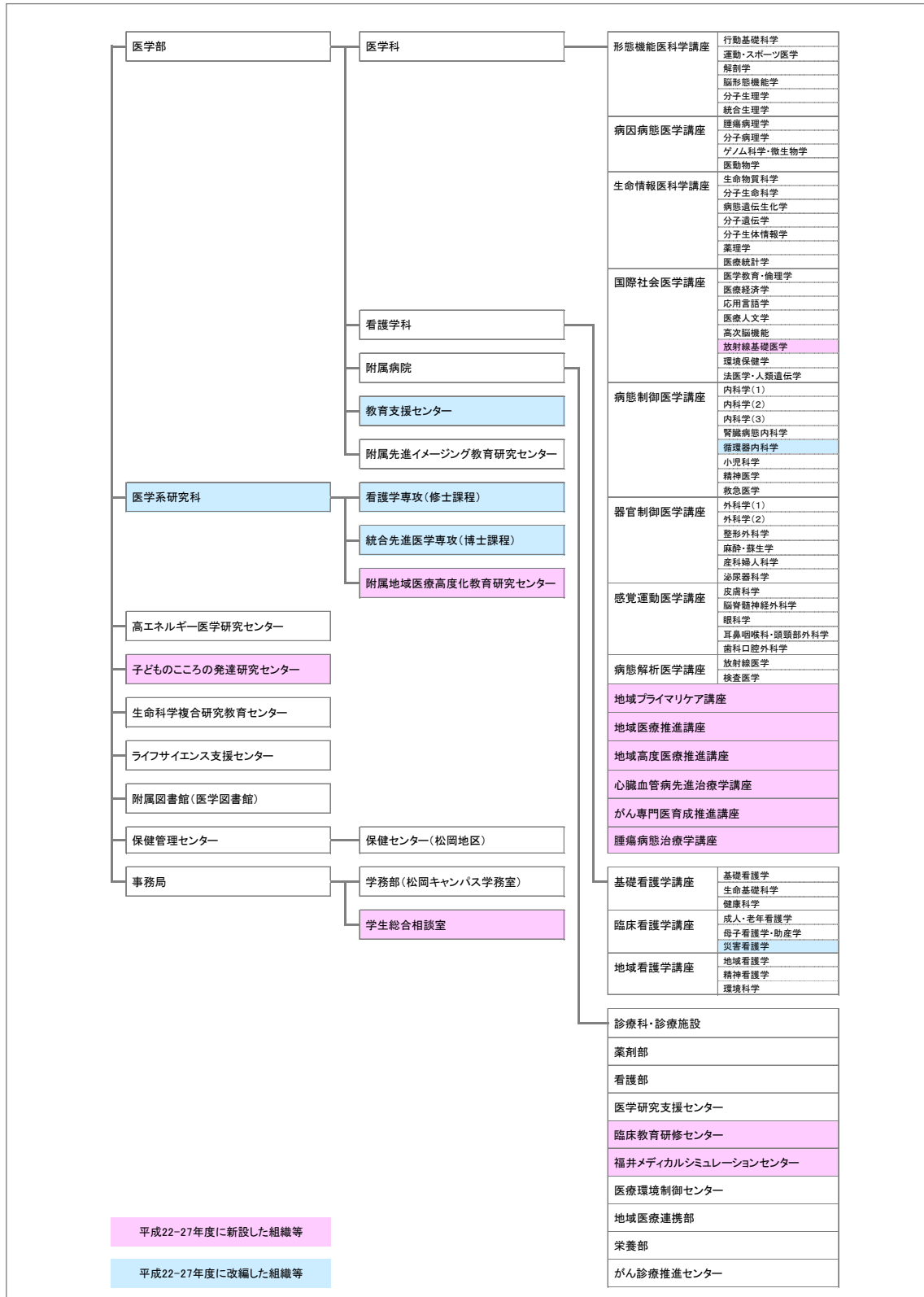
福井大学医学部医学科教育主任会・看護学科教育主任会要項（抜粋）			
（所掌事項）			
第2条 主任会は、センターと連携をとり、次の各号に掲げる業務を行う。			
（1）当該学科教育に関する情報収集を行う。			
（2）その他、当該学科教育の点検・評価・改善に関すること。			
（組織）			
第3条 医学科主任会は、次の各号に掲げる者をもって組織する。			
（1）センター長			
（2）副センター長（医学科教員）			
（3）専任教員			
（4）教育主任（医学科教員）			
（5）松岡キャンパス学務室医学教育第一係長			
2 医学科主任会に、議長を置き、前項1号に定める者をもって充てる。			
3 看護学科主任会は、次の各号に掲げる者をもって組織する。			
（1）副センター長（看護学科教員）			
（2）教育主任（看護学科教員）			
（3）松岡キャンパス学務室医学教育第二係長			
（中略）			
（教育主任）			
第6条 医学科教育主任は、別表1に定める領域・診療科等の各グループに1名置くこととする。			
2 看護学科教育主任は、別表2に定める領域の各グループに1名置くこととする。			
3 教育主任は、次の各号に掲げる業務を行う。			
（1）各領域・診療科グループの教育に関する情報収集を行う。			
（2）各領域・診療科グループの教育をとりまとめ、当該学科における教育の実施を主導する。			
（3）センターと協力し主任会を運営する。			
（4）その他、センター及び主任会が依頼すること。			
別表1（一部抜粋）			
講座等	領域・診療科	旧科目・旧講座	人数
形態機能医科学	行動基礎科学	心理学	1
	運動・スポーツ医学	保健体育	
国際社会医学	医学教育・倫理学	倫理学	1
	医療経済学	経済学	
	応用言語学（医学英語）	英語	
	医療人文学	ドイツ語	
生命情報医科学	生命物質科学	物理学	1
	分子生命化学	化学	
	病態遺伝生化学	生物学	
	医療統計学	数学	
形態機能医科学	人体解剖学・神経科学	解剖学(1)	1
	組織細胞形態学・神経科学	解剖学(2)	
形態機能医科学	分子生理学	生理学(1)	1
	統合生理学	生理学(2)	
病態遺伝医学	腫瘍病理学	病理学(1)	1
	分子病理学	病理学(2)	
⋮	⋮	⋮	⋮

（事務局資料）

【組織体制】

- ① 教育プログラム全体は医学部教育委員会の統括のもと、各種委員会と教育担当講座や各種センターが一体となった運営がなされている。講座・センター組織は新設や改組により常に適切に維持されている（資料 1-1-1-6）。

資料 1-1-1-6 医学部関連組織図



(事務局資料)

② 福井県内の地域医療の充実や地域医療に貢献する人材育成を目指す寄附講座として「地域プライマリケア講座」（福井県高浜町）、「地域医療推進講座」（福井県）、「地域高度医療推進講座」（公立小浜病院）等を開設し（資料 1-1-1-7）、地域医療人育成プログラム（P4-96 後掲資料 1-2-2-2）を初めとする教育を推進し、地域社会からの期待に応じている。中でも医師不足が顕著である高浜町による「地域プライマリケア講座」は全国初の市町村による医学部寄附講座として特筆される。

資料 1-1-1-7 医学部寄附講座

寄附講座名	寄附者	設置目的	具体的な内容	設置年
地域プライマリケア講座	高浜町 (全国初となる市町村による医学部寄附講座)	地域のニーズに即したプライマリケアに関する教育・研究及び診療を行うとともに、その研究成果の普及を行い、プライマリケア研究の推進に寄与する。	<ul style="list-style-type: none"> 診療所と地域病院の連携に関する教育 地域のニーズに合ったプライマリケアプログラムの研究 医師不足地域における効果的な医療支援システムの研究 老年医学及び老年救急の研究 在宅医療におけるプライマリケアチームの介入効果についての疫学的調査 	平成 21 年度
地域医療推進講座	福井県	福井県内の地域医療の充実を図るため、魅力ある研修システム及び医師派遣システム等に関する研究・構築を行うとともに、その研究成果の普及を行い、地域に必要な医師の確保等、福井県の地域医療に寄与することを目的とする。	<ul style="list-style-type: none"> 地域医療についての臨床教育・研修システムの研究及び構築 医師派遣システムの研究及び構築 県内の医師、臨床医の確保に関する研究及び取り組み その他、地域医療の推進に関すること 	平成 22 年度
地域高度医療推進講座	公立小浜病院組合 (小浜市)	地域医療を再生するための教育拠点として設置し、地域医療を担う医師に対する教育、育成、研究及び診療を行うとともに、その研究成果の普及を行い、地域医療の組織的な確立を図ることに寄与する。	<ul style="list-style-type: none"> 地域医療の教育・支援 臨床研修医の臨床能力向上を図るための教育及びプログラムの研究 医師不足地域における効果的な医療支援システムの研究 地域医療における医師派遣システムを構築するための研究 地域に関連した臨床的研究の推進 	平成 25 年度
心臓血管病先進治療学講座	㈱ディーブイエックス ㈱バイオトロンクジャパン ㈱ジョンソン・エンド・ジョンソン	最先端心臓血管治療の研究（臨床・実験・研修）により先進的な心臓血管病の治療方法・技術と診断方法を研究開発することで広く医療に貢献することを目的とする。	<ul style="list-style-type: none"> 心不全治療を中心とした次世代不整脈治療デバイスの研究と心房細動治療・心室頻拍治療を中心とした心臓カテーテル治療の研究 不整脈疾患、心不全、急性冠症候群、閉塞性動脈硬化症における早期診断バイオマーカーの開発・研究 虚血性心臓病、閉塞性動脈硬化症、弁膜症、心筋症における先進的な治療とその臨床応用 	平成 26 年度
がん専門医育成推進講座	福井県	福井県内のがん医療の充実を図るため、がんの診療に必要な病理専門医、がん薬物療法専門医及び放射線治療専門医（以下「がん専門医」という）を育成・確保するための研修体制、研修プログラム及び派遣体制についての研究・構築を行い、県内のがん医療の推進に寄与することを目的とする。	<ul style="list-style-type: none"> がん専門医を育成・確保するための研修体制の研究及び構築 がん専門医を育成・確保するための研修プログラムの研究及び構築 がん専門医を育成・確保するための派遣体制の研究及び構築 その他、がん医療の推進・教育に関すること 	平成 27 年度

(事務局資料)

- ③ 高エネルギー医学研究センターや附属先進イメージング教育研究センター等が設置され、専任又は兼任教員が連携して医学教育にあたっている（資料 1-1-1-8）。

資料 1-1-1-8 医学教育を支援する施設等

■ 高エネルギー医学研究センター (<http://www.med.u-fukui.ac.jp/birc/>)



放射線など高エネルギー電磁波の医学利用に関する研究を推進し、サイクロトロン及びポジトロン断層撮影 (PET) 装置を用いて生体の機能や病態を画像化し、疾患の診断と予防に関する基礎的、臨床的研究の発展を目指している。学部教育において講義「生体と放射線・電磁波・超音波」「画像・放射線を用いた診断と治療－基礎 応用編－」、研究室配属、臨床実習などを担当している (P4-129 後掲資料 1-2-3-18)。

■ 子どものこころの発達研究センター (<http://www.med.u-fukui.ac.jp/cdrc/>)



子どもの「こころ」の問題を解明、さらには、治療・支援するための研究・活動を行っている。学部教育においては講義「人体解剖学 2」や研究室配属などを担当している。

■ 生命科学複合研究教育センター (<http://www.med.u-fukui.ac.jp/life/seimei/>)



生命科学及び関連分野に関与する教員が学内で集結し、「先端的生命科学研究の遂行」「生命科学を知る複合的なバックグラウンドをもつ人材の育成」「生命科学の生物・理科教育への還元 (社会貢献、地域での人材育成)」を目指した活動を行っている。特に高校生対象の講座を幅広く展開している (P4-102 後掲資料 1-2-2-8)。

■ ライフサイエンス支援センター (<http://www.med.u-fukui.ac.jp/cars/>)



福井大学において、大学の重点研究領域である「生命科学」をさらに発展させることを目的として設置されたセンターの1つであり、アドバンスコースⅣ「先端医学生物工学実習コース」などを担当し、最新研究機器や手法を用いた実習を行っている (P4-89 後掲資料 1-2-1-22)。

■ 医学部附属先進イメージング教育研究センター (<http://ai.labos.ac/>)



先進的機能画像技術を駆使し、医学部における形態学・画像医学教育の円滑な実施を図り、先進画像医学教育システムの開発・普及、オートプシー・イメージングの実用化研究を推進している。画像医学教育の中心として放射線科画像，組織学病理学組織画像，御遺体 CT/MRI 画像などの本邦随一の教育コンテンツ 6,000 以上を有し，画像教育システムによる学生教育に活用されている (P4-129 後掲資料 1-2-3-18)。

■ 医学系研究科附属地域医療高度化教育研究センター (<http://kango-career.med.u-fukui.ac.jp/>)



少子高齢化における今後の 21 世紀型地域医療の在り方の研究，地域医療機関・県内大学・行政機関等との連携を基盤とした，地域包括医療の先進的・高度化に関する総合的な教育研究を行うとともに，併せてそれを担う高度専門的な人材育成，関連する医学・看護学の課題に係る研究を発展させることをもって地域医療への貢献を図ることを目的としている。メディカルシミュレーションセンターを活用した医学生・看護学生スキルアップ，多職種連携による在宅ケアのレベルアップのための教育活動などを行っている。

(事務局資料)

【外部組織との連携】

福井県内外の医療機関との連携を進め、医学科では臨床実習委員会の統括のもと 39 施設において臨床実習等を、看護学科では臨地実習委員会の統括のもと 34 施設において臨地実習等を行い、これら施設数は第 1 期中期目標期間（以下「第 1 期」という。）より増加した。学外医療機関における実習の評価は学生及び実施施設共に高く、特に学生からの高評価の割合は第 1 期よりも増加した（資料 1-1-1-9, 10）。

資料 1-1-1-9 平成 27 年度臨床・臨地実習先一覧（学外）

【医学科】					【看護学科】				
No	施設名	所在県	平成21年度	平成27年度	No	施設名	所在県	平成21年度	平成27年度
1	池端病院	福井県		◎	1	アットホーム仁爱	福井県		◎
2	今庄診療所	福井県		◎	2	アニス松岡	福井県	○	◎
3	大滝病院	福井県	○	◎	3	あわら市市民福祉部健康長寿課	福井県	○	◎
4	オレンジホームケアクリニック	福井県		◎	4	永平寺町福祉保健課	福井県		◎
5	笠原病院	福井県	○		5	越前市福祉保健部健康増進課	福井県	○	◎
6	きむら耳鼻咽喉科	福井県		◎	6	大滝病院	福井県	○	◎
7	きむら小児科	福井県	○	◎	7	大野市民生環境部健康長寿課（旧：市民福祉部）	福井県	○	◎
8	木村病院（あわら市）	福井県	○	◎	8	奥越健康福祉センター	福井県		◎
9	木村病院（鯖江市）	福井県	○	◎	9	勝山市健康福祉部健康長寿課	福井県	○	◎
10	公立小浜病院	福井県	○	◎	10	坂井健康福祉センター	福井県	○	◎
11	公立丹南病院	福井県	○	◎	11	坂井市福祉保健部健康増進課	福井県	○	◎
12	国民健康保険池田診療所	福井県	○	◎	12	坂井地区医師会訪問看護ステーション	福井県	○	◎
13	国民健康保険織田病院	福井県	○	◎	13	ささした助産所	福井県		◎
14	国立病院機構あわら病院	福井県	○	◎	14	鯖江市健康福祉部健康課（旧：福祉環境部）	福井県	○	◎
15	国立病院機構福井病院	福井県	○	◎	15	仁爱ケアサポート	福井県		◎
16	嶋田病院	福井県	○	◎	16	仁爱訪問看護センター	福井県	○	◎
17	社会保険高浜病院（高浜町和田診療所）	福井県	○	◎	17	シンシア訪問看護ステーション	福井県		◎
18	市立敦賀病院	福井県	○	◎	18	丹南健康福祉センター（鯖江庁舎）	福井県	○	◎
19	市立三国病院	福井県	○	◎	19	丹南健康福祉センター（武生庁舎）	福井県	○	◎
20	つちだ小児科	福井県	○	◎	20	ディーバあかね	福井県	○	◎
21	中村病院	福井県	○	◎	21	ひなた訪問看護ステーション	福井県		◎
22	はしもと小児科クリニック	福井県	○	◎	22	福井県済生会病院	福井県		◎
23	林小児科クリニック	福井県	○	◎	23	福井県済生会訪問看護ステーション	福井県	○	◎
24	林病院	福井県	○	◎	24	福井県立病院	福井県		◎
25	春江病院	福井県	○	◎	25	福井健康福祉センター	福井県	○	◎
26	平谷こども発達クリニック	福井県	○	◎	26	福井市福祉保健部保健センター	福井県	○	◎
27	広瀬病院	福井県	○	◎	27	福井赤十字病院	福井県	○	◎
28	福井愛育病院	福井県	○	◎	28	福井赤十字訪問看護ステーション	福井県	○	◎
29	福井勝山総合病院（旧：福井社会保険病院）	福井県	○	◎	29	藤島園	福井県	○	
30	福井県済生会病院	福井県	○	◎	30	訪問看護ステーションさばえ	福井県	○	◎
31	福井県立病院	福井県	○	◎	31	訪問看護ひまわりステーション	福井県	○	◎
32	福井厚生病院	福井県	○	◎	32	ほっとりハビリ訪問看護ステーション	福井県	○	◎
33	福井循環器病院	福井県	○	◎	33	本多レディースクリニック	福井県		◎
34	福井赤十字病院	福井県	○	◎	34	みどりの森訪問看護ステーション	福井県	○	◎
35	福井総合病院	福井県	○	◎	35	ゆうあい訪問看護ステーション	福井県	○	◎
36	ふじさわ小児科医院	福井県	○	◎					
37	藤田記念病院	福井県	○						
38	舟橋内科クリニック	福井県		◎					
39	松原病院	福井県	○	◎					
40	市立島田市民病院	静岡県	○	◎					
41	木次記念病院	岐阜県	○	◎					
42	松波総合病院	岐阜県	○	◎					
43	舞鶴共済病院	京都府	○	◎					
44	彦根市立病院	滋賀県		◎					
	(計)		38施設	39施設		(計)		25施設	34施設

医学科では福井県内を始めとする 39 施設と臨床実習を行うための「卒前臨床医学教育（臨床実習）に関する覚書」に基づき、医学科臨床実習委員会の統括のもと「卒前臨床医学研修手引」（P4-148 後掲資料 2-1-1-4）を作成し臨床実習を進めている。

看護学科では、看護学科臨地実習委員会の統括のもと「看護学実習要項」に従い、福井県内の 34 施設において臨地実習（老年看護学実習、母性看護学実習、在宅看護学実習、公衆衛生看護学実習、助産学実習）を行っている（P4-120 後掲資料 1-2-3-8）。

医学科学生は学外医療機関での実習に対し約 90%の学生が適切であると、その割合は第 1 期末より増加している（P4-117 後掲資料 1-2-3-5）。加えて医学科及び看護学科の実習担当機関によると実習により学生の理解が増したとする回答が過半である（P4-117 後掲資料 1-2-3-5, P4-121 後掲資料 1-2-3-9）。

（事務局資料）

資料 1-1-1-10 学外病院の実習概要 (福井県立病院)

福井県立病院の実習概要

1. 病院の概要 (ホームページ [http:// info. pref. fukui. jp/imu/fph/index.html](http://info.pref.fukui.jp/imu/fph/index.html))

福井県立病院は、昭和 25 年 4 月に 9 診療科 100 床で発足し、以来つねに地域基幹病院としての役割を担いつつ、人間ドック(昭和 34 年 12 月)、未熟児センター(昭和 43 年 7 月)、交通災害救急医療センター(昭和 45 年 12 月)、成人病センター(昭和 49 年 4 月)、第三次救命救急センター(昭和 58 年 4 月)を開設する等の発展、拡充を行っている。

さらに、平成 12 年 4 月には県立精神病院を組織統合し、平成 16 年 5 月に新病院本棟、平成 19 年 3 月にはこころの医療センター新病棟が完成し、現在は 1,082 床を有している。また、本県におけるがんの高度な診断治療・臨床研究の拠点として、平成 21 年 2 月からがん医療センターを開設している。

診療業務は第一線医療から高度医療、救急医療、予防活動および健診業務と幅広く、患者層も感冒、ヘルニアから悪性腫瘍、難治性疾患、生活習慣病等の患者、さらには ICU・CCU などの重症患者と極めて多様に富んでいる。

- ◇ 創立年月日 昭和 25 年 4 月 1 日
- ◇ 診療科目 内科、神経内科、循環器内科、小児科、外科、整形外科、脳神経外科、心臓血管外科、皮膚科、形成外科、泌尿器科、産科、婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、麻酔科、歯科口腔外科、放射線科、リハビリテーション科、精神科
- ◇ 許可病床数 一般 668 床、結核 10 床、感染症 4 床、精神 279 床 合計 961 床(H25.4 現在)

2. 住所

〒910-8526 福井市四ツ井 2 丁目 8-1 Tel 0776-54-5151

3. 実習概要および受入人数

各科の受入人数は表記のとおりであるが、総受入人数は 15 名までとする。

受入科	人数	第 1 週	第 2 週	第 3 週	第 4 週	第 5 週
消化器内科	1	消化器内科				救命救急
呼吸器内科	1	呼吸器内科			救命救急	緩和ケア
循環器内科	2	救命救急	循環器内科			
腎臓内科	1	腎臓内科		救命救急	腎臓内科	
内分泌代謝科	1	内分泌代謝科	救命救急	内分泌代謝科		
血液・腫瘍内科	1	救命救急	血液・腫瘍内科			
外科	5	外科				
心臓血管外科	1	心臓血管外科				放射線科
小児科	2	小児科	救命救急	小児科		
眼科	1	眼科				
ローテーション 1	2	A	神経内科	脳神経外科		リハビリ科
		B	脳神経外科	神経内科		リハビリ科
ローテーション 2	2	A	形成外科	整形外科		麻酔科
		B	整形外科	麻酔科	形成外科	
ローテーション 3	2	A	麻酔科	耳鼻咽喉科		泌尿器科
		B	救命救急	泌尿器科		耳鼻咽喉科
ローテーション 4	2	A	皮膚科	放射線科		救命救急
		B	放射線科	救命救急	皮膚科	

(平成 27 年度卒前臨床医学研修手引より一部抜粋)

【学生支援】

- ① 全学生への支援活動を積極的に実施し（資料 1-1-1-11），平成 23 年度に医学部学生支援委員会（現医学部学生委員会）を設置し，学生の学習・精神・生活面でのサポートを教員・学務室・保健センター（松岡地区）で協力して行う学生支援体制を医学科と看護学科それぞれに構築し活動した。併せて学生総合相談室を開設し，学生支援体制を強化した（資料 1-1-1-12～15）。一連の学生支援活動に対する学生の満足度は良好で，第 1 期より向上した（資料 1-1-1-16）。

資料 1-1-1-11 学生支援活動一覧

学科	対象者	内容	実施組織	時期	参加状況
医学科	新入生	オリエンテーション	医学部教務担当職員	入学時（4月）	全新入生
		履修指導	医学科教員		
		面談	アドバイザー教員	入学時（4月）および10月	
		新入生合宿研修	医学科教員・学生担当職員	入学時（5月）	
	編入生	オリエンテーション	医学部教務担当職員	入学時（10月）	全編入生
		履修指導	医学科教員		
		面談	アドバイザー教員		
	1～4年次生	履修指導ガイダンス	学年主任教員	各学期始め	全学生
	2～3年次生	面談	アドバイザー教員	4月および10月	
	留年生	面談	学年主任教員・アドバイザー教員	随時	全留年生
看護学科	新入生	オリエンテーション	医学部教務担当職員	入学時（4月）	全新入生
		履修指導	看護学科教員		
		初年次学習グループ	看護学科教員・2年次生	入学時（4～7月）	
		新入生合宿研修	看護学科教員・学生担当職員	入学時（5月）	
	1～4年次生	履修指導ガイダンス	学年主任教員	各学期始め	全学生
	1～4年次生	ミーティング	アドバイザー教員	年4回	
	留年生	面談	学年主任教員	随時	

（事務局資料）

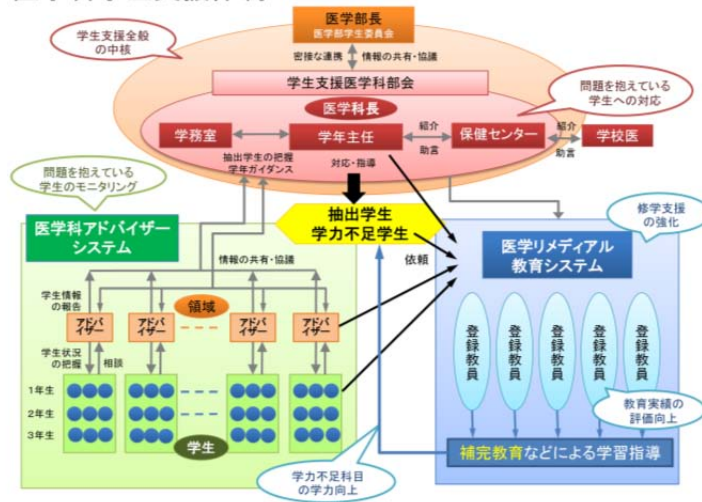
資料 1-1-1-12 学習支援を含めた学生支援体制

平成 23 年度に整備した“学生支援体制”のもと、学生ごとに配置されたアドバイザー教員が担当する学生について年に数回の面談を行い、何らかの“気づき”があった場合に早急に関係者に学生を橋渡しするゲートキーパー（相談の窓口）役を担っている。事前に問題を早期発見し、早い段階で、学習指導などの問題を解決する体制を整えることを含め、問題学生の把握に努めている。

【医学科】

医学科では1～3年次学生を3～4人の小グループに分け、各グループをアドバイザー教員が担当するアドバイザー制度による学生支援システムを構築した。さらに各学年の学年主任と助言教員による学年全体の支援体制の強化を行い、教員・学務室・保健センターと学生総合相談室（平成 23 年度開設、カウンセラー 1 人、事務補助 1 人）が連携して、きめ細かい学生支援を行っている。

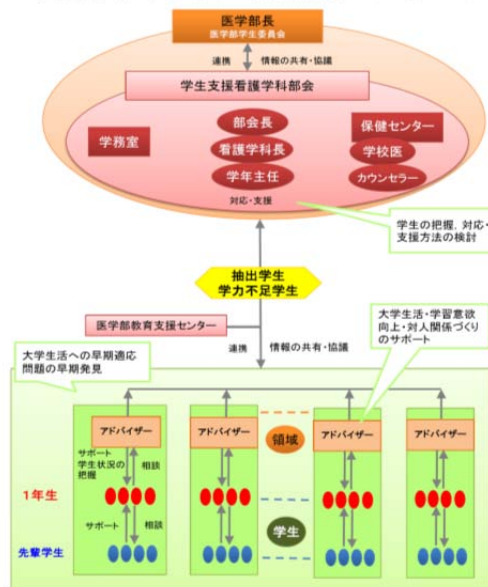
医学科学生支援体制



【看護学科】

看護学科では新入学生を小グループに分け、各グループで先輩学生が相談に応じ、全体としてアドバイザー教員と年 4 回の定期的ミーティングを行うことにより大学生活への早期適応と問題の早期発見に努めている。新入学生の 98%、アドバイザー教員の 100%が役に立ったと回答しており、高い評価を得ている（P4-21 後掲資料 1-1-1-19）。

看護学科学学生支援システム

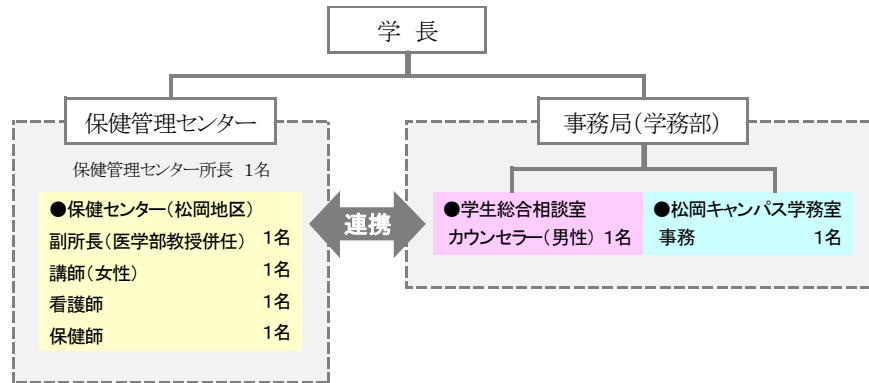


(事務局資料)

資料 1-1-1-13 保健センターおよび学生総合相談室

平成 23 年 7 月に、障害のある学生への対応に加えて、軽微な相談も行える相談窓口として学生総合相談室を設置した。学習やメンタルヘルス等に問題を抱える学生対応を松岡地区保健センターと連携して行っている。また、保健センターには女性教員、学生総合相談室には男性カウンセラーを配し、学生にパンフレットを配布する等の工夫により、より相談に訪れやすい環境作りも進めた。

■ 組織図



■ 学生総合相談室

学生相談室は専任のカウンセラーが常駐し、常時相談を受け付けるとともに、講義棟における出張相談を行い、学生が気軽に相談しやすい環境を作っている。

学生総合相談室のご案内

学生相談室は、学生の皆さんの毎日の生活が充実したものになるように、相談(カウンセリング)や、プログラムを提供しています。

自分について

友達のこと

学業について

どんなことでも！
小さいことでも！

リラックス法

集中力UP
トレーニング

参加者の声
思ったより簡単で、
毎日の勉強に役立
っています。

カウンセラー紹介 結川 希純

2013年9月から、松岡キャンパス学生総合相談室に勤務しています。
相談があってもなくても、気軽にリラックスしに行ける場所を作りたいという
思いです。忙しい学生生活の中で、立ち寄る時間は多くないかもしれませんが、
ホッと息つきたいときは、どうぞお気軽にお越しください。

※管理棟1階			
保健センター	保健センター会議室	☆学生相談室	自動発行機
玄関			玄関

この部屋です

管理棟の正面玄関を入ってすぐ左手にあります。
学務室と保健管理センターのあいだにあります。

相談の内容については、
秘密を守ります。

開室時間 月～金 9:00～17:30
毎週金曜午前中のみ、講義棟2Fにて
出張相談を実施！お気軽にご来室！

MA | L : mg-soudan@ad.u-fukui.ac.jp
電話 : 0776-61-8802

※メールには、希望する曜日と時間をいくつか書いてください。メールをいただいた後、学生相談室から空いている時間をお知らせします。メールフィルター(迷惑メール設定)を使用している場合、u-fukui.ac.jpからのメールを受信できないようにもなっています。上記のメールアドレスは発信専用なので、スタッフの個人アドレスから送信します。

学生相談室からのお知らせ

名刺募集！

講義棟出張相談所ができます！

2014年4月、学生相談室が皆さんにとって、より身近になります。

普段、学生相談室は管理棟の1階、学務室の前にありますが、

ここです(非常勤講師控室)

週1回金曜日の午前中、講義棟2階の非常勤講師控室に出張相談所が開かれます。

相談以外にも、メディアで話題の簡単な唾液ストレスチェック、アロマ、リラクゼーションなどを体験することができます。

この機会に、どうぞお気軽に学生相談室にお越しください。

「行きたくない飲み会を断れない」
「今月バイト代少なくて困った」
「恋人との関係が…どうやって告白しよう…」

松岡キャンパス学生相談室 0776-61-8802 mg-soudan@ad.u-fukui.ac.jp

(事務局資料)

資料 1-1-1-14 保健センターおよび学生総合相談室の相談件数

保健センター及び学生総合相談室では、1年生の新生入生合宿研修時に行う「大学生精神健康調査（UPI）」、定期健康診断受診カードによる問診や、平成26年度から導入の「困りごとに関するセルフチェックリスト（発達障害のスクリーニングテスト）」等の結果に基づき、学生の呼び出し面談、障害学生支援も視野に入れた支援の取組等を行っている。

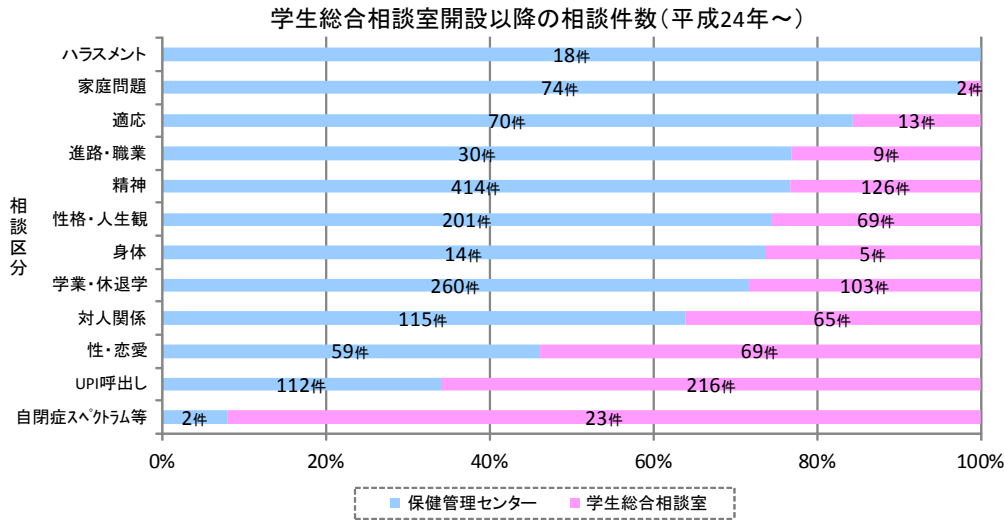
保健センターは学長直下の独立した組織であるため、ハラスメントの窓口としても機能しているが、これに加えて学生総合相談室を設置したことで、恋愛相談など軽微な相談が増加傾向にある。この「性・恋愛」相談の内訳は保健センターと学生総合相談室で半々となっており、保健センターの女性講師と学生総合相談室の男性カウンセラーにより相談者への対応を分けている。

また、学生総合相談室は上記「困りごとに関するセルフチェックリスト」の導入以降、呼出し・面談を増加させており、必要に応じて松岡キャンパス学務室（教務・学生支援等を行う事務局組織）と連携することで、大学への適応に困難を抱える学生の早期発見に繋げている。

相談区分	H22年度			H23年度			H24年度			H25年度			H26年度			H27年度			H22-27年度合計
	保健管理センター	学生総合相談室	(計)	保健管理センター	学生総合相談室	(計)	保健管理センター	学生総合相談室	(計)	保健管理センター	学生総合相談室	(計)	保健管理センター	学生総合相談室	(計)	保健管理センター	学生総合相談室	(計)	
修学	学業・休退学	153件	(153件)	150件	(150件)	114件	9件	(123件)	70件	11件	(81件)	20件	23件	(43件)	56件	60件	(116件)	666件 (21.0%)	
	ハラスメント	7件	(7件)	18件	(18件)	0件	0件	(0件)	0件	0件	(0件)	18件	0件	(18件)	0件	0件	(0件)	43件 (1.4%)	
適応	進路・職業	5件	(5件)	0件	(0件)	0件	0件	(0件)	7件	0件	(7件)	8件	2件	(10件)	15件	7件	(22件)	44件 (1.4%)	
	性格・人生観	26件	(26件)	35件	(35件)	56件	11件	(67件)	55件	2件	(57件)	52件	16件	(68件)	38件	40件	(78件)	331件 (10.4%)	
	対人関係	19件	(19件)	43件	(43件)	71件	28件	(99件)	22件	24件	(46件)	16件	5件	(21件)	6件	8件	(14件)	242件 (7.6%)	
	性・恋愛	0件	(0件)	4件	(4件)	17件	0件	(17件)	13件	3件	(16件)	1件	45件	(46件)	28件	21件	(49件)	132件 (4.2%)	
	家庭問題	20件	(20件)	18件	(18件)	20件	0件	(20件)	39件	0件	(39件)	10件	0件	(10件)	5件	2件	(7件)	114件 (3.6%)	
発達	適応	20件	(20件)	53件	(53件)	18件	5件	(23件)	24件	6件	(30件)	25件	1件	(26件)	3件	1件	(4件)	156件 (4.9%)	
	自閉症スペクトラム等	31件	(31件)	60件	(60件)	1件	20件	(21件)	1件	3件	(4件)	0件	0件	(0件)	0件	0件	(0件)	116件 (3.7%)	
	健康	1件	(1件)	3件	(3件)	3件	0件	(3件)	5件	0件	(5件)	2件	4件	(6件)	4件	1件	(5件)	23件 (0.7%)	
教育	精神	209件	(209件)	128件	(128件)	111件	28件	(139件)	78件	3件	(81件)	159件	18件	(177件)	66件	77件	(143件)	877件 (27.6%)	
	スーパーバイザー	0件	(0件)	0件	(0件)	0件	0件	(0件)	0件	0件	(0件)	0件	0件	(0件)	0件	0件	(0件)	0件 (0.0%)	
(計)	UPI呼出し	36件	(36件)	69件	(69件)	14件	43件	(57件)	53件	13件	(66件)	36件	73件	(109件)	9件	87件	(96件)	433件 (13.6%)	
	(計)	527件	(527件)	581件	(581件)	425件	144件	(569件)	367件	65件	(432件)	347件	187件	(534件)	230件	304件	(534件)	3,177件	

※ 延相談件数を記載

※ 学生総合相談室開設年（平成23年度）は窓口分類しなかったため、相談件数計60件を保健管理センターに含めて記載



(事務局資料)

資料 1-1-1-15 学生支援システムの充実

「医学部における包括的学生支援システムの構築」として、平成 23～27 年度には福井大学「競争的配分経費（教育評価に基づく競争的経費）」の配分を受け、アドバイザー・ガイドブック作製（平成 26 年度）など制度の充実を図った。「アドバイザー・ガイドブック」は学生支援システムの説明とともに学生と面談を行う際に必要な方法や手順等を示している。



■ 教員からのコメント

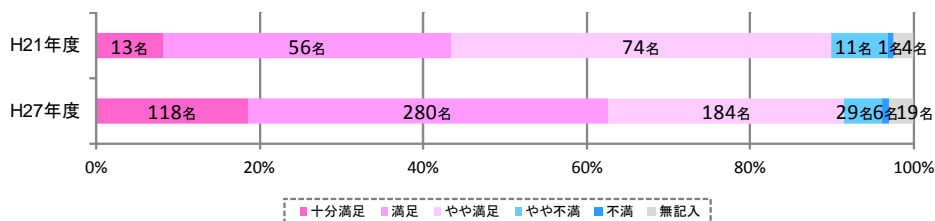
「学生から個人的な相談を受けることがあるが、カウンセリングなどに精通しておらず対応に苦慮する場合がある。この“アドバイザー・ガイドブック”はその際の良き指針を示してくれるものであり、貴重なものと思われる。」

(事務局資料)

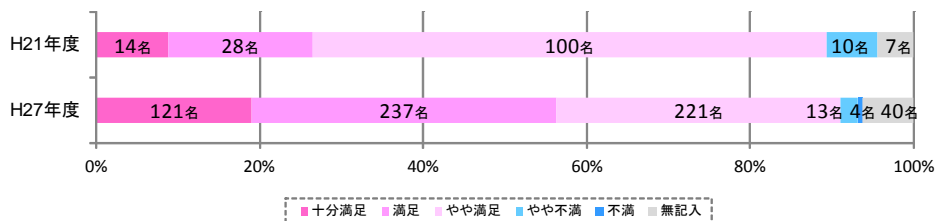
資料 1-1-1-16 学生支援活動に対する学生の評価

学生支援活動に対して学生への意見聴取の結果、第 1 期末と比較して、第 2 期末では学生の高評価（十分満足～満足とした割合）は、教育支援で 19.2%、学生相談・ハラスメント対策で 29.9%、心身の健康対策で 19.8%向上している。

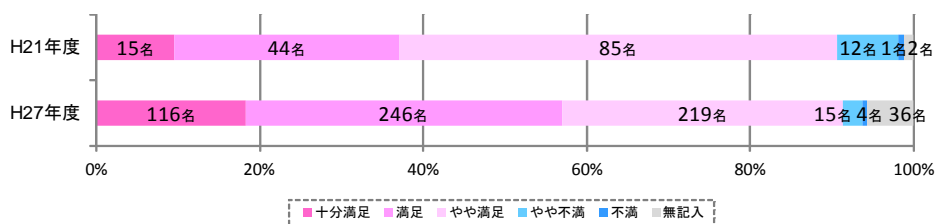
設問_教育支援（指導・助言教員，オフィスアワー等）について，あなたはどの程度満足していますか。



設問_学生相談・ハラスメント対策（センター，相談室等の支援含む）について，あなたはどの程度満足していますか。



設問_心身の健康対策（センター，相談室等の支援含む）について，あなたはどの程度満足していますか。



(平成 21 年度および平成 27 年度「福井大学の教育・研究に対する意識・満足度調査」結果より抜粋)

② 新入生へは入学時オリエンテーション (P4-15 前掲資料 1-1-1-11) や合宿研修 (資料 1-1-1-17) を始めとした学生支援を積極的に行い、学生から好評を得る等、大学教育への円滑な移行につながっている (資料 1-1-1-18, 19)。

資料 1-1-1-17 新入生合宿研修 (医学部)

■ 平成 27 年度プログラム

時間	5月8日(金)	時間	5月9日(土)
		8:50	起床、朝食等
			全体討議(班別討議報告・まとめ)
			閉講式
		10:40	休暇村 越前三国 出発
			(バス移動、観光)
		12:30	医学部到着・解散
13:30	開講式(福井大学医学部講義棟)		
	講演①「心と体の健康について 保健センターから」 講師:保健センター 片山 寛次副所長、梅澤 有美子特命講師 講師:学生総合相談室カウンセラー 前川 伸晃		【講演】 
14:30	休憩		
14:45	講演②「忍び寄る病原体 -その身近な感染対策-」 講師:岩崎 博道 教授(感染制御部)		
15:45	「防災サポーターについて」 講師:永平寺町消防本部		
16:00	医学部出発		
	(バス移動)		
17:00	宿泊施設(休暇村越前三国)到着		
17:30	先輩からのメッセージ		
18:30	夕食		
19:30	班別討議		【班別討議】 
	1. 海外旅行に出かけるときの心構えを話し合おう。 2. ワクチンが必要か、不要か。両者の意見を出し合いディベートし、結論をまとめよう。 3. 先進国中、日本だけがHIV患者が増加しているのはなぜだろうか？ 4. 性的マイノリティ(性同一障害やゲイなどLGBT)で悩んでいる人に対するアドバイスを考えよう。		
21:00	自由時間、就寝		

(事務局資料)

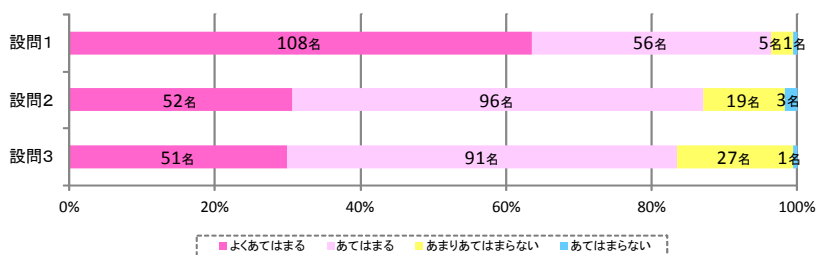
資料 1-1-1-18 新入生合宿研修に対する学生の評価

新入生合宿では、学生同士による討論や発表会、教員や先輩からの話題提供による研修等を通して、同級生との親睦が深まり大学生活・学修へ対応に自信がついたとするものが多い。

設問1_同級生との親睦が深まった

設問2_研修内容が役に立った

設問3_大学生活や、大学での学修に対応していく自信がついた



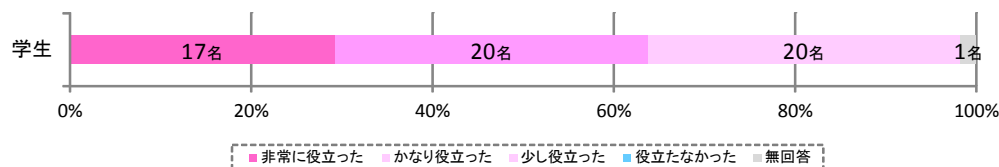
(平成 27 年度福井大学医学部新入生合宿アンケート結果より抜粋)

資料 1-1-1-19 看護学科学生支援活動（初年次学生グループ）に対する評価

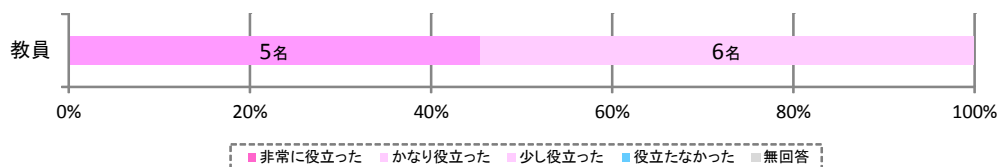
看護学科では、新入生 4～6 人で 1 つのグループ（初年次学生グループ）を作り、アドバイザー教員と先輩学生（2 年次生）を交えて勉強法や試験対策から、部活やアルバイト、人間関係も含めた一人では解決できない悩み等をグループで共有し、大学生活にスムーズに適応できるよう支援を行っている。

支援活動に対して、学生の 98.3%，教員の全員が役に立ったと評価している。

設問_看護学科学生支援活動は、全体的に役立ったと思いますか？



設問_学生にとって看護学科学生支援活動は、全体的に役立ったと思いますか？



(平成 27 年度看護学科学生支援活動に関するアンケート結果より抜粋)

③ 平成 24 年度に開設したリメディアル教育制度による補完授業等の学力不足対策に加え（資料 1-1-1-20），留年等の成績不振学生へは学年主任やアドバイザー教員による指導を行っている（P4-16 前掲資料 1-1-1-12）。

資料 1-1-1-20 リメディアル教育実施状況

平成 24 年度より開始したリメディアル教育制度は、実施科目数と担当教員数が年ごとに増加し、受講学生数も大きく増加しており（平成 27 年度は延べ 439 名の受講）、本制度は学生の期待に応えている。

■ リメディアル教育実施内容

実施年度	対象学年	リメディアル実施科目名	担当教員	実施回数	受講学生数	実施内容
H24年度	2年次生	生体物質の代謝 生体と微生物	宮本 薫	4回	15名	グループ講義
			定 清直	1回		
		免疫と生体防御	千原 一泰	1回	2名	その他
			竹内 健司	1回		
		(計)	伊保 澄子	3回	30名	グループ講義
(計)	(5名)	(10回)	(47名)			
H25年度	1年次生	人の行動と心理	安倍 博	1回	25名	グループ講義
		生命現象の科学	藤井 豊	2回	49名	グループ講義
		情報の科学2	三上 俊介	1回	7名	グループ講義
	2年次生	細胞の基本構造と機能	老木 成稔	1回	30名	グループ講義
		個体の調節機構とホメオスタシス	坂井 豊彦	2回	24名	グループ講義
(計)	(5名)	(7回)	(135名)			
H26年度	1年次生	生命現象の科学	藤井 豊	1回	15名	個人講義
			安田 年博	1回	10名	個人講義
			飯田 礼子	1回	2名	個人講義
	2年次生	細胞の基本構造と機能 組織・各臓器の構成、機能と位置関係	老木 成稔	1回	60名	グループ講義
			深澤 有吾	1回	32名	グループ講義
			黒田 一樹	1回	32名	グループ講義
			謝 敏カク	1回	32名	グループ講義
			松岡 達	1回	45名	グループ講義
	個体の調節機構とホメオスタシス	村田 拓也	1回	45名	グループ講義	
	3年次生	消化器系	小林 基弘	1回	15名	個人講義
		泌尿器系	法木 左近	1回	2名	個人講義
	4年次生	基本的診療知識	重見 研司	1回	5名	個人講義
	(計)	(12名)	(12回)	(295名)		
H27年度	1年次生	生命現象の科学	藤井 豊	1回	20名	グループ講義
			安田 年博	1回	20名	個人講義
			飯田 礼子	1回	2名	個人講義
	2年次生	細胞の基本構造と機能 組織・各臓器の構成、機能と位置関係	老木 成稔	1回	100名	グループ講義
			深澤 有吾	1回	13名	グループ講義
			黒田 一樹	1回	13名	グループ講義
			謝 敏カク	1回	13名	グループ講義
			飯野 哲	1回	24名	グループ講義
			水谷 哲也	1回	24名	グループ講義
			宮本 薫	1回	21名	グループ講義
	個体の発生 生体物質の代謝	松岡 達	1回	24名	グループ講義	
	個体の調節機構とホメオスタシス	村田 拓也	1回	24名	グループ講義	
	人体解剖学1	飯野 哲 他2名	1回	30名	グループ講義	
3年次生	生体と薬物	青木 耕史	2回	10名	グループ講義、個人講義	
	消化器系	小林 基弘	1回	100名	グループ講義	
4年次生	医学・医療と社会1	金山 ひとみ	2回	1名	個人講義	
	医学・医療と社会2					
6年次生	医学・医療と社会3					
(計)	(16名)	(18回)	(439名)			

■ 平成 27 年度医学科リメディアル教育ポスター

“医学科リメディアル教育システム” のご案内

学生支援の一環として、下記各科目の講義開講時期
および試験準備期間中に、補充学習を行います。

○心理行動科学入門	○生命現象の科学 -物質・分子レベル-
○人の行動と心理	○生命現象の科学 -細胞レベル-
○体力づくりの科学	○人体解剖学 I
○健康科学	○人体解剖学 II
○個体の発生	○組織・各臓器の構成、機能と位置関係
○遺伝と遺伝子	○個体の調節機能とホメオスタシス
○生体と微生物	○免疫と生体防御
○生体と免疫	○生体物質の代謝
○生体と薬物	○医学英語 2
○薬理と病態	○医学英語 3
○循環器系	○医学英語 4
○呼吸器系	○血液・造血器・リンパ系
○消化器系	○女性生殖機能・乳房
○腎臓内科	○内分泌・栄養・代謝系
○泌尿器系	○免疫・アレルギー疾患
○運動器(筋骨格)系	○死と法
○眼・視覚系	○症候、病態からのアプローチ
○耳鼻咽喉・口腔系	○医学・医療と社会 1・2・3
○感染症	○画像・放射線を用いた診断と治療
○腫瘍	○基礎・応用編-

希望される方は、学務室、学年主任、または
アドバイザー教員までお問い合わせください。

※医学科リメディアル教育システムとは・・・？
医学準備教育および基礎医学教育科目（上記要領科目）において、
学年時から学年末の期間（希望あり）、科目担当教員がその科目の基礎的
事項などを補充教育し、修学面の支援を行うシステムです。
学務室学生支援担当

(事務局資料)

④ 教員による国家試験支援等を実施し、学生からの評価が高い（資料 1-1-1-21～22）。

資料 1-1-1-21 医学科国家試験への支援

医学科では医学部教員による「医学統合講義（12月）」（希望者が参加）や外部講師による「医師国家試験対策に係る講演会（5月）」（6年次生全員）が開催されている。
 医学総合講義の内容に関し、参加した学生の 75.7%が非常に適切であったと回答している。

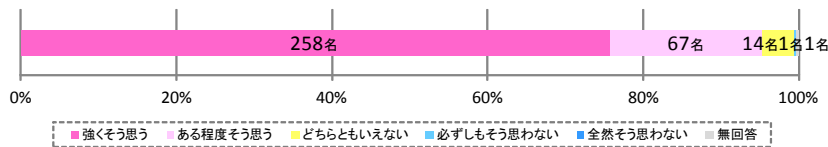
■ 医学統合講義実施状況・参加者数

		H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	(計)
臨床系	小児科学	46名	31名	50名	35名	29名	52名	243名
	産科婦人科学	33名	61名	43名	17名	40名	33名	227名
	腎臓病態内科学、検査医学	41名	31名	35名	24名	31名	45名	207名
	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	31名	43名	36名	51名	23名	17名	201名
	内科学(1)	15名	68名	45名	14名	20名	29名	191名
	内科学(3)	21名	60名	35名	0名	37名	36名	189名
	救急部・総合診療部	26名	17名	48名	29名	32名	31名	183名
	皮膚科学	23名	38名	33名	21名	29名	33名	177名
	整形外科	25名	35名	36名	32名	20名	23名	171名
	放射線医学	28名	36名	37名	14名	22名	22名	159名
	眼科学	13名	53名	27名	31名	29名	0名	153名
	循環器内科学			45名	22名	17名	34名	118名
	内科学(2)	18名	11名	30名	10名	20名	16名	105名
	外科学(1)	30名	14名	22名	0名	20名	19名	105名
	泌尿器科学	38名	20名	32名	13名	0名	0名	103名
	精神医学	0名	52名	28名	0名	0名	0名	80名
	麻酔・蘇生学	20名	9名	17名	12名	15名	0名	73名
	外科学(2)	38名	0名	0名	0名	0名	0名	38名
	基礎系	環境保健学	0名	14名	6名	5名	7名	4名
(延参加者数)		(446名)	(593名)	(605名)	(330名)	(391名)	(394名)	(2,759名)

●平成 29 年度から卒業試験を統一試験形式とし 2 日間で実施することにより、国家試験に向けた学修時間を確保し、「医学総合講義」等の国家試験対策により多くの学生が参加できる日程的配慮を行うこととしている。

■ 医学総合講義に対する学生の評価

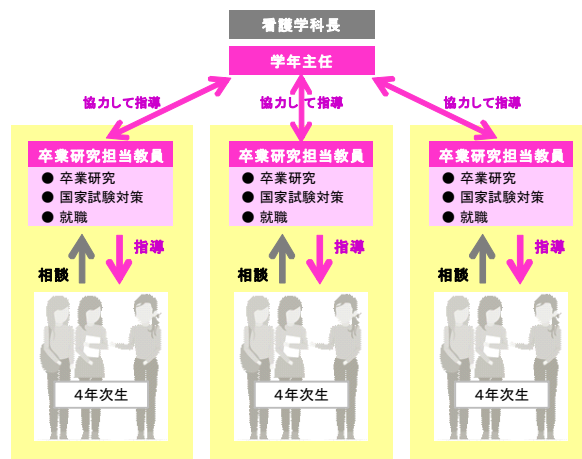
設問_講義内容は適切でしたか



(事務局資料)

資料 1-1-1-22 看護学科国家試験対策システム

看護学科では、4年次生の卒業研究担当教員が学年主任と連携し、担当学生の就職や国家試験対策に対して相談指導を継続的に行う個別体制を取っている。



(事務局資料)

- ⑤ 医学部独自の奨学金制度を整え（資料 1-1-1-23～24），加えて授業料免除（資料 1-1-1-25）や入学料免除，外部奨学金への申請補助等を積極的に行い，第 1 期に比べ経済的支援数が大幅に増加するとともに，学生の満足度も向上した（資料 1-1-1-26）。

資料 1-1-1-23 医学部学生対象の奨学金一覧

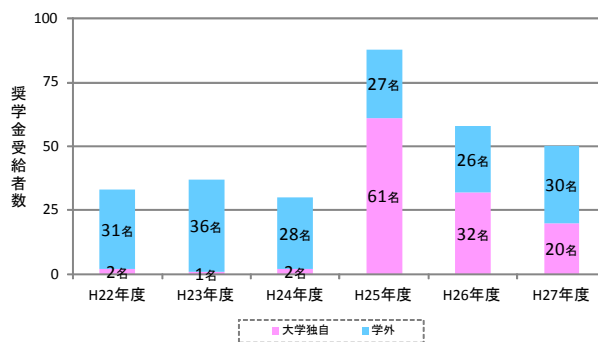
対象学部・学科	福井大学			嶺南医療振興財団	福井県
	学生修学支援奨学金	生協奨学金	看護学科奨学金	医学生奨学金	医師確保修学資金
対象学部・学科	全学	全学	医学部看護学科	医学部医学科	医学部医学科
貸与者	学部学生及び大学院生の授業料免除申請者（外国人留学生除く）のうち，審査の結果半額免除となった者	学部学生及び大学院生の授業料免除申請者（外国人留学生除く）のうち，審査の結果半額免除となった者	本学医学部看護学科 3 年時に在学する学生で，看護師の資格を取得後，直ちに福井大学医学部附属病院で就業を希望する学生	福井県内の高校を卒業した医学部医学科 1 年生 将来，福井県嶺南地域の公的な病院及び診療所に医師として勤務しようとする者	福井大学の推薦入試（福井健康推進枠）に合格し，入学した医学部医学科 1 年生 将来，福井県全域の公的な医療機関及び診療所に医師として勤務しようとする者
定員	全学で前期 5 名，後期 5 名	全学で前期 5 名，後期 5 名	若干名	0～5 名程度	10 名程度
貸与（給付）額	100,000 円	100,000 円	720,000 円	10,796,800 円	10,796,800 円
返済免除	返還を要しない	返還を要しない	福井大学を卒業後，直ちに本院の看護師として採用され，引き続き奨学金貸与期間の 2 倍の期間業務に従事した場合	卒業後 4 年間（卒業臨床研修期間を除く）を福井県嶺南地域の指定医療機関で勤務した場合	卒業臨床研修期間を含む 9 年間を福井県内の指定医療機関で勤務した場合

（事務局資料）

資料 1-1-1-24 奨学金の年度別受給者

学外奨学金に加え，大学独自の奨学金を充実させたことにより，多くの学生が奨学金を受給している。特に，平成 25 年度以降は看護学科奨学金を設けたことにより受給者数が増加している。

	福井大学独自奨学金				学外奨学金			合計	
	学生修学支援奨学金	生協奨学金	看護学科奨学金	(計)	嶺南医療振興財団医学 生奨学金	福井県医師 確保修学資 金	その他奨学 団体		(計)
H22年度	—	2名	—	(2名)	5名	9名	17名	(31名)	33名
H23年度	—	1名	—	(1名)	5名	10名	21名	(36名)	37名
H24年度	—	2名	—	(2名)	4名	10名	14名	(28名)	30名
H25年度	—	3名	58名	(61名)	2名	10名	15名	(27名)	88名
H26年度	2名	3名	27名	(32名)	0名	10名	16名	(26名)	58名
H27年度	0名	4名	16名	(20名)	2名	10名	18名	(30名)	50名
合計	2名	15名	101名	(118名)	18名	59名	101名	(178名)	296名



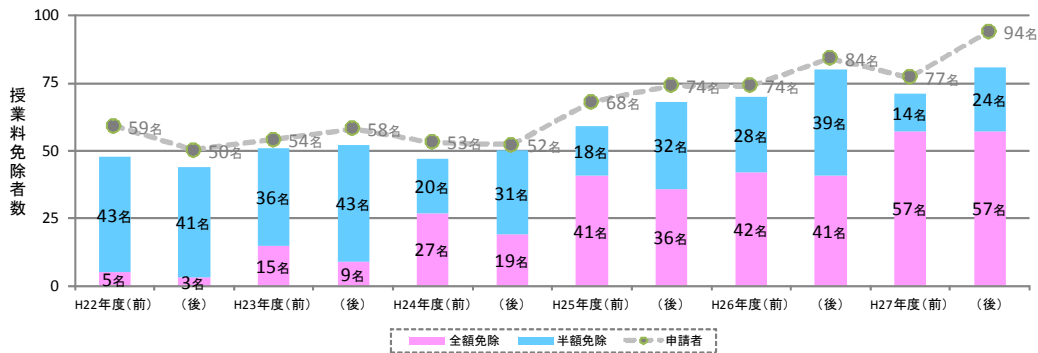
（事務局資料）

資料 1-1-1-25 授業料免除状況

授業料免除申請について、個別に学生の経済状況を細やかに分析し対応を行っており、免除（全額または半額）者数は年ごとに増加している。特に全額免除者が増加している。

		全額免除						(計)	半額免除						合計	
		1年次生	2年次生	3年次生	4年次生	5年次生	6年次生		1年次生	2年次生	3年次生	4年次生	5年次生	6年次生		
H22年度	前期	1名	0名	3名	1名	0名	0名	(5名)	11名	4名	10名	9名	4名	5名	(43名)	48名
	後期	0名	0名	2名	1名	0名	0名	(3名)	9名	5名	11名	9名	3名	4名	(41名)	44名
H23年度	前期	2名	2名	3名	5名	2名	1名	(15名)	7名	9名	6名	8名	5名	1名	(36名)	51名
	後期	1名	2名	1名	5名	0名	0名	(9名)	9名	8名	7名	8名	9名	2名	(43名)	52名
H24年度	前期	2名	6名	6名	7名	2名	4名	(27名)	0名	6名	4名	3名	4名	3名	(20名)	47名
	後期	1名	4名	4名	4名	3名	3名	(19名)	1名	7名	7名	4名	1名	5名	(31名)	50名
H25年度	前期	8名	3名	11名	8名	5名	6名	(41名)	5名	0名	7名	4名	1名	1名	(18名)	59名
	後期	8名	4名	9名	7名	5名	3名	(36名)	8名	5名	7名	8名	1名	3名	(32名)	68名
H26年度	前期	10名	11名	6名	10名	3名	2名	(42名)	3名	6名	2名	10名	4名	3名	(28名)	70名
	後期	8名	11名	7名	9名	3名	3名	(41名)	7名	10名	4名	13名	3名	2名	(39名)	80名
H27年度	前期	9名	8名	16名	13名	4名	7名	(57名)	2名	4名	4名	2名	1名	1名	(14名)	71名
	後期	9名	11名	14名	9名	7名	7名	(57名)	4名	5名	9名	4名	1名	1名	(24名)	81名

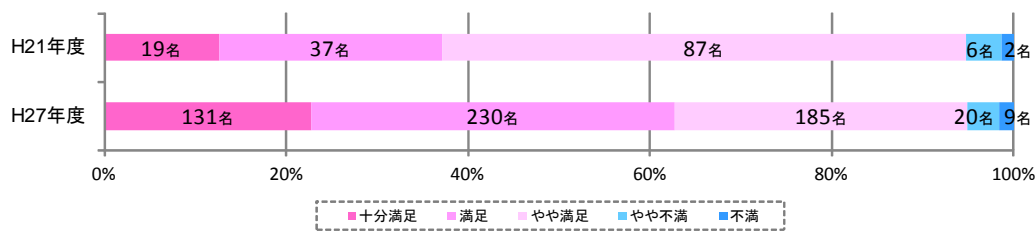
※ 5, 6年次生は医学科のみ



(事務局資料)

資料 1-1-1-26 経済的支援に対する学生の満足度

設問_奨学金・授業料免除等経済的支援について、あなたはどの程度満足していますか



* 第1期末と比較して、第2期末では学生の高い評価（十分満足～満足とした割合）は、25.7%向上している。

■ 奨学金受給・授業料免除学生の声

- これらの制度を活用させていただけなかった場合、アルバイトなどで勉強の時間を確保できなくなると思うのですが、今はおかげさまで十分に勉強や部活動に励むことができています。精神面でも国や大学に助けていただいているおかげで学ぶことができていると思えるので、一層勉学に身が入っています。
- 奨学金を使うことで、高い医学書を買うことができ、勉強しやすくなる。

(平成 21 年度および平成 27 年度「福井大学の教育・研究に対する意識・満足度調査」結果より抜粋)

【国際性】

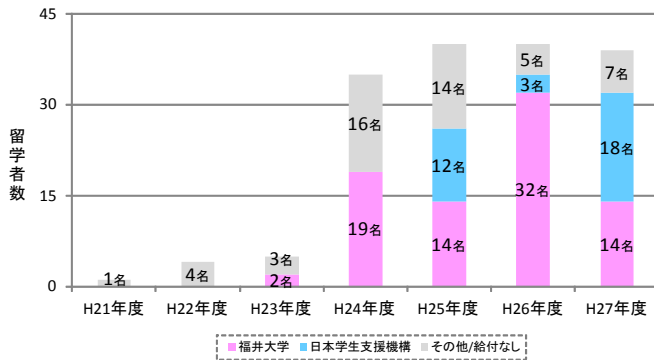
「経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援」事業（以下「GGJ 事業」という。）による海外留学を推進し（資料 1-1-1-27），福井大学学生海外派遣支援金（資料 1-1-1-28）および単位認定制度（資料 1-1-1-29）を新たに設け，留学者数が大幅に増加した。

資料 1-1-1-27 海外留学する学生数の大幅な増加

本学は，平成 24 年度に GGJ 事業に採択された。その全学的展開として医学部でも海外留学推進を進め，年間留学者数は採択前（平成 21～23 年度）の 1～5 人/年程度に比べ，38.5 人/年（平成 24～27 年度）に増加した。海外留学は医学科研究室配属や臨床実習，看護学科キャリアアップ実習や語学研修などであり，留学者への経済的支援と単位認定制度適用している。

■ 経済的支援制度

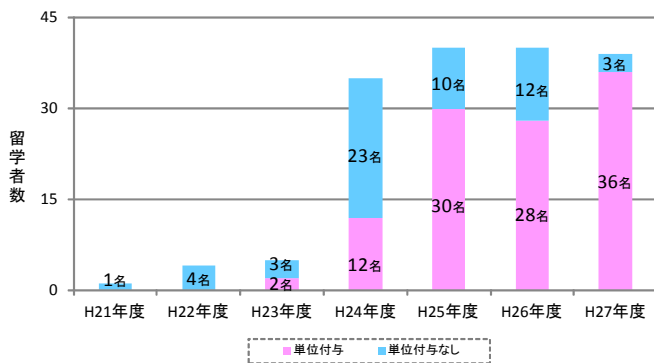
	GGJ採択前			GGJ採択後				合計
	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	
日本学生支援機構海外留学支援制度奨学金	0名	0名	0名	0名	12名	3名	18名	33名
福井大学学生海外派遣支援金	0名	0名	2名	19名	14名	32名	14名	81名
その他	1名	1名	2名	2名	10名	4名	2名	22名
給付なし	0名	3名	1名	14名	4名	1名	5名	28名
(計)	1名	4名	5名	35名	40名	40名	39名	164名



* 福井大学学生海外派遣支援金は留学者の 49.3%，日本学生支援機構海外留学支援制度奨学金は 20.1%が受給した。

■ 単位認定制度

	GGJ採択前			GGJ採択後				合計		
	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度			
医学科	単位付与	研究室配属	0名	0名	2名	10名	12名	5名	41名	
		語学研修、異文化交流	0名	0名	0名	1名	9名	7名	10名	
		卒前臨床実習	0名	0名	0名	1名	0名	2名	2名	
		不明/その他	0名	0名	0名	0名	2名	1名	10名	
	単位付与なし	1名	4名	3名	11名	10名	12名	3名	44名	
(計)	(1名)	(4名)	(5名)	(23名)	(33名)	(34名)	(30名)	(130名)		
看護学科	単位付与	キャリアアップ実習	0名	0名	0名	6名	3名	8名	17名	
		語学研修、異文化交流	0名	0名	0名	0名	1名	2名	1名	4名
		不明/その他	0名	0名	0名	0名	0名	1名	0名	1名
	単位付与なし	0名	0名	0名	12名	0名	0名	0名	12名	
(計)	(0名)	(0名)	(0名)	(12名)	(7名)	(6名)	(9名)	(34名)		
合計	1名	4名	5名	35名	40名	40名	39名	164名		



* 単位認定者（資料 1-1-1-29）は，平成 25 年度に 30 名，平成 26 年度に 28 名，平成 27 年度に 36 名，を数える

(事務局資料)

資料 1-1-1-28 留学補助制度

平成 27 年度グローバル人材育成推進事業 海外研修プログラムに係る
経費支援及び単位付与について

◆ 経費支援（奨学金等）

受給要件を満たす学生については、I 又は II の経済支援を受けることができます。I、II ともに返還義務はありませんが、プログラム参加後に報告書提出、アンケート回答等に必ずご協力いただきます。

I. 日本学生支援機構海外留学支援制度奨学金

支援金額 派遣先国・地域により金額は異なる。（指定都市 10 万、甲地域 8 万、乙地域 7 万、丙地域 6 万円）

受給条件 ◎ 日本国籍を有する者又は日本への永住者

- ◎ 前年度の成績評価係数（総登録単位数）2.3/3.0 以上
- ◎ 語学力（英語を使用するプログラムの場合、原則 TOEIC400 点以上、前年度の英語の成績が 2.3/3.0 以上など）
- ◎ 家計基準（原則、日本学生支援機構第一種奨学金支給基準に準じる）

（中略）

応募方法 プログラムへの参加申込みと同時に受給希望者とみなしますので、特別な申請は必要ありません。応募時に提出いただく成績（不可・不受験を含む学業成績通知書）により、成績評価係数を確認し、成績や語学力を満たす学生については、家計基準確認のための書類を別途求めます。

II. 福井大学学生海外派遣支援金

支給金額 派遣先国・地域により金額は異なる。（指定都市 9 万、甲地域 7 万、乙地域 6 万、丙地域 5 万円）

※ 地域については、上記日本学生支援機構と同様

受給条件 ◎ 前年度の成績評価係数（総取得単位数）2.0/3.0 以上

◎ 推薦書及び語学能力を示す書類の提出 など

応募方法 5、11 月に発表される募集要項を確認の上、各自が申請すること。

（事務局資料）

資料 1-1-1-29 海外派遣プログラムの単位認定制度

医学部学生海外派遣プログラムに係る単位認定について

医学部では、平成 25 年度以降、両学科における自由科目（選択）として、下表に挙げる 4 科目を新たに設け、在学する全学生に適用する。

平成 25 年度以降に、医学部教務学生委員会で承認を受け実施される海外派遣プログラムに参加し、所定の日程を終了した者に対しては、参加したプログラムの時間数や内容に応じて、下表 4 科目のいずれかを受講したものとし、単位認定に係る成績評価を行う。

ただし、修得した単位を卒業要件に含めることはできない。

なお、これらの科目については、単位の累積を認めることとする。

授業科目	単位数
海外短期研修 I	1 単位
海外短期研修 II	2 単位
海外医療研修 I	1 単位
海外医療研修 II	2 単位

（事務局資料）

●多様な教員の確保の状況とその効果

【教育目的を実現するための教員構成】

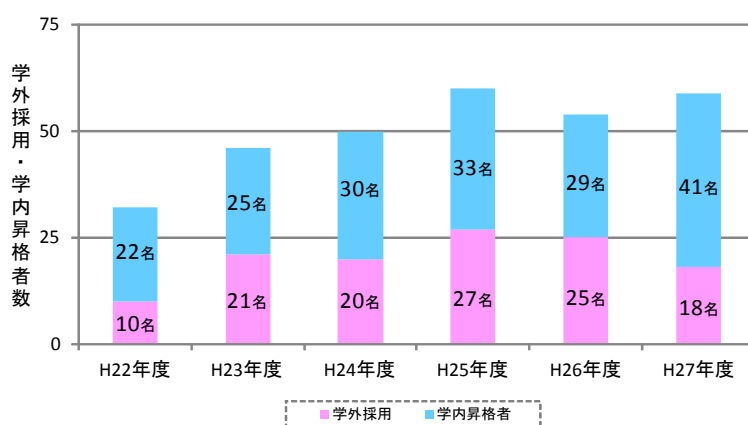
- ① 医学部を構成する医学科及び看護学科の教員組織の構成及び専任教員の配置は大学設置基準第7条及び第13条に基づき教育研究に係る責任の所在が明確になるように教員組織を編成している。教育業績に優れた人材を学内外問わず積極的に採用するため、教授及び准教授に加え、平成27年からは講師、助教も公募制としている（資料1-1-2-1～2）。

資料1-1-2-1 医学部教員の学外採用・学内昇格者数推移

医学部所属教員は、平成21年度末の289名から、平成27年度末の315名と増加しており、毎年約30～60名の教員の採用、昇格を行っている。全ての専任教員は公募制とし、学内外から積極的に教育業績に優れた人材の採用を行っている。

		教授	特命教授	准教授	講師	助教	特命准教授	特命講師	特命助教	合計
平成22年度	学外	1名	0名	0名	2名	6名	0名	0名	1名	10名
	学内	2名	0名	2名	8名	9名	0名	0名	1名	22名
	(計)	(3名)	(0名)	(2名)	(10名)	(15名)	(0名)	(0名)	(2名)	(32名)
平成23年度	学外	4名	0名	2名	1名	8名	1名	0名	5名	21名
	学内	2名	0名	4名	6名	12名	0名	1名	0名	25名
	(計)	(6名)	(0名)	(6名)	(7名)	(20名)	(1名)	(1名)	(5名)	(46名)
平成24年度	学外	2名	0名	2名	1名	13名	0名	0名	2名	20名
	学内	2名	0名	2名	8名	13名	0名	1名	4名	30名
	(計)	(4名)	(0名)	(4名)	(9名)	(26名)	(0名)	(1名)	(6名)	(50名)
平成25年度	学外	3名	1名	1名	1名	14名	1名	0名	6名	27名
	学内	1名	0名	4名	5名	18名	1名	1名	3名	33名
	(計)	(4名)	(1名)	(5名)	(6名)	(32名)	(2名)	(1名)	(9名)	(60名)
平成26年度	学外	2名	0名	1名	0名	12名	1名	0名	9名	25名
	学内	0名	0名	5名	4名	15名	0名	0名	5名	29名
	(計)	(2名)	(0名)	(6名)	(4名)	(27名)	(1名)	(0名)	(14名)	(54名)
平成27年度	学外	0名	0名	2名	2名	9名	0名	0名	5名	18名
	学内	6名	0名	5名	12名	8名	0名	0名	10名	41名
	(計)	(6名)	(0名)	(7名)	(14名)	(17名)	(0名)	(0名)	(15名)	(59名)

- ・医学部所属のみ（高エネルギー医学研究センター、子どものこころの発達研究センター、ライフサイエンス支援センターを除く）
- ・大学院医学系研究科，附属病院所属の教員を含む
- ・特任教員は毎年度雇用更新のため，新規採用者のみを計上



(事務局資料)

資料 1-1-2-2 教員の公募案内文

医学部医学科 分子生体情報学領域教員の公募案内

1 職名・人員 教授 1名

2 所 属 医学部医学科 生命情報医科学講座 分子生体情報学領域

3 職務内容

本学部では、生命情報医科学講座 分子生体情報学領域 (旧・生化学(2)講座) 宮本 薫教授の平成 28 年 3 月 31 日付け定年退職に伴い、後任の教授候補者を公募することとなりました。

当該領域の教授候補者には、生化学関連の分野で優れた研究能力を有するとともに、学生教育にも経験と熱意をもって当たられる方を求めています。

また、生命情報医科学講座 分子遺伝学領域 (旧・生化学(1)講座) 菅井 学教授との緊密な連携のもと、生化学・分子生物学関連の教育及び実習をご担当いただく予定です。

つきましては、貴学 (学部・機関) 並びに関係機関に適任者がおられましたら、下記により御推薦下さるようお願い申し上げます。

なお、自薦につきましても受け付けております。

4 採用年月日 平成28年 4 月 1 日以降

5 必要書類

- (1) 推薦書 (別記様式1) (自薦の場合には省略可)
- (2) 履歴書 (別記様式2) 1 通
- (3) 業績目録 (別記様式3) 1 通
- (4) 論文別刷 原著論文 主要なもの 10 編以内 各 2 部 (コピー可)
- (5) 科学研究費等の取得状況 (別記様式4) 1 通
- (6) 研究と教育の概要と抱負 2000 字以内
- (7) 候補者について、推薦者以外の照会可能な 2 名の氏名と連絡先 (様式適宜)

6 応募締切日 平成27年 9 月 30 日 (水) (必着)

7 問い合わせ・書類提出先

〒 910-1193 福井県吉田郡永平寺町松岡下合月 2 3 - 3

福井大学医学部長 山口 明 夫

郵送の場合は、封筒に「分子生体情報学領域 応募書類在中」と朱書し、書留でお願いします。

事務担当 松岡キャンパス総務室運営係 高橋

TEL : 0776-61-8214

e-mail : smunei-k@ad.u-fukui.ac.jp

8 その他

選考の過程で御来学の上、ご講演いただく場合がありますので、あらかじめご承知おき下さい。

- (付記) ・ 応募書類は、原則として返却いたしません。
- ・ 応募において提出いただきました個人情報、本学個人情報の保護に関する規則に準じて適正に管理し、今回の採用選考以外の目的には使用いたしません。
 - ・ 本学は男女共同参画を推進しており、業績 (研究業績, 教育業績, 社会的貢献, 人物を含む) の評価において同等と認められた場合には、女性を積極的に採用します。

(事務局資料)

② 専任教員により専門科目構成や成績判定等が統括され、学習指導の責任体制は十分整備されている（資料 1-1-2-3）。

資料 1-1-2-3 主要科目の専任教員担当状況（平成 26 年度）

学科	総科目数	必修科目				選択科目				
		科目数	専任教員担当の科目数		専任教員以外が担当の科目数 (非常勤含む)	科目数	専任教員担当の科目数		専任教員以外が担当の科目数 (非常勤含む)	
医学科	71科目	62科目	60科目	教授	55科目	2科目	9科目	教授	8科目	0科目
				准教授	5科目			准教授	1科目	
				講師	0科目			講師	0科目	
看護学科	77科目	44科目	38科目	教授	26科目	6科目	33科目	教授	18科目	8科目
				准教授	7科目			准教授	5科目	
				講師	5科目			講師	2科目	

(事務局資料)

③ 教員組織の活性化に努め、任期制を適用されている教員は約半数であり（資料 1-1-2-4），また女性研究者研究活動支援事業による女性教員の確保に努め約 1/5 を占めるに至り（資料 1-1-2-5），これらの数値は近年上昇している。

資料 1-1-2-4 任期制適用教員数

若手を中心に任期制を適用した教員数の増加に努め、半数近くとなっている。

	平成22年度末	平成23年度末	平成24年度末	平成25年度末	平成26年度末	平成27年度末
教員数(松岡キャンパス)	285名	291名	299名	304名	307名	315名
うち任期制適用教員数	126名	130名	129名	141名	150名	148名
任期制適用教員比率	44.2%	44.7%	43.1%	46.4%	48.9%	47.0%

- ・医学部所属のみ（高エネルギー医学研究センター，子どものこころの発達研究センター，ライフサイエンス支援センターを除く）
- ・大学院医学系研究科，附属病院所属の教員を含む

(事務局資料)

資料 1-1-2-5 女性教員数

女性研究者研究活動支援事業（平成 24～26 年度）の支援を受け女性教員の増加に努め、平成 22 年度末に比べ平成 27 年度末では、女性教員数は 40%以上増加した。教員の公募案内には女性教員の積極的な採用について明記している（P4-29 前掲資料 1-1-2-2）。

	平成22年度末	平成23年度末	平成24年度末	平成25年度末	平成26年度末	平成27年度末
教員数(松岡キャンパス)	285名	291名	299名	304名	307名	315名
うち女性教員数	48名	52名	48名	53名	60名	68名
女性教員比率	16.8%	17.9%	16.1%	17.4%	19.5%	21.6%

- ・医学部所属のみ（高エネルギー医学研究センター，子どものこころの発達研究センター，ライフサイエンス支援センターを除く）
- ・大学院医学系研究科，附属病院所属の教員を含む

■ 女性研究者研究活動支援事業（福井大学男女共同参画推進センター）（平成 24～26 年度）

女性研究者がその能力を最大限発揮できるよう，出産，子育て又は介護（以下「ライフイベント」）と研究を両立するための環境整備を行う取組を支援するものです。本学では，現在の男女共同参画推進室を男女共同参画推進センターに改組し，全学的な女性研究者支援活動の企画・実施を担います。女性支援ルームの設置，相談体制の構築，交流ネットワークの全学組織化，シンポジウムやセミナーによる意識啓発等を行います。また，ライフイベント中の女性研究者等への研究支援員や技術補佐員，RA・研究補助員の配置による研究活動支援を行います。

(事務局資料)

- ④ テニユアトラック教員，特命教員の制度により多様な教員を採用し，寄附講座では地域医療教育に特化した教員を採用している（資料 1-1-2-6）。

資料 1-1-2-6 特命教員・寄附講座教員・テニユアトラック教員数

■ 特命教員

本学に，教育（学生への研究指導を含む），研究及び診療活動の充実並びに教育研究診療プロジェクト等の推進のため，特定の任務を遂行することにより，本学の教育研究診療活動の一層の発展に寄与することを目的として，特命教員を置くことができる（国立大学法人福井大学特命教員規程）。

	平成22年度末	平成23年度末	平成24年度末	平成25年度末	平成26年度末	平成27年度末
教員数(松岡キャンパス)	285名	291名	299名	304名	307名	315名
うち特命教員数	5名	13名	14名	21名	28名	34名
特命教員比率	1.8%	4.5%	4.7%	6.9%	9.1%	10.8%

- ・医学部所属のみ（高エネルギー医学研究センター，子どものこころの発達研究センター，ライフサイエンス支援センターを除く）
- ・大学院医学系研究科，附属病院所属の教員を含む

*特命教授（坂野仁）は平成 26 年春の褒賞において紫綬褒章を受賞した。

■ 寄附講座教員

地域プライマリケア講座・地域医療推進講座・地域高度医療推進講座・心臓血管病先進治療学講座・がん専門医育成推進講座に所属する教員

	平成22年度末	平成23年度末	平成24年度末	平成25年度末	平成26年度末	平成27年度末
教員数(松岡キャンパス)	285名	291名	299名	304名	307名	315名
うち寄附講座教員数	5名	4名	5名	6名	6名	8名
寄附講座教員比率	1.8%	1.4%	1.7%	2.0%	2.0%	2.5%

- ・医学部所属のみ（高エネルギー医学研究センター，子どものこころの発達研究センター，ライフサイエンス支援センターを除く）
- ・大学院医学系研究科，附属病院所属の教員を含む

■ テニユアトラック教員

平成 23 年度テニユアトラック普及・定着事業（文科省）によるテニユアトラック制の教員

	平成22年度末	平成23年度末	平成24年度末	平成25年度末	平成26年度末	平成27年度末
テニユアトラック教員数(松岡)	0名	1名	4名	3名	3名	3名

- ・テニユアトラック推進本部所属

テニユアトラック教員は平成 25 年度に医学部教授（1 名），平成 28 年度に医学部助教（1 名）医学部特命助教（1 名）として採用されている。

*テニユアトラック教員（助教・本田信治）は平成 26 年度文部科学大臣表彰若手科学者賞を受賞した。

（事務局資料）

- ⑤ 先端的内容等の教育に適した非常勤講師の積極的登用（資料 1-1-2-7），臨床教育の充実を図るため臨床教員制度（資料 1-1-2-8）による地域教育力の積極的な活用等，基本的教育組織を補完する適切な教員体制が整備されている。

資料 1-1-2-7 科目別非常勤講師数

専門教育に関わる先端的内容や地域に関連する特色ある教育等を実践するために，両学科とも非常勤講師を積極的に登用している。

(延人数)

学科	講義区分	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
医学科	総合教育科目等	4名	7名	7名	7名	13名	13名
	専門教育科目	143名	150名	159名	160名	155名	143名
看護学科	基礎科目	1名	3名	4名	3名	5名	6名
	専門基礎科目	4名	4名	4名	6名	6名	3名
	専門科目	26名	28名	31名	30名	33名	35名
両学科共通科目		12名	12名	11名	16名	16名	15名
(計)		190名	204名	216名	222名	228名	215名

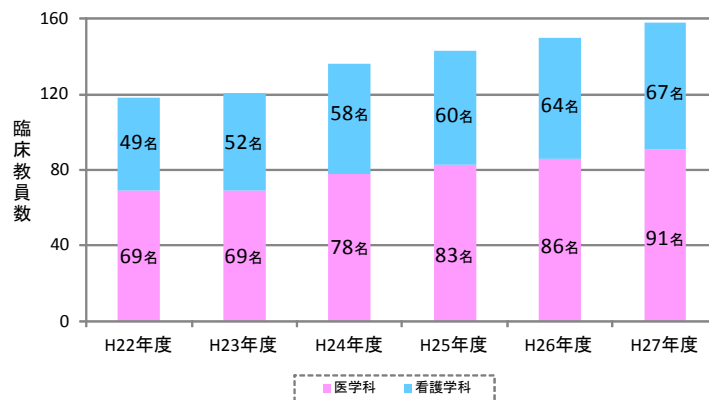
(事務局資料)

資料 1-1-2-8 臨床教員制度による臨床教授等付与状況

医学科，看護学科とも臨床教員制度による教員数は年ごとに増加し，地域医療人教育プログラムの展開等，地域の教育力を活かした教育を行っている。

		平成22年度			平成23年度			平成24年度			平成25年度			平成26年度			平成27年度		
		臨床教授	臨床准教授	臨床講師	臨床教授	臨床准教授	臨床講師	臨床教授	臨床准教授	臨床講師	臨床教授	臨床准教授	臨床講師	臨床教授	臨床准教授	臨床講師	臨床教授	臨床准教授	臨床講師
医学科	病院	53名	5名	3名	53名	5名	3名	57名	8名	5名	62名	7名	9名	60名	14名	6名	62名	13名	10名
	診療所	3名	2名	0名	3名	2名	0名	3名	2名	0名	1名	2名	0名	2名	1名	2名	2名	1名	2名
	その他	3名	0名	0名	3名	0名	0名	3名	0名	0名	2名	0名	0名	1名	0名	0名	1名	0名	0名
	(計)	(59名)	(7名)	(3名)	(59名)	(7名)	(3名)	(63名)	(10名)	(5名)	(65名)	(9名)	(9名)	(63名)	(16名)	(7名)	(65名)	(15名)	(11名)
看護学科	病院	5名	1名	42名	5名	1名	45名	5名	1名	51名	5名	1名	52名	5名	1名	56名	5名	1名	59名
	診療所	0名	0名	1名	0名	1名	0名	0名	1名	0名	0名	2名	0名	0名	2名	0名	0名	0名	2名
	その他	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名
	(計)	(5名)	(1名)	(43名)	(5名)	(1名)	(46名)	(5名)	(1名)	(52名)	(5名)	(1名)	(54名)	(5名)	(1名)	(58名)	(5名)	(1名)	(61名)
合計		64名	8名	46名	64名	8名	49名	68名	11名	57名	70名	10名	63名	68名	17名	65名	70名	16名	72名

※ 臨床教員…臨床実習生・臨床研修医を受入れ，その指導に協力する医療機関等に所属する医療人に対し，選考基準に基づき，教授会の議を経て付与する称号。



(事務局資料)

●入学者選抜方法の工夫とその効果

【入学者募集方針】

- ① 両学科ともアドミッション・ポリシー（AP）を策定し、平成22年度より「教育理念・目標」「特色」「入学者選抜の基本方針」を明示している（資料1-1-3-1）。

資料1-1-3-1 医学部アドミッション・ポリシー

アドミッション・ポリシー	
1. 教育理念・目標	
福井大学医学部では、	
<ul style="list-style-type: none"> ① 人間形成を基盤に、生命尊重を第一義とする医の倫理を体得する、 ② 高度な医学・看護学知識を修得した、信頼し得る医療人および研究者を育成する、 ③ 医学・看護学の進展、ならびに地域医療の向上に寄与する、 ことを教育理念とし、これまでに多くの優れた医療人および教育・研究者を福井県はもとより全国に輩出し、広く社会に貢献しています。	
医学科	<ul style="list-style-type: none"> ① 幅広い医学知識を持ち質の高い臨床能力を身につけ、 ② コミュニケーション能力に優れ、高い倫理観を持って患者中心の医療を実践でき、 ③ 日々進歩する医学知識・医療技術を生涯にわたり学ぶ習慣を身につけ、根拠に立脚した医療を実践できる医療人を育成します。 そして、 <ul style="list-style-type: none"> ④ 世界をリードする生命科学研究者や医学教育者となりうる人や、 ⑤ 個人と地域・国際社会の健康増進と疾病の予防・根絶に寄与し、国際的な視野でまたは地域に根ざした活動ができる人を育成します。
看護学科	<ul style="list-style-type: none"> ① 看護の対象となる人間を総合的に理解でき、 ② 高い倫理観を持ち、看護の対象となる人間の権利を守ることでできる医療人を育成します。 加えて、 <ul style="list-style-type: none"> ③ 健康に関わる諸問題の解決に必要な知識・技術を主体的に学び、創造する能力、 ④ 関連領域の専門家と協力し、必要に応じて調整的な役割を果たす能力、および ⑤ 看護を批判的に吟味し、建設的・創造的に発展させる能力を育成します。
2. 特色	
医学科	医学の円滑な学修を行うため、基礎医学と臨床医学とを有機的に関連付けた「統合型カリキュラム」を導入しています。また、課題探求・問題解決能力や、生涯にわたり学ぶ習慣を育てる「テュートリアル教育」も導入するなど、教育の質の向上に常に取り組んでいます。
看護学科	将来の職業選択に生かせるよう、選択科目の多い、ゆとりある教育を実施しています。また、医学部附属病院が主な実習病院であることから、最新の医療現場で充実した看護を学べます。
3. 求める学生像	
理念・目標を達成するために、	
医学科	<ul style="list-style-type: none"> ① 医師となるにふさわしい豊かな人間性、周囲との協調性、奉仕の精神を持ち、 ② 医学教育内容を十分理解するために必要な幅広い基礎学力と応用能力に富み、 ③ 医学・医療を通じて広く社会に貢献しようとする強い情熱と意欲を持った人を求めます。 そして、 <ul style="list-style-type: none"> ④ 先端的生命科学に強い関心をもち医学研究者になることを希望する人や、 ⑤ 医師として地域医療に貢献したいという人も求めています。
看護学科	<ul style="list-style-type: none"> ① 人間存在に関心を持ち、感性が豊かであり、 ② 人との関わりを通して、相互に成長することができ、 ③ 基礎学力があり、 ④ 向上心と探究心があり、自律的に行動できる人を求めています。

4. 入学者選抜の基本方針

<p>医 学 科</p>	<p>様々な資質・背景を持つ多様な人に広く門戸を開くため、次のような選抜方法を行っています。全ての試験に面接試験を課し、医師としての資質・適性・将来性を判断することにより、「求める学生像」に相応しい人の選抜に努めています。</p> <p>① 一般入試（前期日程・後期日程） 高等学校卒業生及びそれに準ずる学力を持った者に対し、大学入試センター試験、個別学力検査及び面接の成績によって選抜を行います。大学入試センター試験に加え、個別学力検査を課し、医学を学び生かす基礎学力や科学的、論理的思考力を評価します。</p> <p>② 特別入試Ⅱ（推薦入試：全国枠） 学習成績や人格に優れた者とした高等学校長の推薦する高等学校卒業見込み者に対し、書類審査、大学入試センター試験及び面接の成績によって選抜を行います。大学入試センター試験の成績で医学を学び生かす基礎学力や科学的、論理的思考力を評価すると共に、面接と書類審査によって「求める学生像」に相応しい人の選抜を行います。</p> <p>③ 特別入試Ⅱ（推薦入試：地域枠） 学習成績や人格に優れ、福井県内において医療に従事する強い意思を有し、かつ高等学校長の推薦する福井県内の高等学校卒業見込み者及び1年前に高等学校を卒業した者等に対し、書類審査、大学入試センター試験及び面接の成績によって選抜を行います。大学入試センター試験の成績では医学を学び生かす基礎学力や科学的、論理的思考力を評価すると共に、面接と書類審査では福井県内の医療に従事する強い意思を評価します。</p> <p>④ 特別入試Ⅱ（推薦入試：福井健康推進枠） 学習成績や人格に優れ、福井県内において医療に従事する強い意思を有し、かつ高等学校長の推薦する高等学校卒業見込み者及び1年前に高等学校を卒業した者に対し、書類審査、大学入試センター試験及び面接の成績によって選抜を行います。大学入試センター試験の成績では医学を学び生かす基礎学力や科学的、論理的思考力を評価すると共に、面接と書類審査では福井県内の医療に従事する強い意思を評価します。</p> <p>⑤ 学士編入学 大学卒業生及びそれに準ずる学力を持った者に対し、書類審査、個別学力検査及び面接の成績によって選抜を行います。個別学力検査では理系大学教養課程修了に相当する基礎学力（生命科学関連、英語等）を評価します。面接では学士としての見識と経験、医学を学ぶ目的と強い意欲を判断します。合格者は2年次後期（10月）に編入します。</p>
<p>看 護 学 科</p>	<p>「求める学生像」にふさわしい者を選抜するため、多様な観点から受験者の学力や資質を評価します。また、全ての試験に面接を課し、看護を学ぶ意欲・積極性・表現力・協調性・一般的態度を評価することにより、アドミッション・ポリシーに沿った入学者選抜に努めています。</p> <p>① 一般入試（前期日程・後期日程） 高等学校卒業生及び同等以上の学力があると認めた者に対し、大学入試センター試験、個別学力検査及び面接並びに調査書の内容を総合して選抜します。 大学入試センター試験では高等学校等での教科面における学習達成度を評価します。個別学力検査及び面接では、看護を学ぶための適性を総合的に評価するとともに、調査書により受験者の資質を評価します。</p> <p>② 特別入試Ⅰ（推薦入試） 人物、学力ともに優秀で健康であると高等学校長から推薦された高等学校卒業見込者に対し、個別学力検査及び面接並びに調査書等の内容を総合して選抜します。個別学力検査及び面接では、看護を学ぶための適性を総合的に評価するとともに、調査書により受験者の資質を評価します。</p>

(事務局資料)

- ② 医学科・看護学科入学希望者それぞれへ AP 及び入試情報の提供を積極的に行い（資料 1-1-3-2～4），オープンキャンパス等への参加者は増加している（資料 1-1-3-5～8）。入試情報に関して新入生の多くが参考とし，かつ内容への評価は高い。

資料 1-1-3-2 入試情報公表一覧

		対象	回数・部数等
ウェブサイト	医学部ホームページ	受験者・保護者・高校教諭・本学学生・教職員等	常時
冊子 ※3学部合冊のため，推定	大学案内（※）	受験者・保護者・高校教諭等	約1,800部/年
	学生募集要項（一般入試）（※）		約1,900部/年
	〃（推薦入試）		約600部/年
	〃（学士編入学試験）		約400部/年
	入学志願者資料集（※）		約1,100部/年
イベント	医学部オープンキャンパス		1回（8月）/年
	医学部ミニ・オープンキャンパス		1回（10月）/年
	看護学科高校訪問説明会		約20校（7月）/年

（事務局資料）

資料 1-1-3-3 ホームページによる入試情報の提供

入試に関する必要な情報をホームページにて公開し，その掲載内容に対する入学生の評価は高い。

■ 本学ホームページ

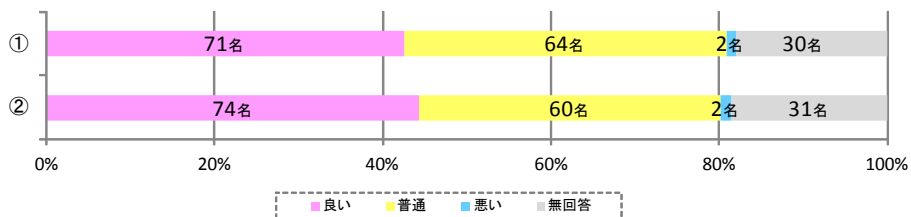


(<http://www.med.u-fukui.ac.jp/home/ufms/>)

■ 入学者によるホームページ掲載内容の評価（平成27年度入学生対象アンケート医・看護学科計）

設問_本学の「ホームページ」を見たことのある方は，感想を教えてください

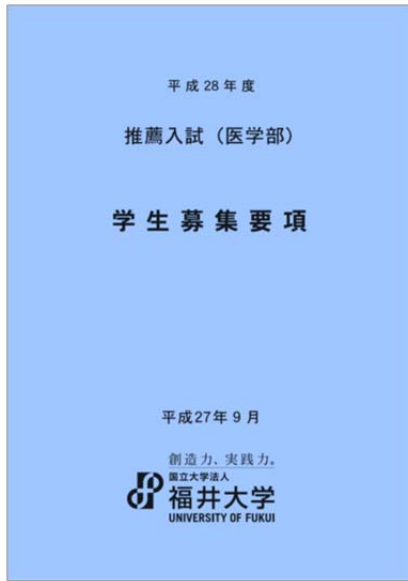
- ① 内容のわかりやすさ
- ② 必要な情報の掲載について



（事務局資料）

資料 1-1-3-4 冊子による入試情報の提供

■ 推薦入試（医学部）募集要項



II. 看護学科推薦入試I（大学入試センター試験を課さない）

- 1. 募集人員**
29人
- 2. 出願資格及び推薦者数**
① 推薦者 高校卒業または中等教育修了者平成27年3月卒業見込みの者
② 推薦者数 1名以上5人以内
- 3. 推薦要件**
① 高等学校又は中等教育修了における調査書の全科目の評定平均値が4以上の者及びうち、人間、学力ともに優等かつ優等である科目が2科目以上あることであること。
② 特に、看護学の履修者であることを、科目ごとの履修内容における履修・推薦に添わせることと併せている者であること。
③ 出願した場合は、入学することと併せてあること。
- 4. 出願手続**
① **出願期間・方法**
出願期間 推薦入試要項一頁裏面（1項）参照
② **出願資格**は本学指定校に所属し、本学学務部推薦キャンパス学務課入試課（兼課）に所属していることとし、11頁を参照してください。ただし、併願に際しては出願資格のうち、11頁4項目中の任意2項目以上を満たすことと併せてあります。併願による併願校は本校のみです。
③ 併願校で受け付ける併願校受取部等は、受取部が本校まで入学を希望してください。
④ 併願校から本校に入学を希望する場合は、併願校から本校に入学を希望する旨を、本学学務課推薦キャンパス学務課入試課（兼課）宛に提出してください。
⑤ **出願書費** ※は本校での出願金2万円
入学試験料、受験料、写真代、検定料、出願書費については、ホームページ「2016年度推薦入試要項」の「併願校からの入試」を参照してください。併願校からの入試についてはホームページ「http://www.u-fukui.ac.jp/」の「併願校からの入試」を参照してください。併願校からの入試については併願校からの入試を参照してください。
併願校からの入試 ※は本校での出願金2万円
入学試験料、受験料、写真代、検定料、出願書費については、ホームページ「2016年度推薦入試要項」の「併願校からの入試」を参照してください。併願校からの入試については併願校からの入試を参照してください。
併願校からの入試 ※は本校での出願金2万円
入学試験料、受験料、写真代、検定料、出願書費については、ホームページ「2016年度推薦入試要項」の「併願校からの入試」を参照してください。併願校からの入試については併願校からの入試を参照してください。
併願校からの入試 ※は本校での出願金2万円
入学試験料、受験料、写真代、検定料、出願書費については、ホームページ「2016年度推薦入試要項」の「併願校からの入試」を参照してください。併願校からの入試については併願校からの入試を参照してください。

■ 入学志願者資料集



平成27年度 一般入試合格者の得点状況

前期日程

学部	学科	科目	満点	合格者	合格者平均	合格者最低	合格者最高
教育学部	教育学部	教育学部	300	40	200	180	220
		教育学部	300	40	200	180	220
		教育学部	300	40	200	180	220
		教育学部	300	40	200	180	220
工学部	工学部	工学部	300	40	200	180	220
		工学部	300	40	200	180	220
		工学部	300	40	200	180	220
		工学部	300	40	200	180	220
医学部	医学部	医学部	300	40	200	180	220
		医学部	300	40	200	180	220
		医学部	300	40	200	180	220
		医学部	300	40	200	180	220

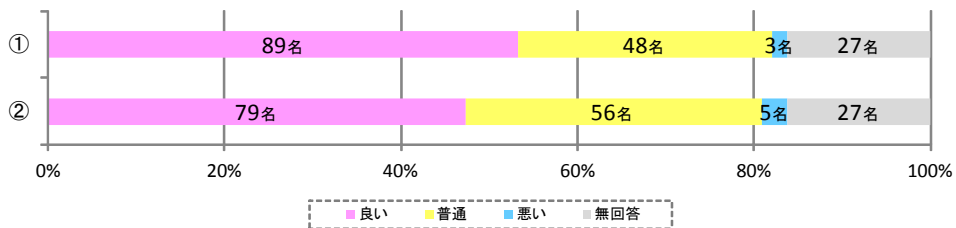
後期日程

学部	学科	科目	満点	合格者	合格者平均	合格者最低	合格者最高
教育学部	教育学部	教育学部	300	40	200	180	220
		教育学部	300	40	200	180	220
		教育学部	300	40	200	180	220
		教育学部	300	40	200	180	220
工学部	工学部	工学部	300	40	200	180	220
		工学部	300	40	200	180	220
		工学部	300	40	200	180	220
		工学部	300	40	200	180	220
医学部	医学部	医学部	300	40	200	180	220
		医学部	300	40	200	180	220
		医学部	300	40	200	180	220
		医学部	300	40	200	180	220

■ 入学者による冊子掲載内容の評価（平成27年度入学生対象アンケート医・看護学科計）

設問「大学案内（冊子）」を見たことのある方は、感想を教えてください

- ① 内容のわかりやすさ
- ② 必要な情報の掲載について

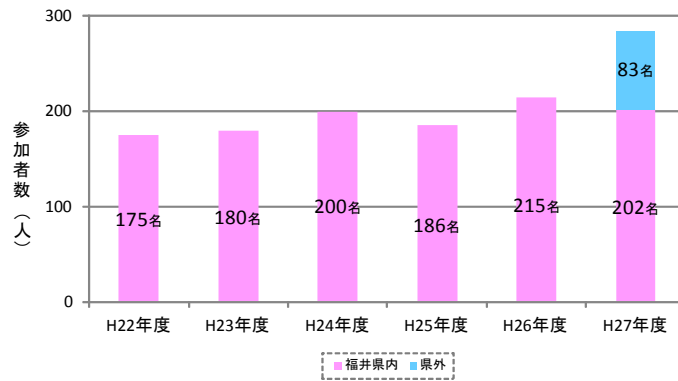


(事務局資料)

資料 1-1-3-5 オープンキャンパスの実施状況

オープンキャンパス及びミニ・オープンキャンパスへの参加者は近年増加し、説明者として教員のみだけでなく学生（スチューデントアシスタント…SA）も加わることで志願者の希望に応じている。

	医学部オープンキャンパス			医学部ミニ・オープンキャンパス			(計)		
	参加者数	大学側の説明者		参加者数	大学側の説明者		参加者数	大学側の説明者	
		教員	学生(SA)		教員	学生(SA)		教員	学生(SA)
H22年度	347名	17名	5名	—	—	—	347名	17名	5名
H23年度	426名	17名	5名	—	—	—	426名	17名	5名
H24年度	459名	16名	15名	—	—	—	459名	16名	15名
H25年度	527名	17名	22名	146名	4名	2名	673名	21名	24名
H26年度	602名	16名	22名	122名	3名	8名	724名	19名	30名
H27年度	629名	17名	39名	80名	3名	8名	709名	20名	47名
(計)	2,990名	100名	108名	348名	10名	18名	3,338名	110名	126名

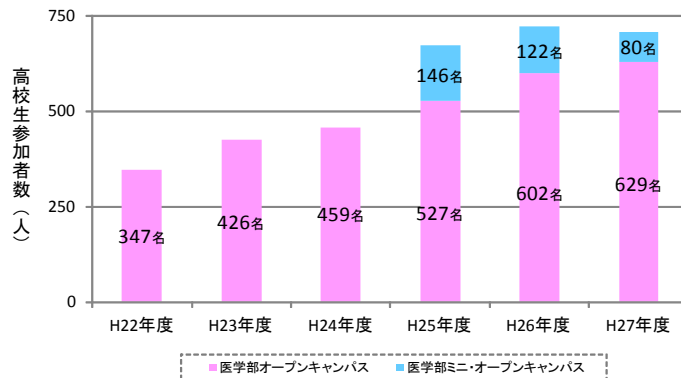


(事務局資料)

資料 1-1-3-6 看護学科高校訪問説明会の実施状況

学生をスチューデントアシスタント(SA)として雇用し、出身高校に帯同する等の工夫により、高校訪問の場での説明会参加者は近年増加し、加えて平成 27 年度は県外高校 3 校でも説明を行った。

年度	訪問高校数	参加者数				大学側の説明者		
		高校生	高校教諭	保護者	(計)	教員	学生(SA)	(計)
H22年度	福井県内 16校	175名	24名	3名	202名	15名	15名	30名
H23年度	福井県内 14校	180名	25名	4名	209名	11名	8名	19名
H24年度	福井県内 16校	200名	23名	0名	223名	15名	19名	34名
H25年度	福井県内 15校	186名	26名	6名	218名	13名	24名	37名
H26年度	福井県内 15校	215名	22名	1名	238名	12名	22名	34名
H27年度	福井県内 17校	202名	21名	0名	223名	16名	22名	38名
	県外 3校	83名	11名	0名	94名			
(計)		1,241名	152名	14名	1,407名	82名	110名	192名



(事務局資料)

資料 1-1-3-7 医学部ミニ・オープンキャンパス

医学部では、従来から行っていた8月のオープンキャンパスに加え、入学後の医学に対する理想と現実のミスマッチを防ぐ目的で、参加者を福井大学志願者に限定せず、広く医学科・看護学科志願者を対象としたミニ・オープンキャンパスを平成25年度から実施している。

このオープンキャンパスは、医学部大学祭（10月）の社会貢献関連企画として学生主導による「医学部体験ツアー」として行っており、医学部の雰囲気をもっと身近に感じられることから好評を博している。

■ ミニ・オープンキャンパス 福井新聞記事（H25.10.14）

この部分は著作権の関係で掲載できません。

■ 学生（医学科3年・大学祭実行委員）から県内高校への案内文（一部抜粋）

第35回福井大学大学祭（晩祭）「医学部体験ツアー」のご案内

高校生の皆様へ

福井大学では毎年8月にオープンキャンパスを開催していますが、今年度は10月11日(日)の大学祭に合わせ、「医学部体験ツアー」という医学科・看護学科限定のオープンキャンパスを追加開催することと致しました。つまり、今年度2回目のオープンキャンパスのご案内です。

皆様は大学受験をどのように考えているでしょうか？多くの方は自分の人生を決めるとも大切な選択だと前向きに捉えているでしょう。しかし、受験への不安があり、そして入学後の勉強にも漠然と不安を感じているのではないかと想像します。我々医学部の学生も、かつてはそんな受験生でした。そこで我々は自身の経験を踏まえ、高校生の皆様により医学科・看護学科を身近に考えて貰えるイベントとして「医学部体験ツアー」を企画しました。

主なプログラムは医学部生から人気の高い先生方による「体験授業」です。これを医学科・看護学科とも2コマずつ実施します。その他、「在学生の学生生活紹介」、血圧測定や注射を体験できる「医学展」の見学などの企画も用意しています。

受験情報は数多く出回っていますが、医学・看護学の学びについて踏み込んだものは少なく、自分の適性に合った大学・学科を見つけることはとても大変だと思います。福井大学医学部は、福井大学の受験者に限定せず、医療人を志すすべての高校生に役立ちたいと考えていますので、今回の「医学部体験ツアー」が参加者すべての進路選択の一助となれば幸いです。（以下省略）

（事務局資料）

資料 1-1-3-8 医学部オープンキャンパスにおける保護者向け説明会

医学部入学者対象アンケートにより、平成 25 年度医学科入学者の約 10%が、家族及び先生に勧められて医師を志望していた。この結果から、志望動機とアドミッション・ポリシーのミスマッチを解消するには、受験者本人だけでなく、受験者に影響を与える周囲の人々が医師・医学部について知る必要があると考え、オープンキャンパスにおいて平成 26 年度より「保護者対象企画」を実施している。

**保護者対象企画
「医学部受験にあたって」**

知識 **技能** **態度**

医のプロフェッショナリズム

※ 医学部を受験するにあたって考えていただきたいことや、入試について、本学医学部の良いところなどをお話しします。

講師：安倍 博 教授（教育担当副学部長）
日時：8月7日 13:30～14:00
場所：講義棟1F第一中講義室

医学部定員増の深刻な影響

医学部入試の門戸が広がった
平成24年：11名増 入試202万人・医学部定員増150人→1,700人
平成25年：13名増 入試192万人・医学部定員増150人→1,720人

推薦入試など学科試験を課さない入試形態の導入

医学部入試が以前ほど厳しくない

学力が低くても医学部に合格できる

「なぜ医師になりたいのか」明確な動機がなくても医師になれる

勉強がついて行けない ミスマッチ 精神面に支障

留年・休退学の増加

医師の質の低下

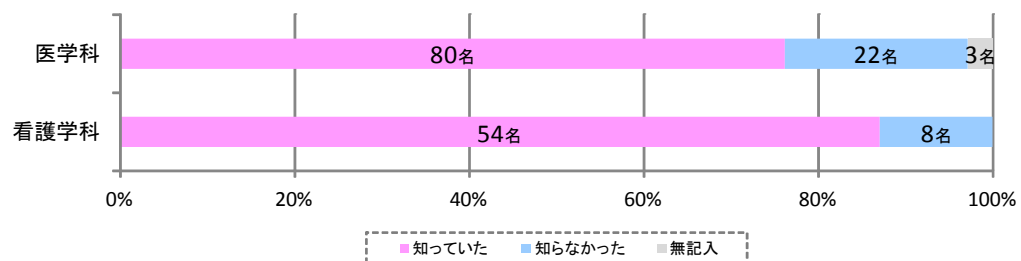
(事務局資料)

③ 広報活動により、AP の周知状況は良好である (資料 1-1-3-9)。

資料 1-1-3-9 入学者のアドミッション・ポリシー周知状況

新入生へのアンケート調査により、医学科新入生の 76.2%、看護学科新入生の 87.1%が AP を知っていたと回答している。

設問_福井大学のアドミッション・ポリシーを知っていましたか？



(平成 27 年度入学生対象アンケート結果より抜粋)

【入学者確保と選抜】

- ① 入試情報等の積極的な発信により、志願状況は両学科とも良好であり、概ね第1期を上回り、定員充足率も適正である（資料 1-1-3-10）。

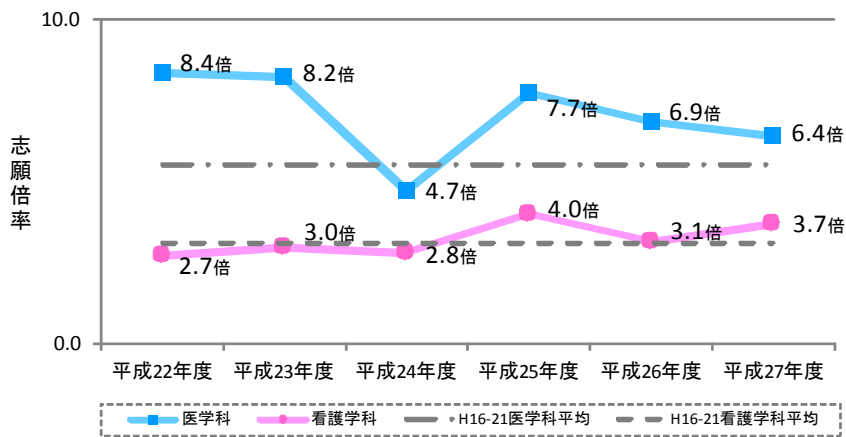
資料 1-1-3-10 医学部入学試験志願状況

入学試験の平均志願倍率は、医学科では前期 5.2 倍（第 1 期は 3.7 倍）後期 14.8 倍（同 12.3 倍）推薦 4.1 倍（同 3.4 倍），看護学科では前期 2.0 倍（同 2.0 倍）後期 7.7 倍（同 6.4 倍）推薦 2.9 倍（同 2.4 倍）と第 1 期を上回る状況である。なお定員充足率は医学科 100.0%，看護学科 101.4%と適正である。

■ 志願倍率・定員充足率の推移

実施年度	学科	前期			後期			推薦			(計)			
		志願者数	入学者数	志願倍率	志願者数	入学者数	志願倍率	志願者数	入学者数	志願倍率	志願者数	入学者数	志願倍率	定員充足率
H22年度 (H23年度入試)	医学科	373名	55名	6.8倍	442名	25名	17.7倍	104名	30名	3.5倍	919名	110名	8.4倍	100.0%
	看護学科	64名	30名	2.1倍	61名	10名	6.1倍	38名	20名	1.9倍	163名	60名	2.7倍	100.0%
H23年度 (H24年度入試)	医学科	425名	55名	7.7倍	384名	25名	15.4倍	98名	30名	3.3倍	907名	110名	8.2倍	100.0%
	看護学科	48名	30名	1.6倍	90名	10名	9.0倍	40名	20名	2.0倍	178名	60名	3.0倍	100.0%
H24年度 (H25年度入試)	医学科	151名	55名	2.7倍	239名	25名	9.6倍	127名	30名	4.2倍	517名	110名	4.7倍	100.0%
	看護学科	45名	30名	1.5倍	57名	10名	5.7倍	67名	20名	3.4倍	169名	60名	2.8倍	100.0%
H25年度 (H26年度入試)	医学科	316名	55名	5.7倍	408名	25名	16.3倍	126名	30名	4.2倍	850名	110名	7.7倍	100.0%
	看護学科	79名	30名	2.6倍	95名	10名	9.5倍	67名	20名	3.4倍	241名	60名	4.0倍	100.0%
H26年度 (H27年度入試)	医学科	218名	55名	4.0倍	389名	25名	15.6倍	147名	30名	4.9倍	754名	110名	6.9倍	100.0%
	看護学科	52名	30名	1.7倍	57名	10名	5.7倍	79名	22名	4.0倍	188名	62名	3.1倍	103.3%
H27年度 (H28年度入試)	医学科	218名	55名	4.0倍	351名	25名	14.0倍	138名	30名	4.6倍	707名	110名	6.4倍	100.0%
	看護学科	63名	30名	2.1倍	100名	10名	10.0倍	60名	23名	3.0倍	223名	63名	3.7倍	105.0%
(H22-27平均)	医学科	(283.5名)	(55.0名)	(5.2倍)	(368.8名)	(25.0名)	(14.8倍)	(123.3名)	(30.0名)	(4.1倍)	(775.7名)	(110.0名)	(7.1倍)	100.0%
	看護学科	(58.5名)	(30.0名)	(2.0倍)	(76.7名)	(10.0名)	(7.7倍)	(58.5名)	(20.8名)	(2.9倍)	(193.7名)	(60.8名)	(3.2倍)	101.4%
(H16-21平均)	医学科	(208.5名)	(55.8名)	(3.7倍)	(265.8名)	(21.7名)	(12.3倍)	(74.2名)	(21.7名)	(3.4倍)	(548.5名)	(99.2名)	(5.5倍)	100.0%
	看護学科	(61.0名)	(29.8名)	(2.0倍)	(85.3名)	(13.3名)	(6.4倍)	(40.7名)	(16.8名)	(2.4倍)	(187.0名)	(60.0名)	(3.1倍)	100.0%

志願倍率の推移（平成 22-27 年度実施入試）



(事務局資料)

- ② 福井県内の地域医療に従事する意志を持つ入学生を募集する医学科入学者選抜（推薦）や奨学金給付制度により，志願者は増加している（資料 1-1-3-11）。

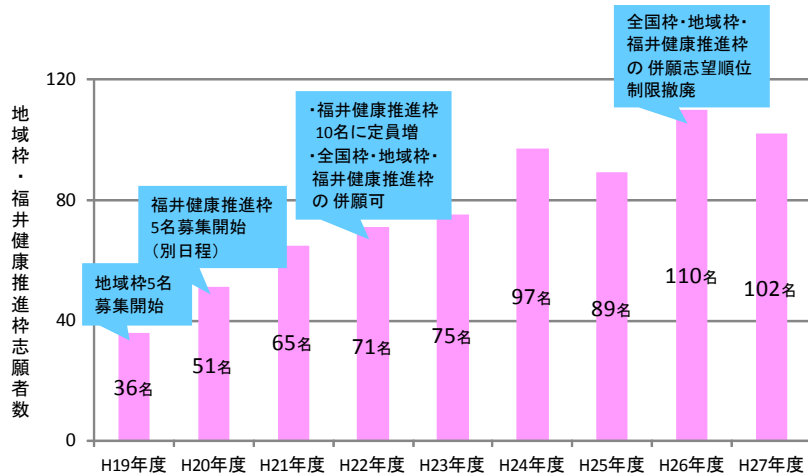
資料 1-1-3-11 地域枠を設けた入学者志願状況（医学科推薦入試Ⅱ）

地域医療に従事する意志を持つ志願者募集として「地域枠」と「福井健康推進枠」による推薦入試を設け，平成22年度より現行定員としている。以降志願者の増加が見られ近年は100名程度となっている。推薦入試においては平成22年度入試から個別面接実施（集団面接からの変更），平成26年度入試から「全国枠」「地域枠」「福井健康推進枠」の併願志望順位撤廃などの変更を行い（P4-44 後掲資料 1-1-3-15），これらも一助となり志願者数増加につながっている。

「福井健康推進枠」で合格した全学生には「福井県医師確保修学資金」，「地域枠」を含む入学者のうち希望するものには「嶺南医療振興財団医学生奨学金」の給付制度がある（P4-24 前掲資料 1-1-1-23）。

■ 推薦入試Ⅱ志願者数の推移

	専願			併願				計 (うち地域枠／福井健康推進枠関連の受験者)
	全国枠	地域枠	福井健康推進枠	全国枠／地域枠	全国枠／福井健康推進枠	地域枠／福井健康推進枠	全国枠／地域枠／福井健康推進枠	
H22年度(H23.4入学)	33名	2名	5名	2名	12名	10名	40名	104名 (71名)
H23年度(H24.4入学)	23名	0名	8名	4名	19名	11名	33名	98名 (75名)
H24年度(H25.4入学)	30名	0名	12名	6名	14名	11名	54名	127名 (97名)
H25年度(H26.4入学)	37名	0名	12名	4名	13名	24名	36名	126名 (89名)
H26年度(H27.4入学)	37名	1名	16名	8名	18名	15名	52名	147名 (110名)
H27年度(H28.4入学)	36名	2名	15名	7名	15名	15名	48名	138名 (102名)
(計)	196名	5名	68名	31名	91名	86名	263名	740名 (544名)



(事務局資料)

- ③ 医学科・看護学科ともにすべての入試形態において、APに明示した能力を評価する工夫を行っている（資料 1-1-3-12～14）。特に志願者全員に課す面接試験では、専任教員が面接を行い、AP 及び本学医学部の求める学生像に準じた評価票による評価を行っている。

資料 1-1-3-12 医学部入学者選抜方法とその工夫

学科	入試区分1	入試区分2	2段階選抜	選抜の方法			参考資料			
				個別学力試験	面接	調査書				
医学科	一般入試	前期日程	有	センター試験	個別学力試験	面接	調査書			
		後期日程	有	センター試験	小論文	面接	調査書			
	推薦入試Ⅱ	全国枠	有	センター試験		面接	調査書	推薦書	志願理由書(1)	
		地域枠	有	センター試験		面接	調査書	推薦書	志願理由書(1)	志願理由書(2)
		福井健康推進枠	有	センター試験		面接	調査書	推薦書	志願理由書(1)	志願理由書(2)
学士編入学		有	個別学力試験	志望理由書	面接	成績証明書				
看護学科	一般入試	前期日程	無	センター試験	小論文	面接	調査書			
		後期日程	無	センター試験	小論文	面接	調査書			
	推薦入試Ⅰ		無		小論文	面接	調査書	推薦書	志願理由書(1)	

両学科とも、全ての試験区分において志願者全員に個別面接を行っており、AP に従った面接評価をするための評価票を使用している。

推薦入試においては、出身高校等からの推薦書に加え、志願者自筆による志願理由書（資料 1-1-3-13）を選抜の参考としている。

（事務局資料）

資料 1-1-3-13 志願理由書

志 願 理 由 書 (2)

医学科「この用紙は、「地域枠」及び「福井健康推進枠」(併願含む)に志願する者のみ記入してください。]

志願者	フリガナ		性別	生 年 月 日
	氏 名		男・女	平成 年 月 日

医学科の「地域枠」及び「福井健康推進枠」(併願含む)に志願する者は、将来どのような形で福井県内の地域医療に貢献したいかについて説明してください。

■ 志望理由書（1）

医学科推薦入試Ⅱおよび看護学科推薦入試Ⅰの志願者全員が自筆にて作成提出。志願する学科で学びたい理由、将来、医学・医療や看護に携わる自らの適性について記載する。

■ 志望理由書（2）

医学科推薦入試Ⅱ「地域枠」「福井健康推進枠」に出願するもの全員が自筆にて作成提出。将来どのような形で福井県内の地域医療に貢献したいかについて説明する。

（事務局資料）

資料 1-1-3-14 アドミッション・ポリシーの主要事項と入学者選抜方法の対応

両学科の入学者選抜において、定めたアドミッション・ポリシーに従い、それぞれに応じた選抜を実施している。

【医学科】

- ① 医師となるにふさわしい豊かな人間性，周囲との協調性，奉仕の精神を持った人
- ② 医学教育内容を十分理解するために必要な幅広い基礎学力と応用力の富む人
- ③ 医学・医療を通じて広く社会に貢献しようとする強い情熱と意欲を持った人
- ④ 先端的生命科学に強い関心をもち医学研究者になることを希望する人
- ⑤ 医師として地域医療に貢献したい人

入試区分1	入試区分2	アドミッションポリシーの主要事項番号				
		①	②	③	④	⑤
一般入試	前期日程	○	◎	○	○	○
	後期日程	◎	○	○	○	○
推薦入試Ⅱ	全国枠	○	○	◎	○	○
	地域枠	○	○	◎	○	◎
	福井健康推進枠	○	○	○	—	◎
学士編入学		○	◎	○	◎	—

◎…特に重視する項目 ○…重視する項目 —…必ずしも重視しない項目

【看護学科】

- ① 人間存在に関心を持ち，感性が豊かな人
- ② 人との関わりを通して，相互に成長することができる人
- ③ 基礎学力がある人
- ④ 向上心と探究心があり，自律的に行動できる人

入試区分1	入試区分2	アドミッションポリシーの主要事項番号			
		①	②	③	④
一般入試	前期日程	○	○	◎	○
	後期日程	○	○	◎	○
推薦入試Ⅰ		○	○	○	◎

◎…特に重視する項目 ○…重視する項目

(事務局資料)

- ④ 入試結果等に基づき、入学者選抜法の改善に努めている（資料 1-1-3-15）。特に地域ニーズから、医学科では地域医療を指向する学生を対象とする「福井健康推進枠」を拡大し、看護学科では地域貢献を目指す高度専門職業人育成（卒後教育強化）のため編入学制度廃止（資料 1-1-3-16）を行った。

資料 1-1-3-15 医学部入学試験における選抜方法の改善と定員変更

医学科は、学力のみならず、アドミッション・ポリシーにふさわしい学生が入学するよう、平成 25 年度から人物の総合評価（面接）の強化を行った。

- (1) 面接委員毎の評価傾向の分析（バラツキの調査）（P4-48 後掲資料 1-1-3-20）
- (2) 面接委員対象の面接 FD の実施（P4-47 後掲資料 1-1-3-19）及び受講者を中心とした面接委員の選定
- (3) すべての面接試験を集団から個別に変更（平成 25 年度の一般（前期）より）、および 2 次面接の導入
- (4) 推薦入試の併願志望順位の制限撤廃

看護学科は、面接を中心とした人物評価を強化し、また推薦入試出願要件の緩和や一般入試の選択科目の拡大を行った。

- (1) 推薦入試出願要件の「調査書概評」を A（4.3 以上）から 4.0 以上に緩和
- (2) センター試験の選択科目を、拡大し、基礎科目の選択も可能となるよう緩和
- (3) 面接委員対象の面接 FD の実施（P4-47 後掲資料 1-1-3-19）及び受講者を中心とした面接委員の選定
- (4) アドミッション・ポリシーにふさわしい受験者のいない 3 年次編入学試験を廃止（資料 1-1-3-16）

■ 選抜方法の改善

実施年度（入学年度）	医学科	看護学科
平成 22 年度 （平成 23 年度）	【一般入試（前期，後期）】 ・ 2 段階選抜の第 1 段階選抜を緩和（点数制限の廃止） ・ 面接評価の厳格化（著しく低い場合の措置追加） 【推薦入試】 ・ 「全国枠」「地域枠」「福井健康推進枠」の併願可（志望順位の制限あり） ・ 面接評価の厳格化（集団から個別面接に変更）	【一般入試（前期，後期）】 ・ 面接評価の厳格化（著しく低い場合の措置を追加）
平成 23 年度 （平成 24 年度）	【一般入試（後期）】 ・ 小論文課題の厳格化（医学科専用で作成し、英文課題も追加）	【一般入試（後期）】 ・ 小論文課題の厳格化（看護学科専用で作成）
平成 24 年度 （平成 25 年度）	【一般入試（前期）】 ・ 2 段階選抜の第 2 段階選抜を厳格化「募集人員の 7 倍」から「5 倍」に変更	
平成 25 年度 （平成 26 年度）	【一般入試，推薦入試】 ・ 面接委員の評価傾向分析 ・ 面接 FD の実施 【一般入試（前期）】 ・ 面接評価の厳格化（集団から個別面接に変更）	【一般入試，推薦入試】 ・ 面接 FD の実施 【推薦入試】 ・ 出願要件の緩和（評定平均を A（4.3）以上から 4.0 以上に変更）
平成 26 年度 （平成 27 年度）	【推薦入試】 ・ 「全国枠」「地域枠」「福井健康推進枠」併願志望順位の制限撤廃	【一般入試（前期，後期）】 ・ センター試験の選択科目を緩和し、「基礎科目」まで拡大

■ 定員変更

実施年度（入学年度）	医学科	看護学科
平成 22 年度 （平成 23 年度）	【推薦入試】 ・ 「福井健康推進枠」の募集人員を 5 名増員（前期の 5 名を振替え）	
平成 26 年度 （平成 27 年度）		【3 年次編入】 ・ 試験（募集定員 10 名）を廃止

（事務局資料）

資料 1-1-3-16 地域ニーズ調査による看護学科編入廃止

医学部看護学科では、以下の動向・調査・要望から、更なる高度な看護実践能力を有する人材育成が急務であると判断し、看護学科・大学院の将来を見据えた構想を策定したことに伴い、看護学科の3年次編入学制度を平成27年度から廃止した。

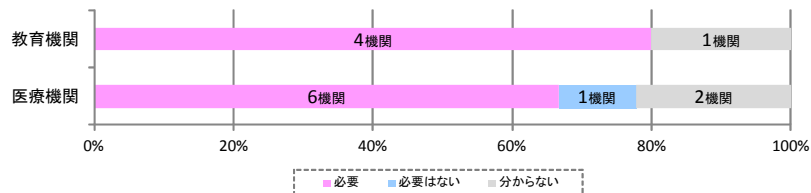
■ 世界および日本国内における看護教育の動向と地域社会からのニーズ

- ・ 看護基礎教育の世界および日本の動向として、職業教育から専門職教育へとシフトしている。また、卒後教育におけるスペシャリスト教育が急速に進んでいる。
- ・ 保健医療福祉のニーズとサービスのグローバル化が進んでいる。
- ・ 看護の専門分化が進んでいる。例えば、卒後継続教育を通して、認定看護師・臨床指導者・看護管理者・看護教育者の教育、大学院教育を通して、専門看護師・Nurse Practitioner（特定領域の高度実践看護師、臨床医と看護師の中間職）の教育が増加している。
- ・ 福井県においては、進行する少子高齢化・過疎化に対して、地域住民の健康ニーズが高まっており、地域医療の向上と専門的な教育課程による人材育成が期待されている。
- ・ 本学は、原子力発電所の約3割が集中する福井県に設置されているため、平成26年度に被ばく医療に強い災害看護専門看護師教育課程を開設した。県内外からの入学希望が多く、大学院生の半数以上を占めている。
- ・ 本学大学院医学系研究科附属地域医療高度化教育研究センターでは、平成23年度に看護キャリアアップセンターを設置し、慢性呼吸器疾患看護課程を開設、平成26年度に手術看護認定看護師課程を開設した。全国から継続教育を求めて定員を大幅に上回る入学希望がある。

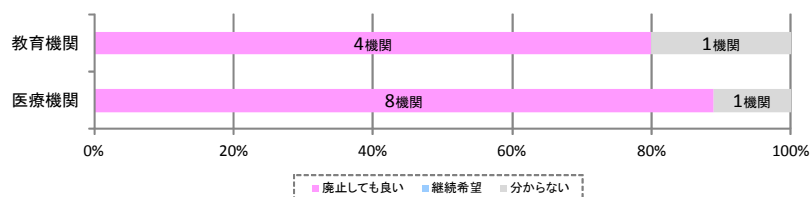
■ 地域社会のニーズ調査（福井県内の教育機関・医療機関）

平成25年度に、福井県内の医療に関係する教育機関・医療機関へアンケート調査を行い、本学における編入制度の見直し・廃止を過半の機関が認め、かつ大学院・認定看護師課程・専門看護師課程による継続教育を望むことが判明した（これらの要望には医学部附属地域医療高度化教育研究センター等が対応している）。

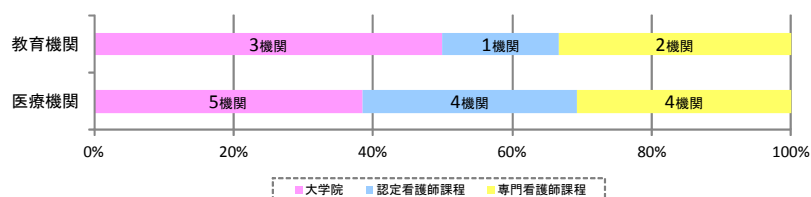
設問_編入学制度の見直しについてどのようにお考えですか



設問_編入学制度の今後の方向性についてどのようにお考えですか



設問_編入学制度が廃止された場合、どのような継続教育の方向性を選びますか（複数回答可）



(平成26年度看護基礎教育の充実にに向けた県内アンケート結果より抜粋)

⑤ 入学生は、その能力が第1期より向上し、教員から AP に即した学生であると評価された（資料 1-1-3-17～18）。

資料 1-1-3-17 適切な入学生の獲得（成績分析）

■ 学年別平均点の推移（入学年度別）

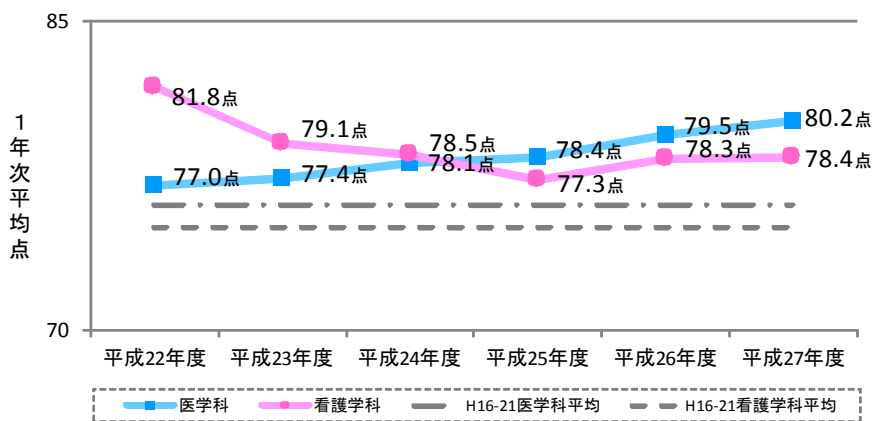
平成 22 年度（第 2 期）以降の入学生の 1 年次平均点を、平成 16～21 年度（第 1 期）学生（留年・休学がなく、かつ医師・看護師国家試験を初回受験で合格したもの）の 1 年次平均点と比較すると常に上回っており、第 2 期中の入学生選抜は、十分な基礎学力を有する学生を選抜していると評価できる。

必修科目 ※1	※1	医学科				看護学科			
		1年次	2年次	3年次	4年次	1年次	2年次	3年次	4年次
H16-21年度入学生平均	※2、※3	76.1	73.5	76.7	78.8	75.0	77.9	80.9	85.1
H22年度入学生	※3	77.0	70.5	77.8	77.4	81.8	79.6	80.7	84.1
H23年度入学生	※3	77.4	71.4	76.1	77.7	79.1	77.4	79.7	82.5
H24年度入学生	※3	78.1	73.8	77.4	77.8	78.5	75.9	79.1	79.5
H25年度入学生	※3	78.4	72.7	75.4	—	77.3	78.8	79.0	—
H26年度入学生	※3	79.5	73.7	—	—	78.3	77.1	—	—
H27年度入学生	※3	80.2	—	—	—	78.4	78.3	—	—

※1 点数評価している科目のみ

※2 留年・休学がなく、かつ医師（看護師）国家試験を初回受験で合格した学生のみ

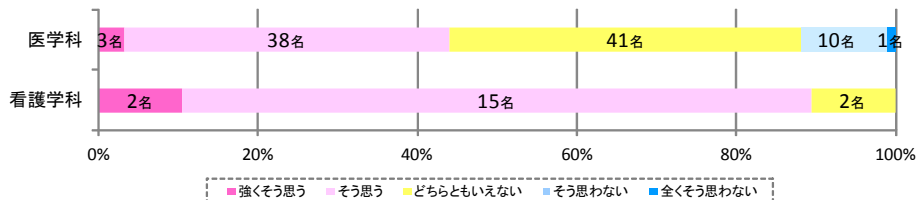
※3 編入学生（医…2年後期、看護…3年次前期）を除く



（事務局資料）

資料 1-1-3-18 適切な入学生の獲得（教員の評価）

設問_学部の入学生はアドミッション・ポリシーに明記された“求める能力，資質を有している”あるいは，“アドミッション・ポリシーにおいて求める学生像に適している”と思われますか？



（平成 26 年度教員による医学教育についてのアンケート調査結果より抜粋）

- ⑥ 教員の入試面接における能力向上のための FD (資料 1-1-3-19) や各教員の面接点分布等の情報フィードバック (資料 1-1-3-20) により、厳正かつ適切な面接が可能になるよう努めている。

資料 1-1-3-19 入試面接 FD

■ 入試面接員面接力養成セミナー・ポスター

時間	項目
17:00 ~ 17:10 (10分間)	・自己紹介 ・アンケートの件
17:10 ~ 17:30 (20分間)	・面接ロールプレイング【case】大学入試向け模擬面接 ・振り返り
17:30 ~ 18:55 (90分間)	・面接員の心得 ・「だから、その面接ではクレーンになるんです！」 ・「面接17の面接情報」 ・面接テクニック編 ・これを習ったら面接がNGワード集 ・人材を見抜くための面接質問技法 ・若い人材の条件とは？
18:55 ~ 19:00 (5分間 希望者のみ参加 終わりを要終了)	・質疑応答 ・アンケートへの記入

※ 講演内容を録画し、新しく面接を担当する教員にも情報提供している。

■ 実施後アンケートによる参加教員の声 (抜粋)

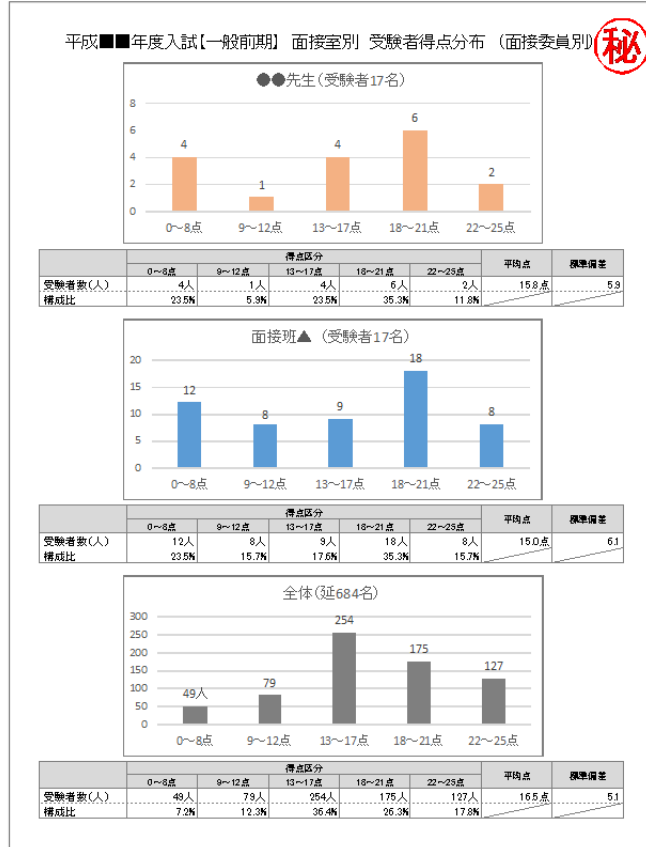
- ・面接員が学生の能力・人間性を引き出すための配慮(聞き方、雰囲気)を大切にしなければならぬと改めて思いました。その点は注意していたつもりですが、どこかで「あなたの力でアピールしてみなさい」と突き放した立場も持っていたようにも感じました。話やすい雰囲気で引き出す、インタビューするというスタンスを大切にしたいと思います。
- ・面接は「営業」、質問ではなく「インタビュー」という考えはなかったため、大変おもしろいと思った。人物評価をするのだから終始ハードでも良いと思っていたが、今日の話聞いたので、今後は良い面接ができると思う。
- ・面接は人と人のコミュニケーションであり、それがスムーズにできるようにすることが大切であることがわかった。患者さんとの接し方にも使える知識であり、聞いて反省する点もありました。
- ・中央化傾向の解消法は興味深かった。
- ・面接の質問は、事前に考えることが必要であることをよく理解した。
- ・面接において、非言語情報の占める割合は大きく、面接官側の笑顔だけで雰囲気が大きく変わることが実感できた。非言語情報をうまく使うことによって、言語情報を得ることができるということが分かった。

(事務局資料)

資料 1-1-3-20 過去の面接情報のフィードバック

面接委員を担当する教員に対し、毎年学内の入試面接説明会を行うとともに、教員毎に過去の面接採点情報（個人別、面接班別、全体）の提供を行っている。同じ面接班であった他の面接委員、および全体の評価傾向を参考にし、振り返ることで適正な評価や面接技術の向上に繋げている。

■ 面接委員への結果報告（サンプル）



(事務局資料)

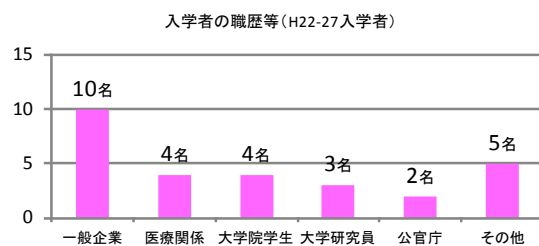
【社会人・留学生の入学促進】

医学科学士編入学制度（定員 5 名）への入学志願者倍率は非常に高く、多様な背景を持つ学生が入学している（資料 1-1-3-21）。

資料 1-1-3-21 医学科学士編入学入試状況

学士編入の志願倍率は常に 30 倍以上と高く、わずかながら第 1 期より志願者数は多い。学士編入による入学者は一般企業を中心に医療関係企業出身者や大学院学生など多様である。

	志願者数	入学者数	志願倍率
平成22年度(平成22.10月入学)	173名	5名	34.6名
平成23年度(平成23.10月入学)	221名	4名	55.3名
平成24年度(平成24.10月入学)	224名	5名	44.8名
平成25年度(平成25.10月入学)	172名	5名	34.4名
平成26年度(平成26.10月入学)	179名	4名	44.8名
平成27年度(平成27.10月入学)	186名	5名	37.2名
平成22～27年度平均 (A)	192.5名	4.7名	38.5名
平成16～21年度平均 (B)	188.0名	4.8名	37.6名
増減 (A)-(B)	+ 4.5名	- 0.2名	+ 0.9名



(事務局資料)

●教員の教育力向上や職員の専門性向上のための体制の整備とその効果

【FD・教員評価】

- ① 医学部教育支援センターを中心として FD 講演会を実施し、延べ 1,212 名の教員参加と高い効果を現し、教員は授業改善等に努めている（資料 1-1-4-1, 3）。加えて「学生による授業評価アンケート」評価上位教員による公開授業にも多くの教員が参加した（資料 1-1-4-2）。

資料 1-1-4-1 医学部 FD 講演会等の活動一覧

年度	内容	実施日	参加人数
平成22年度	医学部チューター養成ワークショップ	H22. 4. 14	27名
	授業評価アンケート上位教員による「公開授業」	※ 前・後期	18名
	学生相談から見える課題	H22. 8. 19	21名
	ココロに響くトトプレゼンテーション技法	H23. 1. 26	42名
	PBL教育ワークショップ（福井ーハワイ）	H22. 10. 2-3	50名
	兵庫医科大学における医学教育の現状	H23. 1. 28	35名
	(計)		(193名)
平成23年度	医学部チューター養成ワークショップ	H23. 4. 13	25名
	授業評価アンケート上位教員による「公開授業」	※ 前・後期	29名
	学生理解と関わり方の技術向上にむけて	H23. 9. 21	29名
	医学教育の国際基準	H23. 10. 13	45名
	こころの問題を抱える学生への支援 ー発達障害と自殺関連行動を中心にー	H24. 2. 2	27名
	東日本大震災の災害救護	H23. 7. 4	84名
	(計)		(239名)
平成24年度	医学部チューター養成ワークショップ	H24. 4. 11	31名
	授業評価アンケート上位教員による「公開授業」	※ 前・後期	29名
	学生支援とカウンセリングのかかわり ～カウンセリングとの接点を手がかりに考える～	H24. 9. 5	26名
	医学教育の質保証と国際認証 ～求められる臨床実習の充実～	H24. 10. 4	39名
	大学生のためのスタディ・スキル教育 ～『知へのステップ』の活用～	H25. 1. 31	24名
	滋賀医科大学における医学教育	H25. 3. 15	39名
	(計)		(188名)
平成25年度	医学部チューター養成ワークショップ	H25. 4. 10	31名
	授業評価アンケート上位教員による「公開授業」	※ 前・後期	18名
	入学試験面接委員セミナー	H25. 10. 9	74名
	医学教育認証評価に向けた東京医科大学のカリキュラム改編の現状と課題	H25. 11. 28	46名
	看護界初 P.N.Sの誕生と特徴 ーパートナーシップ・マインドー	H25. 12. 13	23名
	青年期の心のクライシス	H26. 1. 17	35名
	臨床と教育の連携 ー看護臨床教育センターの取り組みー	H26. 2. 7	17名
(計)		(244名)	
平成26年度	医学部チューター養成ワークショップ	H26. 4. 9	27名
	授業評価アンケート上位教員による「公開授業」	※ 前・後期	20名
	変化を恐れず、変化の最先端に立つ！ ～組織の壁を乗り越えて、連携するために～	H26. 9. 30	34名
	発達障害の特性と理解、そして支援 ー大学での取り組みに学ぶー	H26. 12. 19	28名
	ライフサイエンスイノベーション推進機構セミナー（ヒーリングタッチと看護について）	H27. 2. 2	24名
	医学部国際認証問題 ー福井大学の対応は？ー	H27. 3. 20	36名
	(計)		(169名)
平成27年度	医学部チューター養成ワークショップ	H27. 4. 8	34名
	授業評価アンケート上位教員による「公開授業」	※ 前・後期	30名
	学習支援システム説明会	H27. 7. 10	47名
	教育システム活用セミナー	H27. 9. 25	37名
	専門領域を超えて専門領域を深める ー育ちあい、響きあう学習環境を目指してー	H28. 3. 8	31名
	(計)		(179名)
平成22-27年度 計			1,212名
うち、「公開授業」計 …※			144名

平成 22 年度には福井大学「競争的配分経費（教育評価に基づく競争的経費）」として「医学部教育の国際化に向けた基盤的 FD 活動の推進」に配分を受け FD 体制の構築を行い、以降の FD 活動の運営が円滑になされている。

医学部教育支援センターを中心に、FD 活動について年間計画のもと、全教員参加を目指した取組を平成 28 年度より行うこととしている。

(事務局資料)

資料 1-1-4-2 「学生による授業アンケート」評価上位教員による公開授業（一部抜粋）

■ 平成 27 年度「公開授業」ポスター



「学生による授業評価アンケート」(平成26年度)評価上位教員による公開授業について

題名のことについて、ご覧いただける授業の公開は下記のとおりです。是非、多数の先生方の参加をお待ちしております。參觀ご希望の方は、卒業まで事前申し込みください。
 (文学生生の出席授業の受講となりますので、教員の所属と人数に制限があります。また、書類の準備もありませんので、必ず事前に「予約」までご連絡ください。)

教員名	授業科目・講義名	日程	コメント
共通系	安倍 博 (行動基礎科学)	06月09日(火) 2日目	医学科1年対象 ①「ストレス学説とストレス緩和法、動物のストレス」 ②「動物の腸内・カニズム・免疫と炎症」 ③「動物以外でもOK(動物知能水産2期)」 ④「動物と動物」 ⑤「動物以外でもOK(動物知能水産2期)」 *「動物のフエッショナリス(A) 動物の1眼として、「共通」をテーマに「動物の気持ちや行動」などの意味を、動物学を名づけた「行動科学」として科学的に整理されるように志しています。
	山次 俊介 (運動・スポーツ医学)	011月06日(木) 2日目	医学科1年対象 ①「動物の運動生理学」 ②「世界に広がる運動」 ③「正しいダイエット方法」
基礎系	黒田 一郎 (組織細胞形態学・神経科学)	05月11日(月) 4、5日目	医学科2年対象 ①4日目「動物・哺乳類」 ②5日目「動物」 ③「肉分筋組織」
	小林 基弘 (細胞生理学)	011月10日(火) 3日目	医学科3年対象 ①「動物細胞・動物」 *小学生にも理解できるように噛み砕いて説明する。至善な点を何度も繰り返す。
	瀧 敏彦 (組織細胞形態学・神経科学)	06月15日(月) 4、5日目	医学科2年対象 4日目「動物・動物の細胞・動物」 5日目「動物・動物の細胞・動物」
	定 清博 (ゲノム科学・微生物学)	07月7日(火) 2日目	医学科1年対象 ①「動物の細胞生物学」に入る前に、高校で学んだ動物細胞のオーバービューを行います。オリジナルワークブックの準備に考え、林を動かすなど、アクティブラーニングを授業中に取り入れています。 医学科2年対象 ②「動物の細胞生物学」 ③「動物細胞の観察」 *私の声は小さいうえに声量も少ないので、学生を積極的に促しています。専門的知識ですので、素直に学生は吸収します。
	竹内 隆司 (ゲノム科学・微生物学)	011月19日(木) 3日目	医学科1年対象 ①「動物の細胞生物学」「動物学実習の準備」 *動物学実習の準備をかなり進めておきました。「ワークブック」を配布し、予習・復習・授業準備の目的のガイドにしています。「動物学」は非常に難しく、アクティブラーニングの準備に時間をかけています。主に動物学ですが、パワーポイントを使う日もあります。また、実習をやらせてもらうことにより動物学の準備を怠らないうえに、動物学実習も進みます。
	成田 和巳 (総合生理学)	011月27日(金) 1、2日目	医学科1年対象 ①「動物・動物の生理学」
	村田 拓也 (総合生理学)	012月18日(金) 1、2日目	医学科1年対象 ①1日目「動物の動物・動物学」 ②2日目「動物学・動物学」
臨床系	岩野 正之 (実験動物科学)	011月10日(火) 1日目	医学科4年対象 ①「動物、動物10「動物・動物・動物・動物の動物とアップデートな動物を解説」
	大嶋 勇成 (小児科学)	010月1日(木) 2日目	医学科4年対象 ①「動物不全症候群・先天性免疫不全症」 ②「小児呼吸器病・急性肺炎」
	折坂 誠 (産科婦人科)	01月13日(水) 2、3、4日目	医学科4年対象 1日目「動物胎毒と月経異常」 2日目「動物と動物」 3日目「動物胎毒の分化と発症・子宮内胎死」
	木村 秀樹 (検査部)	011月12日(木) 1、2日目	医学科3年対象 ①1日目「動物検査」 ②2日目「動物検査の動物・動物検査・動物検査・治療」 *動物検査の動物・動物検査の動物を動物検査に説明する。動物検査が多いため、できるだけ早くスライドとプリントを準備する。
	五井 孝希 (外科学1)	011月11日(水) 1、2日目	医学科3年対象 ①1日目「動物検査、小児検査」 ②2日目「動物検査、動物検査、動物検査」 ③「動物検査」 *動物検査が多いため、ポイントを絞って説明する。
	此下 忠志 (内科学3)	07月21日(火) 3日目	医学科6年対象 ①「動物検査」
	鈴木 仁彦 (内科学3)	010月22日(木) 4日目	医学科4年対象 ①「動物検査に動物検査の動物検査」 ②「動物検査、動物検査」 ③「動物検査」 *動物検査が多いため、ポイントを絞って説明する。
	廣野 忠則 (内科学2)	05月1日(金) 3日目	医学科4年対象 ①「動物検査、動物検査」 ②「動物検査、動物検査、動物検査」 ③「動物検査」 *動物検査が多いため、ポイントを絞って説明する。
	廣野 隼夫 (外科学1)	05月21日(木) 3日目	医学科6年対象 ①「動物検査」 ②「動物検査」

公開授業は前年度「学生による授業評価アンケート」結果が上位の教員を中心に、授業公開に許諾を得た教員の授業（3回程度）を参観できる制度であり、新任教員を中心にFD活動の一環として実施されている。公開授業担当教員は、公開する授業の日程内容とともに授業実施のポイントを挙げ、参観教員の参考となるよう工夫している。

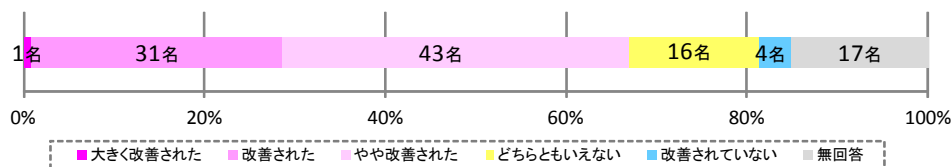
(事務局資料)

資料 1-1-4-3 FD 講演会の評価

■ FD に対する教員の評価（平成 26 年度教員による医学教育についてのアンケート調査）

設問_本学では、教授方法の改善に取り組む全学・全学部的な活動（FD 活動）をこれまで行ってきました。そこで、以下の事項につきまして、回答願います。

これまで参加した FD 活動によって、自らの教授方法は改善されましたか？



■ 「公開授業」

学生による授業評価アンケートを行い、その結果、高評価であった教員を「優秀教員」として年間を通して「公開授業」を実施している。共通系、基礎系、臨床系、看護学科それぞれの分野で選出された「優秀教員」の授業に参加することが可能である。この教員による授業参観の取組により、優秀教員の優れた教育スキルを教員間で共有することができている。新任教員には「公開授業」による FD 参加を積極的に呼びかけている。

参加教員の感想（抜粋）

- ・話すスピードや大きさが適度で聞き取りやすく、聞きながらでも理解しやすい。また、初学者の学生には分かり難いことやイメージしにくいことでも、身近な例を挙げながら説明していくこと。最も基本的なことだが、聴講を通して重要性を改めて実感できた。
- ・発問しながら学生の近くまで足を運ぶこと。学生は少々緊張感を持ちながらも、授業を単に受け身ではなく参加している意識を持つことができるのではないかと考える。
- ・今回は、学生の発表が主な内容であったが、ディベートする学生に対し、全員で評価をするという点が、学生が授業に主体的に全員参加することに繋がっていた。一方的に話を聞くだけでなく、テーマも学生自身が決めているため、学生にとっては興味を引く内容となっていたことも講義を面白くしていた要因であったと思われる。学生が講義に参加できる方法を用いることが講義方法として重要であると感じる内容であった。

1) 講義の進行法について参考となった点

- ・本日の学習目標を学生にしっかり説明していた点
- ・学生が講義内容とケアの必要性についてイメージしやすいよう、学生の普段の生活や今までの実習での体験を学生に話してもらいながら授業を進めていた点
- ・学生の集中力を継続させるために、単調に一方的に講義するのではなく、学生に発言させたり、教科書を確認させたりするなどの行動をさせていた点
- ・常に、学生の間をラウンドしながら授業を進めていた点

2) 授業資料について参考となった点

- ・対応する教科書のページを項目ごとに記載していた点
- ・国家試験問題を合間に入れていた点
- ・文章だけでなく、表や図での説明もあり理解しやすくされていた点

（事務局資料）

- ② 医学教育学会を始めとする教育関連学会等に教職員を派遣し、常に最新の情報収集と情報の共有化を図り FD に反映させている（資料 1-1-4-4）。

資料 1-1-4-4 教員・職員を派遣した教育関連学会等

職員が参加し収集した情報は教育支援センター定例会議での報告や資料回覧等により共有化を図るとともに、専門的な内容については学外講師を依頼し、FD 講演会等を開催することで、多くの教職員への情報発信を行っている。

年度	目的	派遣者数				(計)
		教員			職員等	
		教授	准教授	講師・助教等		
H22年度	第48回全国大学保健管理協会東海・北陸地方部会研究集会				1名	1名
	共用試験医学系OSCE実施に関する説明会				1名	1名
	学士課程における看護学教育の卒業時到達目標改訂版の展開	1名				1名
	(計)	(1名)	(0名)	(0名)	(2名)	(3名)
H23年度	第2回心理職自殺予防研修			1名		1名
	第49回全国大学保健管理協会東海・北陸地方部会研究集会			1名		1名
	第23回医学教育指導者フォーラム・平成23年度医学歯学教育者のためのワークショップ	1名				1名
	教員の教育力、実践力、研究力、協働力を組織的に高める		1名			1名
	医学系OSCE医療面接模擬患者標準化に関するワークショップ				1名	1名
	第49回全国大学保健管理研究会			1名		1名
	第35回北陸地区保健管理担当職研究会				1名	1名
共用試験医学系CBT問題作成に関する説明会	1名				1名	
	(計)	(2名)	(1名)	(3名)	(2名)	(8名)
H24年度	平成24年度共用試験医学系CBT全国説明会		1名			1名
	第24回医学教育指導者フォーラム 平成24年度医学私学教育指導者のためのワークショップ	1名				1名
	第44回日本医学教育学会	2名			1名	3名
	国際的な教育評価に向けた海外先進大学及び医療施設の視察	2名		2名	1名	5名
	共用試験医学系OSCE実施に関する説明会				1名	1名
	第50回全国大学保健管理研究会			1名		1名
	看護実践と教育の有機的連携に向けた看護系大学の取り組み ―教育機能に焦点をあてて―		1名			1名
	第36回北陸地区保健管理担当職研究会				1名	1名
	平成24年度文部科学省大学改革推進事業(基礎・臨床を両輪とした医学教育改革によるグローバルな医師養成)公開シンポジウム	1名				1名
	国際基準に対応した医学教育認証制度の確立シンポジウム	3名			2名	5名
共用試験医学系CBT問題作成に関する説明会	1名			1名	2名	
	(計)	(10名)	(2名)	(3名)	(7名)	(22名)
H25年度	日本心理研修センター2013年度夏季研修			1名		1名
	第40回全国大学保健管理協会東海・北陸地方部会保健管理担当職研究会				1名	1名
	第45回日本医学教育学会		1名	2名	2名	5名
	共用試験医学系OSCE実施に関する説明会				1名	1名
	日英共同開発「考え込み防止」認知行動療法による折れない心を育てるWeb研修サービス			1名		1名
	【続】看護実践と教育の有機的連携に向けた看護系大学の取組			1名		1名
	国際基準に対応した医学教育認証制度の確立シンポジウム		1名	1名	2名	4名
共用試験医学系CBT問題作成に関する説明会	1名			1名	2名	
	(計)	(1名)	(2名)	(6名)	(7名)	(16名)
H26年度	第26回医学教育指導者フォーラム・平成26年度医学歯学教育者のためのワークショップ	1名				1名
	第46回日本医学教育学会	1名	1名		2名	4名
	第52回全国大学保健管理協会東海・北陸地方部会研究集会および第41回全国大学保健管理協会東海・北陸地方部会保健管理担当職研究会				1名	1名
	第52回全国大学保健管理研究会			1名		1名
	第34回国内医科大学視察と討論の会	1名				1名
	共用試験医学系OSCE実施に関する説明会				2名	2名
	第54回医学教育セミナーとワークショップ	1名				1名
	看護系大学教員の職能開発とキャリア支援 ～FDマザーマップの活用を通して～	1名				1名
	平成26年度日本臨床心理士会定例研修会 I (第1回自死予防専門研修会)			1名		1名
	第3回全国シンポジウム「日本の国情・2次医療圏の実情を考慮して、理想的医師・医療者育成教育の展開を考える2014」	1名				1名
第38回北陸地区保健管理担当職研究会				1名	1名	
平成26年度文部科学省大学改革推進事業(基礎・臨床を両輪とした医学教育改革によるグローバルな医師養成)公開シンポジウム	1名				1名	
国際基準に対応した医学教育認証制度の確立シンポジウム	2名			1名	3名	
共用試験医学系CBT問題作成に関する説明会	1名			2名	3名	
	(計)	(10名)	(1名)	(2名)	(9名)	(22名)
H27年度	第27回医学教育指導者フォーラム	1名				1名
	第47回日本医学教育学会	2名		4名	2名	8名
	共用試験医学系OSCE実施に関する説明会				1名	1名
	10年後を見据えた看護学教育の質改善の取組 ～隣地実習の質保障に焦点をあてて～		1名			1名
	第39回北陸地区保健管理担当職研究会				1名	1名
	平成27年度文部科学省大学改革推進事業(基礎・臨床を両輪とした医学教育改革によるグローバルな医師養成)公開シンポジウム	5名	2名		2名	9名
	障害学生支援カンファレンス北陸			1名		1名
共用試験医学系CBT問題作成に関する説明会	1名			1名	2名	
	(計)	(9名)	(3名)	(5名)	(7名)	(24名)

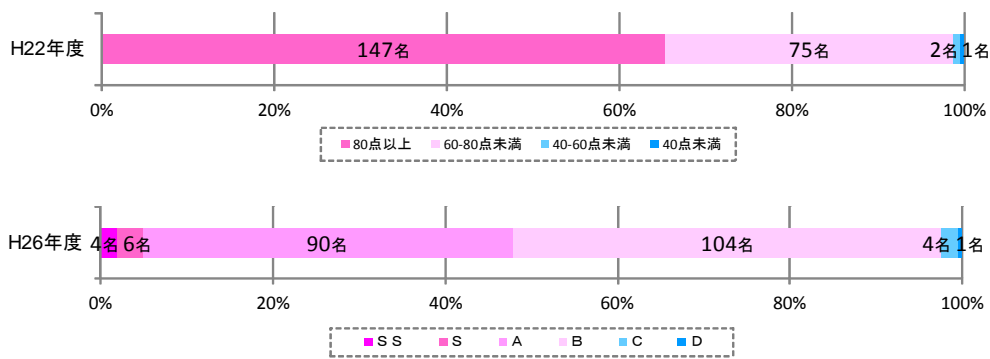
(事務局資料)

③ 教員評価として全学的教員評価を評価委員会、医学部の教員評価を医学部評価委員会において各教員の自己評価をもとに医学部長及び学長が行い、平成 26 年度評価では医学部教員の教育活動に関しては平均 3.766（5 点満点）の高い評価となっている（資料 1-1-4-5）。教員評価は人事評価にも活用され、昇給あるいは号給の調整など教員の処遇に反映した。

資料 1-1-4-5 教員個人評価

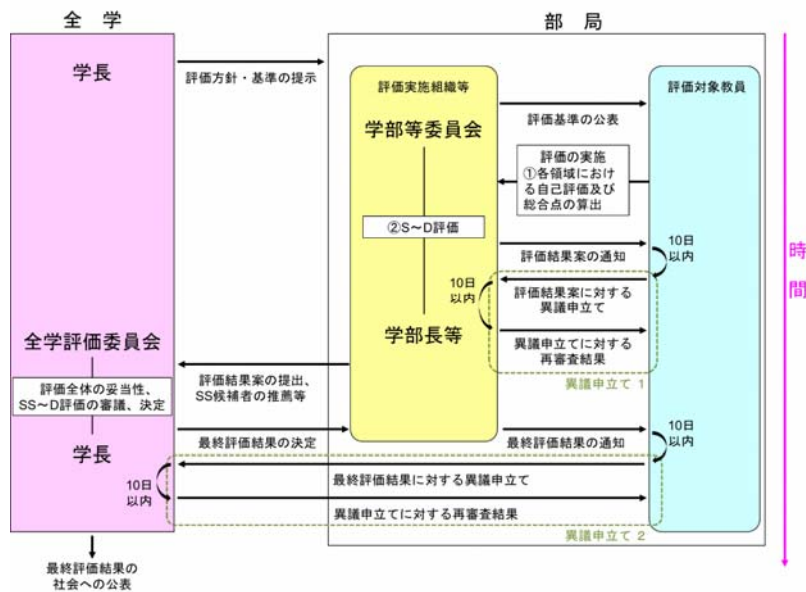
平成 22 年度及び平成 26 年度に全教員の個人評価を実施した。平成 22 年度に実施した医学部教員の教育における評価結果は、98.7%の教員が 60 点以上であり、平成 26 年度の評価結果は97.6%の教員が SS～B 評価（平均 3.776；5 点満点）とほとんどの教員が高い評価を得ている。

■ 医学部教員個人評価（教育）の実施結果



■ 福井大学教員個人評価の実施状況

国立大学改革プラン等に対応するため、平成 26 年度に、規定の改正など、従来の教員個人評価を全面的に改正した。このため、平成 26 年度実施分については、前 4 年間で対象とした。また、学長は、中期目標達成への大きな貢献や卓越した教育研究等をなした教員を「SS」および「S」として高く評価し、該当する者の合計数は、評価対象者の 5%を超えないものとして実施、特に、「SS」と評価された教員の氏名を理由とともに公表し、評価の透明性確保にも努めている。他方、活動状況に問題があり改善を要する者は「D」と評価することとした。



(事務局資料)

- ④ 「学生による授業評価アンケート」評価上位教員や Best Teacher Award 及び全学における「優れた教育成果を挙げた者に対する表彰」等の優秀教員評価制度により教員の意欲向上に努めている（資料 1-1-4-6）。

資料 1-1-4-6 「学生による授業評価アンケート」による教員評価

■ 福井大学医学部「学生による授業評価アンケート」評価上位教員数および Best Teacher Award (BTA) 受賞者数

選考対象（規定数）	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H22-27年度計		
							延教員数	（実教員数）	（うちBTA ※）
医 共通教育（約2-3名/年 ※）	3名	3名	3名	2名	2名	2名	15名	（4名）	（3名）
学 基礎医学（約5名/年）	5名	5名	5名	5名	5名	5名	30名	（16名）	（3名）
科 臨床医学（約15名/年）	16名	15名	15名	15名	15名	15名	91名	（50名）	（8名）
看護学科（約5名/年）	7名	5名	5名	5名	5名	5名	32名	（15名）	（3名）
計	31名	28名	28名	27名	27名	27名	168名	（85名）	（17名）

※ 共通教育は平成 26 年度まで約 3 名/年、平成 27 年度から約 2 名/年の選出規定

※ Best Teacher Award …評価上位教員に通算 5 回以上選考された教員を「Best Teacher Award」として表彰

■ 福井大学医学部「学生による授業評価アンケート」評価上位教員選考に関する申合せ（抜粋）

顕彰制度	制度の概要
「学生による授業評価アンケート」評価上位教員選考・Best Teacher Award	<p>(目的) 第1 この申合せは、福井大学医学部「学生による授業評価アンケート」評価上位教員（以下「評価上位教員という。」選考について、必要な事項を定める。</p> <p>(選考基準) 第2 選考の対象は、講義・演習とする。 2 講義は、複数コマを担当している科目とする。ただし、臨床系の科目については、1 コマのみの担当であっても対象とする。 3 履修登録者が、10 名以上の科目とする。 4 履修登録者に対する「学生による授業評価アンケート」の回収率が 50%以上の科目とする。 5 非常勤講師は、対象外とする。</p> <p>(選考) 第3 学生による授業評価アンケートを実施した翌年度の 4 月 1 日に在籍している教員について、次の区分ごとに評価上位教員を評価点上位の者から選考する。 (1) 共通系 約 2 名 (2) 基礎系 約 5 名 (3) 臨床系 約 15 名 (4) 看護学科 約 5 名</p> <p>(選考方法) 第4 評価上位教員候補者の選考は、医学部教育支援センターが行い、医学部長に推薦する。評価上位教員は、医学部教務学生委員会において決定し、医学部教授会に報告する。</p> <p>(公表) 第5 医学部長は、評価上位教員を学内に公表する。</p> <p>(表彰) 第6 医学部長は、評価上位教員に通算 5 回選考された教員を「Best Teacher Award」として表彰する。 2 表彰は、学部長が表彰状を授与することにより行う。 3 表彰は、原則として年度当初に行う。 4 被表彰者の人事記録に当該記録を記載する。 5 表彰後に評価上位教員に選考された場合の回数は、1 回目とする。</p>

■ Best Teacher Award 受賞教員のコメント

医療者に必要な「共感」の理解を、できる限り患者さんの目線で捉えられるような授業を心がけています。「授業は学生が主役」がモットー。主役を置いてきぼりにしないよう、これからも学生をコミュニケーションのとれる授業を行っていきたいと思っています。

(事務局資料)

●教育プログラムの質保証・質向上のための工夫とその効果

【教学マネジメント体制】

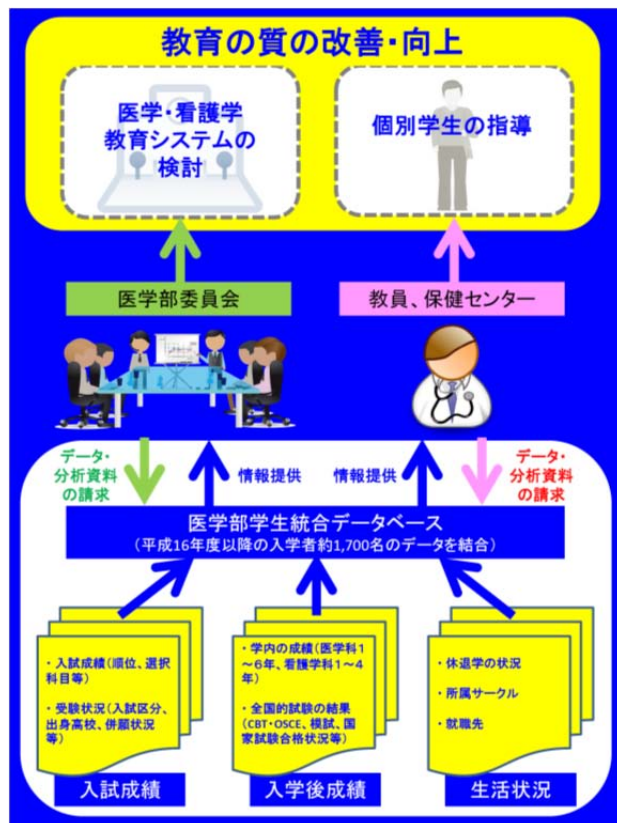
- ① 教育の質保証及びその改善のため、教育支援センターを中心として、各種アンケートなど様々な意見聴取 (P4-58 後掲資料 1-1-5-4) を含め教育の状況を示すデータの収集・蓄積・分析を継続的に実施し、その結果に基づき、適宜教育の点検・改善・充実を図る取組を行っており、全学部的な PDCA 体制が整備されている (P4-4 前掲資料 1-1-1-1)。医学科では、「医学教育分野別評価」への対応を質保証の一環とすることとしている。
- ② 学生の入試から卒業までの成績・奨学金・共用試験、模試等を「学生統合データベース」として構築し、データの収集分析を行う教学 IR 体制を整備している (資料 1-1-5-1, 2)。

資料 1-1-5-1 医学部学生統合データベース

平成 25 年度に医学部では、平成 16 年度以降入学者の入試から卒業までの成績、さらに休退学や所属サークル等の状況を、学籍番号をキーに任意に連結できるようデータを整備した。これにより、各委員会等の要求に応じて「入試区分毎の成績の状況」、「各学年間のカリキュラム相関」等の分析が容易に行える体制が整えられている。

また、各年度末の進級判定時に最新のデータを追加しており、学生単位で入学以降の成績を並べて表示する、もしくはカリキュラム区分毎に表示することで、成績の急激な落ち込みや不得意分野等をタイムリーに把握できる。この情報をアドバイザー教員、保健センター、事務局で共有することで、学生への早期指導を行っている。

データの分析にあたっては個人情報の保護に十分注意することとし、内容によっては福井大学医学系研究倫理審査委員会による「倫理審査」の受審を経ることとしている。



(事務局資料)

資料 1-1-5-2 医学部学生統合データベースの活用例

全ての学生について入試情報、学部成績、生活情報などを一覧化し、特に成績変化や分野別成績、再試験状況などをもとに、学生委員会・医学科及び看護学科学生支援部会において積極的に学生支援を行うこととしている。

■ 平成 27 年度学生支援委員会看護学科部会資料（ダミーデータ）

秘 コピー不可

顔写真

学籍番号: 12345678
 名前: ●●●●
 カナ: ○○ ○○
 電話番号: 090-××××-××××

入学年度: 25
 入試区分: 一般(前期)
 高卒後経年: 0

出身地: ▲▲県
 出身高校: ■■高校
 高校成績概評: @

サークル1: 科学部
 サークル2: ボート部
 サークル3: -
 サークル4: -
 サークル5: -

【成績①: 学年別順位】

【成績②: 区別平均点】

【成績③: 科目別明細】

	1年前期		1年後期		2年前期		2年後期		3年前期	
	科目	得点	科目	得点	科目	得点	科目	得点	科目	得点
基礎	哲学Ⅰ	98	文化人類学	-	統計学	61			英語Ⅴ	-
	生命倫理学	87	社会学	-	教育学	78				
	芸術学	73	教養特別講義Ⅰ	-						
	日本国憲法	70	教養特別講義Ⅲ	-						
	法学	-	心理学	81						
	教養特別講義Ⅱ	82	英語Ⅲ	77						
	情報科学	80	英語Ⅳ	75						
	英語Ⅰ	87	ドイツ語Ⅱ	-						
	英語Ⅱ	70	フランス語Ⅱ	-						
	ドイツ語Ⅰ	-	中国語Ⅱ	-						
	フランス語Ⅰ	-								
	中国語Ⅰ	92								
	健康・スポーツ科学	82								
	専門基礎①	化学	66							
化学(実験)		-								
生命科学		69								
生物学入門		合								
専門基礎②	物理学	60	物理学(実験)	-						
	形態機能論Ⅰ	70	形態機能論Ⅱ	72	薬理作用論	91	疾病論Ⅱ	83		
	健康科学論	88	形態機能論実習	90	疾病論Ⅰ	70				
専門基礎③	生活科学論	82			健康管理論	84	人間行動論	90	心理測定論	90
	環境科学論	89					疫学	100	保健医療福祉論Ⅰ	92
	看護学入門	87	日常生活援助論	89	看護過程論	74	母子看護学概論	75	保健統計論	70
	看護学概論	94			産業生活援助論	76	精神看護学概論	80	保健医療福祉論Ⅱ	89
	基礎看護学実習Ⅰ	91			成人看護学概論	77	急性期看護学概論	86	母性看護学概論Ⅰ	80
					老年看護学概論	68	慢性期看護学概論	64	母性看護学概論Ⅱ	80
					山梨県立看護学概論	71	シビツ看護学概論	72	精神看護学概論	80
					看護学リサーチ論	77	老年看護学概論	72	看護倫理	71
							在宅看護論	78	災害看護論	80
							ヘルスアセスメント論	75	がん看護論	86
						基礎看護学実習Ⅱ	77	ターミナル看護論	78	
								感染症予防看護論	69	
								公衆衛生概論Ⅰ	80	
								公衆衛生概論Ⅱ	80	
								公衆衛生看護学概論	70	
								スタアレジスト	84	
1年前期平均	80.9	1年後期平均	79.1	2年前期平均	74.6	2年後期平均	75.5	3年前期平均	72.6	
学年順位	15	学年順位	32	学年順位	51	学年順位	40	学年順位	56	

【成績④: 再試験科目】

3年前期の「専門」科目区分のうち、4科目が再試となっている	公衆衛生概論Ⅰ
	公衆衛生概論Ⅱ
	母性看護学概論
	小児看護学概論

(事務局資料)

【外部評価・第三者評価】

山梨大学との相互評価を平成 26 年度に本学において実施し、設備面の充実度、教育関連委員会の整備状況、入試への取り組みなどに高い評価を得た。看護学科では欧米の優れた大学・病院等のベンチマーキングを行った（資料 1-1-5-3）。

資料 1-1-5-3 外部評価への取り組み

■ 山梨大学との相互評価

平成 23 年度より、本学と同程度の規模である山梨大学との間で、両大学の現状及び優れた点等を相互に確認評価し、その結果を今後の教育改善等に役立てることを目的とした相互評価を継続的に実施している。平成 26 年度は、医学部を対象として実施した。

【全体を通しての福井大学における特徴等】（山梨大学側からの評価）

- ・施設面：新病棟はもとより、講義棟の改修における学習意欲がわくような空間づくりや学生の意見を取り入れた椅子等の設置、シミュレーションセンター建設及び充実した設備の導入、言語教育センターの建設など、建物や設備等のハード面において優れている。
- ・国際基準におけるカリキュラム及び関連の委員会について、整備が進んでいる。
- ・入試改革に関する検討を始めるなど、改革に前向きに取り組んでいる。なお、入試における面接試験に関しては、面接基準についての社会的説明をいかに行うか、について問題意識をもち検討を行っている。
- ・看護学科新卒者 55 人中、32 人が附属病院に就職するなど、安定的に看護師を供給できる体制が整っている。
- ・看護学科 3 年次編入を廃止する取組を早くから始め、修士課程における専門看護師の養成コースを設置するなど、課題を見つけて改革に結びつけている。

平成 27 年 3 月 山梨大学医学部

■ 看護学科におけるベンチマークの実施

国際通用性をもつ教育体制の構築を図るため、看護学科では平成 24 年度に英国の先進大学、病院、ホスピス等のベンチマークを実施した。これらの経験から、平成 24 年度改正のカリキュラムでは専門分野で高度実践看護師として活躍するための「キャリアアップ実習」科目を新設し、国外における高度実践看護体験実習の場として、ベンチマークした大学・病院での実習を行っている。また、バーミンガム市立大学とは学部間国際交流協定を結んでいる。

学部	時期	視察メンバー	視察先
医学部 (看護系)	平成 24 年 9 月	基礎看護学教授 長谷川智子 臨床看護学助教 嶋雅代 応用言語学教授 藤原哲也 松岡キャンパス学務室長補佐 窪田真由美 学生 27 名（医学部、認定看護師課程）	英国 バーミンガム市立大学、レスター大学グレンフィールド病院、キングスカレッジ、ロイヤルマーブズデンホスピタル、セントクリストファーホスピス

「第 3 回福井大学 FD・SD シンポジウム 2013 専門職業人養成のためのグローバル人材育成」として全学 FD による報告と討論を行った。



(事務局資料)

【関係者の意見聴取】

- ① 学生や社会からの要請に柔軟に対応できる体制を整備し、各種評価や懇談会を通して学内外の関係者からの意見聴取や協議を定期的に行い、改善につなげている（資料1-1-5-4～5）。

資料 1-1-5-4 教育評価アンケート一覧

医学科、看護学科ともに学内関係者及び学外関係者・関係機関への定期的アンケートを行い、教育に対する関係者の意見聴取、その分析を教育支援センターと学務室が協力して行っている。回収率は概ね高く、適切に意見聴取ができています。中でも全科目に対する「授業評価アンケート」、教育課程の区切りで行う「カリキュラム評価アンケート」、実習やテュートリアル科目等の評価を行う各種アンケートを毎年実施し、教育支援センターを始め、担当教員へのフィードバックを密に行っている。

これらの学生の成果について調査するため、福井大学「競争的配分経費（教育評価に基づく競争的経費）」（P4-62 後掲資料1-1-5-9）として平成25年度「国際基準に準拠した医学教育カリキュラムへの改革に係る対応及びその基盤となる教育評価」等への配分を受けて実施している。

■ 学内関係者による教育評価アンケート一覧

対象学科	評価者	評価者2	アンケート名称・内容	H27回収率	実施年	実施月	主な結果の周知・共有方法	
医学科	学生	全学年	授業評価アンケート (1-6年次の全授業に対する個別評価)	61.3～93.2% (形態による)	毎年	随時	教員個別、医学科教育支援センター運営委員会、教授会等	
		1年次生	カリキュラム評価アンケート(1年次) (教養教育カリキュラム評価)	92.7%	毎年	2月	医学科カリキュラム委員会、医学部教育委員会、教授会、学年代表者(学生)との懇談会等	
		3年次生	入門テュートリアル「課題1」「課題2」 (1年次テュートリアル教育の評価)	98.1～98.2% (課題による)	毎年	随時	医学科カリキュラム委員会	
		3年次生	カリキュラム評価アンケート(3年次) (2年次前期-3年次前期の基礎医学教育カリキュラム評価)	93.5%	毎年	12月	医学科カリキュラム委員会、医学部教育委員会、教授会、学年代表者(学生)との懇談会等	
		4年次生	カリキュラム評価アンケート(4年次) (3年次後期-4年次後期の基礎医学教育カリキュラム評価)	99.2%	毎年	2月	医学科カリキュラム委員会、医学部教育委員会、教授会、学年代表者(学生)との懇談会等	
		5年次生	テュートリアル「神経系」「循環器系」「消化器系」 (4年次テュートリアル教育の評価)	79.3～95.8% (領域による)	毎年	随時	医学科カリキュラム委員会	
		5年次生	福井大学臨床実習後アンケート (5年次の臨床実習評価)	76.7%	毎年	5月	医学部教育支援センター運営委員会	
	6年次生	卒前臨床医学研修アンケート(学内) (6年次の臨床実習評価(学内実習))	84.3%	毎年	7月	医学科臨床実習委員会		
	6年次生	卒前臨床医学研修アンケート(学外) (6年次の臨床実習評価(学外実習))	84.3%	毎年	7月	医学科臨床実習委員会		
	6年次生	カリキュラム評価アンケート(6年次) (1-6年次全体的カリキュラム評価)	92.1%	毎年	1月	医学科カリキュラム委員会、医学部教育委員会、教授会、学年代表者(学生)との懇談会等		
	6年次生	教員	テューター	入門テュートリアル「課題1」「課題2」テューターアンケート (医学科1年次テュートリアルの評価)	84.6～92.3% (課題による)	毎年	随時	医学科カリキュラム委員会
	6年次生	教員	実習担当	テュートリアル「神経系」「循環器系」「消化器系」テューターアンケート (医学科4年次テュートリアルの評価)	84.6%	毎年	随時	医学科カリキュラム委員会
6年次生	教員	全教員	卒前臨床医学研修アンケート(学内2週間) (6年次の臨床実習評価(学内実習))	100%	毎年	5月	医学科臨床実習委員会	
看護学科	学生	全学年	授業評価アンケート (1-4年次の全授業に対する個別評価)	96.0～96.9% (形態による)	毎年	随時	教員個別、医学科教育支援センター運営委員会、教授会等	
		1年次生	カリキュラム評価アンケート(1年次生) (1年次カリキュラムの評価)	100%	毎年	12月	看護学科各教員、看護学科カリキュラム委員会、医学部教育委員会、学年代表者(学生)との懇談会等	
		2年次生	カリキュラム評価アンケート(2年次生) (2年次カリキュラムの評価)	100%	毎年	12月	看護学科各教員、看護学科カリキュラム委員会、医学部教育委員会、学年代表者(学生)との懇談会等	
		3年次生	カリキュラム評価アンケート(3年次生) (3年次カリキュラムの評価)	94.9%	毎年	2月	看護学科各教員、看護学科カリキュラム委員会、医学部教育委員会、学年代表者(学生)との懇談会等	
		4年次生	卒業研究についてのアンケート集計 (4年次卒業研究の評価)	100%	毎年	12月	看護学科各教員、看護学科カリキュラム委員会、医学部教育委員会等	
		4年次生	カリキュラム評価アンケート (1-4年次全体的カリキュラム評価)	100%	毎年	12月	看護学科各教員、看護学科カリキュラム委員会、医学部教育委員会、学年代表者(学生)との懇談会等	
		4年次生	教員	全教員	教員による医学教育についてのアンケート調査(看護学科) (学生評価、教育法改善の状況等)	82.6%	H26	3月
	5年次生	学生	対象者のみ	留学生対象アンケート (短期留学生の自己評価)	87.1%	H27	随時	医学部副学部長、松岡キャンパス学務室回覧
	5年次生	教員	全教員	授業評価アンケートのフィードバックアンケート (授業評価アンケートの結果に対する授業改善プラン等の調査)	52.6%	毎年	随時	学生提示板への提示
	5年次生	看護学科 共通	留学先機関	留学先入校アンケート (短期留学先入校機関による学生評価)	69.0%	H27	随時	医学部副学部長、松岡キャンパス学務室回覧

■ 学外関係者・関係機関による教育評価アンケート一覧

対象学科	評価者	評価者2	アンケート名称・内容	H27回収率	実施年	実施月	主な結果の周知・共有方法
医学科	卒業生	卒業生	卒業生に対する大学教育の成果調査 (医学科卒業生(H20-22年度卒)による大学教育評価)	27.7%	H27	2月	医学部副学部長、松岡キャンパス学務室回覧
	実習先機関	実習先機関	卒前臨床医学研修教育関連病院実習アンケート (6年次生に対する学外臨床実習評価)	100%	毎年	7月	医学科臨床実習委員会
	就職先機関	就職先機関	医学科卒業生の就職先へのアンケート (就職先による医学科卒業生(H21-23年度卒)評価)	95.0%	H27	1月	医学部副学部長、松岡キャンパス学務室回覧
看護学科	卒業生	卒業生	卒業生に対する大学教育の成果調査 (看護学科卒業生(H20-22年度卒)による大学教育評価)	31.3%	H27	2月	医学部副学部長、松岡キャンパス学務室回覧
	実習先機関	実習先機関	臨床実習受け入れ先機関に対するアンケート調査 (3-4年次生に対する学外臨床実習評価)	80.0%	H26	12月	医学部副学部長、松岡キャンパス学務室回覧
	就職先機関	就職先機関	看護学科卒業生の就職先へのアンケート (就職先による看護学科卒業生(H23-25年度卒)評価)	88.9%	H27	1月	医学部副学部長、松岡キャンパス学務室回覧
医・看護 学科共通	留学先機関	留学先機関	留学先入校アンケート (短期留学先入校機関による学生評価)	69.0%	H27	随時	医学部副学部長、松岡キャンパス学務室回覧

(事務局資料)

資料 1-1-5-5 学生からの意見聴取

学生の生の声を様々な視点から聴取する目的で、各種の会談の場を設けている。学生が取りまとめた意見や要望の聴取、カリキュラムについての意見交換などを実施し、そのうち一部は施設整備の際に取り入れられている (P4-63 後掲資料 1-1-5-11)

	実施状況	実施形態	内容例
学年代表連絡会 (毎月開催)		各学年の代表学生 2～4 名 (医学科計 16 名, 看護学科計 8 名) と, 事務局職員 (松岡 キャンパス学務室) との連絡 会	定期的に学生生活や大学行 事等に対する懸案事項につい て連絡調整を行う。 また, 学生生活プロジェク トで学生が取り纏めたアン ケートの要望に対して審議を 行う。
カリキュラムに関す る学生との懇談会 (毎年開催)		各学年の学生カリキュラム 委員 (医学科計 12 名, 看護学 科 8 名) と, 医学科・看護学 科のカリキュラム担当教員と の懇談会	学生による全学生対象のカ リキュラムアンケートの結果 まとめられた要望書を受け, 各学科のカリキュラム担当教 員と懇談会を行う。 また, 学習支援に対する要 望も聴取する。
医学部長との懇談会 (毎年開催)		各学年の代表学生 (医学科 16 名, 看護学科 8 名) と医学 部長および事務局職員 (松岡 キャンパス学務室) との懇談 会	食事をとりながら, 代表学 生が学生生活全般について医 学部長と気軽な雰囲気で見 交換を行い, 様々な要望の聴 取を行う。

(事務局資料)

- ② 全科目に対する「学生による授業評価アンケート」の定期的実施により教員の教育方法等を随時点検し, 教員へのフィードバックにより改善を促している(資料 1-1-5-6～7)。授業評価アンケートでは平均が 4 点以上 (5 点満点) と高く, 学生の授業への満足度は高い (資料 1-1-5-8)。

資料 1-1-5-6 授業評価アンケート

学生による全科目の授業アンケート（平成 27 年度）は担当教員個別の講義・演習（医学科 296 件，看護学科 88 件），実習・実験（医学科 46 件），試験（医学科 43 件）それぞれに行い，各年度の前後期における各講義形態での平均点は全てで 4.0 点以上（5 点満点）と高い評価である。アンケート結果は教育支援センターにおいて協議すると共に各教員やコーディネーターへフィードバックしている。

アンケートの回収率は年々向上し，全ての項目において 50%以上であり，特に看護学科ではほぼ 90%以上の回収率となっており，学生の意見聴取が十分行われている。

■ 授業評価アンケート実施状況一覧

学科	講義形態	平成22年度		平成23年度		平成24年度		平成25年度		平成26年度		平成27年度		
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
医学科	講義・演習	平均点(5点満点)	4.30点	4.43点	4.51点	4.46点	4.41点	4.38点	4.56点	4.46点	4.46点	4.42点	4.40点	4.38点
		実施講義数	190件	164件	184件	192件	158件	187件	172件	171件	157件	164件	146件	150件
		回収率	40.17%	48.79%	49.87%	52.20%	48.86%	49.55%	53.14%	52.42%	52.03%	67.78%	61.46%	58.01%
	実習・実験	平均点(5点満点)	4.55点	4.56点	4.75点	4.70点	4.56点	4.60点	4.67点	4.74点	4.53点	4.60点	4.43点	4.58点
		実施講義数	27件	13件	23件	11件	29件	12件	19件	11件	8件	18件	8件	8件
		回収率	54.90%	71.25%	69.94%	71.59%	67.97%	74.30%	71.87%	71.69%	70.85%	82.46%	61.33%	75.33%
	BST(臨床実習等)	平均点(5点満点)	4.42点	4.42点	4.59点	4.59点	4.58点	4.58点	4.79点	4.79点	4.63点	4.63点	4.63点	4.77点
		実施講義数	11件	11件	11件	11件	16件	18件	18件	18件	18件	18件	20件	20件
		回収率	53.04%	53.04%	78.36%	78.36%	84.06%	85.88%	85.88%	85.88%	75.96%	75.96%	91.52%	91.52%
	講座・試験	平均点(5点満点)	4.50点	4.41点	4.59点	4.49点	4.46点	4.50点	4.55点	4.68点	4.43点	4.56点	4.24点	4.55点
		実施講義数	11件	25件	12件	24件	10件	27件	9件	29件	10件	33件	11件	32件
		回収率	72.73%	67.43%	82.37%	80.18%	88.55%	86.29%	90.70%	86.37%	88.38%	83.21%	93.22%	89.44%
看護学科	講義・演習	平均点(5点満点)	4.41点	4.46点	4.40点	4.56点	4.58点	4.70点	4.56点	4.60点	4.64点	4.74点	4.59点	4.82点
		実施講義数	45件	34件	47件	31件	52件	40件	48件	35件	53件	39件	44件	36件
		回収率	88.55%	91.64%	94.68%	92.65%	96.59%	92.69%	96.88%	93.98%	96.60%	96.37%	96.00%	95.50%
	講義・演習B	平均点(5点満点)	5.00点	4.84点	4.89点	4.70点	4.85点	4.86点	4.91点	4.92点	4.98点	4.68点	4.88点	4.88点
		実施講義数	1件	6件	5件	2件	2件	7件	1件	4件	2件	4件	4件	4件
		回収率	50.00%	96.03%	95.08%	66.00%	91.67%	95.71%	96.67%	94.58%	100.00%	96.87%	95.16%	
	実習・実験	平均点(5点満点)	4.73点	4.73点	4.73点	4.73点	4.73点	4.73点	4.73点	4.73点	4.73点	4.73点	4.73点	4.73点
		実施講義数	8件	8件	8件	8件	8件	8件	8件	8件	8件	8件	8件	8件
		回収率	76.69%	76.69%	76.69%	76.69%	76.69%	76.69%	76.69%	76.69%	76.69%	76.69%	76.69%	76.69%

※看護学科では「実習・実験」とした区分のアンケートを実施していたが，平成 22 年度後期より実習・実験が主体となる講義・演習を「講義・演習 B」として区分している。

■ 授業評価アンケート（例）

学生による授業評価アンケート（講義・演習用）

学籍番号 _____ 名前 _____

このアンケートは，学生の皆さんが各教員の授業をどのように評価しているかを把握し，その結果を踏まえてそれぞれの授業をさらに充実させる目的で実施されます。当該の授業をよく振り返ってみて率直に答えてください。

なお，このアンケートは統計的に処理され，その結果の一部が皆さんにもフィードバックされます。この回答が皆さんに対する成績評価に影響することは一切ありませんので，思ったおりに答えてください。それでは，以下の問 1～問 9 について，皆さんの評価を，C（どちらともいえない）を基準として，次の 6 段階の記号（A～F）で示してください。適切に回答できない場合は，F（回答できない）にしてください。

1 機械で読み取り集計するので，枠からはみださないように入力して下さい。

2 評価マークを黒で塗りつぶして下さい。

3 アンケート用紙は講義室等に設置してある専用ポストに入れて下さい。

◎ 評価方法 基準＝

A そう思う
 B どちらかというそう思う
 C どちらともいえない（普通である）
 D どちらかというそう思わない
 E そう思わない
 F 回答できない

平成 年度 期

授業科目： _____ 担当教員： _____

		A	B	C	D	E	F
問1	授業に意欲的に取り組みましたか。	0	0	0	0	0	0
問2	授業に関して時間外学習をしましたか。	0	0	0	0	0	0
問3	授業内容に興味は持てましたか。	0	0	0	0	0	0
問4	授業内容は理解できたと思いますか。	0	0	0	0	0	0
問5	教員の説明は明瞭でわかりやすかったですか。	0	0	0	0	0	0
問6	教材(教科書, プリント, 板書, 視聴覚機器等)は適切でしたか。	0	0	0	0	0	0
問7	教員は学生の質問・発言等に適切に対応しましたか。	0	0	0	0	0	0
問8	授業はシラバスに沿って進められましたか。	0	0	0	0	0	0
問9	総合的に判断してこの授業はよかったですか。	0	0	0	0	0	0

上記の各項目に関して，あるいはさらに別の点について，御意見などがある場合には，下の記入欄に自由に記述して下さい。また，記入欄が不足する場合は，回答用紙の裏面に記述して下さい。

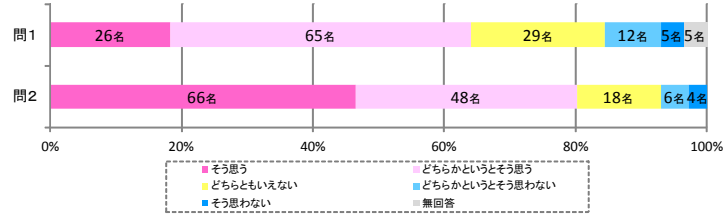
授業終了後にアンケートを記入し，講義室内に設置されているアンケート回収BOXに入れて退出して下さい。

(事務局資料)

資料 1-1-5-7 教員の授業改善

「学生による授業評価アンケート」の結果を受け、64.1%の教員は授業改善を試み、80.3%は改善を行う予定としている。

設問1_前年の評価アンケートを参考に、授業方法の改善を試み、学生へのフィードバックができた設問2_今回の評価結果を受け、次の講義を改善する予定である



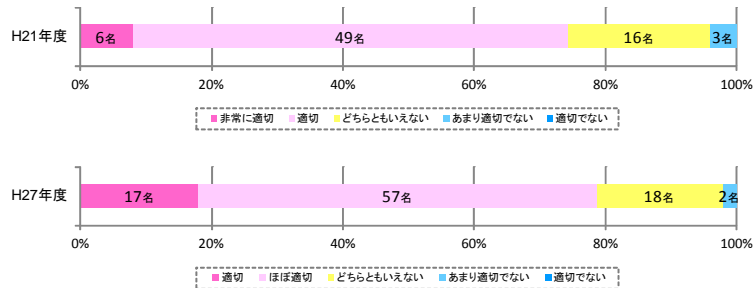
(平成 27 年度前期および後期「学生による授業評価」のフィードバックに係るアンケート結果より抜粋)

- ③ 学生による教員の教育内容・方法等に対する評価結果は概ね向上または高い水準で維持されており（資料 1-1-5-8, P4-60 前掲資料 1-1-5-6），これは教員の教育内容・方法等が常時改善・向上していることの証左である。

資料 1-1-5-8 教員の教育内容・方法等に対する学生の評価

設問_臨床実習の前提となる基礎的な診療技術・知識を修得する上で、教員の指導・助言は全般的に適切でしたか？

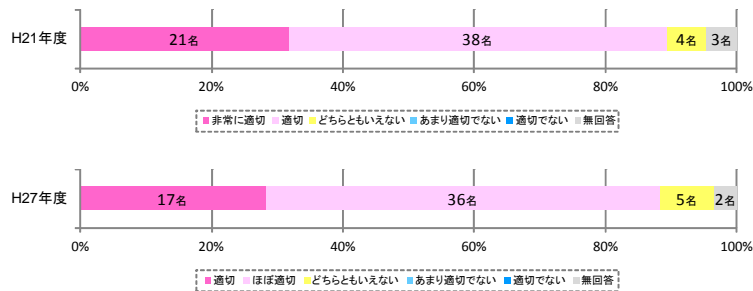
■ 医学科 6 年



* 第 1 期末と比較して、第 2 期末では学生の適切とした評価の割合は、4.4%向上している。

設問_臨床実習の前提となる基礎的な技術・知識を修得する上で、教員の指導・助言は全般的に適切でしたか？

■ 看護学科 4 年



* 第 1 期末と比較して、第 2 期末では学生の適切とした評価の割合は、1.1%減少しているが、わずかであり、全体としては概ね適切であるとしている。

(平成 21 年度および平成 27 年度「カリキュラム評価アンケート」結果より抜粋)

【教育改善の取組】

- ① 学内における「教育評価に基づく競争的経費」へ積極的に申請し、教育評価、FD、学生支援等に関わる予算を取得し医学教育改革を推進している（資料 1-1-5-9）。

資料 1-1-5-9 学内競争的経費による教育の取組

■ 「教育評価に基づく競争的経費」

福井大学において競争的環境の創出・推進を図ることを目的とした競争的経費は、教育に係る中期目標・計画に沿ったプロジェクト等であることを前提として6分野（教育改革推進経費等）で公募し、その取組・成果が全学的な教育改革に寄与するものに交付する。

■ 「教育評価に基づく競争的経費」に基づいて実施された教育

教育評価、FD、テュートリアル教育、学生支援、クリニカルクラークシップ、英語教育、生命倫理教育、看護学生キャリアアップ、看護学生海外留学等に関わる予算を得て様々な取組を実施している。

年度	テーマの名称	要求部局名等
H22年度	医学部教育の国際化に向けた基盤的FD活動の推進	医学部教育開発推進センター長
	福井大学における探求的課題解決型テュートリアル教育手法の医学教育への実践	医学部テュートリアル教育専門委員会委員長
	様々な臨床場面に对应できる実践的英語運用能力の育成	医学英語教育推進会議
	看護学生の職業的自立と自己研鑽能力を育成するためのキャリアアップ支援	看護学科長
	医学科定員増に対応した新しい化学実習システムに関する研究	医学部
H23年度	カリキュラム・ディプロマポリシーに係るポリシーアセスメント体制の構築	医学部教育開発推進センター長
	福井大学における探求的課題解決型テュートリアル教育手法の医学教育への実践	医学部テュートリアル教育専門委員会委員長
	医学部における包括的學生支援システムの構築	学生支援システム・ワーキンググループ委員長
	様々な臨床場面に对应できる実践的英語運用能力の育成	医学英語教育推進会議
	先進画像教育イメージングシステムの拡充とその利用促進	医学部附属先進イメージング教育研究センター・教育システム部門
	クリニカルクラークシップの充実・推進のための体制整備	医学部OSCEワーキンググループ委員長
	看護学生看護実践能力向上と自己研鑽能力を育成するための学生参加型授業の展開とキャリアアップ支援	看護学科教務委員会委員長
	(生命・環境)倫理教育の拡充と包括的QOL意識の涵養に向けたNIE基盤整備	医学部
	DNAアレイ実験を行うための実習および実験受託システムの構築	ライフサイエンスセンターバイオ実験機器部門
	新開発ソケット方式分子模型教材を用いた、医学部化学系教育の改善と地域理化学教育力の育成	医学部
H24年度	カリキュラム・ディプロマポリシーに係るアセスメントおよび教育国際化への対応	医学部教育開発推進センター長
	福井大学における探求的課題解決型テュートリアル教育手法の医学教育への実践	医学部テュートリアル教育専門委員会委員長
	医学部における包括的學生支援システムの構築	医学部学生支援委員会委員長
	様々な臨床場面に对应できる実践的英語運用能力の育成	医学英語教育推進会議
	クリニカルクラークシップの充実・推進のための体制整備	医学部OSCEワーキンググループ委員長
	看護理論と実践を結びつけ理解する能力育成のための教育・実習の充実	看護学科長
	看護スペシャリスト養成におけるキャリアアップ実習のためのイギリス・レスター大学との教育連携推進	看護学科教務委員会委員長
	物語論的方法に基づく生命倫理教育の拡充に向けた基盤整備	医学部
H25年度	国際基準に準拠した医学教育カリキュラムへの改革に係る対応及びその基盤となる教育評価	医学部医学教育支援センター長
	福井大学における探求的課題解決型テュートリアル教育手法の医学教育への実践	医学部テュートリアル教育専門委員会委員長
	包括的學生支援システムの構築	医学部学生支援委員会委員長
	様々な臨床場面に对应できる実践的英語運用能力の育成	医学英語教育推進会議
	クリニカルクラークシップの充実・推進のための体制整備	医学部OSCEワーキンググループ委員長
	現場に对应できる高度実践看護師育成のための新たな大学院教育と人材育成の拠点化	看護学科長
	看護実践能力育成のための教育・実習の新たな取り組みとキャリアアップ教育	看護学科教務委員会委員長
H26年度	包括的學生支援システムの構築	医学部学生支援委員会委員長
	法人・認証・外部評価対応の基盤整備 ー国際基準に向けた教育改革および教育評価	医学部評価対策室・医学科FD委員長
	福井大学における探求的課題解決型テュートリアル教育手法の医学教育への実践	医学部テュートリアル教育専門委員会委員長
	様々な臨床場面に对应できる実践的英語運用能力の育成	医学英語教育推進会議
	クリニカルクラークシップの充実・推進のための体制整備	医学部共用試験OSCE総括責任者
	現場に对应できる高度実践看護師育成にむけた新たな大学院教育環境の整備	看護学科長
H27年度	キャリア教育と看護実践能力育成のための教育・実習の強化	看護学科教務委員会委員長
	看護基礎教育における看護実践能力修得のための教育・実習環境の充実	看護学科カリキュラム専門委員会委員長
	包括的學生支援システムの構築	医学部学生委員会委員長
	法人・国際認証・外部評価への組織的な対応 ー適切な教育評価及びその結果に基づく医学教育国際化に向けた基盤整備	教育評価に係る副学長補佐 医学部評価対策室

(事務局資料)

- ② 講義棟や医学図書館の改築改修，附属病院や福井メディカルシミュレーションセンターの新営などを積極的に行い，さらに学生からの要望をもとにした改修を継続的に進め（資料 1-1-5-10～11），学習環境等への満足度は第 1 期に比べ高い（資料 1-1-5-12）。

資料 1-1-5-10 施設整備の状況

年度	施設・設備区分	改善内容		
平成 22 年度	講義・実習施設	組織病理実習室拡張		
	福利施設	学生食堂改修		
平成 23 年度	講義・実習施設	実習棟実習室を実習室と多目的講義室に改修		
		看護学科講義室・実習室の視覚装置更新		
	自習施設	医学図書館に情報工房（グループ学習室 14 室）新設		
	福利施設	売店拡充		
	安全設備	外灯の増設		
平成 24 年度	講義・実習施設	総合研究棟（講義棟）改修（P4-138 後掲資料 1-2-4-8） ・第 1 中講義室，第 2 中講義室の拡張と机入替え ・2 階にマルチラーニングスペース，ミーティングスペース設置 ・1 階に TBL（Team-Based Learning）講義室，コミュニケーションスペース設置		
	情報設備	学生の学内ネットワーク（Wi-Fi 回線）自由アクセス化改修		
	福利施設	スチューデント・アクティビティ・プラザ（トレーニング器具等設置）新設		
		野球場防球ネット設置 軟式テニスコート改修		
平成 25 年度	講義・実習施設	福井メディカルシミュレーションセンター新設		
		実習棟トイレ改修		
	自習施設	言語開発センター（LDC）新設		
	福利施設	学生食堂横売店新設 国際交流会館テラス改修 課外活動室改修		
平成 26 年度		講義・実習施設	医学部附属病院病棟（488 床）新設 看護学科形態機能実験室改修	
	自習施設		医学図書館参考図書室を自習スペース（個人机）に改修	
	福利施設	講義棟玄関に学生時間外利用のためのカードキーシステム設置 グラウンドに製氷機設置 福利施設から武道場・体育館への渡り廊下設置 福利棟トイレ改修		
		平成 27 年度	講義・実習施設	看護学科棟トイレ改修・増設
			福利施設	学生食堂改修 学生食堂横売店の拡張

（事務局資料）

資料 1-1-5-11 学生の要望に対する対応例

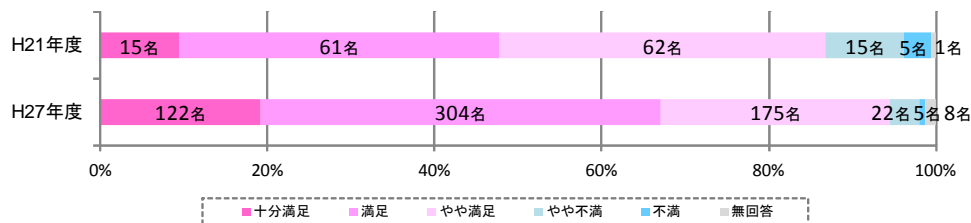
（要望例 1）	・学生の情報端末（ノート PC，スマートフォン，タブレット等）から，医療データベースや電子ジャーナルに自由にアクセスできるよう，学内ネットワークシステムを改善して欲しい。
（対応策 1）	・学生からの要望を受け，総合情報基盤センターで学内ネットワークの改善を行い，学内 Wi-Fi 回線を経由した医療データベースへの自由アクセスが可能となった。（P4-140 後掲資料 1-2-4-11）
（要望例 2）	・講義室が狭いので，拡大して欲しい。 ・講義室の椅子・机が狭く，椅子は座り心地が悪いので，もっと大きく座り心地の良いものにして欲しい。 ・自習室，チュートリアル室を増やしてほしい。
（対応策 2）	・医学部講義棟改修工事の実施に際し，学生からの要望を参考に，以下の改善を行った。（P4-137 後掲資料 1-2-4-7，P4-138 後掲資料 1-2-4-8） …合併講義室，第 1 中講義室の個人スペースの拡張（9 人掛け⇒3 人掛け） …第 2 中講義室，第 3 中講義室の拡張 …多目的室（コミュニケーションスペース）及び自習室（マルチラーニングスペース）の設置

（事務局資料）

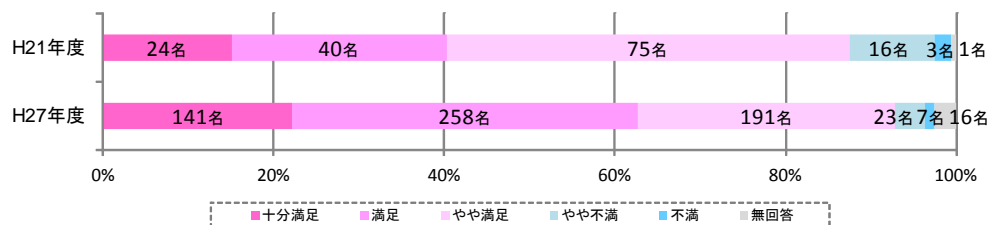
資料 1-1-5-12 学習環境に対する学生の満足度

第1期末と比較して、第2期末では学生の評価（十分満足～満足と回答した割合）は、学習・研究環境で19.2%、実験室などの広さや設備で22.4%、講義室の設備で19.8%、講義室の広さで29.1%、校舎で20.1%向上している。

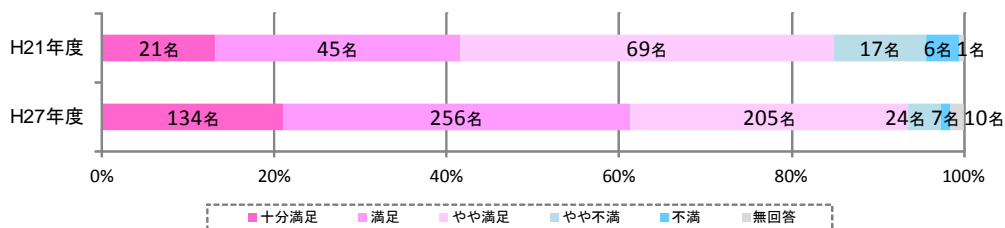
設問_学習・研究環境について、あなたはどの程度満足していますか



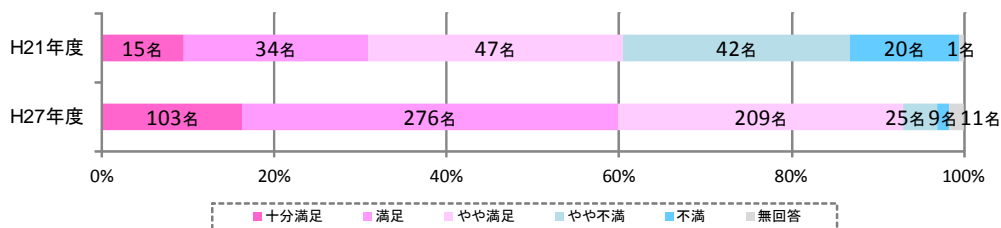
設問_実験室・実習室・演習室などの広さや設備について、あなたはどの程度満足していますか



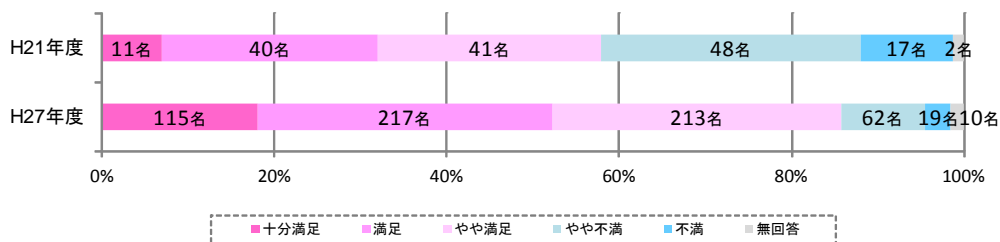
設問_講義室の設備（AV、プロジェクタ等）について、あなたはどの程度満足していますか



設問_講義室（平成21年度…教室）の広さについて、あなたはどの程度満足していますか



設問_校舎について、あなたはどの程度満足していますか



(平成21年度および平成27年度「福井大学の教育・研究に対する意識・満足度調査」結果より抜粋)

【教育情報の発信】

- ① 入学者・在学生に向けてホームページにより教務関係、各種手続き、進路・就職等の情報を一覧できるものとしている（資料 1-1-5-13）。

資料 1-1-5-13 在学生向け大学ホームページと掲載情報一覧

■ 在学生向けホームページ（学生生活・就職）



ホーム > 学生生活・就職

(http://www.u-fukui.ac.jp/cont_life/)

■ 掲載内容一覧

掲載情報区分		内容等
教務関係	学年歴	大学全体の行事・イベント等
	授業日程	松岡キャンパス(医学部)の授業日程、試験、休業、イベント等
	授業・履修・シラバス等	シラバス検索システムへの接続(リンク)、履修登録
	共通履修制度等	単位互換制度、他学部授業科目履修・単位認定制度
授業料・奨学金	取得可能な免許・資格	卒業時に得られる資格
	授業料・入学料納入方法	入学料・授業料および納入方法、申請期限等
	授業料・入学料免除	授業料・入学料免除の申請方法、申請期限、規定、選考要領等
奨学金制度	奨学金制度	奨学金の種類、申請方法、提出書類、申請期限等
	各種証明書・手続き	学割証
通学証明書		通学証明書の取得方法等
入講許可申請書		自動車通学に対する入講許可の申請、審査、申請期限等
紛失・盗難届		紛失・盗難があった場合の届け出等
福利厚生施設	福井大学生生活共同組合	福井大学生協ホームページへの接続(リンク)
	国際交流学生宿舎	寄宿舍の概要、入居の問合せ窓口等

(事務局資料)

② 学部卒業後の大学院進学及び研究者としてのキャリアパス情報は大学院案内(資料 1-1-5-14), リサーチマッチング(資料 1-1-5-15) や看護学科進路懇談会で発信している。

資料 1-1-5-14 医学系研究科パンフレット

医学系研究科博士課程では平成 25 年度から, 修士課程では平成 26 年度から, 大学院志願者に向けたパンフレットを作成しており, 博士課程では全領域の主任教員, 修士課程では講師以上の研究テーマや業績を掲載することで研究者を志す者に対して正確な情報を発信している。また, 夜間開講や長期履修制度, 奨学金や授業料免除制度などのサポート情報も併せて掲載している。

これらは冊子で配布するとともに, デジタルパンフレットとしてホームページでも公開している。

■ 博士課程パンフレット

UNIVERSITY OF FUKUI
Graduate School of Medical Sciences
福井大学大学院
医学系研究科
博士課程
2015

研究領域紹介(教員紹介) Introduction of Research Fields (Faculty Members)

研究員紹介 (Introduction of Researcher)
CD11c-EGFP (CD11c-EGFP) 遺伝子導入による CD11c-EGFP 陽性細胞の追跡と分化の解析。CD11c-EGFP 陽性細胞は、免疫系の様々な細胞に存在し、その分化と機能の解析が重要である。本研究では、CD11c-EGFP 陽性細胞の追跡と分化の解析を行い、その機能を明らかにする。

研究員紹介 (Introduction of Researcher)
CD11c-EGFP (CD11c-EGFP) 遺伝子導入による CD11c-EGFP 陽性細胞の追跡と分化の解析。CD11c-EGFP 陽性細胞は、免疫系の様々な細胞に存在し、その分化と機能の解析が重要である。本研究では、CD11c-EGFP 陽性細胞の追跡と分化の解析を行い、その機能を明らかにする。

(<http://www.med.u-fukui.ac.jp/home/ufms/digitalbook/2015/FLASH/index.html>)

■ 修士課程パンフレット

UNIVERSITY OF FUKUI
Graduate School of Medical Sciences, Master's Program in Nursing
福井大学大学院
医学系研究科
修士課程
看護学専攻
2015

川口めぐみ 講師
Message
Books!

(<http://www.med.u-fukui.ac.jp/dptkango/digitalbook/2015/FLASH/index.html>)

(事務局資料)

資料 1-1-5-15 リサーチマッチングによる研究者のキャリアパス説明

学生の基礎医学に対するモチベーション向上，研究者としての大学院進学とキャリアパス，臨床系大学院からの基礎系研究室配属を促進するため「リサーチマッチング（研究者勧誘説明会）」を平成21年度から実施している。参加者の多くは説明内容および基礎医学研究への興味を喚起されている。

■ 実施状況

【参加者数】

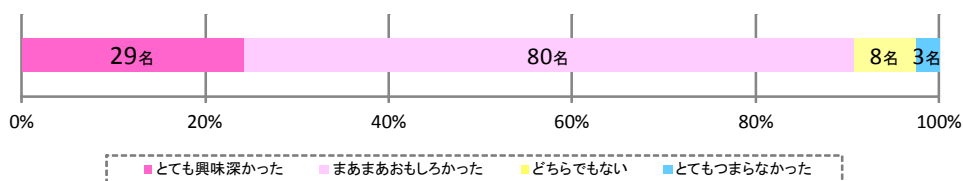
実施年度	参加者数
平成 21 年度	25 名
平成 22 年度	20 名
平成 23 年度	25 名
平成 24 年度	30 名
平成 25 年度	100 名
平成 26 年度	125 名
平成 27 年度	120 名

【プログラム（平成 27 年度）】

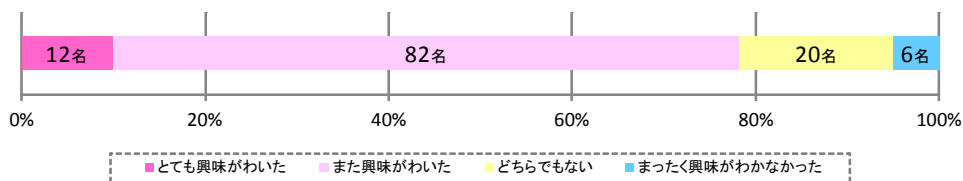
内容	担当領域等	説明者
挨拶	医学部	医学部長
大学院博士課程の概要説明	博士課程小委員会	委員長
4大学コンソーシアムリトリートについて	医学部教務委員会	委員
研究者ライフ	ゲノム科学・微生物学領域	教授
糖鎖病理学 -自分の仕事を歴史に刻む-	腫瘍病理学	教授・特命助教

■ アンケート（平成 27 年度）

設問_出席した感想は？



設問_説明会を聞いて、基礎医学研究への興味がわきましたか？



設問_特に興味深かったことや、ご意見があれば記入してください。

- ・先生方の個々の事例を聞くことで、研究者の実際がより身近に感じられた。
- ・どの先生のお話もとても印象に残りました。おもしろかったです。
- ・論文データの視点が変わった。
- ・大学院に進学した時のライフスタイル、その後の進路についていろいろな例を聞いてみたいと思った。もし可能なら研究はしてみたいと思う。
- ・基礎をしながら、臨床系にも在籍できることが分かった。自分の興味のあるラボを紹介していただけるのは良いと思った。
- ・創造する楽しさを味わえるのは、臨床医でなく研究者であることがよく伝わってきた。もし研究したくなった時のために今日が役立った。

(事務局資料)

(水準) 期待される水準を上回る

(判断理由)

- ① 医学部長が統括する教育委員会等による教育の実施と教育担当副医学部長が統括する教育支援センターによる点検・評価・改善の実施が密接に連携した、国際基準に則った教育実施体制を新たに構築した¹⁾。

1) 資料 1-1-1-1 : 医学部教育実施体制 P4-4
 資料 1-1-1-2 : 医学部教育委員会 P4-5
 資料 1-1-1-3 : 医学部教育委員会各委員会所轄事項一覧 (医学部教育委員会規定別表) P4-6
 資料 1-1-1-4 : 医学部教育支援センターの概要 P4-7

- ② 地域医療人育成プログラム²⁾ 推進のための寄附講座³⁾, 連携する地域外部病院等⁴⁾, 臨床教員数⁵⁾ 等は第1期より増加しており, 地域医療人の育成について期待に込めている。

2) 資料 1-2-2-2 : 地域医療人育成プログラムの概要 (医学科) P4-96
 資料 1-2-2-7 : 看護学科における地域医療教育 P4-101
 3) 資料 1-1-1-7 : 医学部寄附講座 P4-10
 4) 資料 1-1-1-9 : 平成 27 年度臨床・臨地実習先一覧 (学外) P4-13
 5) 資料 1-1-2-8 : 臨床教員制度による臨床教授等付与状況 P4-32

- ③ 入学から卒業・国家試験まで一貫した学生支援体制として, アドバイザー教員制度等を整備し⁶⁾, また独自の奨学金等による経済的支援⁷⁾ も実施している。これら学生支援に対する学生の評価は第1期より向上し⁸⁾, 学生の期待に込めている。

6) 資料 1-1-1-11 : 学生支援活動一覧 P4-15
 資料 1-1-1-12 : 学習支援を含めた学生支援体制 P4-16
 資料 1-1-1-13 : 保健センターおよび学生総合相談室 P4-17
 資料 1-1-1-20 : リメディアル教育実施状況 P4-22
 資料 1-1-1-21 : 医学科国家試験への支援 P4-23
 資料 1-1-1-22 : 看護学科国家試験対策システム P4-23
 7) 資料 1-1-1-23 : 医学部学生対象の奨学金一覧 P4-24
 資料 1-1-1-24 : 奨学金の年度別受給者 P4-24
 資料 1-1-1-25 : 授業料免除状況 P4-25
 8) 資料 1-1-1-16 : 学生支援活動に対する学生の評価 P4-19
 資料 1-1-1-19 : 看護学科学学生支援活動 (初年次学生グループ) に対する評価 P4-21
 資料 1-1-1-26 : 経済的支援に対する学生の満足度 P4-25

- ④ アドミッション・ポリシーに沿った入学者の募集に係る広報活動を積極的に実施し⁹⁾, 全ての選抜方法において第1期を上回る高い志願倍率となった¹⁰⁾。推薦入試「福井健康推進枠」の拡大や福井県内で就職を希望する学生対象の奨学金制度等により, 地域医療を指向する入学志願者が増加している¹¹⁾ ことは特筆できる。入学者選抜は多様な入試形態に合わせた専任教員により実施し¹²⁾, 入学者は第1期より良好な学力を有し¹³⁾, これらは関係者の期待に込めている。

- | | | | |
|-----|-------------|-------------------------------|-------|
| 9) | 資料 1-1-3-1 | : 医学部アドミッション・ポリシー | P4-33 |
| | 資料 1-1-3-2 | : 入試情報公表一覧 | P4-35 |
| | 資料 1-1-3-5 | : オープンキャンパスの実施状況 | P4-37 |
| | 資料 1-1-3-6 | : 看護学科高校訪問説明会の実施状況 | P4-37 |
| | 資料 1-1-3-9 | : 入学者のアドミッション・ポリシー周知状況 | P4-39 |
| 10) | 資料 1-1-3-10 | : 医学部入学試験志願状況 | P4-40 |
| | 資料 1-1-3-21 | : 医学科学士編入学入試状況 | P4-48 |
| 11) | 資料 1-1-3-11 | : 地域枠を設けた入学志願状況 (医学科推薦入試Ⅱ) | P4-41 |
| 12) | 資料 1-1-3-12 | : 医学部入学選抜方法とその工夫 | P4-42 |
| | 資料 1-1-3-14 | : アドミッション・ポリシーの主要事項と入学選抜方法の対応 | P4-43 |
| 13) | 資料 1-1-3-17 | : 適切な入学者の獲得 (成績分析) | P4-46 |
| | 資料 1-1-3-18 | : 適切な入学者の獲得 (教員の評価) | P4-46 |

⑤ 教育支援センターを中心とした教育の質保証・質向上のための体制を構築し¹⁴⁾、関係者からの意見聴取等¹⁵⁾により点検と改善を常時行っている。中でも 400 件以上の全科目・全教員に対する授業評価アンケートの組織的实施とそのフィードバックを実施し、教員は高い評価を得ている¹⁶⁾。これは教員の教育力が学生の期待に応えていることの証左である。

- | | | | |
|-----|------------|------------------------|-------|
| 14) | 資料 1-1-1-1 | : 医学部教育実施体制 | P4-4 |
| | 資料 1-1-1-4 | : 医学部教育支援センターの概要 | P4-7 |
| | 資料 1-1-5-1 | : 医学部学生統合データベース | P4-55 |
| 15) | 資料 1-1-5-4 | : 教育評価アンケート一覧 | P4-58 |
| 16) | 資料 1-1-4-5 | : 教員個人評価 | P4-53 |
| | 資料 1-1-5-6 | : 授業評価アンケート | P4-60 |
| | 資料 1-1-5-7 | : 教員の授業改善 | P4-61 |
| | 資料 1-1-5-8 | : 教員の教育内容・方法等に対する学生の評価 | P4-61 |

⑥ 学生の声も取り入れた学習環境改善に取り組み¹⁷⁾、図書館や講義室の全面的な改修整備¹⁸⁾、メディカルシミュレーションセンター¹⁹⁾や病棟新設等、学生からの要望への対応²⁰⁾を含め、学習環境改善を進めた。学生の満足度は高く、かつ概ね第 1 期より向上しており²¹⁾、学生の期待に応えている。

- | | | | |
|-----|-------------|--------------------------|--------|
| 17) | 資料 1-1-5-5 | : 学生からの意見聴取 | P4-59 |
| | 資料 1-1-5-10 | : 施設整備の状況 | P4-63 |
| 18) | 資料 1-2-4-7 | : 学生の自習スペース | P4-137 |
| | 資料 1-2-4-8 | : 総合研究棟 (講義棟) 改修 | P4-138 |
| | 資料 1-2-4-9 | : 医学図書館改修 | P4-139 |
| | 資料 1-2-4-11 | : ICT 環境の整備 | P4-140 |
| 19) | 資料 1-2-3-6 | : 福井メディカルシミュレーションセンターの概要 | P4-118 |
| 20) | 資料 1-1-5-11 | : 学生の要望に対する対応例 | P4-63 |
| 21) | 資料 1-1-5-12 | : 学習環境に対する学生の満足度 | P4-64 |

以上のように、教育実施体制の整備・改善が適切になされており、さらに学生や社会からの期待にも極めてよく対応しており、期待される水準を上回ると判断した。

観点 教育内容・方法

(観点に係る状況)

●体系的な教育課程の編成状況

【養成する能力等の明示】

- ① 両学科ともディプロマ・ポリシー (DP) を平成 23 年度に作成し (資料 1-2-1-1, 2), これらをホームページやシラバスにより周知している。

資料 1-2-1-1 医学科ディプロマ・ポリシー

● 学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー)

医学部医学科では、教育理念・目標に基づき、「①幅広い医学知識を持ち質の高い臨床能力を身につけ、②コミュニケーション能力に優れ、高い倫理観を持って患者中心の医療を実践でき、③日々進歩する医学知識・医療技術を生涯にわたり学ぶ習慣を身につけ、根拠に立脚した医療を実践できる」医療人にふさわしい医学能力・技能等を修得した者に学位を授与します。

所定の期間在学し、カリキュラム・ポリシーに沿って設定した授業科目を履修し、履修規程で定められた卒業に必要な単位・時間数を修得し、クリニカルアセスメントに合格することが学位授与の要件です。

卒業時までには修得すべき具体的な能力・技能等は以下のようです。

1. 医療人としての知識・技能

- ① 医師国家試験の合格に必要な医学知識を修得している。
- ② 基本的な医療行為を安全に実施できる医療技能を修得している。

2. 医療人としての態度・姿勢

- ① 患者中心の医療を実践できる医療人にふさわしい高い倫理観や良識を備えている。
- ② チーム医療の一員として、患者・家族やチーム構成員と良好な関係を構築できるコミュニケーション能力を備えている。
- ③ 都市部から辺地までを包含する地域医療における医療の担い手としての自覚を備えている。

3. 医療人としての総合的能力

- ① 患者の有する身体的・精神的・社会的問題点の的確な把握と問題解決のための適切な処置・指導の選択に基づく、根拠に立脚した医療を行える基本的な実践能力を備えている。
- ② 医療現場や研究活動で活用できる基本的な英語運用能力を備えている。

4. 医師としての向上する意欲

- ① 医学・医療の進歩や社会的ニーズの変遷に的確に対応し自らを常に高めるよう、生涯にわたり学習する意欲・態度を備えている。

● 学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー) の周知方法

- ・ 医学部ホームページ http://www.med.u-fukui.ac.jp/home/ufms/cont_faculty/policy.html
- ・ 医学科授業要項
- ・ 大学案内
- ・ 学生募集要項

(事務局資料)

資料 1-2-1-2 看護学科ディプロマ・ポリシー

● 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

看護学科では、教育理念・目標に基づき、①看護の対象となる人間を総合的に理解でき、②高い倫理観を持ち看護の対象となる人間の権利を守ることができ、③健康に関わる諸問題の解決に必要な知識・技術を主体的に学び創造する能力をもち、④関連領域の専門家と協力し必要に応じて調整的な役割を果たす能力、および⑤看護を批判的に吟味し建設的・創造的に発展させる能力をもつ看護職者にふさわしい能力・技能等を修得した者に学位を授与します。

所定の期間在学し、カリキュラム・ポリシーに沿って設定した授業科目を履修し、履修規程で定められた卒業に必要な単位を修得することが学位授与の要件です。

卒業時までには修得すべき具体的な能力・技能等は以下の様です。

1. 看護職者としての知識・技術

- ① 看護師国家試験の合格に必要な医学・看護学の知識を修得している。
- ② 対象者と自らの安全を守り、対象者の状況に合った看護を実践するための看護基本技術を修得している。
- ③ 対象者の身体的・精神的・社会的問題についての的確に判断し、問題解決のための計画・実施を行い、自らの看護ケアについて評価する能力を有している。

2. 看護職者としての態度・姿勢

- ① 看護職者にふさわしい倫理観と良識を備えており、対象者の代弁者となり得る責任感を持っている。
- ② 対象者に対し共感できる感性を持ち、対象者を思いやるケアリングの精神を備えている。
- ③ チーム医療の一員として、協働できる協調性と、対象者、家族、チーム構成員と良好な関係を構築できる対人関係能力を備えている。

3. 看護職者として自己研鑽する意欲

- ① 医学・看護学の進歩や社会的ニーズの変遷に対応すべく、常に知識と技術を磨く自己研鑽する意欲を備えている。
- ② 常に新しい情報に敏感で、よりよい医療・看護を追求し開発していく向上心と探求心を有している。
- ③ 自らの特性と興味を自覚し、高度実践看護師等、将来歩むべきキャリアラダーについて考え計画する能力を有している。
- ④ 将来、災害看護や国際看護など、専門性の高い領域で活躍する看護師としての素養を有している。

4. 保健師・助産師としての専門的知識・技能

- ① 健師課程を選択した者は、保健師国家試験の合格に必要な公衆衛生看護における知識を修得し、公衆衛生向上に向けた保健活動を展開する技術を修得している。
- ② 助産師課程を選択した者は、助産師国家試験の合格に必要な助産学における知識を修得しており、周産期医療の向上のための助産活動を展開する技術を修得している。

● 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）の周知方法

- ・ 医学部ホームページ http://www.med.u-fukui.ac.jp/home/ufms/cont_faculty/policy.html
- ・ 看護学科授業要項
- ・ 大学案内
- ・ 学生募集要項

（事務局資料）

- ② 学生が修得すべき知識・能力等に関して、シラバスにより科目別に学修目標、授業の内容、形式、到達目標、準備学修、総合評価割合、評価方法、教科書等を明記している(資料 1-2-1-3)。

資料 1-2-1-3 シラバスによる学生が修得すべき知識・能力等の明示

人の行動と心理			
科目名	単位数又はコマ数	開講時期	
人の行動と心理 (必修)	15コマ	1年次生後期	
担当教員名	職名/所属	Eメールアドレス	オフィスアワー
安倍 博	教授/行動基礎科学	hiroabe@u-fukui.ac.jp	いつでも歓迎

1 学修目標
 人や動物の心理的機能は、行動を指標としてそのメカニズムを知ることができます。その多くが中枢神経系とくに脳によって制御されています。近年、学習や記憶、情動やコミュニケーションなど、心理学でとりあげられていたさまざまな心理・行動機能の脳内メカニズムが、神経科学や脳科学において明らかにされつつあります。本講義では、心理・行動科学を「心と脳の科学」としてとらえ、心理・行動機能を脳神経系と関連づけながら学ぶことにより、人の行動と心理の理解をさらに深め、医師を志す者としてのプロフェッショナル意識の向上を目指すとともに、2年次からの基礎医学教育へのモチベーション(動機づけ)をさらに高めることを学修の目標とします。

2 授業の内容

回	項目	内容
1	心と脳	心はどこにある? : 心と脳の研究史
2	脳の構造	脳の構造の解剖学的基礎
⋮	⋮	(中略)

3 授業の形式
 講義を中心に行う。

4 到達目標

1. 心のありかを見つける研究の歴史的背景を説明できる。
2. 脳の基本的な構造と神経系における方角を説明できる。
(中略)

5 準備学修(予習・復習)等の内容と分量

- ・ 予習: 参考図書の該当する章を予習してくること(1時間程度)。
- ・ 復習: 授業内容を復習し、疑問点を整理すること(1時間程度)。

6 総合評価割合
 定期試験80%, 修学態度20% 計100%

7 評価方法

- ① 定期試験(筆記試験)は、到達目標の達成状況を見るために、客観式及び論述式の問題とする。
- ② 再試験は1回のみ行う。
- ③ 修学態度は、授業出席状況、授業中の態度および毎回のミニッツ・ペーパー(授業内容のまとめや感想・質問などのミニ・レポート)の内容により評価する。

8 教科書及び参考書
 教科書は使用せず、講義プリントを配布する。主な参考図書として以下のものを紹介しておく。
 バイオサイコロジー 脳-心と行動の神経科学 ピネル 西村書店
 神経科学テキスト 脳と行動 カールソン 丸善
 神経科学 -脳の探求- ベアー, コノーズ, パラディーソ 西村書店

9 その他履修上の注意点等
 この講義と関連するので、前期に選択科目「心理行動科学入門」を履修しておくことが望ましい。

■ シラバスは冊子体として学生に配布するとともに全学的に新しくなった電子シラバス(<https://syllabus1.sao.u-fukui.ac.jp/>)により随時検索・参照することができる。

(2015年度医学科授業要項より抜粋)

【カリキュラムの体系性】

- ① 医学科ではカリキュラム・ポリシー（CP）（資料 1-2-1-4）をもとに「医学教育モデル・コア・カリキュラム—教育内容ガイドライン」に準拠した教育課程を実施し、平成 22 年度コア・カリキュラム改訂に合わせ地域医療学の新設等を行った（資料 1-2-1-5, 6）。更に、カリキュラムマップ及びカリキュラムツリーを作成し、体系性を明確化した（資料 1-2-1-7, 8）。

資料 1-2-1-4 医学科カリキュラム・ポリシー

● 教育課程の編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

医学科では、教育理念・目標に基づき、①幅広い医学知識を持ち質の高い臨床能力を身につけ、②コミュニケーション能力に優れ、高い倫理観を持って患者中心の医療を実践でき、③日々進歩する医学知識・医療技術を生涯にわたり学ぶ習慣を身につけ、根拠に立脚した医療を實踐できる、医療人の育成を主な目的とした教育課程を編成・実施します。さらに、④世界をリードする生命科学研究者・医学教育者となりうる、⑤個人と地域・国際社会の健康増進と疾病の予防・根絶に寄与し、国際的な視野でまたは地域に根ざした活動ができる、人材の育成を目的とした教育課程を編成・実施します。

具体的な教育課程の編成・実施は以下のようです。

1. 本邦における医学教育の指針である「医学教育モデル・コア・カリキュラム—教育内容ガイドライン」に準拠し、ガイドラインの項目ごとに設定した授業科目で精選された基本的内容を重点的に履修させる教育課程を編成することを基本方針とする。
2. 教養・準備教育（1年次）は、医学部における教養教育（導入、準備教育を含む）の目標・理念に基づき、医療人としてふさわしい倫理観、良識などを養うための「総合教育科目」、「基礎教育科目」、「医学導入教育科目」から編成する。さらに、医学専門教育の準備という視点から基礎科学系科目を統合し、「準備教育モデル・コア・カリキュラム—教育内容ガイドライン」に準拠した「医学準備教育科目」を編成する。
3. 医療人として求められる、高い倫理観、コミュニケーション能力、安全管理能力、課題探求・問題解決能力などを涵養するための授業科目を6年一貫カリキュラムの中（1～6年次）に編成する。
4. 臨床前教育（2～4年次）では、修得すべき基本的学習内容を教授する、基礎医学および臨床医学を関連づけて学習できる有機的連携のとれた「統合型科目」を必修科目として編成する。これと併設し、より専門的あるいは広範囲な関連する学習内容を教授する、「アドバンスコース」を編成する。さらに、「研究室配属」を含め、これら臨床前教育科目では医学・医療の基盤として医学研究があることを理解し、研究マインドの涵養を図る学習内容も教授する。
5. 臨床実習前に身につけておくべき医師としての態度・診察技能、診断と治療の基本的内容を教授する、「診療の基本」等を4年次に開講する。なお、臨床前教育における達成状況は共用試験（CBT, OSCE）によって検証する。
6. 臨床実習（クリニカルクラークシップ）は、「実際の患者に当たって、患者の有する身体的・精神的・社会的問題点を的確に把握し、その各々について患者に適切な処置および指導を与えることができるようになるための基本的な医学知識・技能および医師として患者に接する態度を身につける」ことを基本的目標とし、この目標に沿って診療参加型臨床実習や関連地域医療機関での実習などを導入した「臨床実習」（5年次）および「卒前臨床医学研修」（6年次）から編成する。また、臨床実習で修得した基本的な医学知識・技能を基盤として実践的な臨床能力がさらに向上するよう、疾患別の系統的な学習のための「実践臨床病態学」（6年次）を開講する。なお、実践的な臨床能力等の修得状況は全臨床系科目について実施されるクリニカルアセスメント（最終試験）によって検証する。
7. 医療・医学究の場で活用できる英語力を涵養する「医学英語科目」（1～4年次）を教養・準備教育科目、臨床前教育科目に併設し、開講する。
8. 地域医療への意欲を涵養し、地域に根ざした活動に資する知識・技能を教授する、地域医療に係る科目を6年一貫カリキュラムの中に編成する。

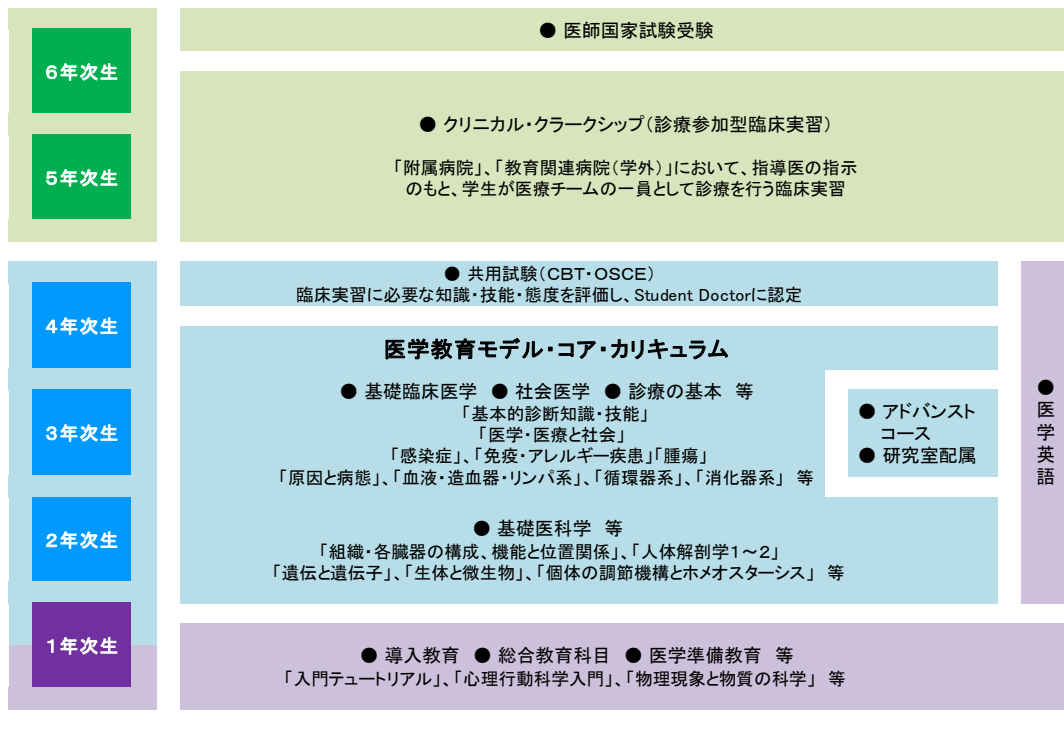
● 教育課程の編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）の周知方法

- ・ 医学部ホームページ http://www.med.u-fukui.ac.jp/home/ufms/cont_faculty/policy.html
- ・ 医学科授業要項 ・ 大学案内 ・ 学生募集要項

（事務局資料）

資料 1-2-1-5 医学科における教育の特徴

	特徴
概要	医学科では、①幅広い医学知識を持ち質の高い臨床能力を身につけるための「医学教育モデル・コア・カリキュラム」に準拠した科目、②コミュニケーション能力や高い倫理観を涵養する「教養教育」、③医学を生涯にわたり学ぶ習慣を身につけ、根拠に立脚した医療を実践する能力を養う「チュートリアル教育」、④世界をリードする生命科学研究者や医学教育者への始まりとなる最新で高度な医学、医学知識を学ぶ「アドバンストコース」や「研究室配属」、⑤医師あるいは医学研究者として国際的な視野でまたは地域に根ざした活動の基礎となる「医学英語」「地域医療学」等が配置され、4年次における共用試験（CBT・OSCE）を合格した学生がステューデントドクターとして臨床実習を行い、医師国家試験で求める専門技能の修得に必要な専門科目や臨床実習科目等が体系的に構成されている。
語学教育	グローバル社会で活躍できる実践的英語能力を備えた医療人を育成するため、現代GP「医学英語と医学・看護学の統合的一貫教育」事業を基に、英語学教員と医学部教員が共働した医学英語科目を教養及び専門教育課程で展開している。
課題探究・解決能力	課題探究・解決能力涵養のためチュートリアル教育等の自己主導型教育が積極的に導入されている。
臨床能力	基礎医学と臨床医学とを有機的に関連づけた「統合型カリキュラム」と疾患別講義の「実践臨床病態学」により学び、臨床能力の向上をはかるため「診療参加型臨床実習」などの臨床実習を実施し、臨床能力涵養に工夫がなされている。
特色ある教育	6年間にわたり地域医療の課題や実際を講義と実習で学ぶ「地域医療人育成プログラム」が開講されている。 基礎科目及び臨床科目の中で人体構造を画像で学ぶ「画像医学」が取り入れられている。



(事務局資料)

資料 1-2-1-6 医学科カリキュラム

医学科コアカリキュラム								H25.4.1		
1年	2年		3年		4年		5年		6年	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
1	英語1	英語3	医学英語1	医学英語2	医学英語3	医学英語4	医学英語5	実用医学英語		
2	英語2	英語4	細胞の基本構造と機能 (19)	遺伝と遺伝子 (27)	原因と病態 (42)	血液・造血器・リンパ系 (22)	感染症 (19)	腫瘍 (15)		
3	独語1 仏語1・中国語1	独語2・仏語2・中国語2	個体の発生 (11)					免疫・アレルギー疾患 (17)		医学 医療と社会3 (20)
4	運動スポーツ科学実習	人の行動と心理 (15)		生体と微生物 (40)	生体と薬物 (41)	腎臓内科 (15)	神経系 (48)	物理・化学的因子による疾患 (7) 加齢と老化 (8)		
5	数学基礎	健康科学 (15)				泌尿器系 (21)		成長と発達 (12)		
6	物理現象と物質の科学 (34)		組織と各臓器の構成 (65)				神経系 (12)	死と法 (20)		
7						内分泌・栄養・代謝系 (25)	皮膚系 (15)	症状・病態からのアプローチ (10)		
8	生命現象の科学 (46)			免疫と生体防御 (12)	生体と放射線 (7)		運動器系 (20)			
9	情報の科学1 (15)	情報の科学2 (20)			生体と医動物 (27)	女性生殖機能・乳房 (31)	眼・視覚系 (10)	基本的診療知識 (51)		
10	医学のための物理学入門	体力作りの科学	個体の調節機構と神経システム (47)			耳鼻咽喉 口腔系 (23)				
11	医学のための生物学入門	現代物理学		人体解剖学1 (80)	研究室配属 (12)	循環器系 (34)	精神系 (17)			
12	総合教養ゼミナール	倫理の基礎から応用へ	生体物質の代謝(34)			循環器系 (12)		基本的診療技能 (45)		
13	心理行動科学入門	医療分野のドイツ語			研究室配属 (60)	呼吸器系 (20)	医学 医療と社会1 (40)			
14	生命倫理学入門	応用数学	医科学基礎実習 (54)			消化器系 (31)		画像・放射線を用いた診断と治療 (24)		
15	歴史学	文化人類学		人体解剖学2 (40)						
16	教養特別講義1	社会学			アドバンストコースⅠ、Ⅱ、Ⅲ	消化器系 (12)		医学 医療と社会2 (36)		
17	法学	芸術学								
18	医療経済学入門	教養特別講義2		地域医療学 (8)	アドバンストコースⅣ					
19	哲学的人間学	コミュニケーションとチーム医療 (7)				コミュニケーションとチーム医療 (2)	コミュニケーションとチーム医療 (4) 医の原則 (10)	医療における安全性への配慮と危機管理 (6)		
20	教養特別講義3	医学入門 (15)				地域医療学実習 (15)		地域医療学 (8)		
21	経済学	医学概論 (15)	試験	試験	試験	試験	試験	試験		
22	入門チュートリアル (30)									
23										
24										
25	試験	試験								

1年次生の1枠は1コマ×15週を表す
 科目名横の()内数字はコマ数を表す
 * 学内附属病院(2W)、学外病院(5W)、基礎医学・講座研修など選択制をとる。

医学導入 準備教育 選択科目 選択必修科目
 A項目 B項目 C項目 D項目 E項目 F項目 アドバンストコース
 地域医療学 チュートリアル

(事務局資料)

資料 1-2-1-7 医学科カリキュラムマップ

福井大学医学科カリキュラムマップ						
		2015/3/1				
区分	科目名	DP1	DP2	DP3	DP4	
		医療人としての知識・技能	医療人としての態度・姿勢	医療人としての総合的能力	医師としての向上する意欲	
総合教育科目	総合教養ゼミナール	○	○		○	
	倫理の基礎から応用へ	○	○		○	
	生命倫理学入門	○	○	○	○	
	心理行動科学入門	○	○	○	○	
	経済学	○	○	○	○	
	医療経済学入門	○	○	○	○	
	歴史学	○	○	○	○	
	哲学的人間学	○	○	○	○	
	芸術学	○	○	○	○	
	法学	○	○	○	○	
	社会学	○	○	○	○	
	文化人類学	○	○	○	○	
	医療分野のドイツ語	○	○	○	○	
	体力作りの科学	○	○	○	○	
	応用数学（医学などに関連して）	○	○	○	○	
	現代物理学	○	○	○	○	
	教養特別講義1	○	○	○	○	
	教養特別講義2	○	○	○	○	
	教養特別講義3	○	○	○	○	
	基礎教育科目	数学基礎	○	○		○
		医学のための物理学入門	○	○	○	○
		医学のための生物学入門	○	○	○	○
		運動・スポーツ科学実習	○	○	○	○
英語1		○	○	○	○	
英語2		○	○	○	○	
英語3		○	○	○	○	
英語4		○	○	○	○	
ドイツ語1		○	○	○	○	
ドイツ語2		○	○	○	○	
フランス語1		○	○	○	○	
フランス語2		○	○	○	○	
中国語1		○	○	○	○	
中国語2		○	○	○	○	
医学準備教育	医学概論	○	○	○	○	
	医学入門	○	○	○	○	
	人の行動と心理	○	○	○	○	
	物理現象と物質の科学	○	○	○	○	
	医学科学基礎実習	○	○	○	○	
医学外国語	情報の科学1	○	○	○	○	
	情報の科学2	○	○	○	○	
	健康科学	○	○	○	○	
	医学英語1	○	○	○	○	
	医学英語2	○	○	○	○	
医学基本事項	医学英語3	○	○	○	○	
	医学英語4	○	○	○	○	
	医学英語5	○	○	○	○	
社会医学	実用医学英語	○	○	○	○	
	医の原則	○	○	○	○	
	医療における安全性への配慮と危機管理	○	○	○	○	
	コミュニケーションとチーム医療	○	○	○	○	
基礎医科学	入門オートリアル	○	○	○	○	
	地域医療学	○	○	○	○	
	医学・医療と社会1	○	○	○	○	
	医学・医療と社会2	○	○	○	○	
基礎臨床医学1	医学・医療と社会3	○	○	○	○	
	死と法	○	○	○	○	
	生命現象の科学	○	○	○	○	
	細胞の基本構造と機能	○	○	○	○	
	組織・各臓器の構成、機能と位置関係	○	○	○	○	
	臓体の調節機構とホメオスタシス	○	○	○	○	
	臓体の発生	○	○	○	○	
	生体物質の代謝	○	○	○	○	
	遺伝と遺伝子	○	○	○	○	
	生体と微生物	○	○	○	○	
	生体と動物	○	○	○	○	
	免疫と生体防御	○	○	○	○	
	生体と放射線・電磁波・超音波	○	○	○	○	
	生体と薬物	○	○	○	○	
	原因と病態	○	○	○	○	
	人体解剖学1	○	○	○	○	
	人体解剖学2	○	○	○	○	
基礎臨床医学2	血液・造血器・リンパ系	○	○	○	○	
	神経系	○	○	○	○	
	皮膚系	○	○	○	○	
	運動器（筋骨格）系	○	○	○	○	
	循環器系	○	○	○	○	
	呼吸器系	○	○	○	○	
	消化器系	○	○	○	○	
	腎臓内科	○	○	○	○	
	泌尿器系	○	○	○	○	
	女性生殖機能・乳房	○	○	○	○	
	内分泌・栄養・代謝系	○	○	○	○	
	眼・視覚系	○	○	○	○	
	耳鼻咽喉・口腔系	○	○	○	○	
診療の基本	精神系	○	○	○	○	
	感染症	○	○	○	○	
	腫瘍	○	○	○	○	
	免疫・アレルギー疾患	○	○	○	○	
臨床研修	物理・化学的因子による疾患	○	○	○	○	
	成長と発達	○	○	○	○	
	加齢と老化	○	○	○	○	
	画像・放射線を用いた診断と治療	○	○	○	○	
その他	地域医療学実習	○	○	○	○	
	臨床実習	○	○	○	○	
	卒前臨床医学研修	○	○	○	○	
	実践臨床病態学	○	○	○	○	
	アドバンストコースⅠ	○	○	○	○	
アドバンストコースⅡ	○	○	○	○		
アドバンストコースⅢ	○	○	○	○		
アドバンストコースⅣ	○	○	○	○		
研究室配属	○	○	○	○		

(<http://www.cahe.u-fukui.ac.jp/file/069cc1e6-082a-11e5-bba6-4f38c6cefb29/>)

(事務局資料)

資料 1-2-1-8 医学科カリキュラムツリー

総合教育科目	1年	2年	3年	4年	5年	6年	学位授与の方針(「ディプロマ」シ)
	専門教育科目						
	医学準備教育、医学基本事項	基礎医科学、社会医学	基礎医科学	基礎臨床医学	医学基本事項、基礎臨床医学、社会医学	診療の基本	
					臨床実習	臨床実習、社会医学	
総合教育ゼミナール							DP1: 医療人としての知識・技能 ①医師国家試験の合格に必要な医学知識を修得している。 ②基本的な医療行為を安全に実施できる医療技術を修得している。
歴史学							
芸術学							DP2: 医療人としての態度・姿勢 ①患者中心の医療を實踐できる医療人にふさわしい高い倫理観や良識を備えている。 ②チーム医療の一員として、患者・家族やチーム構成員と良好な関係を構築できるコミュニケーション能力を備えている。 ③都市部から辺地までを包含する地域医療における医療の担い手としての自覚を備えている。
文化人類学							
医療分野のドイツ語							DP3: 医療人としての総合的能力 ①患者の有する身体的・精神的・社会的問題の的確な把握と問題解決のための適切な処置・指導の選択に基づく、推測に立脚した医療を行える基本的な実践能力を備えている。 ②医療現場や研究場で活用する基本的英語運用能力を備えている。
体力つくりの科学							
運動・スポーツ科学実習							DP4: 医師としての向上する意欲 ①医学・医療の進歩や社会的ニーズの急速に的確に対応し自らを常に高めるよう、生涯にわたって学習する意欲・態度を備えている。
教養特別講義1							
教養特別講義2							
教養特別講義3							
倫理の基礎から応用へ	コミュニケーションとチーム医療		コミュニケーションとチーム医療		コミュニケーションとチーム医療		
生命倫理学入門	人の行動と心理						
心療行動科学入門	健康科学						
哲学の人間学							
法学							
経済学	入門チュートリアル	地域医療学		地域医療学実習	地域医療学	医学・医療と社会1	
医療経済学入門						医学・医療と社会2	
社会学						医学・医療と社会3	
英語1, 2, 3, 4		医学英語1	医学英語3		医学英語5		
ドイツ語1, 2		医学英語2	医学英語4		実用医学英語		
フランス語1, 2							
中国語1, 2							
数学基礎	情報の科学1	遺伝と遺伝子	生体と運動物	血液・造血器・リンパ系	神経系	症状・病態からのアプローチ	
応用数学	情報の科学2	生体物質の代謝	生体と薬物	循環器系	皮膚系		
医学のための物理学入門	物理現象と物質の科学	管体の発生	原因と病態	呼吸器系	運動器(筋骨格)系	基本的診療知識	
現代物理学		細胞の基本構造と機能	生体と放射線	消化器系	眼・視覚系	基本的診療技術	
医学のための生物学入門	医学科学基礎実習	個体の調節とホメオスタシス	超音波	腎臓内科	耳鼻咽喉・口腔系	医療における安全性への配慮と危機管理	
	生命現象の科学	生体と微生物	泌尿器系	泌尿器系	精神系		
		免疫と生体防御	女性生殖機能・乳房	内分泌・栄養・代謝系	感染症		
		人体解剖学1			腫瘍		
		組織・各臓器と構成			免疫・アレルギー疾患		
		機能と位置関係			物理・化学的因子による疾患		
		人体解剖学2			成長と発達		
					加齢と老化		
					画像・放射線を用いた診断と治療		
医学概論		研究室配属					
医学入門		アドバンスコースⅠ					
		アドバンスコースⅡ					
		アドバンスコースⅢ					
		アドバンスコースⅣ					

 必修科目
 必修科目
 必修科目
 臨床実習
 選択科目
 選択科目
 地域医療実習・福井健康推進科学

(<http://www.cahe.u-fukui.ac.jp/file/a54d388e-082a-11e5-90fc-4f38c6ccef29/>)

(事務局資料)

- ② 看護学科では CP にもとづき（資料 1-2-1-9），看護学教育指導指針に準拠した教育課程による「より高い看護実践能力の涵養」を行うカリキュラムを編成している（資料 1-2-1-10～11）。これらは保健師助産師看護師養成所指定規則改正（平成 23 年）に対応し平成 24 年度入学生より保健師教育課程を選択制としている。また，県内唯一の助産師教育課程を有している。カリキュラムマップ及びカリキュラムツリーを作成し，これらの体系性を明確化した（資料 1-2-1-12～13）。

資料 1-2-1-9 看護学科カリキュラム・ポリシー

●教育課程の編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

看護学科では，教育理念・目標に基づき，①看護の対象となる人間を総合的に理解でき，②高い倫理観を持ち看護の対象となる人間の権利を守ることができ，③健康に関わる諸問題の解決に必要な知識・技術を主体的に学び創造する能力をもち，④関連領域の専門家と協力し必要に応じて調整的な役割を果たす能力，および⑤看護を批判的に吟味し建設的・創造的に発展させる能力をもち自己啓発のできる看護職者の育成を主な目的とした教育課程を編成・実施します。

カリキュラムの特徴として，将来の職業選択に生かせるよう，選択科目を多くした多様性のある教育を行っています。特に実習では，保健師課程の公衆衛生看護学実習，助産師課程の助産学実習の他，将来，キャリアアップに役立つ看護の専門分野での実習や，看護に役立つスキルを身につける実習などが選べます。また，医学部附属病院を主な実習病院としていることから，充実した最新の医療における看護が学べます。なお看護学科を修了した者は，看護師の他に保健師，助産師になるための国家試験受験資格を得ることができます。加えて，所定の単位を取得し保健師国家試験に合格したものは，養護教諭 2 種を取得することができます。

〈教養教育〉

入学初年次より，幅広い人間性と感性を養うための知識体系としての基礎科目を学びます。また，看護の対象となる「人間」をより深く理解するためのコミュニケーション能力や，医療をめぐる諸問題等について学び，看護職者としてふさわしい倫理観と幅広い教養と心身を豊かにするための素養を身につけます。

〈入学初期から 2 年次における基礎医学教育の導入および基礎看護学〉

専門基礎科目では，専門教育に必要な基礎学力と，生命基礎科学，健康科学，環境科学を学び，看護職者として必須な生命の基礎に関する学力を身につけます。また，将来の看護のリーダーとして自ら学び研鑽する力を養うための看護学入門や，「看護とは何か」について常に考え行動する能力と技術を学ぶ基礎看護学の科目を履修することで，自己啓発能力と創造的思考力を備えた専門職者としての看護のあり方について学びます。

〈2 年次からの看護学専門領域の講義・演習〉

2 年次から 3 年次にかけて，将来看護師として人々とかかわるために必要な専門的知識・技術を講義ならびに演習を通して学びます。特に，乳児期から青年期，成人期，壮年期，老年期における，さまざまな急性的・慢性的健康問題に対し，適切な看護ケアを提供する能力と技術を学びます。また，複雑化・重症化する健康問題に対処するため，災害看護学やがん看護学，ターミナル看護学など専門的な看護の領域における知識と技術を修得します。加えて将来高度実践看護師等の専門性の高い看護師になるための素養を身につけます。最終学年次である 4 年次には，自らのテーマを決め研究を実施し，卒業研究をまとめることで研究的視点を養います。

〈臨地実習〉

臨地実習は，1 年次の基礎看護学実習に始まり，4 年次までに，病院や地域の施設で実習を行います。実習場所は，福井大学に隣接する医学部附属病院，学外の医療施設及び介護老人保健施設など多岐にわたります。臨地実習の目的は看護実践能力の向上にあります。看護技術の到達度を確認しながら，創造的に看護技術を提供し，あらゆる健康レベルに対応した看護を展開します。また，看護実践のあらゆる場面で，看護の理論と実践を結びつけて理解する能力やチームの一員としての連携・協働する能力を学びます。

〈保健師課程（選択）〉

保健師課程では、性別、年齢、そして病気や障がいの有無に関わらず、地域で生活するすべての人々がより健康に安心して暮らせる支援ができるよう、看護の知識・技術はもちろん、健康と深くかかわる環境、医療、福祉の視点からも学びを深めます。講義・演習・実習（健康福祉センター（県の保健所）、市町村保健センター等）を通じて、“地域”で“地域”を支援できる保健師の育成を目指します。

〈助産師課程（選択）〉

助産師は、出産する人が安心して分娩できるよう、病院や産院・助産所で妊産婦への指導や分娩時の介助、新生児のケアや育児相談などを行い、さらに、女性や家族の一生を通じた性と生殖をめぐる健康問題に関わる専門職です。

助産師課程では、妊産婦および胎児・新生児の健康状態を診断し、自然で安全な妊娠・出産・産後の経過を見守り、育児がスムーズに行なえるよう援助できる能力について修得します。また、女性や家族の一生における性と生殖をめぐる健康問題についても、相談や教育、援助活動ができる知識やスキルを修得します。さらに、女性や家族が安心して子どもを産み育てるため、個人や社会にとって必要な地域の社会資源の活用や調整を行なえる能力を修得します。

● 教育課程の編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）の周知方法

- ・ 医学部ホームページ http://www.med.u-fukui.ac.jp/home/ufms/cont_faculty/policy.html
- ・ 看護学科授業要項 ・ 大学案内 ・ 学生募集要項

(事務局資料)

資料 1-2-1-10 看護学科における教育の特徴

	特 徴
概要	看護学科では、①看護の対象となる人間を総合的に理解し②高い倫理観を持ち、看護の対象となる人間の権利を守る能力を養う「基礎科目」、③健康に関わる諸問題の解決に必要な知識・技術を主体的に学び創造する能力を養う「専門基礎科目」と「専門科目」、④関連領域の専門家と協力し必要に応じて調整的な役割を果たす能力を養う「臨地実習」、⑤看護を批判的に吟味し建設的・創造的に発展させる能力を養う「基礎専門科目」「専門科目」、を1年次から順に配置した「看護学教育指導指針」に準拠した教育課程が編成され、看護師国家試験で求める専門技能の修得に必要な専門科目や臨床実習科目等が体系的に構成されている。また、保健師及び助産師の国家試験受験要件となる科目を選択科目として配置している。
語学教育	グローバル社会で活躍できる実践的英語能力を備えた医療人を育成するため、現代GP「医学英語と医学・看護学の統合的一貫教育」事業を基に、英語学教員と医学部教員が共働した医学英語科目を教養及び専門教育課程で展開している。
課題探究・解決能力	課題探究・解決能力涵養のため卒業研究等の自己主導型教育の実施と共に、各専門科目の講義において学生参加型授業・演習等が導入されている。
臨地実習等	臨床能力を養う実習を1年次から開始し、能力向上を図る「看護技術実習」「看護キャリアアップ実習」等臨床実習科目に工夫がなされている。
特徴的な教育	多職種チーム医療の基礎を学ぶ医学科学生との「医看合同講義・実習」を本邦初の正式カリキュラムとして実施している。

(事務局資料)

資料 1-2-1-11 看護学科カリキュラム

看護学科 教育課程計画表 (H24.4~)

区分	1年次		2年次		3年次		4年次	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
基礎科目	人間理解	教養特別講義Ⅲ(選) 日本国憲法(選) 法学(選) 教養特別講義Ⅱ(選)	哲学Ⅰ 生命倫理学 芸術学(選) 教養特別講義Ⅰ(選) 文化人類学(選) 社会学(選) 心理学	教育学				哲学Ⅱ(選)
	情報処理	情報科学	統計学					英語Ⅵ(選)
	語学	英語Ⅰ ドイツ語Ⅰ(選) フランス語Ⅰ(選) 中国語Ⅰ(選)	英語Ⅱ ドイツ語Ⅱ(選) フランス語Ⅱ(選) 中国語Ⅱ(選)	英語Ⅲ	英語Ⅳ	英語Ⅴ(選)		
	体育	健康・スポーツ科学						
専門基礎科目	生命基礎科学	生命基礎科学(化学) 看護学のための生命基礎科学実験(化学)(選) 生命基礎科学(生命科学) 看護学のための生物学入門(選)	生命基礎科学(物理学)(選) 看護学のための生命基礎科学実験(物理学)(選)					
	健康科学	健康科学論 形態機能論Ⅰ	形態機能論Ⅱ 形態機能論実習(選) 生体反応論Ⅰ 生体反応論Ⅱ 生体反応論実習(選)	疾病論Ⅰ 薬理作用論 健康管理論 □成長発達論(選)	疾病論Ⅱ 人間行動論(選)	心理測定論(選)		
	環境科学	生活科学論(選) ○環境科学論(選)			○疫学(選) ○保健統計論(選)	保健医療福祉論Ⅰ ○保健医療福祉論Ⅱ(選)		
	基礎看護	看護学入門(選) 看護学概論	日常生活援助論	看護過程論 看護コミュニケーション論 療養生活援助論	ヘルパースタッフ論(選)	看護倫理 リスクマネジメント論		看護管理
専門科目	健康時の看護		公衆衛生看護学概論		○公衆衛生看護学概論Ⅰ(選) ○公衆衛生看護学概論Ⅱ(選) ○公衆衛生看護学管理論(選) □育児援助論(選)		○学校保健論(選) ○産業保健論(選) ○国際保健論(選) □助産学概論(選) □助産論Ⅰ(選) □助産論Ⅱ(選)	
	健康障害時の看護		成人看護学概論 老年看護学概論	急性期看護活動論 慢性期看護活動論 リハビリテーション看護活動論 老年看護活動論 母子看護学概論 精神看護学概論 在宅看護論	災害看護論 がん看護論(選) 在宅看護論(選) 小児看護活動論 母性看護活動論 精神看護活動論 感染予防看護論(選) □発達障害看護論(選)			
	臨床実習	基礎看護学実習Ⅰ			基礎看護学実習Ⅱ		○公衆衛生看護学実習(選) 成人看護学実習Ⅰ 成人看護学実習Ⅱ 老年看護学実習 小児看護学実習 母性看護学実習 精神看護学実習 在宅看護学実習 看護技術実習 キャリアアップ実習(選)	□助産学実習(選)
卒業研究						卒業研究方法論	卒業研究	

保健師・助産師・看護師 国家試験

○保健師国家試験受験資格取得に必要な選択授業科目、□印は助産師国家試験受験資格取得に必要な選択授業科目
(赤字)H23年度までのカリキュラムから新設・名称変更等のあった授業科目
(選)選択科目

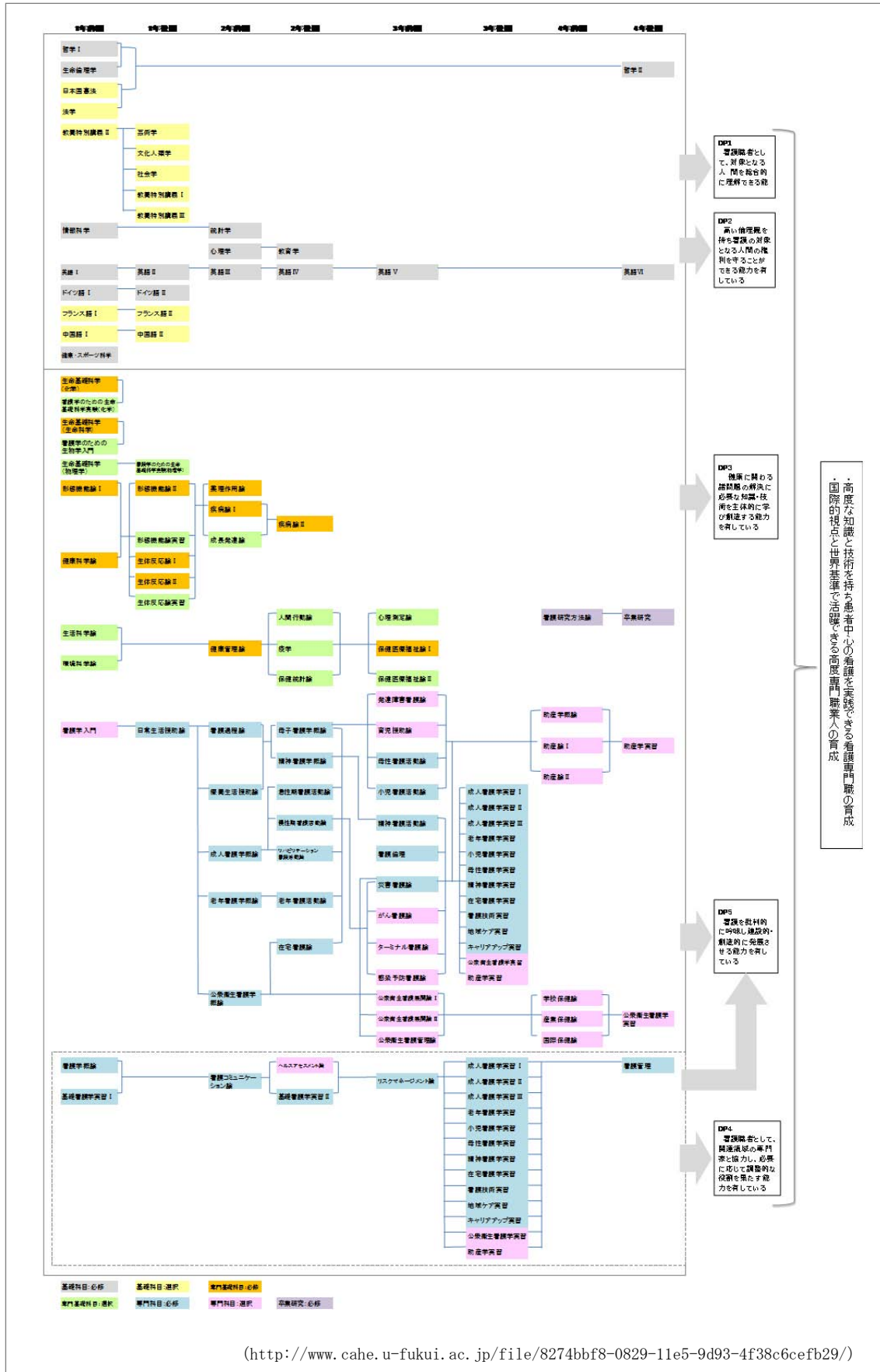
- ◆**英検2級免除取得のための科目の開設**
(学生のニーズに対応した科目)
日本国憲法(1年次)
- ◆**看護職に社会から求められるための科目の開設**
(より高い看護実践能力の向上のための科目)
看護技術実習(3~4年次)、キャリアアップ実習(3~4年次)
- ◆**保健師助産師看護師学校養成所指定規則改正に伴い単位数の増加**
(保健師の国民のニーズに対応した科目)
公衆衛生看護学実習(3~4年次)

(事務局資料)

資料 1-2-1-12 看護学科カリキュラムマップ

医学部看護学科カリキュラムマップ																				
◎DP達成のために特に重要な事項、○DP DP達成のために重要な事項、△DP-CP達成のために望ましい事項																				
区分(基礎科目・専門科目など)	NO	授業科目名	DP1 看護職者として、対象となる人種を多岐に種別化する能力を有している			DP2 幅広い人間性と感性を養うための知識と感性を有している			DP3 看護職者として、対象となる人種を多岐に種別化する能力を有している			DP4 看護職者として、関連領域の専門性と協力、必要な知識・技術を主体的に学び継承する能力を有している			DP5 看護を批判的に吟味し建設的・創造的に発展させる能力を有している					
			DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5			
基礎科目	人間理解	哲学 I	◎	◎																
		哲学 II	◎	◎																
		生命倫理学	◎	◎																
		芸術学	◎	◎																
		放課特別講義 I	◎	◎																
		放課特別講義 III	◎	◎																
		日本国憲法	◎	◎																
		法学	◎	◎																
		文化人類学	◎	◎																
		社会学	◎	◎																
	情報処理	放課特別講義 II	◎	◎																
		心理学	◎	◎		○														
		教育学	◎	◎		○														
		統計学	◎	◎		○														
		情報科学	◎	◎																
		英語 I	◎	◎																
		英語 II	◎	◎																
		英語 III	◎	◎																
		英語 IV	◎	◎																
		英語 V	◎	◎																
	語学	英語 VI	◎	◎																
		ドイツ語 I	◎	◎																
		ドイツ語 II	◎	◎																
		フランス語 I	◎	◎																
		フランス語 II	◎	◎																
		中国語	◎	◎																
中国語 II		◎	◎																	
健康・スポーツ科学		◎	◎																	
専門基礎科目		生命基礎科学	生命基礎科学(化学)			◎														
			看護学のための生命基礎科学実験(化学)			◎														
	生命基礎科学(生命科学)				◎															
	看護学のための生物学入門				◎															
	生命基礎科学(物理学)				◎															
	看護学のための生命基礎科学実験(物理学)				◎															
	健康科学論				◎															
	形態機能論 I				◎															
	形態機能論 II				◎															
	形態機能論実習				◎															
	健康科学	生体反応論 I			◎															
		生体反応論 II			◎															
		生体反応論実習			◎															
		薬理作用論			◎															
		疾病論 I			◎															
		疾病論 II			◎															
		健康管理論			◎															
		心理測定論			◎															
		成長発達論			◎															
		環境科学	人間行動論			◎														
	生活科学論				◎															
	環境科学論				◎															
	保健医療福祉論 I				◎															
	保健医療福祉論 II				◎															
	成学				◎															
	保健統計論				◎															
専門科目	基礎看護		看護管理																	
			看護倫理																	
			看護学入門																	
		看護学概論																		
		看護過程論																		
		看護コミュニケーション論																		
		産業生活援助論																		
		産業生活援助論																		
		ヘルスマネジメント論																		
		リスクマネジメント論																		
	健康時の看護	公衆衛生看護学概論																		
		公衆衛生看護学概論 I																		
		公衆衛生看護学概論 II																		
		公衆衛生看護学管理論																		
		学校保健論																		
		産業保健論																		
		国際保健論																		
		助産学概論																		
		助産論 I																		
		健康障害時の看護	助産論 II																	
	育児援助論																			
	若者看護論																			
	がん看護論																			
	成人看護学概論																			
	老年看護学概論																			
	急性期看護活動論																			
慢性期看護活動論																				
在宅看護学概論																				
臨床実習	在宅看護学概論																			
	在宅看護学実習 I																			
	基礎看護学実習 II																			
	公衆衛生看護学実習																			
	成人看護学実習 I																			
	成人看護学実習 II																			
	老年看護学実習																			
	小児看護学実習																			
	母性看護学実習																			
	卒業研究																			

資料 1-2-1-13 看護学科カリキュラムツリー



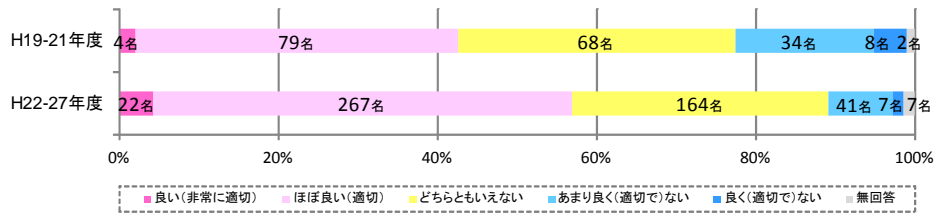
(事務局資料)

- ③ 学生からの意見聴取を行い（P4-58 前掲資料 1-1-5-4, P4-59 前掲資料 1-5-5-5），より適切なカリキュラム編成となるよう改善を加えている。学生のカリキュラムに対する満足度は高く，かつ第 1 期より向上しており，関係者の期待に応えている（資料 1-2-1-14～15）。

資料 1-2-1-14 カリキュラムに対する学生の評価（医学科）

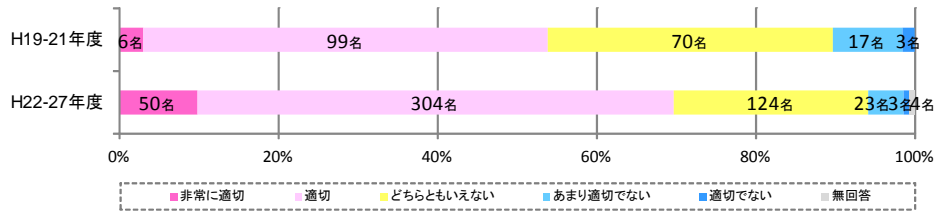
学生のカリキュラムに対する評価を第 1 期（平成 19～21 年度）と第 2 期（平成 22～27 年度）において比較した。過半の学生は医学教育カリキュラムが良好でありかつ臨床実習等が基礎的な技術・知識を修得する上で適切と捉え，カリキュラム全体の学習内容を消化できたとしており，全ての項目で第 2 期は第 1 期より良好である。

設問_医学教育カリキュラム全体の構成（科目構成，開講時期）などはいかがでしたか？



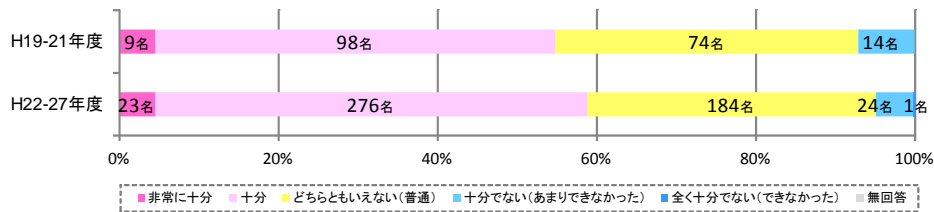
* 第 1 期と比較して，第 2 期では学生の評価（良い～ほぼ良いとした割合）は，14.3%向上している。

設問_臨床実習等の医学教育カリキュラムは基礎的な技術・知識を修得する上で適切なものでしたか？



* 第 1 期と比較して，第 2 期では学生の評価（非常に適切～適切とした割合）は，15.9%向上している。

設問_カリキュラム全体の学習内容を十分に消化できましたか？



* 第 1 期と比較して，第 2 期では学生の評価（非常に十分～十分とした割合）は，4.0%向上している。

■ カリキュラムの改善（例）

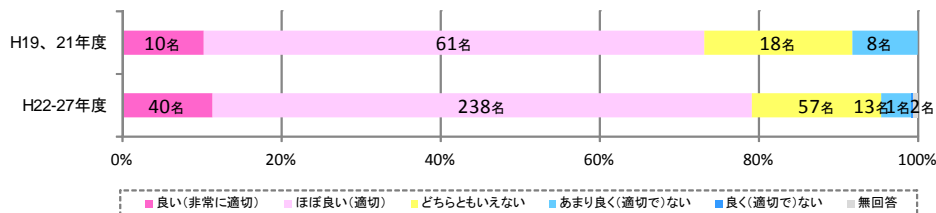
- ・ 医学科 2 年次生の講義実習スケジュール緩和のため，平成 25 年度より夏休みを 2 週間短縮し，「個体の調節機構とホメオスターシス」を開講することとした。
- ・ 医学科 3 年次 4 年次生でのアドバンストコースを改編し，平成 24 年度より 3 年次にアドバンストコース 4 コース（選択必修），4 年次に必修として「腫瘍」，「画像・放射線を用いた診断と治療」を開講することとした。
- ・ 医学科 5 年次生の臨床実習において，平成 25 年度より 4 週間実習時間を増加することとした。

（平成 19～27 年度「カリキュラム評価アンケート（6 年次生用）」結果より抜粋）

資料 1-2-1-15 カリキュラムに対する学生の評価（看護学科）

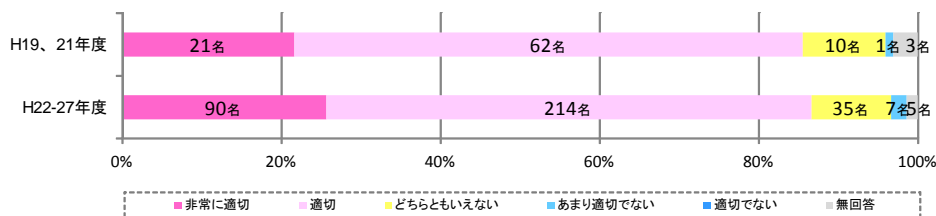
学生のカリキュラムに対する評価を第 1 期（平成 19～21 年度）と第 2 期（平成 22～27 年度）において比較した。過半の学生は看護学教育カリキュラムが良好でありかつ臨地実習等が基礎的な技術・知識を修得する上で適切と捉え、カリキュラム全体の学習内容を消化できたとしており、全ての項目で第 2 期は第 1 期より良好である。

設問_看護学科教育カリキュラム全体の構成（科目構成、開講時期）などはいかがでしたか？



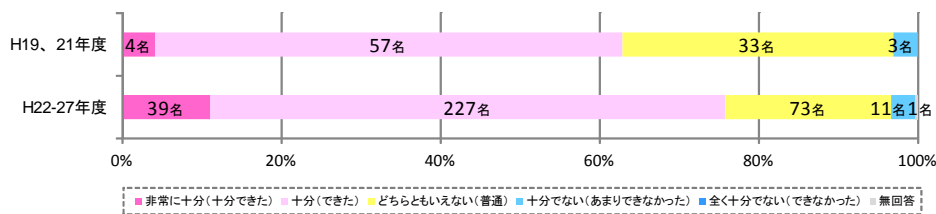
* 第 1 期と比較して、第 2 期では学生の評価（良い～ほぼ良いとした割合）は、6.0%向上している。

設問_臨地実習等の看護学教育カリキュラムは基礎的な技術・知識を修得する上で適切なものでしたか？



* 第 1 期と比較して、第 2 期では学生の評価（非常に適切～適切とした割合）は、1.0%向上している。

設問_カリキュラム全体の学習内容を十分に消化できましたか？



* 第 1 期と比較して、第 2 期では学生の評価（非常に十分～十分とした割合）は、13.0%向上している。

■ カリキュラムの改善（例）

- ・保健師課程では、平成 24 年度より公衆衛生看護実践力の強化のため保健師課程を選択制とした。
- ・国際的な看護活動や専門分野における看護実践力を養うキャリアアップ実習を平成 26 年度に新設した。

（平成 19～27 年度カリキュラム評価アンケート（4 年次生用）結果より抜粋）

【教養教育の充実】

- ① 教養教育は共通・教養教育委員会により全学部的な視点から実施され、医学教育も、その一環として位置付けられている（資料 1-2-1-16）。これら教養教育に対する学生の満足度は良好であり、第 1 期より向上した（資料 1-2-1-17）。

資料 1-2-1-16 教養教育の概要

■ 医学教育（松岡キャンパス）の目的と編成

福井大学医学部では専門教育課程に先立って、あるいは並行して教養教育（導入、準備教育を含む）科目が開講されており、その目指すところは以下の通りです。

【教養教育の理念・目的】

将来の医療従事者にふさわしい倫理観、総合的判断能力や良識を養い、専門教育の履修に不可欠な基礎的な知識と技能や方法論を身につけた学生の育成を目的とする。

1. 医学・看護学を学ぶことへの動機付けを行い、学ぶことへの主体的意欲を高める。
2. 医学研究者・医療従事者としての倫理観を養う。
3. 専門教育の履修に必要な基礎学力と基礎的スキルを身につける。
4. 医療・医学をめぐる人間や社会、思想等についての諸問題に関心を持つ。
5. 人間理解とコミュニケーション能力を培い、将来の医療人としての幅広い教養と自己の心身を豊かにするための素養を身につける。

【編成の趣旨】

教養・準備教育は、医学部における教養教育（導入、準備教育を含む）の目標・理念に基づき、医療人としてふさわしい倫理観、良識などを養うための「総合教育科目」、「基礎教育科目」、「医学導入基礎科目」（以上、医学科）、「基礎科目」（看護学科）から編成する。さらに、医学専門教育の準備という観点から基礎科学系科目を統合し、「準備教育モデル・コア・カリキュラム ー教育内容ガイドラインー」に準拠した「医学準備教育科目」を編成する。

【編成】

● 医学科 履修要件及び教養・準備教育科目一覧

区分	授業科目名						
総合教育科目 (右記より14単位以上履修)	総合教養セミナー	倫理の基礎から応用へ	生命倫理学入門	心理行動科学入門	経済学	医療経済学入門	歴史学
	哲学的人間学	芸術学	法学	社会学	文化人類学	医療分野のドイツ語	体力作りの科学
	応用数学	現代物理学	教養特別講義1	教養特別講義2	教養特別講義3		
基礎教育科目 (右記より15単位以上履修)	○数学基礎	医学のための物理学入門	医学のための生物学入門	○運動・スポーツ科学実習	○英語1	○英語2	○英語3
	○英語4	□独語1・仏語1・中国語1	□独語2・仏語2・中国語2				
医学導入教育科目 (必修60時間)	○医学概論	○医学入門					
医学準備教育科目 (必修306時間)	○人の行動と心理	○物理現象と物質の科学	○医学科基礎実習	○情報の科学1	○情報の科学2	○健康科学	

○は必修科目、□は選択必修科目

● 看護学科 履修要件及び基礎教育科目一覧

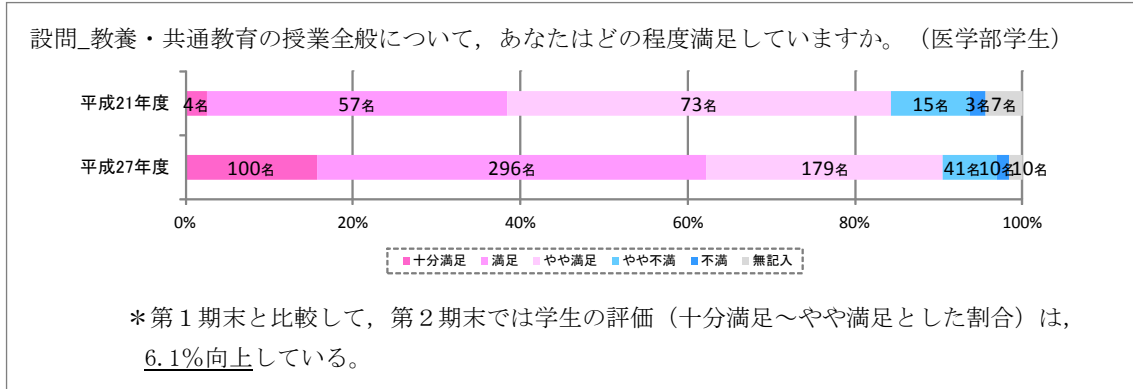
区分	授業科目名						
基礎科目 (右記より18単位以上履修)	○哲学 I	□哲学 II	○生命倫理学	□芸術学	□教養特別講義 I	□教養特別講義 III	
	□日本国憲法	□法学	□文化人類学	□社会学	□教養特別講義 II		
	○心理学	○教育学	○統計学	○情報科学	○英語 I	○英語 II	○英語 III
	○英語 IV	英語 V	英語 VI	ドイツ語 I・II	フランス語 I・II	中国語 I・II	○運動・スポーツ科学実習

○は必修科目、□は選択必修科目

※ 平成 28 年度から科目構成、履修要件等を全学的に統一したものとすることとしている。

(事務局資料)

資料 1-2-1-17 教養教育に対する学生の評価



(平成 21 年度および平成 27 年度「福井大学の教育・研究に対する意識・満足度調査」結果より抜粋)

② 医療従事者に必要とされる教育カリキュラムとして、医療従事者に必要な教養、倫理観、知識思考力、コミュニケーション能力等を涵養する科目、また研究・生命倫理を教授する科目を配置し、学生の満足度は高い（資料 1-2-1-18, 19）。

資料 1-2-1-18 医療従事者に必要とされる教養教育の編成

■ 医学科

教養教育として設定されている科目に加え、医療安全についての科目や医の倫理・生命倫理・研究倫理に関する科目を開講している。

区分	授業科目名				
医療従事者に必要な教養	総合教養ゼミナール	歴史学	芸術学	社会学	文化人類学
	体力作りの科学	応用数学	現代物理学	医療分野のドイツ語	生命倫理学入門
	倫理の基礎から応用へ	心理行動科学入門	医療経済学入門	教養特別講義1～3	
高い倫理観を涵養する科目	倫理の基礎から応用へ	生命倫理学入門			
専門分野の枠を超えて共通に求められる知識思考力を涵養する科目	教養特別講義1～3	入門チュートリアル	医学入門	医学概論	
人間の生き方に関する洞察力を養う科目	哲学的人間学	心理行動科学入門			
コミュニケーション能力の向上を図るための科目	心理行動科学入門	人の行動と心理	コミュニケーションとチーム医療		
医の倫理・生命倫理・研究倫理に関する科目	倫理の基礎から応用へ	生命倫理学入門	医学入門	医学概論	医の原則
医療統計	情報の科学1	情報の科学2			
医療経済	医療経済学入門				研究倫理に関する科目
医療における安全管理能力を涵養するための科目	医療における安全性への配慮と危機管理				4年次履修科目

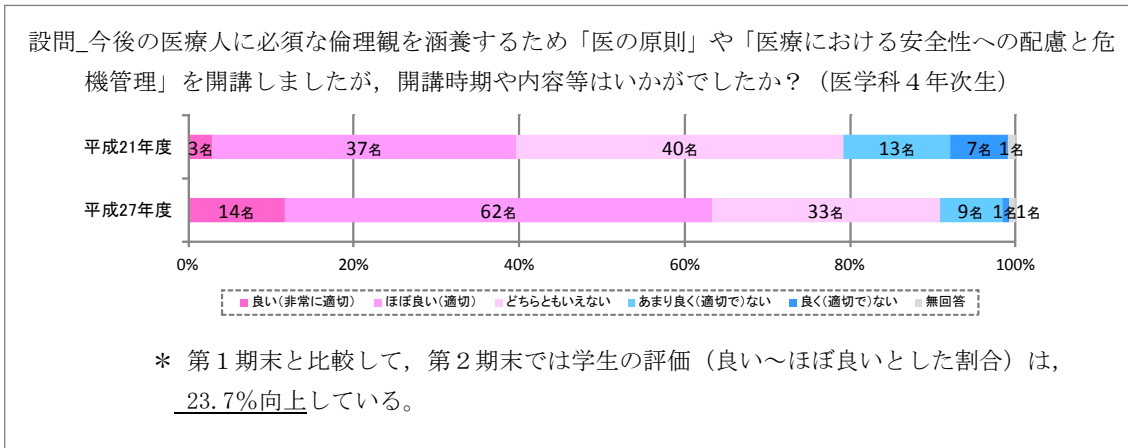
■ 看護学科

教養科目として設定されている科目に加え、研究倫理を含めた倫理観を涵養する科目を設定している。

区分	授業科目名				
医療従事者として必要な教養科目	文化人類学	社会学	教育学	芸術学	法学
	日本国憲法	教養特別講義ⅠⅡⅢ	情報科学	健康・スポーツ科学	
看護実践能力を高めるため、看護実践場面における高い倫理観を涵養する科目	看護倫理	哲学Ⅱ			
人間の生き方に関する洞察力を養う科目	哲学	生命倫理学			
コミュニケーション能力の向上を図るための科目	心理学	看護コミュニケーション論			
医療統計	統計学				研究倫理に関する科目
研究倫理	看護研究方法論				2～4年次履修科目

(事務局資料)

資料 1-2-1-19 医療従事者に必要とされる教育に対する学生の評価



(平成21年度および平成27年度「カリキュラム評価アンケート」結果より抜粋)

【学部学生の研究マインド醸成】

- ① 医学科では最新の医学を学ぶ研究室配属(海外での研究実習を含む)(資料 1-2-1-20)やアドバンストコース(資料 1-2-1-22), 大学院講義を受講する ATM プログラム(資料 1-2-1-23), 4 大学コンソーシアムリトリート(資料 1-2-1-24) など医学研究への意欲を高める取組を行い, 学生の研究マインド涵養状況は良好である(資料 1-2-1-21)。

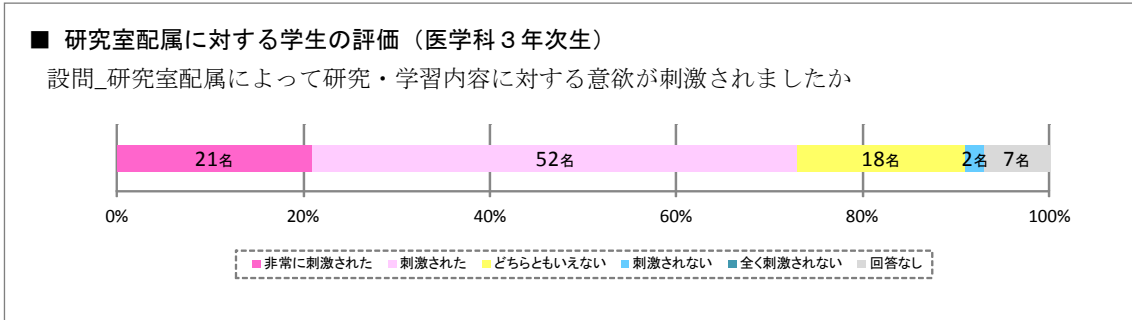
資料 1-2-1-20 研究室配属(医学科3年次)

医学科では必須科目として研究に直結する研究室配属(平成 24 年度入学生より時間増)を行い, 学生の研究への取組を行っている。なお研究を実施する研究室は本学医学部基礎系および臨床系研究室, 本学附属の研究センターのみならず他大学(2校), 海外大学等(16 施設)においても行っている。

配属先等		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	(計)	
福井大学	医学部	人体解剖学・神経科学	6名	9名	4名	8名	5名	1名	33名
	組織細胞形態学・神経科学	2名	5名	4名	2名	1名	3名	17名	
	分子生理学	5名	5名	2名	2名	5名	5名	24名	
	統合生理学	4名	6名	3名	5名	2名	4名	24名	
	分子遺伝学	2名	2名	3名	2名			9名	
	分子生体情報学	2名	3名	1名	4名	2名	3名	15名	
	腫瘍病理学	4名	4名	4名	1名	2名	2名	17名	
	分子病理学	4名	2名	4名	3名	2名	2名	17名	
	ゲノム科学・微生物学	4名	5名	5名	5名	8名	4名	31名	
	薬理学	3名	4名			2名	4名	13名	
	免疫学・寄生虫学	5名	6名	6名	6名	5名	4名	32名	
	高次脳機能					1名	1名	2名	
	放射線基礎医学			2名	2名			4名	
	環境保健学		4名	2名		1名		7名	
	法医学・人類遺伝学	8名	8名	8名	8名	5名	4名	41名	
	テニユアトラック推進本部					5名	5名	10名	
	内科学(1)	2名	3名	3名	1名			9名	
	内科学(2)	3名	3名	2名	3名	6名	4名	21名	
	内科学(3)	2名	1名	2名	2名		2名	9名	
	循環器内科学					1名		1名	
	小児科学	1名	1名	1名			1名	4名	
	精神医学	1名		1名	3名	1名		6名	
	皮膚科学	1名	2名	2名		1名	1名	7名	
	放射線医学	4名	1名	2名	2名	4名	4名	17名	
	外科学(1)	3名	3名	3名	4名	7名	5名	25名	
	外科学(2)				2名			2名	
	整形外科	2名	3名	1名	3名	1名	3名	13名	
	脳脊髄神経外科学	3名	3名	2名	3名	4名		15名	
	麻酔・蘇生学			4名	3名	2名	2名	11名	
	産科婦人科学	2名	2名	2名	1名	1名	2名	10名	
	泌尿器科学	1名	1名		1名		1名	4名	
	眼科学	4名	4名	2名				10名	
	耳鼻咽喉科学・頭頸部外科学	2名	2名		1名			5名	
	腎臓病態内科学	2名	2名	2名	3名			9名	
	病理部	3名	3名	3名	3名	3名	3名	18名	
	地域医療推進講座		5名	6名	6名	9名	10名	36名	
	高エネルギー医学研究センター	3名	4名	4名	5名	10名	7名	33名	
	ライフサイエンス支援センター		1名					1名	
	子どものこころの発達研究センター				5名	9名	9名	23名	
			(88名)	(107名)	(90名)	(99名)	(105名)	(96名)	(585名)
他大学等	兵庫医科大学			1名				1名	
	川崎医科大学血液検査室			1名				1名	
		(0名)	(0名)	(2名)	(0名)	(0名)	(0名)	(2名)	
海外大学等	NCI分子薬理学研究室(アメリカ)			1名	1名			2名	
	クリーブランドクリニック(アメリカ)					2名	1名	3名	
	サンフォードバーナム研究所(アメリカ)					3名	1名	4名	
	ジョンスホプキンス大学(アメリカ)			1名	2名	3名		6名	
	ノースウエスタン大学(アメリカ)						2名	2名	
	マイアミ大学バスコムバルマー眼科研究所(アメリカ)				2名			2名	
	アイルランガ大学(インドネシア)		1名	1名	1名			3名	
	マケレレ大学(ウガンダ)			2名	2名			4名	
	グラーツ医科大学(オーストリア)		1名					1名	
	オシエク大学(クロアチア)						1名	1名	
	バルセロナ自治大学(スペイン)					1名		1名	
	タイ厚生省労働保健局、タイ中央胸部研究所(タイ)			3名				3名	
	ラヨン産業保健・環境保健センター、タイ中央胸部研究所(タイ)				3名			3名	
	ラヨン産業衛生環境開発センター(タイ)					1名		1名	
	高雄医科大学(台湾)				1名			1名	
	イエディテベ大学(トルコ)					1名		1名	
		(0名)	(2名)	(8名)	(12名)	(11名)	(5名)	(38名)	
(計)		88名	109名	100名	111名	116名	101名	625名	

(事務局資料)

資料 1-2-1-21 研究室配属の学生による評価



(平成 27 年度「カリキュラム評価アンケート」結果より抜粋)

資料 1-2-1-22 アドバンストコース

3年次に「アドバンストコース」（選択必修科目）を開講し、非常勤講師等による研究に直結する専門的医科学分野の講義と共にライフサイエンス支援センター（P4-11 前掲資料 1-1-1-8）における先端医学生物工学実習を実施している。

■ アドバンストコース I

「シグナルトランスダクションの諸相」と題して、細胞の情報伝達機構についての基礎と最新知見、ホルモンの個体及び疾病における意義について学ぶ。

■ アドバンストコース II

「医科学特論」として、生命科学の研究成果と臨床医学への応用について、現状を正しく把握し、生命科学研究の進展を理解することを目指す。

■ アドバンストコース IV

「先端医学生物工学実習コース」として、最新のバイオ実験機器の特性と性能について実際の操作を踏まえて理解し、病態病因解析へのつながりを理解すると共に、実験モデル動物について発生日学的知見を理解することを目指す。

■ アドバンストコース II シラバス（一部抜粋）

アドバンストコース II			
科目名	単位数又はコマ数	開講時期	
アドバンストコース II (医科学特論) (選択)	15コマ	3年次生前期	
担当教員名	職名/所属	Eメールアドレス	オフィスアワー
宮本 薫	教授/分子生体情報学	kmiyamot@u-fukui.ac.jp	常時
定 清直	教授/ゲノム科学・微生物学	ksada@u-fukui.ac.jp	〃
深澤 有吾	教授/組織細胞形態学・神経科学 (中略)	yugo@u-fukui.ac.jp	〃

1 学修目標
分子生物学の発展により、生命現象の素過程に関わる因子が同定され、これらの因子の機能的上下関係や相互作用、さらに、各分子の機能制御機構の解明などを通して、極めて広範囲にわたる種々の生命現象や各種のヒト疾患の病態が分子レベルで理解できるようになりつつある。現在、診断技術であれ、治療法であれ、生命科学におけるこうした研究成果が臨床医学に急速に応用されつつあり、また、新たな医療を目指した様々な試みがなされている。本コースの学習目標は、こうした現状を正しく把握できるようにすること、そして、幅広く多岐にわたる生命科学研究の進展を理解できるようになることにある。

2 授業の内容
コアカリキュラム「生体物質の代謝」「遺伝と遺伝子」及び「生体と微生物」で学んだことを基本としながら、コアカリキュラムでは言及しなかった発展的事項と近年生命科学で話題になっているトピックスを中心に、オムニバス形式で講義する。担当教員と講義内容は以下の通りであるが、講義の順序などは開講時に改めて通知する。
(中略)

4 到達目標
コアカリキュラム「生体物質の代謝」「遺伝と遺伝子」及び「生体と微生物」で理解した基本的な分子生物学と細胞生物学の知識をベースとして、より専門的な知識を習得する。生命科学あるいは先端医療において話題となっているトピックスについて、基本的な用語を理解し、概略を説明できることを目標とする。
(以下省略)

(事務局資料)

資料 1-2-1-23 ATM プログラムによる早期大学院教育受講

■ ATM プログラム (Advanced Training of Medico-research プログラム) の概要

ATM プログラムとして、学部学生が大学院博士課程授業科目を履修可能な早期履修コースを設け、研究マインドを持つ学生の履修を可能としつつ、本学大学院進学後は授業単位の認定と学費免除の優先を図っている。

ATMプログラム

本プログラムは、①本院初期研修と博士号取得を効率よく両立できる初期研修同時履修コースと、②本学の学部生が博士課程科目を早期履修できる博士課程科目早期履修コースを用意し、博士号の早期取得をサポートします。

①初期研修同時履修コース
本院の初期臨床研修医(医学部医学科卒業予定者を含む。)を対象に、本学医学部附属病院での初期研修と博士号取得を効率よく両立できる。
申請時期:医学系研究科博士課程入試の出願資格審査申請期間

②博士課程授業科目早期履修コース
本学の医学部4年～6年生を対象に、博士課程授業科目を早期履修できる。
申請時期:前期開始(3月10日まで)後期開始(9月10日まで)

■ATMプログラムの学年進行

通常の学年進行 → 医学部 1 2 3 4 5 6 → 卒後臨床研修 1 2 → 大学院博士課程 dc1 dc2 dc3 dc4 → 専門医

ATMプログラムなら 4年 → 大学院博士課程 dc1 dc2 dc3 dc4 → 専門医

ATMプログラムなら 4年 → 大学院博士課程 dc1 dc2 dc3 dc4 → 専門医

通常よりも2年早い博士号の取得が可能

■ATMプログラムの特長

- Point 1: 学位を卒業後最短4年間で取得できる(初期研修中は14条特例による履修)
- Point 2: 履修した博士課程共通科目を本研究科入学後に大学院単位として認定する
- Point 3: 1年目の授業料(半額)を優先的に免除する

博士号を活かした多彩な進路

- 大学: 基礎系/臨床系 助教→教授職
- 公的機関: 厚生労働省の官僚 国立研究所などの主任研究員
- 基幹病院: 指導的医師

(医学系研究科博士課程パンフレット 2015)

■ ATM プログラム履修者等の推移 (博士課程授業科目早期履修コース)

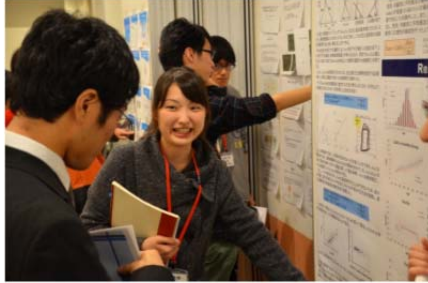
年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
ATM 履修者	2 名	5 名	11 名	5 名	3 名	2 名
ATM 利用の大学院入学者	—	—	—	—	1 名	3 名

平成 23 年度年度の履修者 2 名は 5 年生と 4 年生のため、最短での大学院入学はそれぞれ平成 27、28 年度 (5 年生…平成 24 年度卒業 → 平成 25～26 年度卒業臨床研修 → 平成 27 年度大学院入学) であり、ATM 履修者の中から大学院に入学するものが現れている。

(事務局資料)

資料 1-2-1-24 4 大学コンソーシアムリトリートにおける他大学学生との交流

研究に強い興味を持つ学生に対しては、平成 23 年度に開設された「MD 研究者養成コース四大学コンソーシアムリトリート」（京都大・滋賀医大・福井大・神戸大）への参加を呼びかけている。平成 26 年度は本学が主催し、本学学生 22 名が参加しており、口頭発表やポスター発表等により医学研究を通じた交流を行うとともに研究意欲の向上を図った。



■ 参加学生の声

- ・ リトリートに参加してよかったことは、自分の将来を臨床ではなく基礎研究に照準を定めている他大学の学生たちと話げできたことです。その多くの学生たちは実際に研究室に通って研究し、そこで得た結果をリトリートで発表していました。その姿を見て、非常に刺激を受けました。自分の将来の一つの選択肢として、基礎研究を具体的に考える時間を得ることができました。
- ・ リトリートが一番良かったところは、他大学の学生との交流だと思います。大学によって基礎配属などのカリキュラムやプログラムが異なることを知り、また自分の周りにはなかなかいない研究者志向の学生たちと話せたのは大きな出来事だったと思います。
- ・ 著名な先生方のご講演は最新の研究についてだけでなく、今後、研究者を目指す学生にとってのキャリアパスについてなど内容が多岐に渡っており、大変ためになりました。
- ・ リトリートで、たくさんの学生や先生方とお話する機会を頂き、発表する経験をさせてもらいました。私は計 3 回参加し、いい刺激と励みと出会いを頂き、ますます研究への興味が湧きました。

■ ポスター、プログラム



プログラム			
1日目			
11月29日	全体プログラム	参加者スケジュール	会場
12:00-12:45	受付	会場到着・ポスター貼付	
	開会式		BCDE室 (終日)
13:00-13:30	開会あいさつ 学生教員紹介 諸注意、伝達事項		
13:30-13:45	休憩	ポスター貼付・口頭発表準備	
13:45-14:02	学生口頭発表1 ■■■■ (京都大学2年)		
14:04-14:21	学生口頭発表2 ■■■■ (滋賀医科大学2年)		
14:23-14:40	学生口頭発表3 ■■■■ (京都大学3年)		
14:42-14:59	学生口頭発表4 ■■■■ (福井大学3年)		
14:59-15:10	休憩	ポスター貼付	
15:10-16:25	招待講演1 坂野 仁 先生 福井大学医学部 高次脳機能		
16:25-17:00	休憩	鍵の受け取り・荷物の移動	
17:00-17:35	ポスターセッション1		
17:40-18:15	ポスターセッション2		
18:15-18:30	休憩		
18:30-20:00	夕食	立食	
20:00-22:30	懇親会 (自由参加)		

(事務局資料)

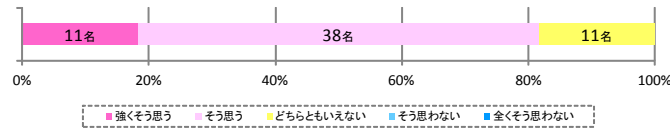
② 看護学科では研究に必要な知識・倫理等を学んだ上で卒業研究を実施し、研究への理解度が向上した（資料 1-2-1-25, P4-86 前掲資料 1-2-1-18）。

資料 1-2-1-25 研究に必要な知識・方法の修得（看護学科）

看護学科では研究に必要な基礎知識・方法の習得を強化するため、「看護研究方法論」を平成 23 年度から開講し、その能力を高めるとともに研究における倫理的配慮を学び、卒業研究を実施している。卒業研究において、附属病院入院患者等を対象に研究を行う場合は、原則として教職員対象に開催されている臨床研究講習会を受講し医学部倫理審査委員会の承認を得ることとしている。

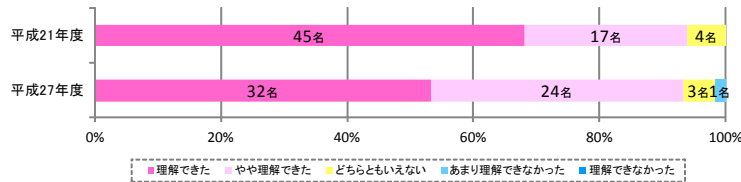
■ 「看護研究方法論」の学生による評価

設問_「看護研究方法論」の科目は、研究に必要な基礎知識・方法の修得を強化することを目的としています。そこで、あなたはこの能力を習得できたと思いますか？



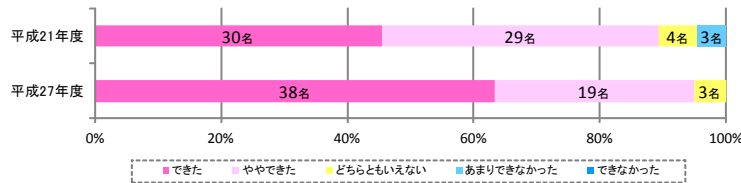
■ 「卒業研究」の学生による評価

設問_研究における倫理的配慮が理解できましたか



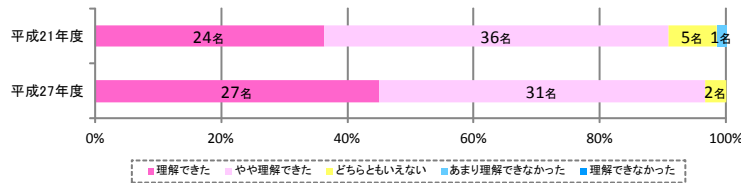
*第2期末では学生の評価（できた～やや理解できたとした割合）は、93.3%と第1期末と同程度の、高い水準を維持している。

設問_卒業研究に主体的に取り組むことができましたか



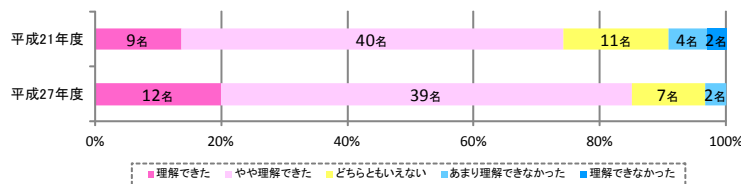
*第1期末と比較して、第2期末では学生の評価（できた～ややできたとした割合）は、5.6%向上している。

設問_卒業研究法（研究計画書の作成～論文作成までの一連のプロセス）は理解できましたか



*第1期末と比較して、第2期末では学生の評価（理解～やや理解できたとした割合）は、5.8%向上している。

設問_文献収集と批判的読解の方法が理解できましたか



*第1期末と比較して、第2期末では学生の評価（理解～やや理解できたとした割合）は、10.8%向上している。

（平成 27 年度「カリキュラム評価アンケート」、平成 21 年度および平成 27 年度「卒業研究についてのアンケート」結果より抜粋）

【IPE】

チーム医療を実現する基盤教育及び多職種チームで支える在宅医療・ケア実現にむけた本邦初の正式カリキュラムとして医学科と看護学科の合同講義（平成 28 年度より実習も加わる）により（資料 1-2-1-26），チーム医療への理解が深まっている（資料 1-2-1-27）。

資料 1-2-1-26 医学科・看護学科合同講義

■ シラバス

コミュニケーションとチーム医療

科目名	単位数又はコマ数	開 講 時 期	
コミュニケーションとチーム医療 (必修)	5コマ+実習2コマ 2コマ 4コマ	1年次生後期 3年次生前期 4年次生前期	
担当教員名	職名/所属	Eメールアドレス	オフィスアワー
守澤 秀一 講師(未定)	教授/地域医療推進講座	oshtera@fukui.ac.jp	常時応答但しアポイントメント必要
山内 高弘	教授/内科学 (1)	tyamochi@fukui.ac.jp	予約により随時(mail/2292)
石塚 全	教授/内科学 (3)	tamotsui@fukui.ac.jp	予約により随時(mail)
上野 栄一	教授/基礎看護学	eiichi@fukui.ac.jp	月曜日の午後1時～3時
宮田 博	教授/行動基盤科学	hiroyoshi@fukui.ac.jp	いつでも応答
山村 修	講師/地域医療推進講座	kapi@fukui.ac.jp	火曜日午前中

1 学習目標

1. 医療の現場におけるコミュニケーションの重要性を理解し、信頼関係の確立に役立つ能力を身につける。
2. 患者と医師の良好な関係を築くために、患者の個別的背景を理解し、問題点を把握する能力を身につける。
3. チーム医療の重要性を理解し、医療従事者との連携を図る能力を身につける。

2 授業の内容

1. 項目：早期学習コミュニケーション学（1年生で行う）
(中略)
2. 項目：中期学習コミュニケーション学（3年生で行う）

回	講義タイトル	内容、キーワード	担当講師・教員
1	現場におけるコミュニケーション①	医療面接学、患者心理、社会的背景、信頼関係	地域医療推進講座 守澤
2	現場におけるコミュニケーション②	同上	地域医療推進講座 北野

(中略)

4 到達目標

- 1) コミュニケーションの方法と技能（言語的と非言語的）を説明し、コミュニケーションが態度あるいは行動に及ぼす影響を概説できる。
- 2) コミュニケーションを通じて良好な人間関係を築くことができる。
- 3) 患者と家族の精神的・身体的苦痛に十分配慮できる。
- 4) 患者に分かりやすい言葉で対話できる。
- 5) カウンセリングの重要性を概説できる。
- 6) 患者の心理的および社会的背景を把握し、抱える問題点を抽出・整理できる。
- 7) 医療行為が患者と医師の契機的な信頼関係にもとづいていることを説明できる。
- 8) 患者の要望（治療・転院・紹介）への対応の仕方を説明できる。
- 9) 医療チームの構成や各構成員の役割、連携と責任体制について説明しチームの一員として参加できる。
- 10) 自分の能力の限界を認識し、他の医療従事者に必要に応じて援助を求めらるることができる。
- 11) 保健、医療、福祉と分業のチーム連携における医師の役割を説明できる。

(以下省略)

(2015 年度医学科授業要項)

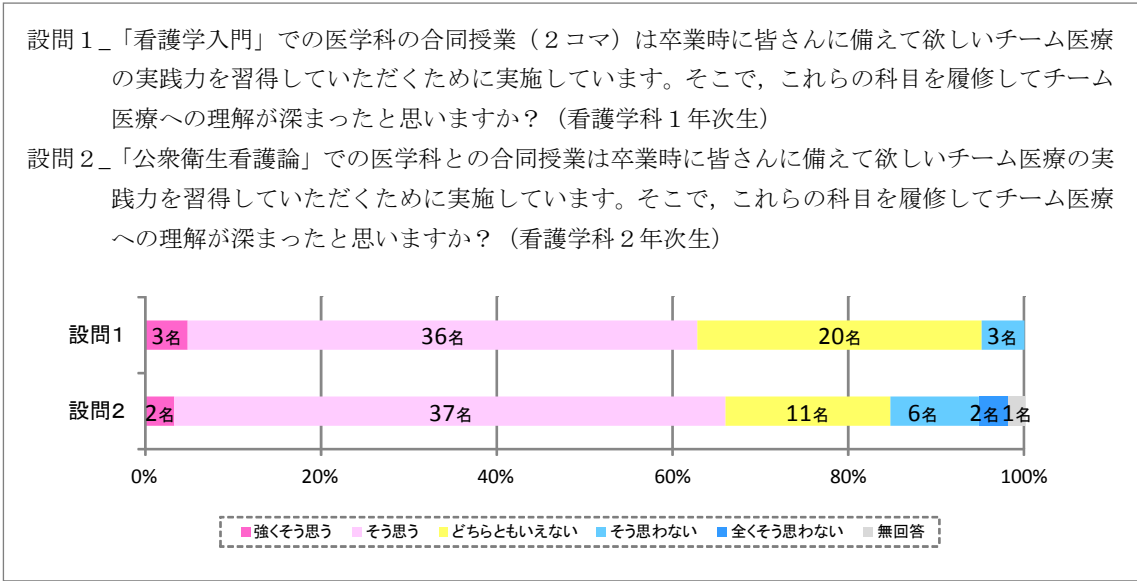
平成 26 年度より、看護学科 1 年次生「看護学入門」と医学科 3 年次生「コミュニケーションとチーム医療」、および看護学科 2 年次生「公衆衛生看護学概論」と医学科 2 年次生「地域医療学」において医看合同授業を行っている。

平成 28 年度より本邦初となる一連のカリキュラムとしての“医看合同実習”を実施する。そこでは医学科と看護学科学生がペア・チームを作り、予防接種、健康診断、外来・訪問診療、カンファレンス等を行う「地域ケア実習」を実施する予定となっている。



(事務局資料)

資料 1-2-1-27 医学科・看護学科合同講義に対する学生の評価



(平成 27 年度「カリキュラム評価アンケート」結果より抜粋)

● 社会のニーズに対応した教育課程の編成と実施上の工夫
 【社会ニーズを踏まえたプログラム等】

医学教育のグローバル化及び社会ニーズの変化に対応するため、医学科において教育実施体制(P4-4 前掲資料 1-1-1-1)を整備し医学教育分野別評価に対応したカリキュラムを新たに編成し、平成28年度より導入することとした(資料1-2-2-1)。

資料1-2-2-1 平成28年度医学科新カリキュラム

医 学 科 コ ア カ リ キ ュ ラ ム (案)

2016/4/1~	1年		2年		3年		4年		5年		6年	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
1	大学教育入門 情報処理基礎	総合教養Ⅰ～Ⅴ(第二外国語② 教養特別演習Ⅰ～Ⅲ(COC)② 生命倫理学Ⅰ・Ⅱ 医の倫理を含む)	医学英語Ⅰ 30	医学英語Ⅱ 30	医学英語Ⅲ 30	医学英語Ⅳ 30	耳鼻咽喉・口腔系 24	皮膚科 24	消化器 32	泌尿器 32	産婦人科 32	小児科 32
2			●生体と動物 24 ⇒ (84)	●生体と動物 24 ⇒ (84)	●生体と動物 24 ⇒ (84)	●生体と動物 24 ⇒ (84)	呼吸器 32	眼科 32	医学・医療と社会Ⅱ 52 【医学・倫理】	臨床検査学Ⅰ(40) 【左前OSCE対策】	臨床検査学Ⅱ(40) 【左前OSCE対策】	臨床検査学Ⅲ(40) 【左前OSCE対策】
3	英語Ⅰ(1)	英語Ⅱ(1)	●基礎と各臓器の機能、機能的基礎 24 ⇒ (92)	●基礎と各臓器の機能、機能的基礎 24 ⇒ (92)	●基礎と各臓器の機能、機能的基礎 24 ⇒ (92)	●基礎と各臓器の機能、機能的基礎 24 ⇒ (92)	心臓 32	神経系 32	臨床検査学Ⅳ(40) 【左前OSCE対策】	臨床検査学Ⅴ(40) 【左前OSCE対策】	臨床検査学Ⅵ(40) 【左前OSCE対策】	臨床検査学Ⅶ(40) 【左前OSCE対策】
4	英語Ⅰ(1)	英語Ⅱ(1)	●生体と動物 24 ⇒ (84)	●生体と動物 24 ⇒ (84)	●生体と動物 24 ⇒ (84)	●生体と動物 24 ⇒ (84)	消化器 32	泌尿器 32	臨床検査学Ⅷ(40) 【左前OSCE対策】	臨床検査学Ⅸ(40) 【左前OSCE対策】	臨床検査学Ⅹ(40) 【左前OSCE対策】	臨床検査学Ⅺ(40) 【左前OSCE対策】
5	英語Ⅰ(1)	英語Ⅱ(1)	●基礎と各臓器の機能、機能的基礎 24 ⇒ (92)	●基礎と各臓器の機能、機能的基礎 24 ⇒ (92)	●基礎と各臓器の機能、機能的基礎 24 ⇒ (92)	●基礎と各臓器の機能、機能的基礎 24 ⇒ (92)	呼吸器 32	神経系 32	臨床検査学Ⅻ(40) 【左前OSCE対策】	臨床検査学Ⅼ(40) 【左前OSCE対策】	臨床検査学Ⅽ(40) 【左前OSCE対策】	臨床検査学Ⅾ(40) 【左前OSCE対策】
6	保健体育②	保健体育③	●生体と動物 24 ⇒ (84)	●生体と動物 24 ⇒ (84)	●生体と動物 24 ⇒ (84)	●生体と動物 24 ⇒ (84)	消化器 32	泌尿器 32	臨床検査学Ⅿ(40) 【左前OSCE対策】	臨床検査学ⅰ(40) 【左前OSCE対策】	臨床検査学ⅱ(40) 【左前OSCE対策】	臨床検査学ⅲ(40) 【左前OSCE対策】
7	医学入門(40)	健康科学(30)	●基礎と各臓器の機能、機能的基礎 24 ⇒ (92)	●基礎と各臓器の機能、機能的基礎 24 ⇒ (92)	●基礎と各臓器の機能、機能的基礎 24 ⇒ (92)	●基礎と各臓器の機能、機能的基礎 24 ⇒ (92)	呼吸器 32	神経系 32	臨床検査学ⅴ(40) 【左前OSCE対策】	臨床検査学ⅵ(40) 【左前OSCE対策】	臨床検査学ⅶ(40) 【左前OSCE対策】	臨床検査学ⅷ(40) 【左前OSCE対策】
8	新卒のための新卒者入門(24)	遺伝と遺伝子 24 ⇒ (88)	●基礎と各臓器の機能、機能的基礎 24 ⇒ (92)	●基礎と各臓器の機能、機能的基礎 24 ⇒ (92)	●基礎と各臓器の機能、機能的基礎 24 ⇒ (92)	●基礎と各臓器の機能、機能的基礎 24 ⇒ (92)	呼吸器 32	神経系 32	臨床検査学ⅸ(40) 【左前OSCE対策】	臨床検査学ⅹ(40) 【左前OSCE対策】	臨床検査学ⅺ(40) 【左前OSCE対策】	臨床検査学ⅻ(40) 【左前OSCE対策】
9	物理現象と物質の科学(14)	生物物質の代謝 24 ⇒ (88)	●基礎と各臓器の機能、機能的基礎 24 ⇒ (92)	●基礎と各臓器の機能、機能的基礎 24 ⇒ (92)	●基礎と各臓器の機能、機能的基礎 24 ⇒ (92)	●基礎と各臓器の機能、機能的基礎 24 ⇒ (92)	呼吸器 32	神経系 32	臨床検査学ⅼ(40) 【左前OSCE対策】	臨床検査学ⅽ(40) 【左前OSCE対策】	臨床検査学ⅾ(40) 【左前OSCE対策】	臨床検査学ⅿ(40) 【左前OSCE対策】
10		生物物質の代謝 24 ⇒ (88)	●基礎と各臓器の機能、機能的基礎 24 ⇒ (92)	●基礎と各臓器の機能、機能的基礎 24 ⇒ (92)	●基礎と各臓器の機能、機能的基礎 24 ⇒ (92)	●基礎と各臓器の機能、機能的基礎 24 ⇒ (92)	呼吸器 32	神経系 32	臨床検査学ⅿ(40) 【左前OSCE対策】	臨床検査学ⅿ(40) 【左前OSCE対策】	臨床検査学ⅿ(40) 【左前OSCE対策】	臨床検査学ⅿ(40) 【左前OSCE対策】
11		生物物質の代謝 24 ⇒ (88)	●基礎と各臓器の機能、機能的基礎 24 ⇒ (92)	●基礎と各臓器の機能、機能的基礎 24 ⇒ (92)	●基礎と各臓器の機能、機能的基礎 24 ⇒ (92)	●基礎と各臓器の機能、機能的基礎 24 ⇒ (92)	呼吸器 32	神経系 32	臨床検査学ⅿ(40) 【左前OSCE対策】	臨床検査学ⅿ(40) 【左前OSCE対策】	臨床検査学ⅿ(40) 【左前OSCE対策】	臨床検査学ⅿ(40) 【左前OSCE対策】
12		生物物質の代謝 24 ⇒ (88)	●基礎と各臓器の機能、機能的基礎 24 ⇒ (92)	●基礎と各臓器の機能、機能的基礎 24 ⇒ (92)	●基礎と各臓器の機能、機能的基礎 24 ⇒ (92)	●基礎と各臓器の機能、機能的基礎 24 ⇒ (92)	呼吸器 32	神経系 32	臨床検査学ⅿ(40) 【左前OSCE対策】	臨床検査学ⅿ(40) 【左前OSCE対策】	臨床検査学ⅿ(40) 【左前OSCE対策】	臨床検査学ⅿ(40) 【左前OSCE対策】
13		生物物質の代謝 24 ⇒ (88)	●基礎と各臓器の機能、機能的基礎 24 ⇒ (92)	●基礎と各臓器の機能、機能的基礎 24 ⇒ (92)	●基礎と各臓器の機能、機能的基礎 24 ⇒ (92)	●基礎と各臓器の機能、機能的基礎 24 ⇒ (92)	呼吸器 32	神経系 32	臨床検査学ⅿ(40) 【左前OSCE対策】	臨床検査学ⅿ(40) 【左前OSCE対策】	臨床検査学ⅿ(40) 【左前OSCE対策】	臨床検査学ⅿ(40) 【左前OSCE対策】
14	生命現象の科学Ⅰ 物質分子レベル(40)	生命現象の科学Ⅱ 細胞レベル(56)	●基礎と各臓器の機能、機能的基礎 24 ⇒ (92)	●基礎と各臓器の機能、機能的基礎 24 ⇒ (92)	●基礎と各臓器の機能、機能的基礎 24 ⇒ (92)	●基礎と各臓器の機能、機能的基礎 24 ⇒ (92)	呼吸器 32	神経系 32	臨床検査学ⅿ(40) 【左前OSCE対策】	臨床検査学ⅿ(40) 【左前OSCE対策】	臨床検査学ⅿ(40) 【左前OSCE対策】	臨床検査学ⅿ(40) 【左前OSCE対策】
15		生命現象の科学Ⅱ 細胞レベル(56)	●基礎と各臓器の機能、機能的基礎 24 ⇒ (92)	●基礎と各臓器の機能、機能的基礎 24 ⇒ (92)	●基礎と各臓器の機能、機能的基礎 24 ⇒ (92)	●基礎と各臓器の機能、機能的基礎 24 ⇒ (92)	呼吸器 32	神経系 32	臨床検査学ⅿ(40) 【左前OSCE対策】	臨床検査学ⅿ(40) 【左前OSCE対策】	臨床検査学ⅿ(40) 【左前OSCE対策】	臨床検査学ⅿ(40) 【左前OSCE対策】
16	数学基礎(30)	人体解剖学Ⅰ(基礎) 32	●基礎と各臓器の機能、機能的基礎 24 ⇒ (92)	●基礎と各臓器の機能、機能的基礎 24 ⇒ (92)	●基礎と各臓器の機能、機能的基礎 24 ⇒ (92)	●基礎と各臓器の機能、機能的基礎 24 ⇒ (92)	呼吸器 32	神経系 32	臨床検査学ⅿ(40) 【左前OSCE対策】	臨床検査学ⅿ(40) 【左前OSCE対策】	臨床検査学ⅿ(40) 【左前OSCE対策】	臨床検査学ⅿ(40) 【左前OSCE対策】
17	地域医療学(30)	人体解剖学Ⅱ(実習) 32	●基礎と各臓器の機能、機能的基礎 24 ⇒ (92)	●基礎と各臓器の機能、機能的基礎 24 ⇒ (92)	●基礎と各臓器の機能、機能的基礎 24 ⇒ (92)	●基礎と各臓器の機能、機能的基礎 24 ⇒ (92)	呼吸器 32	神経系 32	臨床検査学ⅿ(40) 【左前OSCE対策】	臨床検査学ⅿ(40) 【左前OSCE対策】	臨床検査学ⅿ(40) 【左前OSCE対策】	臨床検査学ⅿ(40) 【左前OSCE対策】
18	地域医療学(30)	人体解剖学Ⅲ(実習) 32	●基礎と各臓器の機能、機能的基礎 24 ⇒ (92)	●基礎と各臓器の機能、機能的基礎 24 ⇒ (92)	●基礎と各臓器の機能、機能的基礎 24 ⇒ (92)	●基礎と各臓器の機能、機能的基礎 24 ⇒ (92)	呼吸器 32	神経系 32	臨床検査学ⅿ(40) 【左前OSCE対策】	臨床検査学ⅿ(40) 【左前OSCE対策】	臨床検査学ⅿ(40) 【左前OSCE対策】	臨床検査学ⅿ(40) 【左前OSCE対策】
19		人体解剖学Ⅳ(実習) 32	●基礎と各臓器の機能、機能的基礎 24 ⇒ (92)	●基礎と各臓器の機能、機能的基礎 24 ⇒ (92)	●基礎と各臓器の機能、機能的基礎 24 ⇒ (92)	●基礎と各臓器の機能、機能的基礎 24 ⇒ (92)	呼吸器 32	神経系 32	臨床検査学ⅿ(40) 【左前OSCE対策】	臨床検査学ⅿ(40) 【左前OSCE対策】	臨床検査学ⅿ(40) 【左前OSCE対策】	臨床検査学ⅿ(40) 【左前OSCE対策】
20		人体解剖学Ⅴ(実習) 32	●基礎と各臓器の機能、機能的基礎 24 ⇒ (92)	●基礎と各臓器の機能、機能的基礎 24 ⇒ (92)	●基礎と各臓器の機能、機能的基礎 24 ⇒ (92)	●基礎と各臓器の機能、機能的基礎 24 ⇒ (92)	呼吸器 32	神経系 32	臨床検査学ⅿ(40) 【左前OSCE対策】	臨床検査学ⅿ(40) 【左前OSCE対策】	臨床検査学ⅿ(40) 【左前OSCE対策】	臨床検査学ⅿ(40) 【左前OSCE対策】
21		人体解剖学Ⅵ(実習) 32	●基礎と各臓器の機能、機能的基礎 24 ⇒ (92)	●基礎と各臓器の機能、機能的基礎 24 ⇒ (92)	●基礎と各臓器の機能、機能的基礎 24 ⇒ (92)	●基礎と各臓器の機能、機能的基礎 24 ⇒ (92)	呼吸器 32	神経系 32	臨床検査学ⅿ(40) 【左前OSCE対策】	臨床検査学ⅿ(40) 【左前OSCE対策】	臨床検査学ⅿ(40) 【左前OSCE対策】	臨床検査学ⅿ(40) 【左前OSCE対策】
22		人体解剖学Ⅶ(実習) 32	●基礎と各臓器の機能、機能的基礎 24 ⇒ (92)	●基礎と各臓器の機能、機能的基礎 24 ⇒ (92)	●基礎と各臓器の機能、機能的基礎 24 ⇒ (92)	●基礎と各臓器の機能、機能的基礎 24 ⇒ (92)	呼吸器 32	神経系 32	臨床検査学ⅿ(40) 【左前OSCE対策】	臨床検査学ⅿ(40) 【左前OSCE対策】	臨床検査学ⅿ(40) 【左前OSCE対策】	臨床検査学ⅿ(40) 【左前OSCE対策】
23		人体解剖学Ⅷ(実習) 32	●基礎と各臓器の機能、機能的基礎 24 ⇒ (92)	●基礎と各臓器の機能、機能的基礎 24 ⇒ (92)	●基礎と各臓器の機能、機能的基礎 24 ⇒ (92)	●基礎と各臓器の機能、機能的基礎 24 ⇒ (92)	呼吸器 32	神経系 32	臨床検査学ⅿ(40) 【左前OSCE対策】	臨床検査学ⅿ(40) 【左前OSCE対策】	臨床検査学ⅿ(40) 【左前OSCE対策】	臨床検査学ⅿ(40) 【左前OSCE対策】
24		人体解剖学Ⅸ(実習) 32	●基礎と各臓器の機能、機能的基礎 24 ⇒ (92)	●基礎と各臓器の機能、機能的基礎 24 ⇒ (92)	●基礎と各臓器の機能、機能的基礎 24 ⇒ (92)	●基礎と各臓器の機能、機能的基礎 24 ⇒ (92)	呼吸器 32	神経系 32	臨床検査学ⅿ(40) 【左前OSCE対策】	臨床検査学ⅿ(40) 【左前OSCE対策】	臨床検査学ⅿ(40) 【左前OSCE対策】	臨床検査学ⅿ(40) 【左前OSCE対策】
25		人体解剖学Ⅹ(実習) 32	●基礎と各臓器の機能、機能的基礎 24 ⇒ (92)	●基礎と各臓器の機能、機能的基礎 24 ⇒ (92)	●基礎と各臓器の機能、機能的基礎 24 ⇒ (92)	●基礎と各臓器の機能、機能的基礎 24 ⇒ (92)	呼吸器 32	神経系 32	臨床検査学ⅿ(40) 【左前OSCE対策】	臨床検査学ⅿ(40) 【左前OSCE対策】	臨床検査学ⅿ(40) 【左前OSCE対策】	臨床検査学ⅿ(40) 【左前OSCE対策】

教養教育科目の○付数字は単位数 専門科目名横の()内数字は時間数を表す ●は既存カリキュラムで学生編入学生が修得すべき基礎医科学科目 *は福井健康推進科学生のみ
 教養教育科目 医学導入 準備教育 A項目 B項目 C項目 D項目 E項目 F項目 地域医療学 チューリアル 医学部開設科目

■ 医学科新カリキュラムの特徴

1. 講義時間の削減による自学自修時間を確保する
2. 診療参加型臨床実習の時間を延長する
3. 共通教養教育を1～2年次にわたり受講可能とし、大学教育入門セミナーや地域コア科目(COC関連科目)を新設する
4. メディカルプロフェッショナリズムをプログラム化する
5. 基礎医科学を1年次からの開講し、早期より医学専門課程に触れ自学自修を習慣づける
6. 医科学研究研修に1年次から参加可能とし、研究への興味ある学生の研究マインド涵養に努める
7. 卒業試験の統合化と卒業時OSCE(post CC OSCE)の実施により、卒業時能力の判定と医学教育の成果判定を行う

(事務局資料)

【地域医療の教育】

- ① 医学科において地域医療人育成プログラムを構築し（資料 1-2-2-2），地域医療講義・実習やテュートリアル課題（資料 1-2-2-3, 4），福井県内診療施設での診療実習（資料 1-2-2-5）を実施している。これらにより学生は地域医療へ理解を深めている。

資料 1-2-2-2 地域医療人育成プログラムの概要（医学科）




■ 医学科					
入学者の選抜	アドミッション・ポリシーに基づいた選抜 （教育理念・目標） ・医学・看護学の進展、ならびに地域医療の向上に寄与する （求める学生像） ・医学・医療を通じて広く社会に貢献しようとする強い情熱と意欲を持った人／・医師として地域医療に貢献したい人				
入学者に対する教育	カリキュラム・ポリシーに基づいた意欲・知識・技能等の育成 ・個人と地域・国際社会との健康増進と疾病の予防・根絶に寄与し、国際的な視野でまたは地域に根ざした活動ができる人材の育成				
	学年	主な必修科目	主な選択科目	研修	主な地域医療への意欲ある学生に対する支援
	1年次	入門テュートリアル(地域医療課題)	—	福井県学生地域夏季研修 福井県医師確保修学資金 奨学生交流会	奨学金(嶺南医療振興財団 医学生奨学金／福井県 医師確保修学資金) ※ 推薦入試(地域枠・福井健康推進枠)入学者対象
	2年次	地域医療学	—		
	3年次	—	地域医療学実習		
	4年次	地域医療学、医学医療と社会1～2	—		
	5年次	臨床実習	—		
	6年次	臨床実習	—		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 入門テュートリアル: 地域医療に関する課題をもとにテュートリアル形式で自己学修およびグループ学修をすすめ、終了時に発表会を実施する。平成 23 年度より実施している。 ・ 地域医療学: 地域医療の在り方と現状および課題を理解し、地域医療に貢献するための能力を身につける講義とワークショップにより進められる。平成 22 年度より実施している。 ・ 地域医療学実習: 大学の総合診療部、地域中核病院、診療所におけるそれぞれの地域医療に果たす役割と連携、問題点を実習において学修する。 ・ 医学医療と社会: 医師やその他の公衆衛生従事者の働く地域の現場における課題を実習において学修する。 ・ 臨床実習: 福井県内を中心とした地域中核病院や診療所での実習と地域医療に関与する医師等による臨床講義において地域医療について学修する。 					
■ 「ふくい地域創生士」としての認定 平成 27 年度採択の地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）において、地域医療科目を履修したものは「ふくい地域創生士」（地域を志向し、課題解決能力を身につけ、地域に貢献できる可能性のある人材）として申請できる。					
■ 地域医療人としての卒業生輩出状況（P4-170 後掲資料 2-2-1-3） 医学科卒業生の福井県内医療機関就職動向を見ると、 <u>県内就職率が向上（第 1 期平均 33.1%から第 2 期平均 35.1%）</u> しており、 <u>第 2 期期間中の県内就職者数は 203 名（第 1 期期間中は 188 名）と増加</u> しており、地域医療人育成プログラムの効果が現れている。					

（事務局資料）

資料 1-2-2-3 入門テュートリアル「地域医療」(1年次)

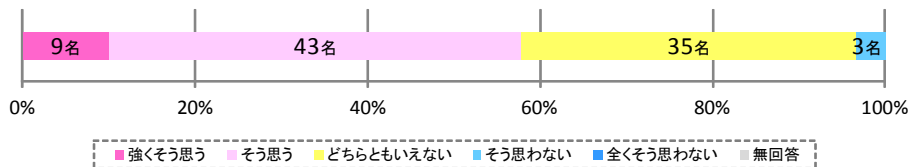
平成 23 年度より入門テュートリアル(1年次生)の1課題として地域医療に直結するテーマを地域医療推進講座の担当により実施している。地方小病院や診療所における医療の問題点や家族問題を含んだ課題に取り組むことにより、過半の学生は初年度において地域医療への理解を深めることができたと答えている。

■ テュートリアル課題例(地域医療推進講座担当:平成27年度テーマより一部抜粋)

<p>平成27年度 医学科1年生 入門テュートリアル事例</p> <p style="text-align: center;">「まちで暮らしたい」</p> 	<p>海野ふね様 80歳女性</p>  <p>【既往歴】特記すべき事項なし 病院にほとんどかかったことなし</p> <p>【家族歴】特記すべき事項なし</p> <ul style="list-style-type: none"> 22歳で町内から婿をもらいました。二人の子の子育てを懸命にし、仕事の忙しい夫を支え、両親の介護もしてきました。現在は、昔から続けている畑仕事が趣味で、それ以外に楽しみはないそうです。性格は自他共に認める頑固者。病気は気のものという考えで、入院はしたくないと考えていたそうです。家で畑仕事さえできれば何も文句ない、と近所の人に話していたそうです。
<p>安浜町の医療資源</p>  <ul style="list-style-type: none"> 町内に小さな社会保険病院1(急性期40床+療養型50床、Dr4名)、無床開業診療所2(Dr1名ずつ)。病院の療養型病床には社会的入院が多い。診療所のうち1つは訪問診療も可能だが、Dr1名のため受入れに限界がある。 訪問看護ステーション1、訪問リハビリステーション1。どちらも余力はない状態。 調剤薬局3。訪問薬剤指導はできていない。 	<p>経過-1</p> <ul style="list-style-type: none"> 入院後集中治療室にて慎重に輸液などの治療を実施し、意識は回復した。 全身を検査するも特に異常を指摘できず、熱中症による意識障害が考えられた。 MMSE(Mini-Mental State Examination): 10点、アルツハイマー型認知症と診断 体調が良くなると、家に帰ると言って病棟を抜け出す、虫が襲ってくると言って叫ぶ、同室の患者を殴るなどのトラブルが多発し、息子の了解を得て自宅退院となった。

■ 入門テュートリアルに対する学生の評価(1年次生・平成27年度カリキュラム評価アンケート)

設問_「入門テュートリアル」の課題は皆さんに備えてほしい地域医療の実践力を習得していただくために実施しています。そこで、この科目を履修して地域医療への理解が深まったと思えますか?



■ 学生の評価(平成27年度入門テュートリアル学生アンケートより一部抜粋)

- この課題があつて嬉しかったです。この課題の発表により、少しでも福井で医療者として残る人が増えてほしいと思います。
- 福井健康推進枠(注:医学科推薦入試)なので、課題としては取り組みやすかつたし、医学的知識を学んでいく前に医療システムや概念について知ることができて良かった。
- どの方向へ学修を進めていくか難しかったが、将来深くかかわる重要な内容だったと思う。
- 課題1とは異なり、ある1人の老人に焦点を当てた課題で、より医学的あるいは保健介護的なものだったと思います。
- 地域医療について、全く興味がなかったけど調べてみるうちにちょっと興味を持てるようになりました。
- 地域医療について考えるいい機会だった。これを機に福井の医療について調べてみたいと思った。

(事務局資料)

資料 1-2-2-4 地域医療学講義（2 年次および 4 年次）

平成 22 年度より、地域医療学は 2 年次及び 4 年次において「地域医療の在り方と現状及び課題を理解し、地域医療に貢献するための能力を身につける」ことを目標に地域医療推進講座、地域プライマリケア講座および地域診療所医師の担当により開講している。過半の履修学生は地域医療への理解を深めたとしている。

■ 地域医療学シラバス（平成 27 年度）

地域医療学

科目名		単位数又はコマ数	開講時期	
地域医療学 (必修)		8 コマ	2 年次生 4 年次生	前期 (4 コマ) 後期 (4 コマ)
担当教員名	職名/所属	E メールアドレス		オフィスアワー
寺澤 秀一	教授/地域医療推進講座	qqhtera@u-fukui.ac.jp		いつでも歓迎。ただし、事前にアポイントメント必要。
許 智栄	助教/総合診療部	ikai@u-fukui.ac.jp		
井階 友貴	講師/地域プライマリケア講座			
紅谷 浩之	院長/在宅医療センター			
山本 安奈	医師/在宅医療センター			

1 学修目標
地域医療の在り方と現状および課題を理解し、地域医療に貢献するための能力を身につける。

2 授業の内容と到達目標

1. 地域医療の現場で求められる能力
到達目標：
1) 総合医の診療範囲を説明できる。
2) 地域の医療現場で求められる臨床能力について理解する。
3) 地域の医療現場で求められる教育・啓発能力について理解する。
4) 家庭医療学の基礎を理解する。
5) 地域における在宅医療、学校保健の体制、保健・福祉との連携を理解する。

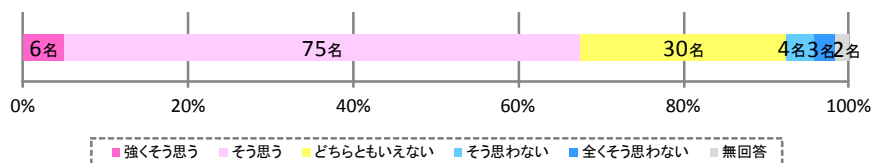
2. 地域医療の現状と課題
到達目標：
1) 県内外の地域医療の現場を理解する。
2) 地域における医療の需要供給システムについて理解する。
3) 地域医療の問題点および解決への取り組みを理解する。

3. 理想の地域医療
到達目標：
1) 地域における住民—行政—医療者の連携を説明できる。
2) 全国の住民運動や政策を理解する。
3) 持続可能な地域医療システムについて説明できる。

回	講義タイトル	内容、キーワード	担当講座・教官
1	総合医と地域医療	地域での総合内科医と家庭医の臨床	寺澤, 山本, 井階, 紅谷
2	地域医療システム学	地域での医師・医療者確保、地域医療教育	寺澤, 山本, 井階, 紅谷
3	家庭医療学入門	患者中心の医療、家族志向型・地域包括ケア	寺澤, 山本, 井階, 紅谷
4	在宅医療学入門	在宅療養の実態と医療福祉システム	寺澤, 山本, 井階, 紅谷
5	地域医療の現状と課題 1	地域医療の具体例の紹介と全国の地域医療問題	寺澤, 許, 井階, 紅谷
6	地域医療の現状と課題 2	地域医療の現状と課題を考えるワークショップ	寺澤, 許, 井階, 紅谷
7	理想の地域医療 1	全国の住民運動、行政施策と地域医療	寺澤, 許, 井階, 紅谷
8	理想の地域医療 2	住民—行政—医療者連携を考えるワークショップ	寺澤, 許, 井階, 紅谷

■ 地域医療学に対する学生の評価（4 年次生・平成 27 年度カリキュラム評価アンケート）

設問_「地域医療学」は卒業時に皆さんに備えてほしい地域医療の実践力を習得していただくために実施しています。そこで、この科目を履修して地域医療への理解が深まったと思いますか？



(事務局資料)

資料 1-2-2-5 地域医療に関する臨床実習

臨床実習において、地域基幹病院および診療所での実習を実施している。5年次においては、総合診療部の実習の一環として、地域の診療施設で外来診療、予防接種や健康診断、介護・福祉に関わる多職種との実習などを福井県内9施設（平成27年度）において実施している。6年次においては県内外の病院診療所等（P4-13 前掲資料 1-1-1-9）での実習を行い、学生は概ね地域医療への理解を深めたとしている。

■ 臨床実習の手引き（総合診療部）（平成27年度）

総合診療部

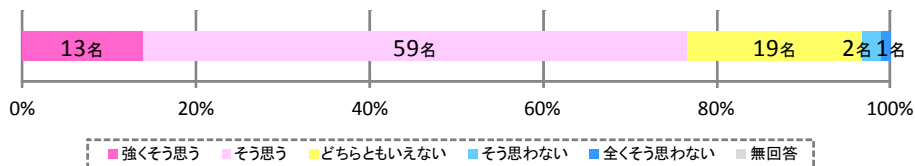
1	集合時刻	(1) 次頁に記載（各施設ごと確認）
2	集合場所	(1) 各施設ごと確認して下さい
3	実習内容	(1) 大学の総合診療部と地域の診療施設で外来診療を行う (2) 予防接種や健康診断、介護・福祉に関わる多職種の人と体験実習する (3) 患者のプロブレムリストを上げてプレゼンテーションする
4	到達目標	(1) プライマリ・ケアの視点に立った患者へのアプローチによる患者情報の取得 (2) 得られた患者情報を医学・心理・社会的側面から整理しプロブレムリストをあげてプレゼンテーションを行う (3) 患者の多種多様な問題点を理解し、その対応における他職種の役割を理解する (4) プライマリ・ケアにおけるスクリーニング・予防接種を理解する
5	実習上の注意	(1) よりよい実習にするために事前に資料を勉強していただきます。事前学習のための資料を、実習開始1週間前までに医学教育第一係に取りに来てください。 (2) 研修先医療機関ごとに独自のプログラムを用意しています。指導医と協議の上内容・編成可能です。 (3) 月曜日が祝祭日である場合、火曜日から実習開始となります。実習開始時間の変更がある場合には前もって連絡が入りますので必ず確認して下さい。 (4) 臨床実習出席簿は「臨床実習の手引」とともに配布された指定用紙を各自コピーして使用、 必ず印鑑 をもらって実習終了後2週間以内に救急部・総合診療部医局（研究棟1階）に提出して下さい。 (5) 欠席・遅刻の際は各自で実習先ならびに医学教育第一係に連絡を入れてください。
6	その他	移動時や実習時の事故などには十分注意すること、万が一事故が発生した場合は直ちに大学実習担当医学教育第一係に連絡を入れてください。 学外では「学生さん」という扱いではなく、 社会人 としての対応を求められています。遅刻は厳禁です。指導医に礼儀正しくするのはもちろんのことですが、スタッフや患者さんにも礼儀正しく、積極的に参加するようにしましょう。服装もTPOをわきまえた格好にしてください。撮影や録音、記録についてはまず教員や当事者の了解を得ましょう。

【総合診療部実習予定表】 事前に資料を学習していきましょう

1週目	2週目
大学	院外施設
院外施設	大学

■ 地域医療実習に対する学生の評価（6年次生・平成27年度カリキュラム評価アンケート）

設問_「臨床実習（地域医療実習）」は卒業時に皆さんに備えてほしい地域医療の実践力を習得していただくために実施しています。そこで、この科目等を履修して地域医療への理解が深まったと思いますか？



(事務局資料)

- ② 地域医療推進講座や福井県等による「福井県学生地域夏期研修」「福井県医師確保修学資金奨学生交流会」を開催し、参加学生の地域医療への意欲向上が見られる（資料 1-2-2-6）。

資料 1-2-2-6 地域医療へ参加を促す取組（医学科）

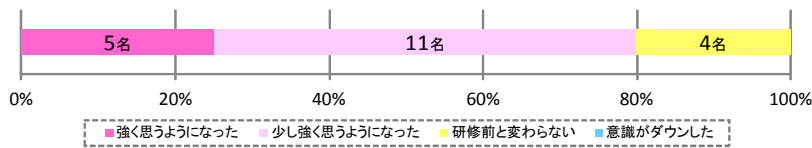
■ 福井県学生地域夏季研修

学生の段階から県内のへき地医療を体験し、相互の交流を深め、学生の地域医療に対する理解、モチベーションの向上を図る目的で、将来、福井県内の医療機関で勤務する可能性の高い本学学生（嶺南医療振興財団医学生奨学金受給者、福井県医師確保修学資金受給者）を中心に他大学学生も加わった一泊二日の研修会を毎年開催している。福井県の嶺南地区や丹南地区といった医療過疎地域の病院・診療所見学の他、2日目には地域医療を担う先輩医師との意見交換会などを行い、参加学生の多くが地域医療への従事意欲を高くしている。

年度	研修地域	学生所属大学	3年次生	4年次生	5年次生	(計)
H23年度 (第1回)	福井県嶺南地区 5医療機関 (和田診療所、名田庄診療所、丹生診療所、公立小浜病院)	福井大学	11名	4名	2名	17名
		自治医科大学	2名	2名	2名	6名
		(計)	(13名)	(6名)	(4名)	(23名)
H24年度 (第2回)	福井県嶺南地区 7医療機関 (和田診療所、名田庄診療所、丹生診療所、東部診療所、公立小浜病院、市立敦賀病院、国立福井病院)	福井大学	8名	8名	3名	19名
		自治医科大学	2名	2名	2名	6名
		金沢大学	1名	0名	0名	1名
		(計)	(11名)	(10名)	(5名)	(26名)
H25年度 (第3回)	福井県敦賀・丹南地区 7医療機関 (市立敦賀病院、国立福井病院、公立丹南病院、織田病院、池田診療所、今庄診療所、河野診療所)	福井大学	5名	9名	5名	19名
		自治医科大学	2名	0名	2名	4名
		金沢大学	1名	1名	0名	2名
		信州大学	1名	0名	0名	1名
		(計)	(9名)	(10名)	(7名)	(26名)
H26年度 (第4回)	福井県嶺南地区 8医療機関 (和田診療所、名田庄診療所、丹生診療所、東部診療所、公立小浜病院、市立敦賀病院、国立福井病院、なごみ診療所)	福井大学	8名	6名	8名	22名
		自治医科大学	2名	2名	2名	6名
		金沢大学	0名	1名	1名	2名
		(計)	(10名)	(9名)	(11名)	(30名)
H27年度 (第5回)	福井県敦賀・丹南地区 7医療機関 (市立敦賀病院、敦賀医療センター、公立丹南病院、織田病院、池田診療所、今庄診療所、河野診療所)	福井大学	9名	7名	0名	16名
		自治医科大学	0名	3名	0名	3名
		金沢大学	0名	0名	1名	1名
		信州大学	0名	0名	1名	1名
		東京女子医科大学	1名	0名	0名	1名
		(計)	(10名)	(10名)	(2名)	(22名)
合計			53名	45名	29名	127名

■ 「福井県学生地域夏季研修」参加者アンケート（平成 27 年度）

設問_この研修に参加しての「地域医療に従事しようとする意思」の変化についてお聞きます。



■ 福井県医師確保修学資金奨学生交流会

卒業後、福井県内で医師となることを目指す推薦入試入学者（福井健康推進枠）に対し、目標の同じ者同士が学年の枠を超えて交流を深めるとともに、卒業生との意見交換等によって修学や進路に関する諸問題の解消やモチベーションの向上を図ることを目的に、平成 25 年度より年 2 回の交流会を学内において開催し、毎回 40～50 名の学生が参加している。

■ 平成 27 年福井県医師確保修学資金奨学生交流会プログラム

	【春】平成27年4月27日(月)	【秋】平成27年10月27日(火)
場所	臨床教育研修センター	福井メディカルシミュレーションセンター
プログラム	● セミナー 「学生時代をどう過ごすか」 地域医療推進講座: 教授 寺澤秀一 ● グループワーク 「医師不足とは何か? - 有効な対処法はどのようなものがあるか - 」	● パネルディスカッション 「地域医療を目指して」 パネリスト: 公立小浜病院: 医師 新谷万智子 (H26年度卒業生) 市立敦賀病院: 医師 木村真規子 (H24年度卒業生) 福井勝山総合病院: 医師 結城智仁
参加者	本学学生 48名	本学学生 46名

(事務局資料)

- ③ 看護学科では地域医療教育（資料 1-2-2-7）及び大学独自の奨学金制度（P4-24 前掲資料 1-1-1-23）により，地域医療に従事する卒業生が多数であり（P4-170 後掲資料 2-2-1-3, P4-171 2-2-1-4），関係者の期待に込めている。

資料 1-2-2-7 看護学科における地域医療教育

入学者の選抜	アドミッション・ポリシーに基づいた選抜 (教育理念・目標) ・医学・看護学の進展、ならびに地域医療の向上に寄与する			
入学者に対する教育	学部教育の目的(カリキュラム・ポリシー)に基づいた意欲・知識・技能等の育成 ・人間理解と倫理性を基盤とし、豊かな人間性と創造性を備え、高度な知識と技術をもち患者中心の看護を実践できる看護専門職および将来看護の分野で指導的役割を担うことができる人材を育成し、地域の保健医療の向上に貢献するとともに、看護学の発展につながる看護学研究を推進することを目的とする。			
	学年	主な必修科目	主な選択科目	研修
	1年次	—	環境科学論	—
	2年次	公衆衛生看護学概論、在宅看護論、健康管理論	—	
	3年次	災害看護論、臨地実習	公衆衛生看護展開論 I・II、公衆衛生看護管理論	
4年次	臨地実習、卒業研究	—		
				主な地域医療への意欲ある学生に対する支援
				—
				—
				奨学金(福井大学看護学科奨学金)

■ アドバンスト実習（単位外）

平成 26 年度より卒業研究の中で地域看護学領域配属学生が、福井健康推進枠の医学科学生と福井県内の今庄診療所とオレンジホームケアクリニックにて医看合同実習を行っている。大学病院と地域の診療所・クリニックとの役割の違い，地域医療の必要性，課題，看護職の役割等を学生が学び，好評を得ている。

○ アドバンスト実習学生の声

- ・大学病院と地域の診療所，それぞれの役割・機能の違いが理解できた。
- ・地域の診療所はサロンのような憩いの場であり，患者の生活をより深く考えた上で対応できる。
- ・医師と看護師，それぞれの専門性を発揮し補うことで連携ができること，また連携できる関係性の必要性について理解できた。

■ 「ふくい地域創生士」としての認定

平成 27 年度採択の地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）において，地域医療科目を履修したものは「ふくい地域創生士」（地域を志向し，課題解決能力を身につけ，地域に貢献できる可能性のある人材）として申請できる。

■ 地域医療人としての卒業生輩出状況（P4-170 後掲資料 2-2-1-3）

看護学科卒業生の福井県内医療機関就職動向を見ると，県内就職率が向上（第 1 期平均 57.2% から第 2 期平均 65.2%）しており，県内就職者数は増加（第 1 期期間中の 218 名から第 2 期期間中の 251 名）しており，地域医療人としての教育効果が現れている。

（事務局資料）

【地域への教育サービス】

高大連携事業として医学をテーマとした開放講義や生命医科学分野での人材育成プログラムを実施し、多くの高校生の学びへのニーズに応え、好評を得た（資料 1-2-2-8～10）。

資料 1-2-2-8 医学部の行う高大連携事業（1）

医学部教員が中心となり、生命科学研究教育複合センター（P4-11 前掲資料 1-1-1-8）主催により、高校生の生命医科学能力向上や理系人材育成を目指して様々なプログラム申請を経て予算獲得を行い、「ひらめき☆ときめきサイエンス」（日本学術振興会）、「サイエンスパートナーシップ」（JST）、「未来の科学者養成講座プログラム」（JST）、「次世代科学者養成プログラム」（JST）、「福井大学生命科学クラブ」（大学独自）、「福井大学グローバルサイエンスキャンパス」（JST）（資料 1-2-2-9）を実施している。それぞれのプログラムには福井県内の高校生はもとより、北陸や近畿地区の高校からも参加者が見られ、非常に多くの高校生の生命医科学に対する興味関心・学びへのニーズに対応している。

■ 実施状況

講座・プログラム名	開催年度	担当領域	講師名	テーマ	参加者数
ひらめき☆ときめきサイエンス	平成 22 年度	分子生理学	老木 成稔	「心臓の動き」から「動く分子」へ	79 名
		組織細胞形態学・神経科学	八木 秀司	実際に脳をみてみよう	
		微生物学	定 清直	微生物の世界をのぞいてみよう！ ～細菌とウイルスの顕微鏡観察～	
	平成 23 年度	薬理学	村松 郁延	心臓と血圧はどのように調節されているのか？	77 名
		統合生理学	樋口 隆	①心臓機能 ②感覚について学ぼう ③汗の働きを学んでみよう	
	平成 25 年度	人体解剖学・神経科学	飯野 哲	消化管の基本構造と働き	48 名
		Ai センター	内木 宏延 他	医学研究の最前線の扉を開こう！ -生命医科学への招待- 画像解剖コース	
	平成 26 年度	ゲノム科学・微生物学	定 清直	医学研究の最前線の扉を開こう！ -ミクロの世界への招待-	77 名
平成 27 年度	統合生理学	松岡 達	医学研究の最前線の扉を開こう！ -「ドキドキする心臓」人体の神秘への招待-	67 名	
サイエンス パートナーシップ (SPP)	平成 22 年度	ライフサイエンス支援センター	小泉 勤	遺伝子異常、生活習慣と病気	69 名
		腫瘍病理学	伊藤 浩史	肝臓とその病気 ～顕微鏡で病変を見てみよう～	43 名
		ライフサイエンス支援センター	柄谷 和宏	Alexander Fleming	39 名
	平成 23 年度	組織細胞形態学・神経科学	佐藤 真	知能を支える生物学：人の脳はどのように作られ働くのか	74 名
		ライフサイエンス支援センター	松川 茂	ストレス応答の生物学	21 名
	平成 24 年度	組織細胞形態学・神経科学	佐藤 真	腎臓の構造・機能と病気	99 名
	平成 25 年度	生命科学複合研究教育センター	前田 樹夫	細胞学の基礎技術・顕微鏡標本を複製し、病理診断に則したその発展と展開を学ぶ	20 名
平成 26 年度	人体解剖学・神経科学	飯野 哲	体の軸となる脊髄と脊髄 -脊中の大切な構造をヒトと動物で理解する-	40 名	
未来の科学者養成講座プログラム	平成 21～23 年度	生命科学複合研究教育センター	佐藤 真 他	福井大学フューチャーサイエンティスト育成プログラム	58 名
次世代科学者養成プログラム	平成 24～25 年度	生命科学複合研究教育センター	佐藤 真 他	生命医科学フューチャーサイエンティスト育成プログラム	15 名
福井大学生命科学 クラブ	平成 24 年度	組織細胞形態学・神経科学	佐藤 真	脳科学に関する解剖実習	51 名
		ゲノム科学・微生物学	定 清直	細菌の世界をのぞいてみよう！	
	平成 25 年度	組織細胞形態学・神経科学	佐藤 真	医学研究の最前線の扉を開こう！ -生命医科学への招待-	71 名
福井大学グローバル サイエンスキャンパス	平成 27～31 年度	生命科学複合研究教育センター	飯野 哲 他	生命医科学フューチャーグローバルサイエンティスト養成プログラム (平成 27 年度)	75 名

(事務局資料)

資料 1-2-2-9 福井大学グローバルサイエンスキャンパス

福井大学グローバルサイエンスキャンパス（JST、平成 27～31 年度）「生命医科学フューチャークロームサイエンティスト育成プログラム」は、生命医科学分野において将来大学進学や研究者、医師等を目指す高校生を対象に、その科学的能力を育成することを目的としたプログラムであり、本学は平成 27 年度、中部地方で唯一の実施校として選定された。

医学部と生命科学複合研究教育センターを中心として、“Fukui Medical High School”と銘打つバーチャルスクールにおいて生命医科学分野を指向する人材育成を進め、平成 27 年度は高校生 75 名（福井県、石川県、富山県）が参加したインテンシブコースにおいて 28 回の生命医科学講義（本学理事や研究担当副医学部長または大学院生が講師）、8 回の実習（本学教員に加え学生が TA として参加）や大阪大学及び理化学研究所への訪問実習を行った。さらに同年冬からは医学部等の研究室において大学教員や大学院生と共に研究活動を行うアドバンストコースを開始し、平成 28 年 3 月には中間報告会（学内）にて口頭発表がなされた。今後は研究を進め全国発表会（JST）での発表や論文発表を目指すと共に米国カンザス大学において研修を行う予定となっている。



2015 no.1 FMHS News Letter
2015.07.26 創刊

福井大学で科学者を目指そう

生命医科学フューチャークロームサイエンティスト育成プログラム
—“Fukui Medical High School”としてのRole Model創成—

2015FMHS開設！

科学的好奇心を刺激する講義実習と高度な研究活動を、グローバル視点に基づき実践する“Fukui Medical High School (FMHS)”を開設しました。
生命医科学分野をはじめとする理数分野の大学進学を目指す高校生や、将来研究者や医学者を目指す高校生を、フューチャークロームサイエンティストとして育成することを目的としています。

スケジュール

7月 募集
7月 入学式
7月 10日 19日 インテンシブコース
7月 20日 28日 アドバンストコース
7月 29日 8月 1日 交流会・国内学会
8月 2日 10日 講演会・成果発表会（中間発表会）
8月 11日 17日 “フューチャークロームサイエンティスト”特号発行
8月 18日 24日 交流会・国内学会
8月 25日 31日 海外研修・学会発表
9月 1日 17日 “フューチャークロームサイエンティスト”特号発行
9月 18日 24日 国際学会トライアル

本事業はJSTグローバルサイエンスキャンパスの一環として行われております。
主催：福井大学 事務局：生命科学複合研究教育センター
後援：福井新聞社、NHK福井放送局、FBC福井放送局、福井テレビ、FM福井

インテンシブコース
～多様な視点をもつ人材の育成と発展のため、医学部・工学部教員を中心とする生命医科学コアレクチャーを開講します～

時間	7月26日(日)	7月27日(月)	7月28日(火)	7月29日(水)	7月30日(木)	7月31日(金)
9:15～9:30	インテンシブコース開講式					
9:30～10:20	基礎講義 基礎からわかるヒトの身体 上田 孝典 副学長	基礎講義 基礎からわかるヒトの身体 藤原 哲也 教授	基礎講義 基礎からわかるヒトの身体 藤原 哲也 教授	基礎講義 基礎からわかるヒトの身体 藤原 哲也 教授	基礎講義 基礎からわかるヒトの身体 藤原 哲也 教授	基礎講義 基礎からわかるヒトの身体 藤原 哲也 教授
10:20～10:35	基礎講義 基礎からわかるヒトの身体 上田 孝典 副学長	基礎講義 基礎からわかるヒトの身体 藤原 哲也 教授	基礎講義 基礎からわかるヒトの身体 藤原 哲也 教授	基礎講義 基礎からわかるヒトの身体 藤原 哲也 教授	基礎講義 基礎からわかるヒトの身体 藤原 哲也 教授	基礎講義 基礎からわかるヒトの身体 藤原 哲也 教授
10:35～11:25	基礎講義 基礎からわかるヒトの身体 上田 孝典 副学長	基礎講義 基礎からわかるヒトの身体 藤原 哲也 教授	基礎講義 基礎からわかるヒトの身体 藤原 哲也 教授	基礎講義 基礎からわかるヒトの身体 藤原 哲也 教授	基礎講義 基礎からわかるヒトの身体 藤原 哲也 教授	基礎講義 基礎からわかるヒトの身体 藤原 哲也 教授
11:25～11:40	基礎講義 基礎からわかるヒトの身体 上田 孝典 副学長	基礎講義 基礎からわかるヒトの身体 藤原 哲也 教授	基礎講義 基礎からわかるヒトの身体 藤原 哲也 教授	基礎講義 基礎からわかるヒトの身体 藤原 哲也 教授	基礎講義 基礎からわかるヒトの身体 藤原 哲也 教授	基礎講義 基礎からわかるヒトの身体 藤原 哲也 教授
11:40～12:30	基礎講義 基礎からわかるヒトの身体 上田 孝典 副学長	基礎講義 基礎からわかるヒトの身体 藤原 哲也 教授	基礎講義 基礎からわかるヒトの身体 藤原 哲也 教授	基礎講義 基礎からわかるヒトの身体 藤原 哲也 教授	基礎講義 基礎からわかるヒトの身体 藤原 哲也 教授	基礎講義 基礎からわかるヒトの身体 藤原 哲也 教授
12:30～13:15	基礎講義 基礎からわかるヒトの身体 上田 孝典 副学長	基礎講義 基礎からわかるヒトの身体 藤原 哲也 教授	基礎講義 基礎からわかるヒトの身体 藤原 哲也 教授	基礎講義 基礎からわかるヒトの身体 藤原 哲也 教授	基礎講義 基礎からわかるヒトの身体 藤原 哲也 教授	基礎講義 基礎からわかるヒトの身体 藤原 哲也 教授
13:15～14:45	基礎講義 基礎からわかるヒトの身体 上田 孝典 副学長	基礎講義 基礎からわかるヒトの身体 藤原 哲也 教授	基礎講義 基礎からわかるヒトの身体 藤原 哲也 教授	基礎講義 基礎からわかるヒトの身体 藤原 哲也 教授	基礎講義 基礎からわかるヒトの身体 藤原 哲也 教授	基礎講義 基礎からわかるヒトの身体 藤原 哲也 教授
14:45～15:00	基礎講義 基礎からわかるヒトの身体 上田 孝典 副学長	基礎講義 基礎からわかるヒトの身体 藤原 哲也 教授	基礎講義 基礎からわかるヒトの身体 藤原 哲也 教授	基礎講義 基礎からわかるヒトの身体 藤原 哲也 教授	基礎講義 基礎からわかるヒトの身体 藤原 哲也 教授	基礎講義 基礎からわかるヒトの身体 藤原 哲也 教授
15:00～16:30	基礎講義 基礎からわかるヒトの身体 上田 孝典 副学長	基礎講義 基礎からわかるヒトの身体 藤原 哲也 教授	基礎講義 基礎からわかるヒトの身体 藤原 哲也 教授	基礎講義 基礎からわかるヒトの身体 藤原 哲也 教授	基礎講義 基礎からわかるヒトの身体 藤原 哲也 教授	基礎講義 基礎からわかるヒトの身体 藤原 哲也 教授
16:30～17:45	基礎講義 基礎からわかるヒトの身体 上田 孝典 副学長	基礎講義 基礎からわかるヒトの身体 藤原 哲也 教授	基礎講義 基礎からわかるヒトの身体 藤原 哲也 教授	基礎講義 基礎からわかるヒトの身体 藤原 哲也 教授	基礎講義 基礎からわかるヒトの身体 藤原 哲也 教授	基礎講義 基礎からわかるヒトの身体 藤原 哲也 教授

インテンシブコースの様子

研究に重要なのは熱き心と好奇心！



理系研究者や医師を目指す、北陸三県の高校生75名がFMHSに入學しました。開講式では、FMHS名譽校長の眞弓光文・福井大学学長から、「生命科学に対する好奇心を持ち、多彩な講義・実習を楽しむことが大事です。グローバル社会での活躍をモチベーションに頑張ってください。大学全体でサポートします。」との挨拶がありました。

1限目の授業では、FMHS校長の上田孝典副学長が「臨床医から見たヒト」と題した基礎講義で、若き研究者が発見した偉大な業績を紹介し、「研究に重要なのは年齢でも経験でもなく、熱き心と好奇心である。」と話しました。

アドバンストコースが始まりました

8つのラボにアドバンストコース受講生が配属され、活動が開始しました。これから1年半の活動を通して、国際学会での発表と英語論文の作成を目指します。

初回はテーマについて、目標について話し合いました。活動の様子は次回以降ニュースレターでお伝えしていきます。



資料 1-2-2-10 医学部が行う高大連携事業（2）

県内高等学校からの依頼により、高校生の「学び」への啓発と、興味関心に基づいた大学・学部選択を目的とした講座を県内の大学で分担して開講しており、本学は県内唯一の医師養成機関、および看護師・保健師・助産師の養成機関として高等学校に出向いて講義を行っている。医学科・看護学科それぞれの志望に応じた大学ならではの専門的講義を高校生が理解できる難易度に調整しつつ行うことにより、高校生の学びの意欲を高める結果を得られており、地域貢献の役割を果たしている。

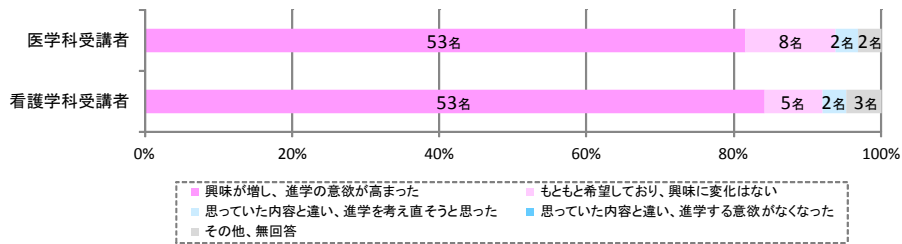
開放講義のアンケートからは、参加高校生の80%以上で志望する進路それぞれへの興味が増し進学意欲が向上し、高校での学習意欲の向上が見られた。

■ 開放講義実施状況（平成27年度）

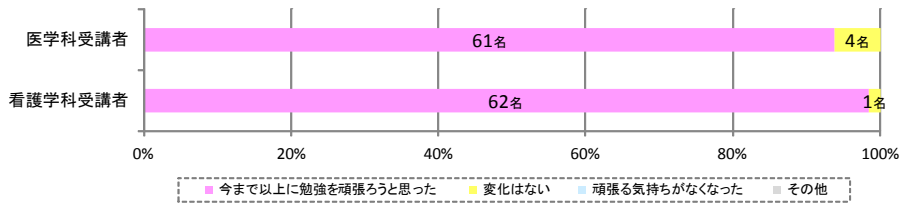
担当領域・講師	テーマ	派遣高校名・参加者数
外科学(2)	佐々木 正人	医師の素質・資質、医学部の一般的な内容、医者になってからの具体的な話
泌尿器科学	松田 陽介	医学部を志望する皆さんへ
救急医学	木村 哲也	ザ・救急医療 ～TVドラマより面白い現場の救急～
内科学(3)	鈴木 仁弥	糖尿病専門医が大学で行っていること
母子看護学・助産学	森川 浩子	赤ちゃんの伝えたいことわかるかな？
基礎看護学	長谷川 智子	心臓はなぜ動く？
地域看護学	米澤 洋美	公衆衛生看護学(病院の外で働く看護)
成人・老年看護学	繁田 里美	緩和ケア
基礎看護学	上原 佳子	バイタルサイン

■ 開放講義参加者に対するアンケート（平成27年度）

設問_今回の講義を体験して、希望する進路（学部・学科）への興味・意欲は変わりましたか？



設問_今回の講義を体験して、高校の勉強や受験勉強に取り組む気持ちに変化はありましたか？



(事務局資料)

●国際通用性のある教育課程の編成実施

【グローバル人材養成】

- ① 全学で策定した「卒業時にグローバルな視野を有する人材として備えるべき能力等」の涵養を進めた（資料 1-2-2-11）。

資料 1-2-2-11 「卒業時にグローバルな視野を有する人材として備えるべき能力等」の設定

「卒業時にグローバルな視野を有する人材として備えるべき能力等」を全学（高等教育推進センター運営委員会）において定め、第2期中期目標期間において、医学部ではそれらを涵養する教育課程・方法等の整備・充実を図ることとした。

1. 使える「英語力」（語学力）
2. （異文化での）コミュニケーション能力
3. 社会的責任・使命感、個人のアイデンティティ
4. 各部局における教育目標に沿った“海外を指向した能力・モチベーション”
5. 課題探求・問題解決能力、自己学習力

(事務局資料)

- ② 現代 GP「医学英語と医学・看護学の統合的一貫教育」の実施プログラムを基盤として、「実践的な医学英語」能力の向上を図る教育カリキュラムを実施し、平成 24 年度から語学センターとの密な連携のもと、少人数型、習熟度別クラスを導入した(資料 1-2-2-12, 13)。

資料 1-2-2-12 医学科英語カリキュラム

医学科においては語学センターの協力のもと通常の英語講義（1 年次）（3～5 クラスでの実施）に加え、プレゼンテーション・スキルや医療面接などを含んだ専門性の高い医学英語「医学英語 1～4」（3～4 クラスで実施）（必修），医学リサーチと実践的医療面接に重点を置いた医学英語「医学英語 5，実用医学英語」（選択）を開講している。

福井大学「競争的配分経費（教育評価に基づく競争的経費）」として英語教育（特に「実用医学英語」における模擬患者）の充実に配分を受けた（平成 22～26 年度プログラム名「様々な臨床場面に対応できる実践的英語運用能力の育成」）。

■ 医学科英語関連シラバス（一部抜粋）

科目名	開講時期	必修・選択	講師所属	学習目標 (H27年度シラバス)
英語 1	1年 (前期)	必修	語学センター	This is an English language course. Hopefully, students will: (1) Develop skills for personal communication in English, by talking about themselves on a variety of familiar topics, using a personalized scrapbook. (2) Create a scrapbook during the course, to support English conversation and presentation practice. (3) Practice and gain confidence in speaking English on a variety of topics, for basic daily communication. (4) Gain confidence in their ability to use English in the "4 skills": speaking, listening, reading and writing. (Reading brief texts and freewriting will be done in class.) (5) Develop ways to increase English vocabulary. (6) Become more confident and gain more accuracy with basic grammar for English communication.
英語 2	1年 (前期)	必修	語学センター	This is an English language course. Hopefully, students will: (1) Develop skills for personal communication in English, by talking about themselves on a variety of familiar topics, using a personalized scrapbook. (2) Create a scrapbook during the course, to support English conversation and presentation practice. (3) Practice and gain confidence in speaking English on a variety of topics, for basic daily communication. (4) Gain confidence in their ability to use English in the "4 skills": speaking, listening, reading and writing. (Reading brief texts and freewriting will be done in class.) (5) Develop ways to increase English vocabulary. (6) Become more confident and gain more accuracy with basic grammar for English communication.
英語 3	1年 (後期)	必修	語学センター	This is an English language writing course. The primary objective of this course is for students to develop their EFL writing proficiency, including for academic purposes. Three main types of writing will be introduced: narrative, expository, and argumentative. Readings and discussion will help students recognize the distinctions among various purposes of writing as seen in these "types." Students will write multiple-draft papers on topics related to the readings. Each student will end the course having written three complete papers (average: 300-400 words). Students will then choose one of their own essays to revise, finally completing one longer paper (average: 700-750 words). Through in-class activities and discussion, peer-review, and instructor feedback, students will raise their confidence and improve their ability to write in English.
英語 4	1年 (後期)	必修	語学センター	This is an English language course. Hopefully, students will: (1) Gain confidence in and build their ability to read and understand English texts on a variety of topics. (2) Become familiar with foreign language reading strategies, and increase reading speed. (3) Gain confidence in their ability to use English in the "4 skills": reading, writing, speaking and listening. (4) Increase familiarity with the TOEIC test, and learn strategies to improve TOEIC scores.
医学英語 1	2年 (前期)	必修	語学センター	Medical English 1-2 is an English course that uses medical English as its content. The major purpose of the course is for students to develop communication skills in medical settings, and learn medical terms in English that they are currently learning, or will learn, in Japanese in their medical courses. Beginning with bilingual vocabulary given in the textbook, or provided by the instructor, students will increase their English medical terminology. Medical English 1-2 involves reading, an intensive emphasis on vocabulary—in both English and Japanese—as well as the use of certain audio materials. There is also a presentation component of the course in which students will make presentations in class about specific medical-related topics from the various materials used in the class, for example, the textbook, other instructor handouts, DVDs, and online videos. All four language skills—reading, writing, speaking, and listening—will be used to understand content, discuss materials, and complete various activities. Note: This is not a translation course. Students are expected to be familiar with terminology in both English and Japanese, however.
医学英語 2	2年 (前期)	必修	語学センター	Medical English 1-2 is an English course that uses medical English as its content. The major purpose of the course is for students to develop communication skills in medical settings, and learn medical terms in English that they are currently learning, or will learn, in Japanese in their medical courses. Beginning with bilingual vocabulary given in the textbook, or provided by the instructor, students will increase their English medical terminology. Medical English 1-2 involves reading, an intensive emphasis on vocabulary—in both English and Japanese—as well as the use of certain audio materials. There is also a presentation component of the course in which students will make presentations in class about specific medical-related topics from the various materials used in the class, for example, the textbook, other instructor handouts, DVDs, and online videos. All four language skills—reading, writing, speaking, and listening—will be used to understand content, discuss materials, and complete various activities.
医学英語 3	3年 (前期)	必修	応用言語学	(1)医療面接に関するリスニング教材を用いて、臨床医学における実践的な英語表現の習得と英語リスニング力の強化を目指す。 (2)臨床医学に関する英単語・英語表現を習得する。
医学英語 4	3年 (後期)	必修	分子病理学、腫瘍病理学、ゲノム科学・微生物学、総合診療部、応用言語学	(1) Cecil Textbook of Medicine の読解を通じ、英文医学書を正確に読み取る力を習得する。なお、本科目で扱うテーマは全てコアカリ科目（循環器系、呼吸器系、消化器系、腎臓内科、内分泌・栄養・代謝）で同時期に学習中のもので、双方の科目の理解を促進したい。 (2) 内科学の基本語の定義を英語で学ぶことにより、専門的・学術的な語彙力を養う。
医学英語 5	4年 (前期)	選択	ゲノム科学・微生物学、薬理学、子どものころの発達研究センター、腫瘍病理学、分子遺伝学、内科学(1)	医学研究論文の読解と、英語による発表、英作文についての実践的内容を学ぶ。
実用医学英語	4年 (後期)	選択	総合診療部、応用言語学、脳脊髄神経外科学、内科学(1)、救急部、福井	外国人模擬患者 (SP) との医療面接演習を通じ、英語で外国人患者を安全かつ効果的に診察する能力を養う。

(事務局資料)

資料 1-2-2-13 看護学科英語カリキュラム

「英語 I～IV」を各科目 2 クラスに分けて 実施し、社会からの要請(医療現場で活用できる英語力を持った医療人の育成による医療の国際化)に応える英語教育を実践している。

■ 看護学科英語関連シラバス (一部抜粋)

科目名	開講時期	必修・選択	講師所属	学習目標(H27年度シラバス)
英語 I	1年 (前期)	必修	語学センター	This is an English language course. Hopefully, students will: (1) Develop skills for personal communication in English, by talking about themselves on a variety of familiar topics, using a personalized scrapbook. (2) Create a scrapbook during the course, to support English conversation and presentation practice. (3) Gain confidence in their ability to use English in the "4 skills": speaking, listening, reading and writing (4) Practice and gain confidence in speaking English on a variety of topics, for basic daily communication. (5) Develop ways to increase English vocabulary. (6) Become more confident and gain more accuracy with basic grammar for English communication.
英語 II	1年 (前期)	必修	語学センター	This is an English language course. Hopefully, students will: (1) Develop skills for personal communication in English, by talking about themselves on a variety of familiar topics, using a personalized scrapbook. (2) Create a scrapbook during the course, to support English conversation and presentation practice. (3) Gain confidence in their ability to use English in the "4 skills": speaking, listening, reading and writing (4) Practice and gain confidence in speaking English on a variety of topics, for basic daily communication. (5) Develop ways to increase English vocabulary. (6) Become more confident and gain more accuracy with basic grammar for English communication.
英語 III	2年 (後期)	必修	語学センター	This is an English language course. (1) Gain confidence in one's ability to use English, in the four key skills: Reading, Writing, Speaking and Listening. (2) Gain confidence in using English and build on current ability to communicate, by speaking more and with greater complexity on a variety of topics, for basic daily communication. (3) Develop ways to increase English vocabulary. (4) Become more familiar with the TOEIC test and test-taking skills.
英語 IV	2年 (後期)	必修	語学センター	This is an English language course. (1) Gain confidence in one's ability to use English, in the four key skills: Reading, Writing, Speaking and Listening. (2) Gain confidence in using English and build on current ability to communicate, by speaking more and with greater complexity on a variety of topics, for basic daily communication. (3) Develop ways to increase English vocabulary. (4) Become more familiar with the TOEIC test and test-taking skills.

* 平成 28 年度よりグローバル化をより進めるため、英語Ⅲ・Ⅳを1年次に履修し、更に3・4年次には看護英語Ⅰ・Ⅱ(選択)を開講することとしている。

(事務局資料)

- ③ GGJ 事業により海外留学・研修の機会を積極的に設け(資料 1-2-2-14), 留学する学生が増加した(P4-26 前掲資料 1-1-1-27)。留学した学生及び受け入れ施設から高い評価を得ている(資料 1-2-2-15, 16)。

資料 1-2-2-14 GGJ 事業における海外留学・研修プログラム (医学部)

GGJ 事業 (平成 24~28 年度) により海外留学・研修の機会を設け、海外の大学附属病院での実習や大学・研究所での研究実習などを実施している。プログラムには内容により全学生対象の語学研修型・分化体験型等及び医学部対象の専門分野型があり、毎年 20 件程度のプログラムが実施され、留学生数が増加している (P4-26 前掲資料 1-1-1-27)。

■ 平成 24~27 年度プログラム (医学部実施)

類型	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
語学研修型, 文化体験型等 (全学対象)	7 件	9 件	13 件	13 件
専門分野型 (医学部対象)	0 件	10 件	7 件	9 件

■ 平成 27 年度プログラム (専門分野型・医学部対象)

類型	対象	プログラム名	国名・派遣提携機関	期間	プログラム写真	プログラム概要	参加予定人数	単位付与
専門分野型 (医学)	医学科	オンドクズマクス大学 医学部派遣	【トルコ】 オンドクズマクス大学	8/2-8/14 8/29-9/10		午前中は、トルコでも有数の充実した医療設備と高度医療を提供する大学附属病院にて病院見学・実習を行い、午後はトルコ語基礎講座を受講する。プログラムを通して、ヨーロッパの医療教育システムやトルコの地域医療システムの理解を目指す。また、非英語圏にて英語を使用して現地医学生や医師と交流することで、高度なコミュニケーション能力を高める。	3	2
専門分野型 (医学)	医学科 (U3)	海外研究機関における基礎医学実習	【アメリカ】 サンフォード・バーナム医学研究所	8/16-9/14		PCRやサリクローニング、ウェスタンブロッティング、免疫組織化学染色、マウス実験動物の手技を身につけ、分子生物学的手法や科学的な研究アプローチのノウハウを習得する。分子生物学研究と神経科学の最先端研究を英語圏で体験することで、新しい科学的発見に貢献できる医学研究者を養成する。滞在中は、一般家庭でのホームステイにより、英語コミュニケーション力と異文化理解力を強化する。	1	144h
専門分野型 (医学)	医学科 (U3)	先進障害モデルとしてのCD38KOマウスの脳組織形態学的検討	【オランダ】 コトレヒト大学医学センター	8/20-9/13		設備面等の研究環境が充実しているコトレヒト大学医学センターのMartin Kas & Peter Burbach 研究室に滞在し、CD38KOマウス脳組織の形態学実験に従事する。研修を通じて海外の研究者及び学生との交流を深め、異文化交流に十分なコミュニケーション力を身につけるとともに、将来国際的に活躍できる医師・医学研究者に必要なとされる科学的問題解決能力を養う。	1	2
専門分野型 (医学)	医学科 (U3)	海外研究機関における基礎医学実習	【アメリカ】 ノースウェスタン大学	8/22-9/6		アルゼー、免疫学の分野で世界的に有名なノースウェスタン大学耳鼻咽喉科研究室にて、気道上皮細胞におけるtissue plasminogen activatorの発現メカニズムに関する研究を行う。現地教員が行う基礎研究の見学及び毎日実施されている英語プレゼンテーションへの参加を通して、世界中から基礎研究を行うために集まる現役医師達の熱意を身近に感じ、各人が持つ研究者への将来像をより明確なものにする。	2	144h
専門分野型 (医学)	医学科 (U1-4)	チェンマイ大学との医学研修交流	【タイ】 チェンマイ大学	8/23-8/31 8/24-8/31 8/28-9/3 9/1-9/9		国内トップレベルの規模を誇るチェンマイ大学医学部での授業聴講、同大学附属病院-関連医療機関での見学ならびに医療実習等を通して、熱帯地域の特異な感染症や食文化について実地で学ぶことにより、現地の状況をより深く理解・習得する。また、プログラムの計画・実施を学生が主体的に行うことにより、自己学習力や問題解決能力を養成する。	4	1
専門分野型 (医学)	医学科 (U3)	海外研究機関における基礎医学実習	【アメリカ】 クリアンバーククリニック	8/28-9/16		クリアンバーククリニックの Department of Translational Hematology and Oncology Research において、血液悪性腫瘍の発症関連因子(ゲノムの異常、表型的転子の発現変化)と発症・進展・転移等の関連を基盤研究を行う。生命医学分野における米国の最先端の研究及び研究室を体験し、日本の現状及び医学科学分野の発展のために必要な基礎知識、人間関係、研究費獲得のための取組み等を理解する。	1	144h
専門分野型 (医学)	IFMSA 会員学生	IFMSA Research 交換留学プログラム	【クロアチア】 ザグレブ大学	8/21-9/21		ザグレブ大学医学部の研究室にて約1か月間、興味を持つテーマについて基礎医学研究・発表を行い、日本と異なる医療現場の実際について理解を深める。また、研究室においても、現地医学生や医師らとの交流の中で、異なる見識を支えた意見交換を行うことにより、新たな知見を得て、多角的に研究を行うための素養やコミュニケーション能力を身に付ける。	1	2
専門分野型 (医学)	看護学科 (U3)	英国の医療と高度実践看護研修	【イギリス】 -バーミンガム市立大学 -レスター大学グレンフィールド病院 -セントクリストファーズホスピス	9/16-9/28		大学病院、がん専門病院、ホスピスにて見学実習や授業参加を行う。それぞれの領域における専門的医療・看護の実際について学ぶとともに、現地学生との交流を通して学習に対する姿勢や意識に触れ、今後のモチベーション向上に繋げる。特にイギリスと日本における健康保険制度と医療サービスの違いを把握し、両国の制度を踏まえた上で各々のシステムにおける最高・最善の医療の提供について考察する。	9	1
専門分野型 (医学)	医学科 (U3)	海外研究機関における基礎医学実習	【インド】 国立鉱山医学研究所	2-3月		公害病にあたるじん肺のレントゲン撮影の技術について、独自のデータと技術を有する国立鉱山医学研究所で学ぶ。講義及び実技を通して、フィールド調査調査法、医学生物学の分析、計測技術を習得し、受け入れ先のプロジェクトに貢献するほか、専門性を活かして世界の発展に貢献するモチベーションを高める。	1	144h

(事務局資料)

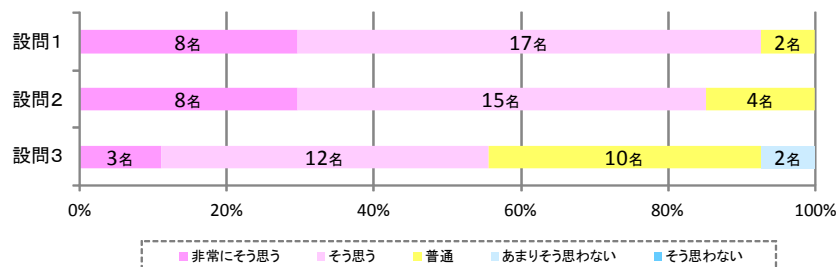
資料 1-2-2-15 留学した学生の自己評価

留学した学生は概ね海外を志向するモチベーション及びコミュニケーション能力を身につけたとしている。

設問1_これまで以上に海外を志向するモチベーションを身につけましたか

設問2_異文化（海外）でのコミュニケーション能力を学びましたか

設問3_使える「英語力」を身につけましたか



(平成 27 年度「医学部留学生対象アンケート」結果より抜粋)

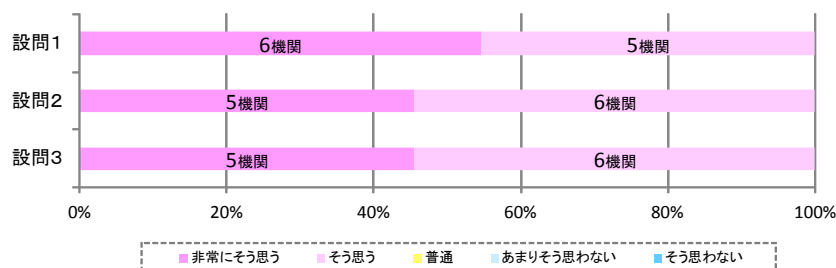
資料 1-2-2-16 留学派遣先からの評価

本学からの留学生を受け入れた施設・研究室等からの留学生評価によると、留学生は積極的に知識・技術・チーム協調性・社会的責任・使命感等を学んだとされる。

設問1_新しい知識・技術を積極的に修得しましたか？

設問2_医療チーム、もしくは研究チーム内での協調性を学びましたか？

設問3_社会的責任、使命感、医療倫理観を学びましたか？



■ 留学派遣先からのコメント

- ・ 学部3年生には非常に高いレベルでの研究をさせていただきましたが、本人はととてもよく頑張りました。3週間と短い期間でしたので、語学力に関してはこれからと感じますが、積極性や技術向上は目を見張るものがあったと思います。今後は1ヵ月以上の海外派遣を推進していくべきかと個人的には思います。
- ・ He was very active in exchange program and participated both learning and student activities.
- ・ We observed his nice behavior and active learning.
- ・ She worked really hard to learn how to design research experiments, understand obtained results as well as acquire experimental skills, such as molecular biology, biochemistry and cell culture. Also, she frequently joined lab meeting and seminars at our and other institutes.
- ・ She asked many questions to our project and discussed a lot.
- ・ She was very curious and active for learning subjects.

(平成 27 年度医学部留学受入れ機関アンケート結果より抜粋)

- ④ 看護学科では4年次後期に海外キャリアアップ実習を開講し(資料1-2-2-17),グローバル能力の育成を行い,履修者から好評を得ている(資料1-2-2-18)。

資料1-2-2-17 看護学科キャリアアップ実習シラバス

キャリアアップ実習

科目名		単位数又はコマ数	開講時期
キャリアアップ実習(選択)		1単位	3-4年次生
担当教員名	職名/所属	Eメールアドレス	オフィスアワー
長谷川 智子 他	教授/基礎看護学	hasekatz@u-fukui.ac.jp	金曜日 15-17時

1 実習目的

国際的な看護活動や,専門分野における看護実践について理解を深め,将来高度実践看護師として専門分野で活躍するための,キャリアアップする能力を養う。

2 実習目標

- 1) 国内外において高度実践看護師(認定看護師,専門看護師等)によりケアが提供されている専門分野を理解する。
- 2) 看護における専門分野での高度実践看護師(認定看護師,専門看護師等)の役割を理解する。
- 3) 高度実践看護師(認定看護師,専門看護師等)の専門性の高い看護の実践について理解する。
- 4) 将来,専門性の高い高度実践看護師となるための基礎的知識と態度を修得する。

3 実習内容

以下のうちどれかを選択し,それぞれの目標達成のための実習を行う。

(中略)

《国外における高度実践看護体験実習》

- 1) 看護活動を見学実習することで,日本以外の国における看護実践と国際的看護活動を学ぶ。
- 2) 実習場所における高度看護師の活動と,看護専門領域の活動について見学実習することで,高度実践看護師の看護実践能力と看護の成果について学ぶ。

4 実習方法

以下のうちどれかを選択し,それぞれの目標達成のための実習を行う。

(中略)

《国外における高度実践看護体験実習》

- 1) 実習期間:1週間
- 2) 実習場所:
 - イギリス,バーミンガム市立大学,大学病院コベントリー&ワーウィック
 - イギリス,レスター大学附属グレンフィールド病院 (University of Leicester Hospitals, Glenfield Hospital, Leicester, UK)
 - イギリス,セント・クリストファー・ホスピス (St. Christopher Hospice, London, UK)
- 3) 実習指導体制

担当教員は,実習指導者との連絡・調整を行い,実習の内容と支援体制について打ち合わせを行う。また,担当教員と学生グループは,実習指導者引率のもと,実習施設における看護ケアの実際を見学実習する。また,看護専門領域における高度実践看護師より,活動内容の説明を受け,実際の活動を見学実習する。

実習の総括として,学生は実習指導者,高度実践看護師,担当教員とともにカンファレンスを行い,個人の学びを深める。なお,担当教員は必要に応じて通訳を行う。

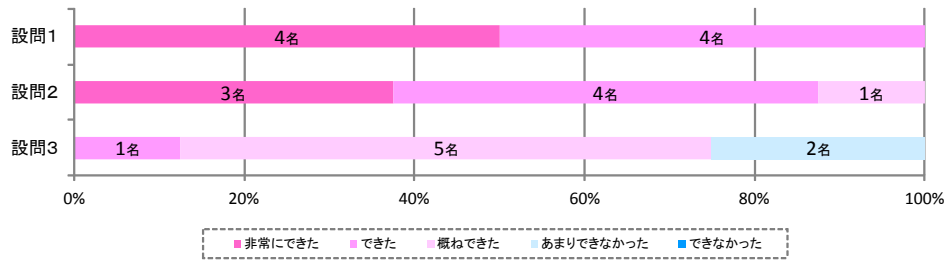
(2015年度看護学科授業要項より抜粋)

資料 1-2-2-18 看護学科キャリアアップ実習（海外）に対する学生の評価

平成 26 年度より国外における高度実践看護体験実習として 1 週間のイギリスにおける実習を実施し（選択），参加学生は海外における看護専門分野の理解や国際的視点からの医療について理解を深めることができ、語学力については過半の学生が向上させることができたとしている。

■ 実習に参加した学生のアンケート

- 設問 1_海外における高度実践看護師によりケアが提供されている専門分野を理解することができましたか
- 設問 2_海外における医療制度を理解し、国際的視点から医療のあり方を理解することができましたか
- 設問 3_自己の語学力（英語）を向上させることができましたか



設問 4_今回の経験が、今後の学生生活・キャリアアップにどのように活かせるでしょうか（一部抜粋）

- ・イギリスの看護学生は、日本の看護学生よりも実習期間が長く、実習では先輩看護師に技術チェックを行ってもらいなど、次のステップに進むためにクリアすべきことがたくさんあり、ほとんどの学生が自分の興味のある分野でスペシャリストになりたいと思っていますと聞きました。イギリスの看護学生の意識の高さを実感し、今後の実習を通して自分の興味ある分野を見つけ出していきたいと思いました。
- ・世界最高レベルの医療体制を知ったことで、今まで当たり前感じていた日本の医療体制をもう一度見つめ直し、学ぶことができる。
- ・日本の医療の少し先を進むと言われているイギリスの医療を学んだことで、今後日本での実習で多面的に考えることが可能になると思います。

設問 5_「キャリアアップ実習」は全体を通していかがでしたか（一部抜粋）

- ・他国の医療体制や職場環境、看護師への道のりなどを学び、看護について今までとは違った視点からも捉えられるようになり、もっと学びたいと意識を高めることができてとてもよい経験となりました。
- ・日本だけを見ていては分からない看護の現場を見ることで、今後もっと勉強を頑張っていきたいと自分を奮い立たせるよい機会となった。また、イギリスの文化にも触れることができて良い思い出になった。
- ・海外で実際に現地に行き学ぶことで、学びが吸収されやすく日本だけにとらわれない視野の広がりを感じることができた。様々な国の看護についても学びたいと感じた。
- ・日本のキャリアを高める意識作りができた良い実習になりました。今までとは違う視点で日本の医療制度を見ることができるようになり、よかったです。



（平成 27 年度キャリアアップ実習アンケート結果より抜粋）

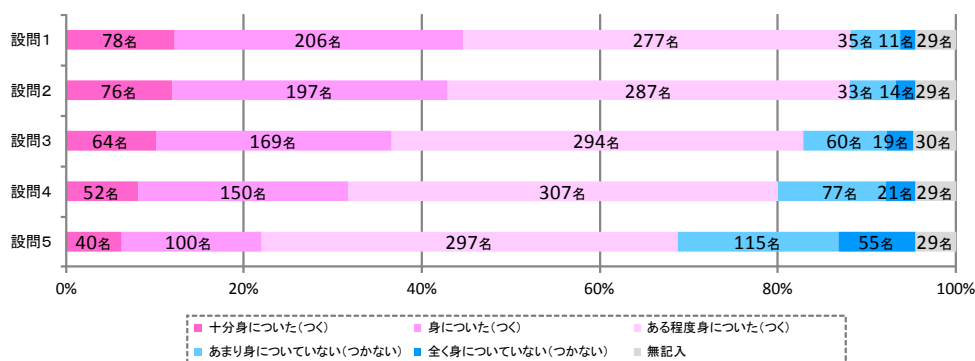
⑤ グローバル人材育成による能力の涵養状況は良好である（資料 1-2-2-19）。

資料 1-2-2-19 「卒業時にグローバルな視野を有する人材として備えるべき能力等」の涵養状況

「グローバルな視野を有する人材として備えるべき能力等」についての意見聴取の結果、医学部学生は概ね本学で設定した能力の涵養がなされている。「使える語学力」については過半の学生が身についた（身につく）としているが、身につけていないとする学生も一定数おり、今後語学センター教員による小クラス講義、英語科目増加や新設した LDC を活用して、語学力の向上に努めることとしている。

本学では、皆さんが“グローバルな視野を持った高度専門職業人”となることを教育の大きな目標としています。福井大学の学習をとおして、以下の力などがどの程度身についた、あるいは卒業・終了時までには身につくと思いますか？

- 設問 1_職業人として備えるべき社会的責任感
- 設問 2_課題探究・問題解決能力，自己学習能力
- 設問 3_コミュニケーション能力
- 設問 4_グローバル化社会での活躍を志向する態度
- 設問 5_使える英語力（語学力）



(平成 27 年度「福井大学の教育・研究に対する意識・満足度調査」結果より抜粋)

●養成しようとする人材像に応じた効果的な教育方法の工夫

【教育方法の組み合わせ】

医学・看護学の知識・技能を習得するため、様々な指導法等の工夫を行い（資料 1-2-3-1），一連の取組は学生から高い評価を得ている（資料 1-2-3-2）。

資料 1-2-3-1 授業における学習指導法の工夫状況

それぞれの学科において平成26年度開講科目を対象に調査し教員から回答のあった科目の総数とその科目数に対する割合を示す。

授業区分では、医学科では科目の半数近くが「講義」中心であるが、他は「実習」や「演習」を組み合わせ実施している。看護学科では約半数が「講義」のみのであるが、他は「演習」「講義と演習」「実験実習」による科目である。

学習指導法の工夫としては、メディアを利用した科目が非常に多いが、「対話・討論型授業」や「フィールド型授業」あるいは「少人数教育」を取り入れている科目も多数見られる。

■ 授業区分

学科	授業区分 ※										合計
	講義		演習		実験・実習		講義と演習		講義と実習		
	科目数	割合	科目数	割合	科目数	割合	科目数	割合	科目数	割合	
医学科	45科目	43.7%	18科目	17.5%	8科目	7.8%	9科目	8.7%	23科目	22.3%	103科目
看護学科	49科目	48.5%	26科目	25.7%	17科目	16.8%	9科目	8.9%	—	—	101科目

※ 教養教育科目を含む

■ 学習指導法の工夫

学科	授業区分	科目数	学習指導法上の工夫									
			少人数教育		対話・討論型		フィールド型		メディア型		TA活用	
			科目数	割合	科目数	割合	科目数	割合	科目数	割合	科目数	割合
医学科	講義	77科目	1科目	1.3%	11科目	14.3%	8科目	10.4%	77科目	100.0%	7科目	9.1%
	演習	18科目	13科目	72.2%	17科目	94.4%	0科目	0.0%	18科目	100.0%	0科目	0.0%
	実験・実習	8科目	4科目	50.0%	5科目	62.5%	4科目	50.0%	1科目	12.5%	2科目	25.0%
	(計)	(103科目)	(18科目)	(17.5%)	(33科目)	(32.0%)	(12科目)	(11.7%)	(96科目)	(93.2%)	(9科目)	(8.7%)
看護学科	講義	49科目	3科目	6.1%	22科目	44.9%	0科目	0.0%	49科目	100.0%	0科目	0.0%
	演習	35科目	12科目	34.3%	22科目	62.9%	3科目	8.6%	34科目	97.1%	0科目	0.0%
	実験・実習	17科目	13科目	76.5%	13科目	76.5%	13科目	76.5%	0科目	0.0%	0科目	0.0%
	(計)	(101科目)	(28科目)	(27.7%)	(57科目)	(56.4%)	(16科目)	(15.8%)	(83科目)	(82.2%)	(0科目)	(0.0%)

■ 医学科における教育方法の工夫（例）

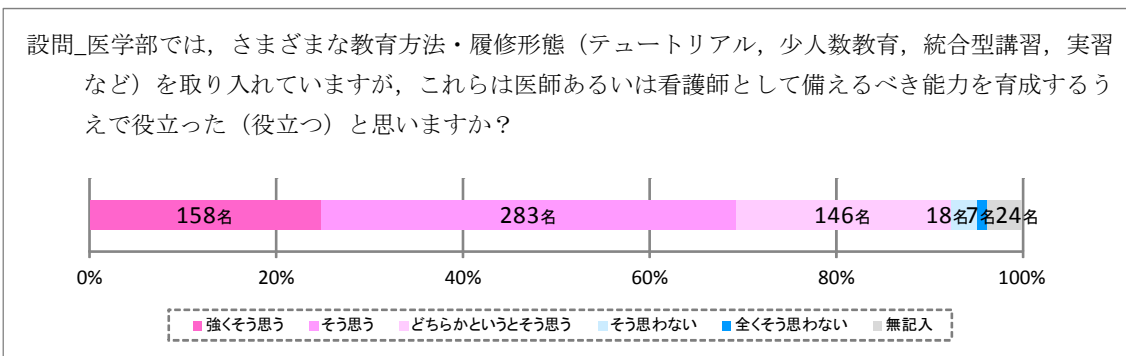
- ・ 課題探究・解決能力形成のため、少人数グループで学習を進める「テュートリアル教育」を取り入れている（P4-124 後掲資料 1-2-3-13）。
- ・ 英語教育担当教員と医学専門教育担当教員が連携した「医学英語科目」を専門教育科目として2年次～4年次に展開している（P4-106 前掲資料 1-2-2-12, 13）。
- ・ 研究マインドを涵養するため、「アドバンストコース」による先端医学講義と実習，研究室で教員と共に研究を行う「研究室付属」を行っている（P4-88 前掲資料 1-2-1-20～22）。
- ・ 臨床前教育課程において、科目内容に最も相応しい研究・診療活動を実施している教員が領域の枠を超えて横断的に担当する「統合型」講義形式を導入している（P4-130 後掲資料 1-2-3-19）。
- ・ 臨床系科目では、講義形式にテュートリアル教育を組み合わせた統合型科目を配し、学生が将来実際に体験する臨床的な課題にテュートリアル形式で取り組んでいる（P4-124 後掲資料 1-2-3-13）。
- ・ 「画像医学」を自学自習できるシステムを整備し、画像診断能力の向上を行っている（P4-129 後掲資料 1-2-3-18）。
- ・ 実践的な臨床能力を身につける臨床参加型学習（クリニカルクラークシップ）を実施している（P4-115, 116 後掲資料 1-2-3-3, 4）。

■ 看護学科における教育方法の工夫（例）

- ・ 「看護基本技術の記録」による自己評価システムの導入によって、自己評価に基づき実践的看護能力が習得できるようにしている（P4-122 後掲資料 1-2-3-10）。
- ・ 課題・解決能力形成のため、「自己主導型学習」を専門基礎科目や専門科目に導入し、グループワークや学生参加型教育を展開している。
- ・ 国際的な看護活動や専門分野における看護実践活動に触れることができるよう「キャリアアップ実習」を実施している（P4-111 前掲資料 1-2-2-18）。
- ・ 多職種チーム医療の基礎となる「医看合同講義」を導入している（P4-93 前掲資料 1-2-1-26）。
- ・ 「卒業研究」において「看護研究方法論」を学んだ上で、学生自らが実習を通して見いだした課題について教員と共に課題解決研究を遂行している（P4-92 前掲資料 1-2-1-25）。

(事務局資料)

資料 1-2-3-2 教育方法に対する学生の評価



(平成 27 年度「福井大学の教育・研究に対する意識・満足度調査」結果より抜粋)

【臨床実習の工夫】

- ① 医学科臨床実習委員会の統括のもと、5年次生はスチューデントドクターとして診療参加型臨床実習を附属病院にて行い、病棟での診療録作成、カンファレンス参加など学生の積極的参加を促す実習に改善している（資料 1-2-3-3, 4）。6年次生は卒前臨床医学研修として附属病院と教育関連病院での実習を行っている（P4-13 前掲資料 1-1-1-9, 10）。全ての実習に対して学生からの評価は高く、第 1 期に比して向上した（資料 1-2-3-5）。

資料 1-2-3-3 臨床実習の概要

■ 臨床実習

- ① 5年次生による40週間の福井大学附属病院で実施する「臨床実習」
- ② 6年次生による附属病院での前期・後期4週間と教育関連病院で実施する中期5週間の「卒前臨床医学研修」

■ 臨床実習の教育目標

実際の患者に接することで、患者の有する身体的・精神的・社会的問題点を的確に把握し、その各々について患者に適切な処置及び指導を与えることができるようになるための医学知識・技能・患者に接する態度を身に付けること。

■ 福井大学医学部クリニカルクラークシップにおける医行為の範囲

診療参加型臨床実習において各診療科(部)では定められた範囲に従い医行為を実施している。多くの医行為において学生は実際に患者に施行あるいは学生同士又はシミュレーターによる体験を実施している。指導医が行うことを見学している行為を含めると、クリニカルクラークシップにおいて大多数の医行為を学んでいる。

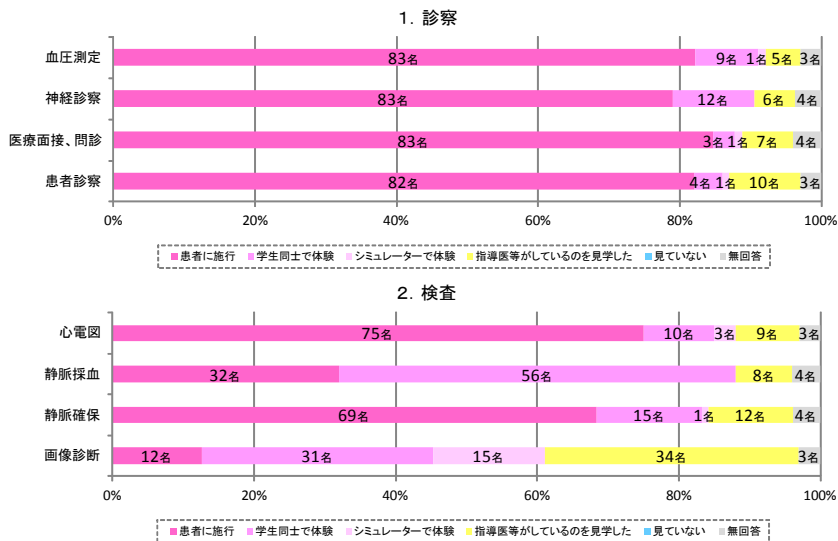
また、平成28年度に始まる新カリキュラムにおいては、医行為水準としてレベル1(学生が施行可能)とレベル2(見学)を設定、目標として「卒業時に上級医監視下で診療業務を実施できるレベル、侵襲的あるいは恥辱的医行為については模擬診療を実施できること」とし、卒業時OSCEにより診療参加型臨床実習の成果を測ることとしている。

■ 「福井大学医学部クリニカルクラークシップにおける医行為の範囲」(例)

項目	内科系	小児科	精神科	皮膚科	放射線科	一外科	二外科	整形外科	産科	泌尿科	眼科	耳鼻科	歯科	理学療法	作業療法	救急	総合診療
1. 診察																	
・全身の視診、打診、聴診	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
・簡単な聴診(聴診器、打診器、血圧計など)を用いた全身の診察	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
・耳鏡、鼻鏡、喉頭鏡による診察(学生同士の実習を中心とする)	○	○						○				○					○
2. 検査																	
(生理学的検査)																	
・心電図、心音図、心拍図	○	○	○			○	○			○							○
・聴覚	○	○						○									○
・呼吸機能(肺活量など)	○	○				○	○										○
・聴力、平衡、嗅覚、嗅覚	○	○						○									○
・視力、視力	○	○						○				○					○
(画像診断)																	
・超音波	○	○				○	○			○	○						○
・MRI(介助)	○	○	○					○	○	○							○
(放射線学的検査)																	
・単純X線撮影(介助)	○	○				○	○	○	○								○
・PET(介助)	○	○				○	○	○	○								○
(採血)																	
・耳鏡・鼻鏡など各種検査、聴診(本病)	○	○				○	○	○				○					○
(その他)																	

■ 医学科学生の医行為

設問_以下の診療手技の実施状況について教えてください。



(平成27年度臨床実習後アンケート結果より抜粋)

資料 1-2-3-4 診療参加型実習の工夫

■ スチューデントドクター

学生は CBT, OSCE (P4-157 後掲資料 2-1-2-5, 6) 及び 4 年次科目を合格したものがスチューデントドクターとして臨床実習上の注意（個人情報取り扱いを含む）を遵守する事を前提に実習に臨んでいる。なお学生は「Student Doctor 認定証授与式」にて認定証の授与を受けスチューデントドクターとしての誓いのことばを述べている。



■ 学生用診療録作成

学生は各自アカウントを持ち病院情報システムを利用して患者の個人情報を閲覧し、学生用診療録を作成し担当医と共に臨床実習を行っている。

ID	イニシャル	歳	男・女
現病歴			
Problem List			
Active		Inactive	
Weekly Summary			
意識	/	mmHg	脈拍 /分
血圧			
呼吸数	/分		
体温	℃		
酸素飽和度 (SpO ₂)	%		
1日尿量	ml		
S			
O			
身体所見			
検査所見			
A/P			
学生氏名			

■ iPad による実習

各学生が iPad を使い、指導医の開いている電子カルテを同時に見つつ、診療に参加出来る体制としている。



■ カンファレンス等への参加

各診療科ではカンファレンス参加と学生による症例報告等を取り入れ、学生用診療録をもとに教員による評価フィードバックを行うなど、学生の積極的参加を促す内容としている。



(事務局資料)

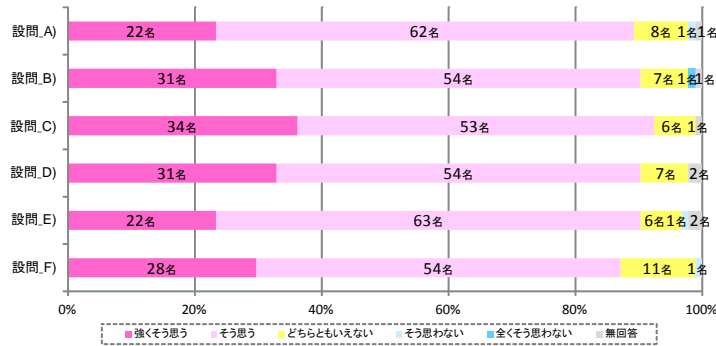
資料 1-2-3-5 臨床実習に対する評価

臨床実習に対する学生の評価によると、大方の学生は臨床実習に積極的に取り組み、専門知識・意欲態度・自己の適性・学ぶ態度・医療人としての能力等の涵養ができたとしている。学内実習及び学外実習を適切と判断する割合は80%以上であり、その割合は第1より増加している。学外実習を担当した医療機関への意見聴取の結果も、学生の理解が増したと80%以上が回答している。

■ 臨床実習に対する学生の評価

設問_臨床実習では、業務経験を通じ、①専門知識の有用性や職種自体についての具体的理解、②医療への意欲・態度の涵養・向上、③自己の適性や志向に照らし進路を考える機会として活用、④主体的な学習態度の育成や学習への動機づけ、⑤ディプロマポリシー等で明示した高度専門職業人として備えるべき能力等の育成を目的としています。そこで、実習を経験して、

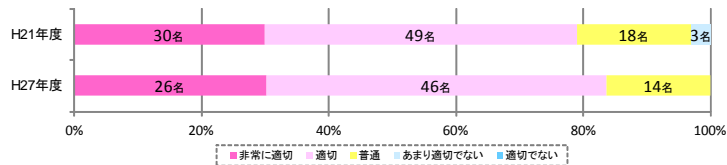
- A) あなたの専門知識が有用で、職種自体についての理解が増したと思いますか
- B) 医療への意欲・態度が向上したと思いますか
- C) 今回の臨床実習は自己の適性や志向に照らし進路を考える機会になったと思いますか
- D) 学修への動機づけを含めて進んで学習する態度を養うことができたと思いますか
- E) 医療人としての知識・技能・コミュニケーション能力・倫理観・向上する意欲や学ぶ習慣などを養うことができたと思いますか
- F) あなたは今回の臨床実習に積極的に取り組んだと思いますか



(平成 27 年度カリキュラム評価アンケート (6 年次生用) 結果より抜粋)

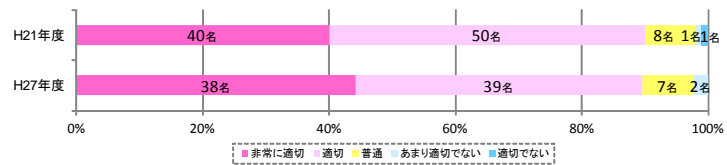
■ 卒前臨床医学研修に対する学生の評価

設問_卒前臨床医学研修 (前期 2 週: 学内) は知識・技能・態度を修得する上で全般的に適切なものでしたか



* 第 1 期末と比較して、第 2 期末では学生の評価 (非常に適切～適切とした割合) は、4.7%向上している。

設問_卒前臨床医学研修 (中期 5 週: 学外) は知識・技能・態度を修得する上で全般的に適切なものでしたか

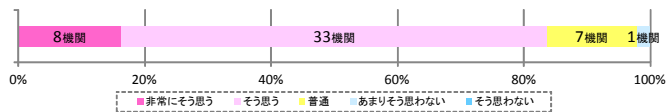


* 第 1 期末と比較して、第 2 期末では学生の高い評価 (非常に適切とした割合) は、4.2%向上している。

(平成 27 年度卒前臨床研修アンケート結果より抜粋)

■ 学外医療機関による学生の臨床実習評価

設問_今回の臨床実習を通して、医師の病院業務について学生の理解が増したと思われますか



* 学生の知識や能力などへの効果について、学生の理解が増したと回答した学外実習担当機関が83.7%と大多数を占める。

(平成 26 年度臨床実習受け入れ先機関に対するアンケート調査結果より抜粋)

(事務局資料)

- ② 診療技能の実習では、平成 26 年度に新設された福井メディカルシミュレーションセンターを活用している（資料 1-2-3-6～7）。

資料 1-2-3-6 福井メディカルシミュレーションセンターの概要

平成 26 年度に福井県の支援によって医学部臨床教育研修センターに併設して新設された福井メディカルシミュレーションセンターは、県内全体の医療のレベルアップと質の高い医療サービスの提供を目的に整備され、超音波診断や血管内治療等を想定した各種シミュレーターを備える。シミュレーターを用いた教育は、新人の医療従事者の慣れない実技によるリスクの軽減や多くの医療従事者に対して均一な診療技術を効果的に習得できる。そのため福井県内のすべての医療従事者を対象としたシミュレーションセンターを開設し、医療従事者の技術向上や医学生・研修医・看護学生・新人看護師の臨床研修の充実を図るとともに、県内の医療従事者の確保を図っている。

シミュレーションセンターを利用した学生対象の実習等として「基本的診療技能」「臨床実習」における内視鏡やダビンチ利用、救命救急処置実習（医と看）、福井県奨学生交流会、学生自主サークル活動など多方面において利用されている。またシミュレーションセンターを使用した専門的かつ高度な教育プログラムや研修医向けプログラムなども開催している。

福井メディカルシミュレーションセンターの役割		
<p>1. 最新医療シミュレーターの設置</p> <p>腹腔鏡手術、内視鏡治療、血管内治療、集中治療など年々高度化する治療に対し、各種シミュレーターを設置しました。様々な状況を設定できるシミュレーターを用い専門医として必要な手技を何度でも繰り返しトレーニングを積むことにより、実際の臨床の場において最高のパフォーマンスを行うことができます。また、福井県で働く医療者には重要な「緊急被ばく医療」専門のシミュレーションルームもあります。</p> <p>医学生・看護学生、若手医師・看護師に対し先進医療の素晴らしさ、面白さをシミュレーターを介して伝えることができ、将来福井県で働く医療者の確保につなげていきます。</p>	<p>2. 基本的な医療手技の修得</p> <p>すべての医療スタッフが修得すべき初期対応をシミュレーターを通して学ぶことができます。AEDを用いた成人心肺蘇生法だけではなく、より高度な心肺蘇生法、小児心肺蘇生法も学ぶことができます。</p> <p>また基本的な処置からウエットラボを用いたより専門的な外科的措置、エコーシミュレーターを用いた超音波診断、看護師に必要な基本的技能、薬剤調整なども学ぶことができます。これらのシミュレーターはいつでも使用することが可能です。</p>	<p>3. 多職種が連携し学べる場</p> <p>様々な医療スタッフと連携し医療を行うことを多職種連携といいます。重症患者や災害医療の初期対応のみならず、地域医療機関での院内急変や在宅医療・訪問看護においても他職種連携が必要となります。</p> <p>平日よりシミュレーターを用いて多職種のスタッフが連携しながらトレーニングを行うことで、いざという時に迅速かつ円滑に医療を提供することができます。地域医療機関、団体とも連携し、様々なトレーニングコースを通じてあらゆる状況に対応できる医療者を養成し福井県全体のレベルアップを図ります。</p>



■ 施設の概要

施設名	用途
シミュレーションルーム (8室)	シミュレーターを用いた災害による外傷や緊急被ばくの初期診断、循環器や脳血管疾患等の血管内治療、消化器・気管支の内視鏡や腹腔鏡手術等のトレーニング
ウエットラボ	手術室をイメージしながらの縫合実習等の外科系手技のトレーニング
トレーニングルーム	心肺蘇生・AED講習会等の講習会開催、およびシミュレーターを用いた実習

(事務局資料)

資料 1-2-3-7 シミュレーションセンターの学生利用状況

平成 26 年度に新設されたシミュレーションセンターは、臨床実習・講義、医看合同授業、AED 講習会などに利用されており、平成 27 年度は延 1,000 人以上の学生が利用している。

■ 利用状況

年度	講座/部局	利用目的	実施回数	参加者数
平成26年度	外科学(1)	学生実習【内視鏡外科手術用トレーニングボックス使用しての縫合等実習】	2回	10名
	外科学(2)	レントゲン読影会(学生講義)	1回	10名
	泌尿器科学	学生指導【ダウイン指導】	1回	5名
	救急医学・総合診療部	診断学実習【医療面接・心肺蘇生】	12回	120名
		BLS教育【一次救命処置勉強】	4回	10名
		医学部1回生心肺蘇生評価【レザリアンシミュレーター、AED】	1回	110名
		コア勉強会【肺エコー】	1回	4名
		シミュレーター教育【多発外傷シミュレーターを使用した教育】	1回	1名
	地域医療推進講座	福井県奨学生交流会2014 in Autumn【情報交流会】	1回	47名
	松岡キャンパス学務室	医学科4年次「基本的診療技能」医療面接・診断学実習	1回	120名
(計)			(25回)	(437名)
平成27年度	外科学(1)	学生実習【内視鏡外科手術用トレーニングボックス、ダウイン、腹腔鏡下手術シミュレーターを使用したの縫合等実習】	13回	87名
	外科学(2)	学生教育【血管内治療シミュレーターによるトレーニング】	10回	49名
		レントゲン読影会(学生講義)	10回	100名
	泌尿器科学	学生指導【ダウイン指導】	9回	47名
	脳脊髄神経外科学	ホリウ学生向け勉強会【脳血管内手術トレーニング】	5回	33名
	救急医学・総合診療部	学生教育【多発外傷シミュレーターを使用した教育(心肺蘇生)】	23回	68名
		4年生シミュレーションコース(4年生講義)	1回	120名
		救急勉強会(緊急時の対応)	1回	10名
	地域医療推進講座	医学科・看護学科合同授業	1回	183名
	内科学(2)	消化器内視鏡トレーニング	1回	8名
	内科学(3)	学生・研修医の修練【内視鏡、ダウインの修練】	1回	8名
	母子看護学	小児看護活動論にて小児フィジカルアセスメント・救急救命処置	4回	236名
	松岡キャンパス学務室	医学科1年次生 AED講習会	1回	60名
		医学科4年次「基本的診療技能」医療面接・診断学実習	1回	150名
	(計)			(81回)

* シミュレーションセンターでは「基本的診療技能」における「診断学実習」を実施し医学科4年次生全員がシミュレーターによる実習を実施している。

■ シミュレーター機器の例

【内視鏡外科手術用トレーニングボックス】



【血管内治療シミュレーター】



■ シミュレーションセンターを利用して学習している学生の声

- ・ 臨床研修センターはプロジェクターや電子黒板など、学生が勉強を行う上でも活躍する機材が充実しており、自発的な学習をする上で大変役に立っています。
- ・ 救急医療における手技・知識を習得・学習する上では、リトルアン・トレーニング用 AED・ハートシムなどの機材を無料で貸し出ししていただけるため、より実践的な学習会ができています。

(事務局資料)

- ③ 看護学科においては、臨地実習を「看護学実習要項」に従って附属病院を含め地域の医療施設や介護老人保健施設などで実施し(資料 1-2-3-8, P4-13 前掲資料 1-1-1-9), 学生からの評価は高い(資料 1-2-3-9)。

資料 1-2-3-8 看護学実習

■ 臨地実習の概要

効果的に実践能力を身に付けるため主に本学附属病院において、1年次、2年次の基礎看護学実習では看護理解・看護観の涵養と基礎的看護技術を修得し、3年次後期からの臨地実習では各看護専門領域の能力を養う。老年看護学や在宅看護学実習では学外施設での実習を組み合わせで行う。さらに3年次でも看護技術実習を配することにより基本的能力の向上を図る。これらのシステムにより、看護能力の向上について学生から実習に対する高い評価を得た（P4-123 後掲資料 1-2-3-11）。

また、保健師および助産師受験資格の取得を希望する学生のための公衆衛生看護学実習（学外13施設）および助産学実習（学外5施設）、国際的な活動を含めた高度実践看護師としての能力開発のためのキャリアアップ実習（附属病院及び学外病院、英国病院等3施設）を選択科目に配している。

		1年次前期	2年次後期	3年次後期	4年次前期	4年次後期
必修	科目名	基礎看護学実習 I	基礎看護学実習 II	成人看護学 I～III、老年看護学、小児看護学、母性看護学、精神看護学、在宅看護学、看護技術実習		
	目的	患者を中心とした医療の機能と役割を知り、入院生活を送っている患者の病院環境を理解する。医療と看護の実際を知り、保健・医療・福祉の中での看護を理解する。	入院生活を送る患者の生活環境を理解し、患者の状況に応じた生活援助を実施し、看護援助技術の基礎的能力と看護観を養う。	【例：成人看護学 I】急性期にある対象（周手術期）の身体的、精神的、社会的特性を理解し、健康回復に向けて適切な看護が実践できる基礎的能力を養う。 【例：看護技術実習】対象となる人の状況を的確に把握した上で、根拠のある判断のもとに、対象者のニーズに配慮し、創造的に看護技術を提供するための基本能力を養う。		
選択	科目名				公衆衛生看護学	助産学実習
					キャリアアップ実習	
	目的				【公衆衛生看護学】地域で活躍する個人と家族、集団を対象に、顕在化・潜在化している健康課題を明らかにし、健康の保持・増進・疾病の予防と健康回復、より質の高い生活を営むことを援助するために、社会資源の開発・施策化および看護職が他の職種と協働して果たす役割を、実践活動および体験することにより理解する。	【助産学】妊産褥婦および新生児の助産課程を展開し、助産診断および助産技術を実践する能力を修得する。正常分娩の介助を主として行うなかで、母子の生命尊重、権利擁護ができる能力、倫理的対応能力を修得する。
				【キャリアアップ実習】国際的な看護活動や、専門分野における看護実践について理解を深め、将来高度実践看護師として専門分野で活躍するための、キャリアアップする能力を養う。		

■ 看護学実習要項の例

基礎看護学実習 II
<p>1. 実習目的</p> <p>入院生活を送る患者の生活環境を理解し、患者の状況に応じた生活援助を実施し、看護援助技術の基礎的能力と看護観を養う。</p> <p>2. 実習目標</p> <p>1) 入院患者の療養生活を述べることができる。</p> <p>(1) 病棟での患者の生活環境を述べることができる。</p> <p>(2) 入院中の生活リズムを知り、入院による生活の変化を述べることができる。</p> <p>(3) 療養生活の及ぼす患者の社会的・精神的影響を述べることができる。</p> <p>2) 患者に起こっている健康問題と潜在的な健康問題を抽出し、生活上のニーズを見出すことができる。</p> <p>(1) アセスメントツール(NANDA I 使用)に基づき、看護に必要な情報を収集することができる。</p> <p>(2) 収集したデータを分析し、患者の健康障害の種類と健康レベルを述べることができる。</p> <p>(3) 健康障害が患者の生活に及ぼす影響を述べることができる。</p> <p>(4) 健康障害と関連付けて、患者の日常生活上のニーズを述べることができる。</p> <p>3) 患者の生活上のニーズに適した看護援助について実施することができる。</p> <p>(1) 患者に適した看護援助方法を計画することができる。</p> <p>(2) 患者の安全・安楽を考えた援助ができる。</p> <p>(3) 患者の個別性や反応を考慮しながら援助できる。</p> <p>(4) 自らの看護場面を客観的に分析できる。</p> <p>(5) 実施した看護援助に対する患者の反応を捉え、評価できる。</p> <p>(6) 評価に基づき計画を修正・実施できる。</p> <p>4) 患者との関わりを通して看護の役割と機能を述べることができる。</p> <p>(1) 日常生活援助の意義について考える。</p> <p>(2) 医療チームの中で果たす看護の役割について自分の考えを述べることができる。</p> <p>3. 実習方法・実習内容</p> <p>1) 実習場所</p> <p>福井大学医学部附属病院 A棟</p> <p>北病棟3階、北病棟4階、北病棟5階、北病棟6階、北病棟7階、 南病棟3階、南病棟4階、南病棟5階、南病棟6階、南病棟7階</p> <p>実習生の配置は、「平成27年度 基礎看護学実習 II 実習生名簿」(P94)参照。</p>

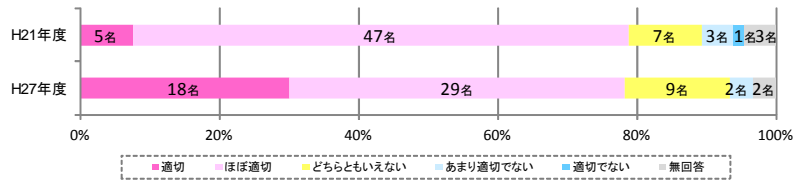
(事務局資料)

資料 1-2-3-9 臨地実習に対する評価

臨地実習に対する学生からの評価によると、大方の学生は適切と考え、かつ高く評価する学生の割合が第2期では増加している。臨地実習を通して、大方の学生は積極的に取り組み将来の自立に有意義であると考え、専門知識・医療への意欲態度・自己の適性・学ぶ態度・医療人としての能力等を涵養できたとしている。加えて学外実習機関からも理解が増加したとされる。

■ 臨地実習に対する学生の評価

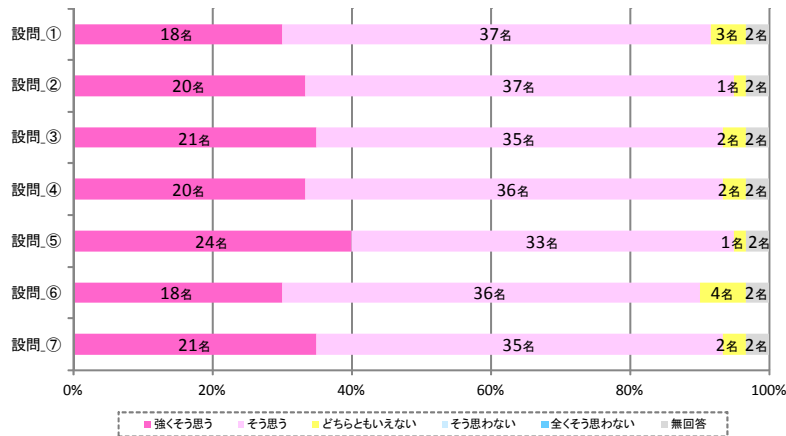
設問_看護学的知識及び技術を十分に修得するために実習教育は必須です。本学の実習教育（実習の内容や時期など）は一般的に適切に行われていましたか



* 第1期末と比較して、第2期末では実習に対して高評価をする学生の割合が22.4%増えている。
(平成21年度および平成27年度カリキュラム評価アンケート（4年次生用）結果より抜粋)

設問_臨地実習では、業務を経験することを通じて、①専門知識の有用性や職種自体についての具体的な理解、②医療への意欲・態度の涵養・向上、③自己の適性や志向に照らし進路を考える機会として活用、④主体的な学習態度の育成や学習への動機づけ、⑤ディプロマ・ポリシー等で明示した高度専門職業人として備えるべき能力等、を育成することを目的としています。そこで、臨地実習を経験して、

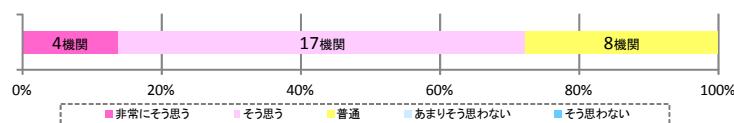
- ① あなたの専門知識が有用で、職種自体についての理解が増したと思いますか
- ② 医療への意欲・態度が向上したと思いますか
- ③ 今回の臨地実習は自己の適性や志向に照らし進路を考える機会になったと思いますか
- ④ 学修への動機づけを含め進んで学習する態度を養うことができたと思いますか
- ⑤ 医療人としての知識・技能・コミュニケーション能力・倫理観・向上する意欲や学ぶ習慣などを養うことができたと思いますか
- ⑥ あなたは今回の臨地実習に積極的に取り組んだと思いますか
- ⑦ 将来高度専門職業人として自立する上で、有意義なものであったと思いますか



(平成27年度カリキュラム評価アンケート（4年次生用）結果より抜粋)

■ 学外医療機関・施設等による学生の臨地実習評価

設問_今回の臨地実習を経験して、学生は職種（看護師・保健師・助産師）についての理解が増したと思われますか



* 学生の知識や能力などへの効果について、学生の理解が増したと回答した学外実習機関が72.4%と多数を占める。
(平成26年度臨地実習受け入れ先機関に対するアンケート調査結果より抜粋)

(事務局資料)

- ④ 看護学科においては、平成 24 年度より臨地実習における「看護技術実習」を必修とし、基本技術の自己評価システムに工夫を行い（資料 1-2-3-10）、看護実践能力向上に努めた。取り組みに対する評価は高く、基本技術の到達度は第 1 期より高い（資料 1-2-3-11～12）。

資料 1-2-3-10 「看護基本技術の記録」による自己評価システムの工夫

「看護基本技術の記録」は学内演習及び臨地実習時における看護基本技術の習得状況や成果を整理するためのファイルであり、各実習を通して看護基本技術がどのように積み重ねられているかを知るために技術の習得状況や成果を自ら記録するものである。「学士課程においてコアとなる看護実践能力と卒業時到達目標（平成 23 年、文科省）」に基づき、実習施設である本学附属病院看護部と密な意見交換のもと、「看護基本技術の記録」の改良を行っている。

① コアとなる看護基本技術項目の精選

「生活を支える援助」「生理的ニーズへの援助」「治療に関する看護」「ヘルスアセスメント技術」「医療環境の整備」の 5 項目からなり、それぞれに学習を支える知識・技術として学び習得すべき項目や成果として求められる項目の整理を行った。

② 学生の到達水準の見直し

臨地実習における到達水準として、「学内演習の到達水準」（学内演習で実施した技術の到達水準、3 年次生前期終了時点での到達水準）と「臨地実習の到達水準」（臨地実習において各実習が終了した時点での到達水準）を明記し、学生が自己評価すると共に、「最終到達水準」として全ての実習を終了した時点での最高の到達水準を全ての項目について学生自身が評価記録することとした。

学習項目	学内演習 到達水準	臨地実習 到達水準	注釈・説明	学習目標
療養生活環境整備	3	3	温度・湿度・換気・採光・臭気・騒音・病室環境・空間確保など	安全・安楽な病室環境に整えることができる。
ベッドメイキング	3	3	クローズドベッド・オープンベッド・重症専用ベッド	患者の状態に適したベッドメイキングができる。 ホスピタリティの意識を養うことができる。
就床患者のシーツ交換	3	2	重症患者・点滴やカテーテル等挿入患者のシーツ交換含む	患者の状態を考慮し、安全で安楽にシーツ交換ができる。
酸素吸入	2	2	酸素の性質、酸素吸入の適否、酸素療法開始の基準、酸素中毒、慢性呼吸不全の人の酸素療法を行う時の注意点、カニューラ・マスクの適切な装着観察、酸素流量の確認、火気厳禁の遵守、酸素ボンベの取り扱い、中央配管設備の種類と差し込み方法の理解	必要な基礎知識を理解し、安全・正確・安楽に観察、実施できる。 酸素ボンベ・カニューラ・マスクの目的・方法・注意点を理解できる。
在宅酸素療法	2	1	NIPPV・在宅人工呼吸器装着患者を含む	在宅酸素療法の基礎知識を理解し、正確に観察ができる。
排便の援助	2	2	ネブライザー・体位ドレナージ・排便法	排便を促す方法を理解し、正確に観察・実施できる。

③ 看護基本技術チェック表の改良

実際に実習で学んだ技術項目の一覧表において、取組実施回数記入欄を新設し、学生が取り組んだ看護技術が一目でわかるように改良した。

技術項目	到達水準	現在までの最高到達水準	1 週目			2 週目			3 週目		
			1	2	3	1	2	3	1	2	3
療養生活環境整備	3										
ベッドメイキング	3										
就床患者のシーツ交換	2										
酸素吸入	2										

④ 未経験技術減少に向けた臨地実習指導者との連携強化

附属病院において臨地実習で取り組むべき看護基本技術項目を全ての学生が学ぶことができるよう看護学科教員と附属病院看護師等の指導者が連携して教育に当たる体制を強化した。

⑤ 公衆衛生看護学実習の工夫

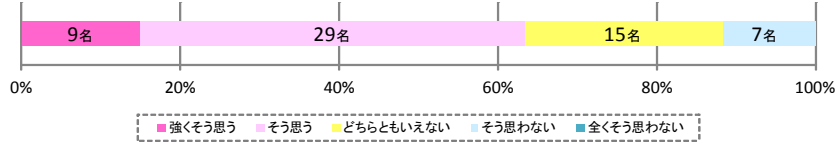
保健師教育課程の選択制導入（平成 24 年度）に対応し、新たに『公衆衛生看護基本技術の記録』『公衆衛生看護学実習評価シート』導入し、専門的実習への取り組み強化を行った。

（事務局資料）

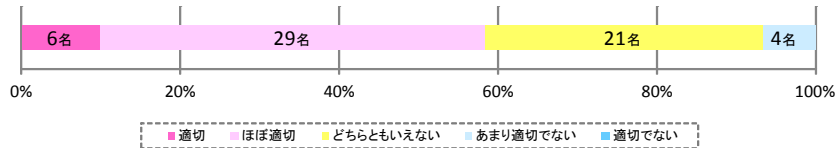
資料 1-2-3-11 「看護基本技術実習」と「看護基本技術の記録」に対する学生の評価

過半の学生は「基本技術実習」と「看護基本技術の記録」により、基本的能力を養い看護実践能力の取得に有用であったとしている。

設問_3 年次後期～4 年次前期の「看護基本技術実習」によって、あなたの看護技術を提供するための基本的能力を養うことができましたか



設問_臨地実習では、看護実践能力の向上を目的に、「看護基本技術の記録」による自己評価を行っています。これは看護実践能力の修得状況を確認する上で有用であったか



(平成 27 年度カリキュラム評価アンケート (4 年次生用) 結果より抜粋)

資料 1-2-3-12 看護基本技術の到達度評価

臨地実習委員会による「臨地実習における看護基本技術の卒業前到達度調査」(平成 27 年度)において、各看護基本技術の到達度評価における学生の自己評価の平均値と本学到達度水準値を比較し、学生平均レベルが到達度水準の 6 割以上に達した場合、「到達」できたとした。その結果、「生活を整える援助」「生理的ニーズへの看護」「治療に関する看護」「ヘルスアセスメント技術」「医療環境の整備」の分野全 87 項目について分析し、74 項目が「到達」と判断された。特に、「生活を整える援助」「生理的ニーズへの看護」「ヘルスアセスメント技術」「医療環境の整備」に関する項目の「到達」状況が高かった。

これら看護基本技術を第 1 期 (平成 21 年度調査) と比較すると到達度評価は上昇していた。

■「臨地実習における看護基本技術の卒業前到達度調査」(平成 27 年度) 結果より抜粋

臨地実習委員会

臨地実習における基本看護技術の卒業前到達度調査

対象:看護学科 4 年学生 60 名
調査日:平成 27 年 11 月 5 日

方法:基礎実習 II および領域別実習終了時の基本看護技術 87 項目について到達度評価 4 段階での学生の自己評価の平均値と本学到達度水準値を単純比較し、学生平均レベルが到達度水準の 8 割に達した場合、到達できたとし、到達水準の 6 割以下場合は到達できていないとした。また、記述統計 (SPSS 統計ソフト) により見学する機会がないレベル 0 の割合が 25% を超える技術を抽出した。

レベル 0: 技術の実施、あるいは看護師・医師の実施を見学する機会がなかった。
レベル 1: 学生は原則として看護師・医師の実施を見学する。
レベル 2: 教員・看護師の指導・監督のもとで学生が実施できる。
レベル 3: 教員・看護師の助言・指導により学生が主体となり実施できる。

1. 生活を整える援助

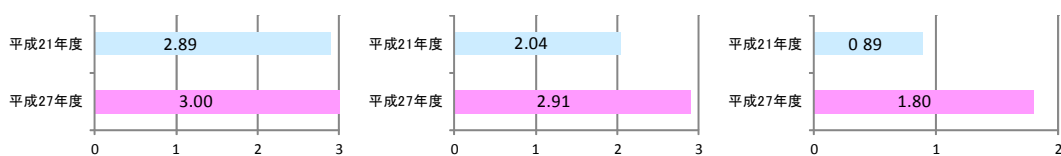
1) 「生活を整える援助」での到達水準レベルとの学生平均レベル比較
「環境調整」としての「療養生活環境調整」「ベッドメイキング」は到達水準レベル 3、学生平均レベルは 3 および 2.91 であり、学生が主体でできていた。「臥床患者のシーツ交換」は到達水準レベル 2、学生平均レベルは 1.8 であり、指導を受けて実施できていたが、「臥床患者のシーツ交換」での 0 レベルに見学する機会がなかったは 15 件(25%)であった。生活を整える援助は到達水準レベルにあった。

■ 生活を支える援助の到達水準比較 (「臨地実習における看護基本技術の卒業前到達度調査」より)

【療養生活環境調整】(到達水準 3)

【ベッドメイキング】(到達水準 3)

【就床患者のシーツ交換】(到達水準 2)



(事務局資料)

【多様な教育方法】

- ① 学生の課題探求・解決能力形成のためテュートリアル教育を実施し、1年次に医学入門と地域医療に関する課題、3～4年次に臨床課題に取り組んでいる(資料1-2-3-13)。テュートリアル教育に対する評価は学生・教員共に高く、向上した(資料1-2-3-14, 15)。

資料1-2-3-13 テュートリアル教育

医学科「テュートリアル教育」の実施に際しては以下のごとく進めている。まず1年次生にテュートリアルの歴史や意義、実施方法について講義形式で説明を行う。ついで学生と教員(大学院生や医員も含む)が参加する合同説明会を開催し、そこでは指導講師のもと学生代表が模擬テュートリアルを行い、他の学生と教員がそこから実際に学ぶ。その後教員のみによるテュートリアル教育の意義等の講演と質疑応答を行い、全体としてテューター養成FDとしている。テューターはFDの参加者から選ばれ、教員だけでなく大学院生や医員もその任を担っている。

テュートリアルとして、1年次には医学入門的な内容を共通教養教育担当者、地域医療課題を地域医療推進講座担当者、3年次には基礎医学担当者(なお3年次基礎医学テュートリアルは研究室配属充実のため平成26年度より中止された)、3年次後期～4年次には臨床課題を消化器系、循環器系、神経系それぞれの担当者が毎年作製している。それぞれの課題を担当するテューターはテューター会議において課題の意義や取り組み方について課題作製担当者との打ち合わせを行う。

本取り組みに対しては福井大学「競争的配分経費(教育評価に基づく競争的経費)」として平成22～26年度に「福井大学における探求的課題解決型テュートリアル教育手法の医学教育への実践」として配分を受けテューター養成FDや教育資料の充実を図った。

■ 課題一覧

年度	区分	年次	テーマ	担当講座
H22年度	入門テュートリアル	1年次	症例から学ぶ	応用言語学
		1年次	インフルエンザ	微生物学
	テュートリアルⅠ(基礎系)	3年次	心臓のふしぎ	分子病理学
		テュートリアルⅡ(臨床系)	3年次	心臓(循環器系)
	3年次		結腸癌(消化器系)	外科学(1)
	4年次	パーキンソン病(神経系)	内科学(2)、脳脊髄神経外科学	
H23年度	入門テュートリアル	1年次	最後まで家にいたい	地域医療推進講座
		1年次	水についてかんがえてみよう	医用統計学・数学
	テュートリアルⅠ(基礎系)	3年次	心臓の発生と先天性心奇形	人体解剖学・神経学
		テュートリアルⅡ(臨床系)	3年次	急性心筋梗塞(循環器系)
	3年次		直腸癌(消化器系)	外科学(1)
	4年次	中枢神経系原発悪性リンパ腫(神経系)	内科学(2)、脳脊髄神経外科学	
H24年度	入門テュートリアル	1年次	家で暮らしたい	地域医療推進講座
		1年次	飲酒の功罪	病態遺伝生化学
	テュートリアルⅠ(基礎系)	3年次	バングラデシュから来日した女性のヒ素中毒疑いと不安	環境保健学
		テュートリアルⅡ(臨床系)	3年次	心筋梗塞(循環器系)
	3年次		結腸癌(消化器系)	外科学(1)
	4年次	脳梗塞(神経系)	内科学(2)、脳脊髄神経外科学	
H25年度	入門テュートリアル	1年次	最後まで家にいたい	地域医療推進講座
		1年次	血液型性格判断	医療人文学
	テュートリアルⅠ(基礎系)	3年次	ひとの生きかたと死	法医学・人類遺伝学
		テュートリアルⅡ(臨床系)	3年次	心臓(循環器系)
	3年次		結腸癌(消化器系)	内科学(2)、光学医療診療部
	4年次	中枢神経系原発悪性リンパ腫(神経系)	内科学(2)、脳脊髄神経外科学	
H26年度	入門テュートリアル	1年次	家で暮らしたい	地域医療推進講座
		1年次	医療事故 一病院は安全か?ー	医療倫理・医療安全学
	テュートリアル(臨床系)	3年次	心臓(循環器系)	外科学(2)、循環器内科学
		3年次	潰瘍性大腸炎(消化器系)	内科学(2)、光学医療診療部
	4年次	パーキンソン病(神経系)	内科学(2)、脳脊髄神経外科学	
	H27年度	入門テュートリアル	1年次	まちで暮らしたい
1年次			食	応用言語学
テュートリアル(臨床系)		3年次	心臓(循環器系)	外科学(2)、循環器内科学
		3年次	潰瘍性大腸炎(消化器系)	内科学(2)、光学医療診療部
4年次	重症筋無力症(神経系)	内科学(2)、脳脊髄神経外科学		

(事務局資料)

資料 1-2-3-14 「チュートリアル」に対する学生の評価

■ アンケート結果（平成 21 年度、平成 27 年度比較）

平成 21 年度及び平成 27 年度に実施したチュートリアル教育に対する学生の評価をアンケート調査した。学生の評価は常に高いが、平成 27 年度では最も高い評価（十分適切、非常に良い等）を行った学生の割合がそれぞれ、3.7%、3.0%、5.0%、10.8%増加した。

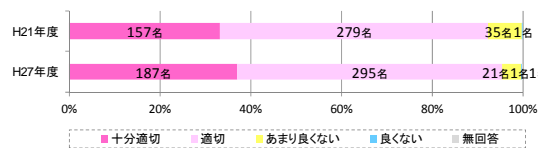
設問 1_今回の課題は適切でしたか

設問 2_今回の課題についてあなたは積極的に学習に取り組みましたか

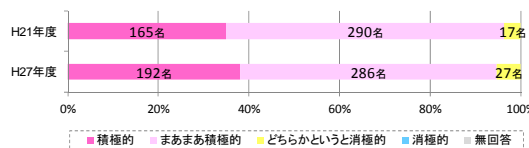
設問 3_今回の課題についてあなたのグループは十分に学習できましたか

設問 4_今回の課題に対する学習を総合的に評価してください

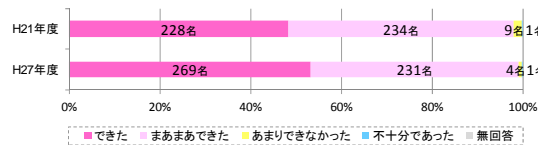
設問 1



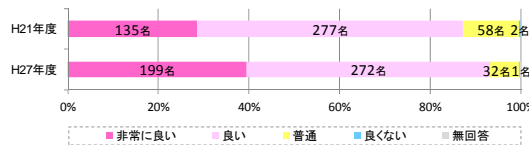
設問 2



設問 3



設問 4



■ 学生の意見（平成 27 年度のみ・一部抜粋）

入門チュートリアル（1 年次生）

- ・食についての課題でしたが、大学生となり自炊を始めた身としては、とても身近な話題であり、調べる意欲も上がりました。
- ・「食」という身近な健康に関する課題は単純で深く調べるほど疑問がわいた。意欲的になれる課題だった。
- ・それぞれ具体的なデータを基に議論することで説得力のある結論を提示できたと思う。
- ・課題学習について、インターネットを使うことは便利だが、本当に正しい情報なのか疑問に思うものもあった。信頼性の高いサイトを見ることが大切だと思いました。

臨床系チュートリアル（3～4 年次生）

- ・授業の進度と同じところだったので、自分の復習にもなり良かった。（循環器系）
- ・リアリティあるシナリオで、自分が医師になったかのように取り組みました。（循環器系）
- ・考える項目がいろいろあり、心筋梗塞に対する多面的な勉強ができて適切であったと思います。（循環器系）
- ・潰瘍性大腸炎という割とまだ解明されていないテーマが課題だったので、興味がわいた。（消化器系）
- ・最近増加している疾患についてだったので、理解が深まり良かった。（消化器系）
- ・検査項目や画像診断に興味を持って調べる良いきっかけになった。（消化器系）
- ・追加の課題項目の出し具合が丁寧で良かったと感じます。（神経系）
- ・たいへん取り組みやすく、焦点を絞ってしっかり勉強できた。今回でできた症例や鑑別疾患についてしっかり頭に入ったと感じる。（神経系）
- ・インターネットや教科書だけでなく、様々な文献を探さないといけないと思いました。（神経系）

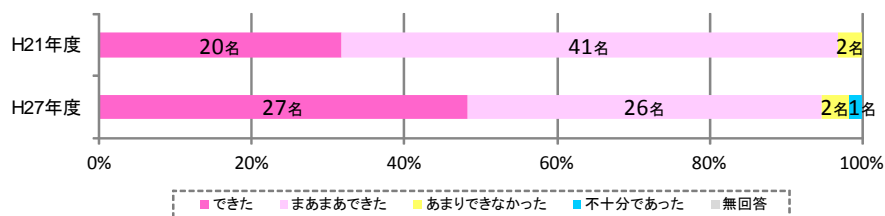
（平成 21 年度および平成 27 年度入門・神経系・循環器系・消化器系チュートリアルアンケート結果より抜粋）

資料 1-2-3-15 「チュートリアル」に対するチューターの評価

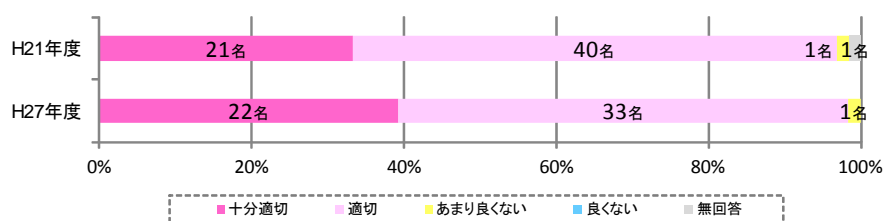
平成 21 年度及び平成 27 年度に実施したチュートリアル教育に対する教員の評価をアンケート調査した。評価は常に高いが、平成 27 年度では最も高い評価（十分適切、非常に良い等）を行った教員の割合がそれぞれ、16.5%、6.0%、9.2%、13.7%増加した。

■ アンケート結果（平成 27 年度）

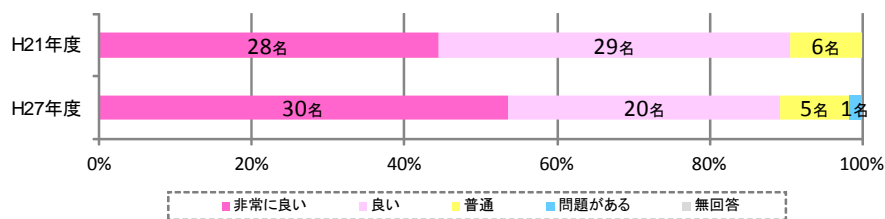
設問 1_今回の課題について、グループは十分な学習ができましたか？



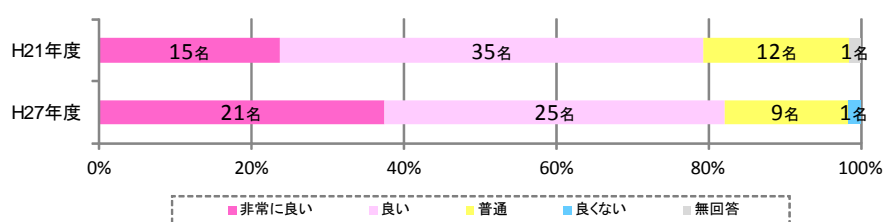
設問 2_今回の課題は適切でしたか？



設問 3_今回の課題で、学生はまじめに取り組んでくれましたか？



設問 4_今回のチュートリアル教育を総合的に評価してください。



(平成 21 年度および平成 27 年度チューターアンケート結果より抜粋)

- ② 初年次教育を工夫し、新入生への「動機付け」教育や早期体験学習として外来患者のエスコート実習を実施している。これらは学生の大学教育への円滑な移行、履修意欲増加に繋がっている（資料 1-2-3-16～17）。

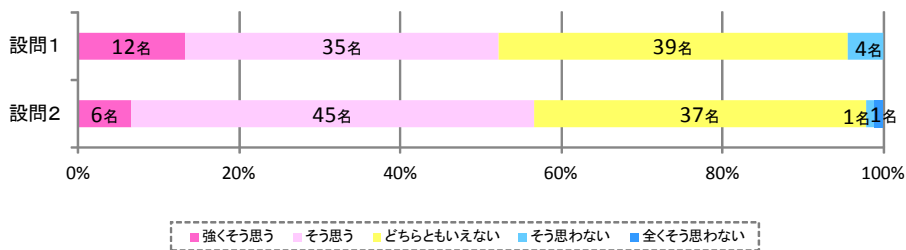
資料 1-2-3-16 初年次教育の工夫

■ 医学科

- ① 「医学入門と医学概論」：医学部を構成する各領域の主任が担当する教育・研究・診療等を概説する。それにより、医学を学ぶに当たっての心構えを学び、医学教育・研究の全体像を鳥瞰する。さらに、病院見学および看護体験により医療現場の現状を理解するとともに、地域医療の概要等を学ぶ。
- ② 「入門チュートリアル」：PBL チュートリアル形式により、医療一般および地域医療に関する課題に取り組む。地域医療課題は平成 23 年度より実施している。
- これらにより過半の学生が大学教育への移行や履修意欲増加に役立ったとしている。

設問 1_初年次教育として実施している「医学入門」や「入門チュートリアル」は大学教育への円滑な移行に役立ちましたか？

設問 2_「医学入門」や「入門チュートリアル」を受講して、これから履修する大学教育に対する履修意欲が増しましたか？

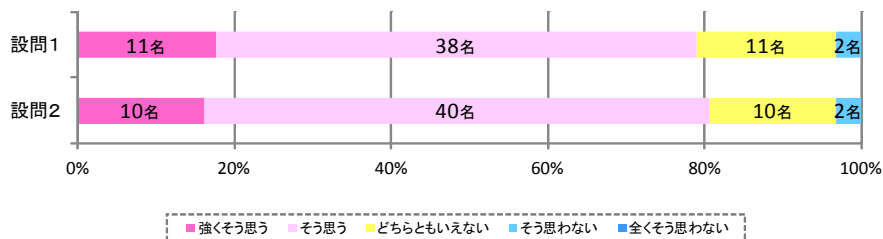


■ 看護学科

- ① 「看護学入門」：大学生生活の初期段階で、看護学を学ぶにあたって必要な基本的態度・知識・技法を習得する。平成 22 年度より開講している。
- ② 「看護学概論」：看護の概念およびその本質を追究し、自己の看護観の確立の基礎的能力を養う。また、あらゆる健康レベルにある個人、集団、地域社会の人々に看護を創造的、発展的に行えるように人間の本質を看護の視点からその基礎を学修する。平成 22 年度より開講している。
- これらにより大方の学生が大学教育への移行や履修意欲増加に役立ったとしている。

設問 1_初年次教育として実施している「看護学入門」は大学教育への円滑な移行に役立ちましたか？

設問 2_「看護学入門」を受講して、これから履修する大学教育に対する履修意欲が増しましたか？



(平成 27 年度カリキュラム評価アンケート (1 年次生用) 結果より抜粋)

資料 1-2-3-17 早期体験学習

■ 実施概要

コミュニケーションとチーム医療

科目名	単位数又はコマ数	開講時期
コミュニケーションとチーム医療 (必修)	5コマ+実習2コマ 2コマ 4コマ	1年次生後期 3年次生前期 4年次生前期
担当教員名	職名/所属	Eメールアドレス
寺澤 秀一 講師/地域医療推進講座		oshtera@fukui.ac.jp
山内 高弘	教授/内科学 (1)	tyamsuch@fukui.ac.jp
石塚 全	教授/内科学 (3)	tamotsui@fukui.ac.jp
上野 栄一	教授/基礎看護学	eiichi@fukui.ac.jp
安倍 博	教授/行動基礎科学	hiroabe@fukui.ac.jp
山村 悠	講師/地域医療推進講座	kapi@fukui.ac.jp

オフィスアワー
常時歓迎但しアポイントメント必要
予約により随時(mail/2992)
予約により随時(mail)
月曜日の午後1時～3時
いつでも歓迎
火曜日午前中

1 学習目標

- 医療の現場におけるコミュニケーションの重要性を理解し、信頼関係の確立に役立つ能力を身につける。
- 患者と医師の良好な関係を築くために、患者の個別的背景を理解し、問題点を把握する能力を身につける。
- チーム医療の重要性を理解し、医療従事者との連携を図る能力を身につける。

2 授業の内容

1. 項目：早期学習コミュニケーション学 (1年生で行う)

回	講義タイトル	内容、キーワード	担当講座・教員
1	コミュニケーションとは	人間関係(対人関係)、言語的・非言語的コミュニケーション	行動基礎科学 安倍
2	コミュニケーションと心理学	カウンセリング、パーソナリティ、人間関係	講師未定
3	医療におけるコミュニケーション	患者医師関係、医療面接、	地域医療推進講座 寺澤
4	外来患者エスコート体験	外来患者の心理、エスコート、患者医師関係	地域医療推進講座 寺澤
5			3内科 石塚
6			行動基礎科学 安倍
7			講師未定
8	総合討論	同上	同上
9	総合討論 まとめ	同上	同上

2. 項目：中期学習コミュニケーション学 (3年生で行う)

回	講義タイトル	内容、キーワード	担当講座・教員
1	現場におけるコミュニケーション①	医療面接学、患者心理、社会的背景、信頼関係	地域医療推進講座 寺澤
2	現場におけるコミュニケーション②	同上	地域医療推進講座 北野



福井大学医学部附属病院外来受付

■ 学生の感想

- ・今回自分がエスコートさせて頂いた患者さんは腎臓に病気を抱えていらっしやっただ。今回の検査で入院することになってしまい、気分が沈んでいる様子でした。自分は患者さんご本人の気持ちは分からずとも、寄り添い共に最もよい治療法を探していくことが大事だと以前から思っていました。いざ目の前の状況に対して何と声をお掛けして良いのかわからなくなり、非常にコミュニケーションの難しさを感じました。
- ・患者さん視点の医師の様子や、医師が患者さんと話すときに注意していること等がわかってよかったです。将来に向けていい経験になったので、忘れず将来に生かせるようにしたいです。
- ・年代の異なる人との会話は大変だと感じた。
- ・待ち時間にお話ししている間に、患者さんの様々なことを聞くことができました。家族のこと、昔の職業のこと、ご自身の病気のこと。やはり医師になってからは問診の時間も限られるし、今回のように多くは聞けないかも知れない。だが、できるだけ患者さんのことを知ろうとする姿勢、そして聞き出せなくても背景に存在する人生を想像する力が必要だろう。

(事務局資料)

③ 平成20年度概算要求事業として始まった「統合的先進イメージングシステムによる革新的医学教育の展開」プログラムは平成23年設置の附属先進イメージング教育研究センター統括のもと、学内ネットワークを基盤とする画像教育システムとして整備された。教育用コンテンツは6,000以上と本邦随一であり、講義・課題・画像実習・自学自習に利用されている。学生は医学の知識・技能を深めることができたと評価している(資料1-2-3-18)。

資料 1-2-3-18 画像医学教育の工夫

基礎医学から臨床医学まで学生が画像を中心とした学習が可能となる画像教育システム ideata2 (本学で開発した画像教育システム) が整備され、様々な画像データを中心とするコンテンツは本邦唯一の 6,000 以上が学内教育サーバに蓄積されネットワークを介して講義・実習・レポート・自学自習等で利用されている。学内ネットワークより中心となる放射線医学領域・放射線科に加え、解剖学・組織学・病理学・法医学・産婦人科学の各研究室、解剖学実習室・組織病理学実習室など広くシステムを教育に用いる環境が整えられている。過半の学生はこれらシステムを利用した教育により、医学の知識・技能を深めることができたとしている。

■ 利用例

- ①人体解剖学における「Ai-CT 撮影と解剖時 CT 画像教育活用」
- ②組織学実習における「デジタル組織標本 + 組織学実習手引き」
- ③放射線科における「e-レポート 2015」 (核医学領域課題, 乳腺領域課題, CNS 領域課題, 腹部領域課題など)
- ④放射線科における「e-ポリクリ 2015」 (小脳橋角部, 中枢神経課題, 多発病変, 血腫など)
- ⑤産婦人科講義における「産婦人科病理」・「研修医向けコアレクチャー」 (正常子宮, 子宮頸がん, 子宮筋腫, 内膜症性, 胞状奇胎など)

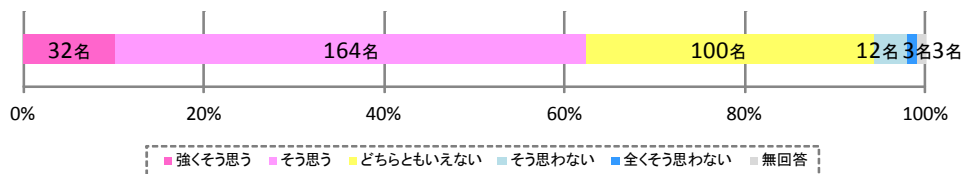


■ 臨床教員, 病理学教員, 放射線医学教員による連携講義

呼吸器 RAP-C (Radiology-Anatomy-Pathology Correlation) 授業 (H19 より) として, 「呼吸器内科学教授 + 病理学教授 + 放射線科学名誉教授」が同じ症例を横断的に RAP-C という枠組みを使って「解析・診断・治療」を講義する, 他には類を見ない連携授業である。病態の本質に迫ると共に, 良い医療を行うために診療科を跨いだコラボレーションの重要性を学べる貴重な授業として学生にも好評である。

■ 画像医学教育に対する学生の評価

設問_福井大学では, 組織学, 解剖学, 病理学および放射線医学関連の講義実習において, 皆さんの画像診断能力が向上するように, 画像医学教育 (通常の講義実習に加え PC システムを用いた実習等) を推進しています。そこで, これらの画像シミュレーション教育で医学の知識・技能を更に深めることができましたか?



(平成 27 年度カリキュラム評価アンケート (3, 4, 6 年次生用) 結果より抜粋)

設問_自由感想

- ・ MRI を使って診断を体験できたのは初めてだったのでとても楽しかった。分かり易く意欲がわいたので, 受け身ならずとても良い授業でした。
- ・ 科ごとのまとめとしてこのシステムを使うのはとても良いと思いました。超音波の画像もあるととっても良いと思いました。
- ・ 受身ではない参加型の講義でとても良かったです。頭を使って考えられたと思います。
- ・ 画像を見てみんなで考えるのが楽しかったです。勉強の吸収の仕方が授業よりも効率的でたくさんの知恵を絞って身についたと思います。

(産婦人科講義「アクティブラーニングの試み」アンケート・一部抜粋)

(事務局資料)

- ④ 統合型講義として臓器分野別臨床講義等を取り入れ、コーディネーターによる統括のもと一貫性のある教育体制とし、学生から好評を得ている（資料 1-2-3-19）。

資料 1-2-3-19 統合型講義と学生による評価

統合型講義は臓器分野別にコーディネーター教員による統括のもと、基礎系および臨床系教員からなる正常から病態、診断、治療を縦断的に学ぶ講義形式をとっている。講義や実習は分野別に集中的に実施されている。過半の学生はこのような統合型講義を良いとしている。

■ 統合型講義シラバス（循環器系）

循環器系

科目名		単位数又はコマ数	開講時期
循環器系 (必修)		46コマ	3年次生後期
担当教員名	職名/所属	Eメールアドレス	オフィスアワー
李 鍾大	教授/保健管理センター	jdlee@u-fukui.ac.jp	事前にメール等で都合を確認
腰地 孝昭	教授/外科学(2)	koshiji@u-fukui.ac.jp	事前にメール等で都合を確認
内木 宏延	教授/分子病理学	naiki@u-fukui.ac.jp	毎週火曜日 16:30~18:00
茅田 浩	教授/循環器内科学	htada@u-fukui.ac.jp	事前にメール等で都合を確認
此下 忠志	准教授/内科学(3)	konosita@u-fukui.ac.jp	予約により随時 (メール/内 2305)
宇隨 弘泰	准教授/循環器内科学	huzui@u-fukui.ac.jp (中略)	事前にメール等で都合を確認

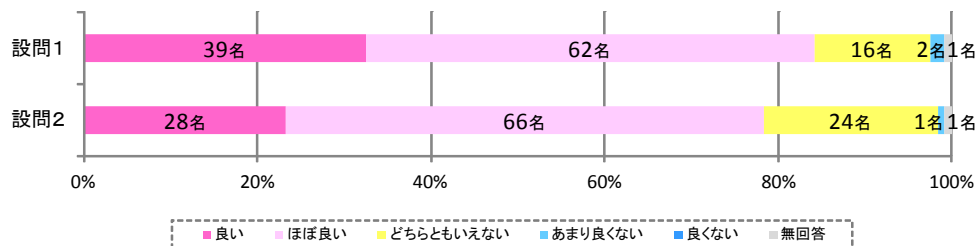
- 1 学修目標
循環器系の構造と機能を理解し、主な循環器疾患の病態生理、原因、症候、診断と治療を学ぶ。
- 2 授業の内容
すべての医学生が臨床実習前に修得すべき必須の学習内容を精選し、かつ国家試験出題基準との整合性も考慮して作成されたコアカリキュラムにもとづいた授業内容である。すなわち従来の講座単位で行われていた授業内容を再構成し、循環器系を正常構造と機能、病態、診断そして治療へと効率的に学習することができるように基礎医学と臨床医学を関連づけた統合的なカリキュラムを編成した。さらに生涯にわたる自ら課題を探索し、問題を解決してゆく能力を身につけることを目的としてデュートリアル教育をとり入れる。
- 3 授業の形式
循環器における診断と検査の基本にはじまり、心不全、狭心症と心筋梗塞、不整脈、弁膜症、心筋・心臓疾患、先天性心疾患、動脈疾患、静脈・リンパ管疾患、高血圧症の各項目について、病理学、薬理学、循環器内科学、小児循環器学、心臓血管外科学の各教員が上記カリキュラムに沿って講義30コマ、実習(病理学)4コマを担当する。さらに重要な臨床医学的な課題を選んでデュートリアル(12コマ)が実施されるが、課題を探索し、問題を解決してゆく過程を通じて、講義で修得した知識を有機的に活用するとともに、これをさらに発展させる能力を養い、来るべき臨床実習に備える。

(以下省略)

■ 統合型講義に対する学生の評価

設問1 臨床医学の講義は臓器別に短期間の間で集中して行いました（以前は、数週ずつ通年で行っていましたが）、このように集中して履修するのはいかがでしたか？

設問2 臓器別の講義では、関連する解剖・生理・薬理・病理に関する講義・実習も行われ、病態・疾患を総合的に理解できるようなカリキュラムとしました（以前は、関連する基礎医学の講義は行われていませんでした）が、このようなカリキュラム構成はいかがでしたか？



(平成 27 年度カリキュラム評価アンケート (4 年次生用) 結果および 2015 年度医学科授業要項より抜粋)

●学生の主体的な学習を促すための取り組み

【アクティブラーニング】

- ① 「単位の実質化」に取組み、授業時間外の学習時間の確保、能動的学習の積極的導入、自主学習環境の整備を行った（資料 1-2-4-1）。

資料 1-2-4-1 単位の実質化への全学的取組方針

■ 「単位の実質化」に向けた具体的な方策を本学高等教育推進センター運営委員会において定め、第 2 期において、医学部ではこれらに沿って、様々な取組みを推進した。

- (1) 履修単位数の上限（CAP 制）導入の検討
- (2) 授業時間外の学習時間の確保
- (3) 能動的学習の積極的導入
- (4) 自主学習環境の整備
- (5) 授業外学習時間の調査

※ 必修専門科目が大半を占める医学部では CAP 制の導入を見送ることとした。

(事務局資料)

- ② テュートリアル教育 (P4-124 前掲資料 1-2-3-13) や卒業研究 (P4-159 後掲資料 2-1-2-7) などの能動的学習や研究室配属 (P4-88 前掲資料 1-2-1-20) 等を通して課題探求・解決型能力の涵養を進め、学生の評価は良好である (資料 1-2-4-2, P4-92 前掲資料 1-2-1-25)。

資料 1-2-4-2 課題探求・解決型能力の涵養

■「課題探求・解決能力涵養科目」

【医学科】

入門テュートリアル (1年次), 個体の調節機構とホメオスターシス (2年次 TBL), 研究室配属 (3年次), 臨床課題テュートリアル (4年次)

アンケートによると, 過半の学生は「課題探求・解決能力」を修得できたとしている。

【看護学科】

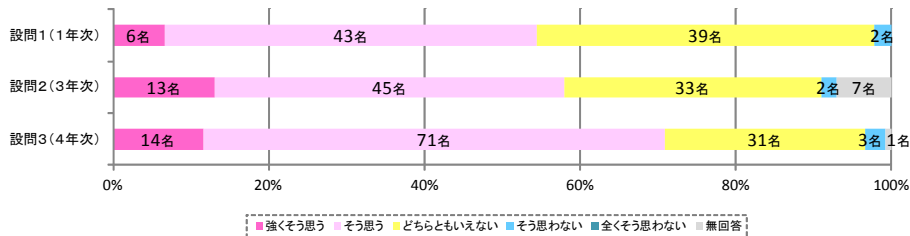
卒業研究 (4年次) に加え, 専門科目の多くはグループワーク, ロールプレイ, 討論, 発表を取り入れている。アンケートによると, 大方の学生は「課題探求・解決能力」を修得できたとしている。

■ 医学科生の「課題探求・解決能力涵養科目」に対する評価

設問1_「入門テュートリアル」の科目は, 皆さんに“問題を見つけ, それを自ら解決する能力, いわゆる課題探求・解決能力”を養ってもらうことを目的としています。そこで“課題探求・解決能力”を養うことができたと思いますか? (1年次生)

設問2_研究室配属についてお尋ねします。この科目では皆さんに“問題を見つけ, それを自ら解決する能力, いわゆる課題探求・解決能力”を養ってもらうことを目的としています。そこで“課題探求・解決能力”を修得できたと思いますか? (3年次生)

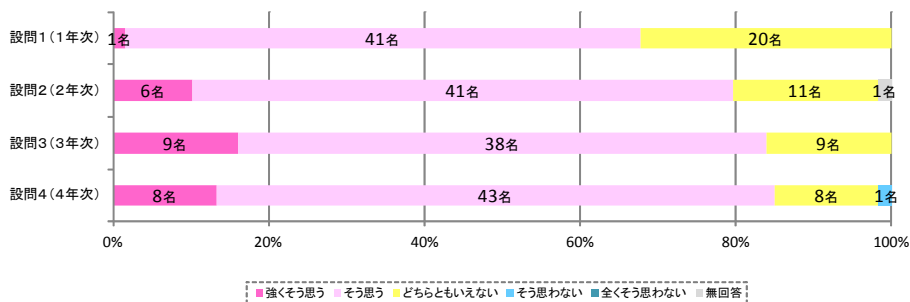
設問3_本学では, 「循環器系」「消化器系」などで導入されているテュートリアル教育によって皆さんに“問題を見つけ, それを自ら解決する能力, いわゆる課題探求・解決能力”を養ってもらうことを目的としています。そこで“課題探求・解決能力”を修得できたと思いますか? (4年次生)



■ 看護学科生の「課題探求・解決能力涵養科目」に対する評価

設問1~3_実習を取り入れた科目全般は, 皆さんに“問題を見つけ, それを自ら解決する能力, いわゆる課題探求・解決能力”を養ってもらうことを目的としています。そこで“課題探求・解決能力”を修得できたと思いますか? (1~3年次生)

設問4_卒業研究は皆さんに“問題を見つけ, それを自ら解決する能力, いわゆる課題探求・解決能力”を養ってもらうことを目的としています。そこで“課題探求・解決能力”を修得できたと思いますか? (4年次生)



(平成 27 年度カリキュラム評価アンケート結果より抜粋)

- ③ 準備学習に関する具体的内容をシラバスに明記するなど、様々な工夫によって時間外学習を促している（資料 1-2-4-3）。

資料 1-2-4-3 時間外学習を促す取組

■ シラバスへの準備学習の記載例

人体解剖学 1

科目名		単位数又はコマ数	開講時期
人体解剖学 1 (必修)		113 コマ	2 年次生後期
担当教員名	職名/所属	Eメールアドレス	オフィスアワー
飯野 哲	教授/人体解剖学・神経科学	iinosa@u-fukui.ac.jp	10:00~18:00
堀口 和秀	講師/人体解剖学・神経科学	khorigu@u-fukui.ac.jp	10:00~18:00
伊藤 哲史	助教/人体解剖学・神経科学	itot@u-fukui.ac.jp	10:00~18:00
橋本 陸	特命助教/人体解剖学・神経科学	takasi00@u-fukui.ac.jp	10:00~18:00
法本 左近	准教授/腫瘍病理学		

1 学修目標
 人体解剖学は医学の基礎である。医学専門科目のすべての基本として、明瞭に理解し、説明できなければならない。講義では基本的事項と発生の事項の理解を深め、実習では人体の構造観察を自らの手と目を（中略）

3 準備学修（予習・復習）等の内容と分量
講義の予習としてシラバスを参考に該当する参考書部分を予習すること。特に図の理解に努めること。
 講義の復習として、講義資料に基づき各自まとめ、参考書の該当する部分の図を参考に自らの図を作成する。各回につき1時間程度の復習を行うこと。
実習の予習は大変重要であり、各回の実習内容につき実習書（「骨学実習の手びき」および「解剖実習の手びき」）を読み、参考書（特にアトラスを用いる）により該当構造の理解を深め、これらの点を各自の予習ノートにまとめること。各回につき1時間程度必要である。
 実習の復習は予習項目の復習となり、実習項目を参考書で再確認し、予習ノートの補足をし、図を自ら描くこと。各回につき1時間程度必要である。（中略）

2) 参考書（教科書）は必須であり、必ず1冊は準備すること。本を読んで予習復習をする必要がある。
 ・解剖学講義（伊藤著）南山堂
 ・グレイ解剖学（Darke 他著、塩田他訳）エルゼビアジャパン
 （中略）

3) アトラスは必須であり、必ず1冊は準備すること。実習書とアトラスを読み比べ予習復習が必要。
 ・プロメテウス解剖学コアアトラス（坂井他訳）医学書院
 ・ネッター解剖学アトラス（Netter 著、相磯訳）南江堂
 （以下省略）

シラバスに予習・復習の内容と分量等を記載し、自主学習に必要な情報を提供

*シラバスは冊子体を配布するとともに、大学ホームページにおいて電子版シラバスを常時参照することができる。

■ 時間外学習を促す工夫

時間外学習を促すものとして、授業外学習指示（シラバス明記など）、レポート作成提出を取り入れている科目が多く、さらにミニテストや中間テストによる学習内容の定着などの工夫を行っている。

	科目数	レポート		ミニテスト		中間テスト		授業外の学習指示		その他	
		科目数	割合	科目数	割合	科目数	割合	科目数	割合	科目数	割合
医学科	103科目	48科目	46.6%	26科目	25.2%	18科目	17.5%	75科目	72.8%	30科目	29.1%
看護学科	101科目	40科目	39.6%	15科目	14.9%	5科目	5.0%	48科目	47.5%	11科目	10.9%

※ 科目数は、平成 26 年度開講科目を対象に調査し教員から回答のあった科目の総数

■ 取組の実例

- ・ 講義用プリントに採用した図や表については全ての出典を一覧として配布し、授業時間外の学習に便宜をはかっている。
- ・ ライティングの講義ですので、Kuzuryu Memoir の作成にむけて個人的に添削指導を行うので、書いたものを持参してくださいといった指導を行っている。
- ・ 読解用の教材に関する英語による質問を配布し、それに英語で解答したものを毎週提出させる。
- ・ ガイダンスの際、学生に予習、復習の必要性を強く指導している。さらに、各担当教員はあらかじめ講義資料を授業予定とともに学生に配布し、予習を促している。
- ・ 授業終了時に学習すべき課題を提示するなど、復習・自主学習を促している。
- ・ 5～6人を1グループとして、科目に関連し、自分達で興味のあるテーマ(健康問題)を決め、発表(プレゼン)は講義時間の中で実施するが、そのためのデータ収集、学習は時間外の有効活用を説明している。
- ・ 復習としてシミュレーターや診察器具による実技練習を奨励し、ERの診察室や器具を貸している。
- ・ 課題について調べさせ、発表させている。

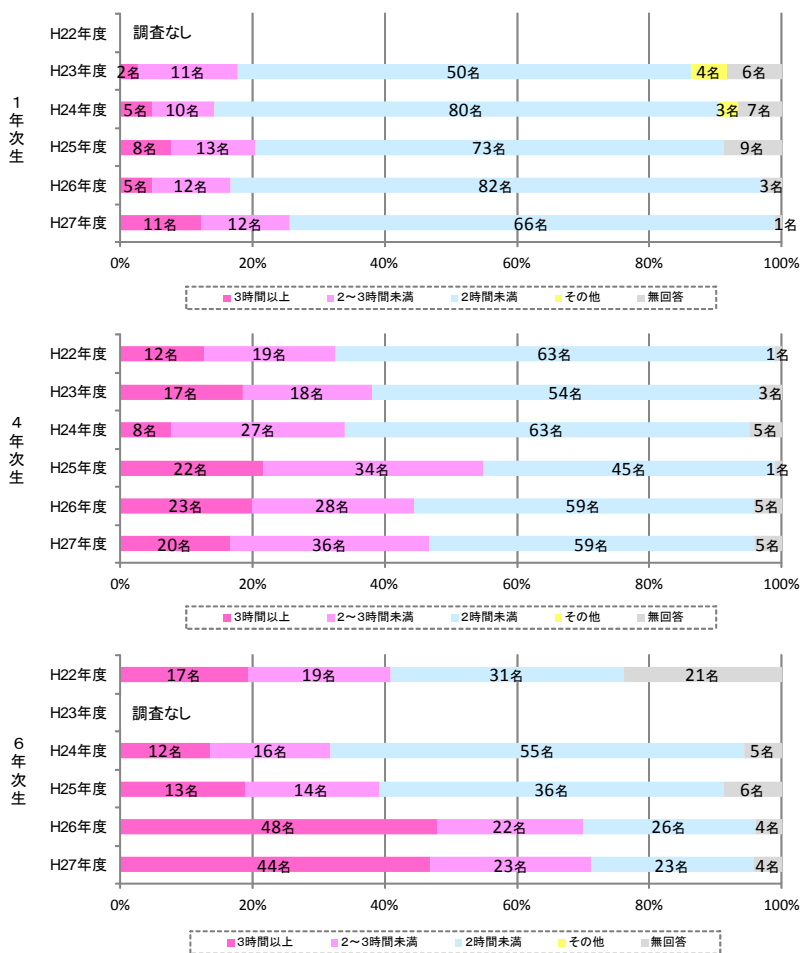
(事務局資料)

- ④ 学生の授業外学習時間は第2期において増加し、それは全国平均を大きく上回り、主体的学習がなされている証左である（資料1-2-4-4, 5）。

資料1-2-4-4 学生の授業外学習時間（医学科）

「単位の実質化への全学的取り組み方針」に基づき、授業外学習時間を学年別にカリキュラム評価アンケートにより調査している。普段の学習時間の調査結果、第2期当初より学習時間が長くなる傾向が見られ、特に6年次生は平成26～27年度での学習時間が長くなっている。医学科1年次についてはカリキュラム改訂により専門教育（解剖学など）を取り入れること及びカリキュラム中に自学自修時間を設けることで、授業外学習時間の増加を図ることとしている。

設問_授業以外の学習時間について、普段の講義の予習・復習、さらに自主的な学習（必ずしも講義とは直接関連しない自発的な課題への取り組みなども含めてください）に1日当たりどのくらいの時間数を使っていますか？休日も含め平均した、1日の学習時間を具体期に（時間単位で）お答えください。



■ 平成27年度調査による医学科学生の授業外学習時間（1日あたり）

	医学科			
	1年次生 (88名回答)	4年次生 (115名回答)	6年次生 (90名回答)	1～6年次生 (計293名回答)
普段	1.32 時間	1.66 時間	3.09 時間	2.00 時間
試験期間	4.47 時間	4.70 時間	6.72 時間	5.25 時間

2012年（平成24年度）全国調査によると医歯薬大学生は全国平均6.08時間（1週間あたり）（全国大学生活協同組合連合会による全国の国公立及び私立大学の学部学生調査（2012年10月～11月、回収数8,609）による医歯薬系の平均）となっており、1日あたりに換算すると0.87時間であり、本学医学科学生の普段の学習時間は全国平均の2倍以上である。特に6年次生の学習時間は長い。

（平成22～27年度カリキュラム評価アンケート結果より抜粋）

資料 1-2-4-5 学生の授業外学習時間（看護学科）

「単位の実質化への全学的取り組み方針」に基づき、授業外学習時間を学年別にカリキュラム評価アンケートにより調査している。普段の学習時間の調査結果、看護学科1～4年次ともに第2期当初の平成22年度より平成27年度になるにつれ学習時間の増加傾向が見られる。

設問_授業以外の学習時間について、普段の講義の予習・復習、さらに自主的な学習（必ずしも講義とは直接関連しない自発的な課題への取り組みなども含めてください）に1日当たりどのくらいの時間数を使っていますか？休日も含め平均した、1日の学習時間を具体期に（時間単位で）お答えください。



■ 平成27年度調査による看護学科学生の授業外学習時間（1日あたり）

	看護学科				
	1年次生 (61名回答)	2年次生 (59名回答)	3年次生 (54名回答)	4年次生 (60名回答)	1～4年次生 (計234名回答)
普段	1.17 時間	1.69 時間	1.91 時間	1.82 時間	1.63 時間
試験期間	4.98 時間	4.72 時間	4.57 時間	4.70 時間	4.75 時間

2012年（平成24年度）全国調査によると医歯薬大学生は全国平均6.08時間（1週間あたり）（全国大学生活協同組合連合会による全国の国公立及び私立大学の学部学生調査（2012年10月～11月、回収数8,609）による医歯薬系の平均）となっており、1日あたりに換算すると0.87時間であり、本学看護学科学生の普段の学習時間は全国平均を大きく上回る。特に高学年では学習時間が長い。

（平成22～27年度カリキュラム評価アンケート結果より抜粋）

【学習意欲向上方策】

- ① 学業成績が優れた学生に対しては「優秀学生表彰制度」として学長表彰及び学部長表彰を行っている（資料 1-2-4-6）。

資料 1-2-4-6 優秀学生表彰制度

医学部において特に優秀な学業成績を修めた学生に対しては、成績上位の医学科学生 3 名及び看護学科学生 3 名を表彰し、それぞれ最優秀の者「学長賞」、他の者を「医学部長賞」としている。

福井大学医学部優秀学生表彰制度要項

平成 17 年 3 月 18 日医学部教授会
平成 20 年 2 月 21 日改正
平成 27 年 2 月 19 日改正


福井大学医学部において特に優秀な学業成績を修めた学生に対し、その栄誉を称えるため、卒業時において下記の基準により表彰を行う。

1. 表彰する学生は、原則として成績上位の医学科 3 名及び看護学科 3 名とし、それぞれ最優秀の者を「成績優秀者」として学長に推薦することとする。
2. 成績の判定は、次により行うこととする。
 - (1) 医学科 卒業試験における成績
 - (2) 看護学科 基礎科目、専門基礎科目及び専門科目の総合成績
 ただし、既修得科目、単位互換科目等の認定科目の成績は対象外とする。
3. 表彰の対象は全学生とするが、卒業までの各期の進級（卒業）判定において、成績不良のため留年となった者及び懲戒処分を受けた者は対象外とする。
4. 表彰は、「医学部長賞」と称し、表彰状及び記念品を授与することとする。
5. 本制度による優秀学生の選考は、医学部教務学生委員会が行う。ただし、必要に応じて学年主任又は助言教員等の意見を聴くものとする。
6. 本制度の運用に関し必要な事項は、医学部教務学生委員会が定める。

附 則
この要項は、平成 16 年度卒業生から実施する。

附 則
この要項は、平成 19 年度卒業生から実施する。

附 則
この要項は、平成 26 年度卒業生から実施する。



(事務局資料)

- ② 学生の学習意欲向上及び主体的学習環境整備として講義棟改修，マルチラーニングスペース新設，グループ学習用の情報工房グループラボの新設，語学学習のための言語開発センター新設，医学図書館の 24 時間利用化，無線 LAN 整備等を行った（資料 1-2-4-7～11）。

学習環境に対する満足度は向上した（P4-64 前掲資料 1-1-5-12）。

資料 1-2-4-7 学生の自習スペース

講義棟・実習棟改修と新設備増設(平成 23～24 年度), 図書館改修・増築と新設備増設(平成 23～26 年度), 言語開発センター新設(平成 25 年度), メディカルシミュレーションセンター新設(平成 25 年度)等を行い学生の自学自習できるスペース・設備の整備・拡大を行った。

施設名1	施設名2	座席数	利用時間	摘要(設置設備等)
総合研究棟 (講義棟)	情報処理演習室	126席	24時間(講義時間除く)	(H24改修)パソコン126台、プロジェクター等視聴覚装置
	マルチラーニングスペース	約30席	平日8:30-21:00	(H24新設)テーブル16台、椅子160台、プロジェクター等視聴覚装置
	教育支援センター	約20席	平日8:30-21:00(講義時間除く)	(H24新設)プロジェクター等視聴覚装置
	第1小講義室	40席	同上	(H24改修)プロジェクター等視聴覚装置
	第2小講義室	40席	同上	(H24改修)プロジェクター等視聴覚装置
	第3小講義室	40席	同上	(H24改修)プロジェクター等視聴覚装置
	第1中講義室	144席	同上	(H24改修)プロジェクター等視聴覚装置
	第2中講義室	144席	同上	(H24改修)プロジェクター等視聴覚装置
	第3中講義室	144席	同上	(H22改修)プロジェクター等視聴覚装置
実習棟	多目的講義室	135席	同上	(H23新設)プロジェクター等視聴覚装置
看護学科棟	統計情報処理演習室	71席	同上	パソコン71台、プロジェクター等視聴覚装置
	第1講義室	80席	同上	プロジェクター等視聴覚装置
	第2講義室	80席	同上	プロジェクター等視聴覚装置
	看護大講義室	170席	同上	プロジェクター等視聴覚装置
	セミナー室1～4	40席	同上	4室(各10席)、電子黒板4台等
言語開発センター (LDC)	グローバル演習室	44席	平日9-24:00、休日10-24:00	(H25新設)
	個人学習室	25席	平日17-19:50	(H25新設)パソコン25台、語学学習教材等
医学図書館	雑誌閲覧室1	84席	24時間	4人用机
	雑誌閲覧室2	33席	同上	個人机
	福井県医学資料室	3席	同上	
	メディアルーム	23席	同上	パソコン15台等
	ラウンジ	9席	同上	パソコン4台等
	図書閲覧室1	31席	同上	個人机、2人用机、パソコン1台等
	図書閲覧室2	54席	同上	個人机
	図書閲覧室3	40席	同上	(H26改修)個人机、2人用机
	フラウンジコーナー	10席	同上	
グループ学習室(情報工房)	140席	平日9-24:00、休日10-24:00	(H23新設)14室(各10席)、パソコン及び電子黒板14台等	
福井メディカル シミュレーションセンター	シミュレーションルーム1～8	190席	24時間(事前申請)	(H25新設)8室(各20～40席)、各種シミュレーター
	ウエトラボ	30席	同上	(H25新設)各種シミュレーター
	トレーニングルーム	50席	同上	(H25新設)各種シミュレーター

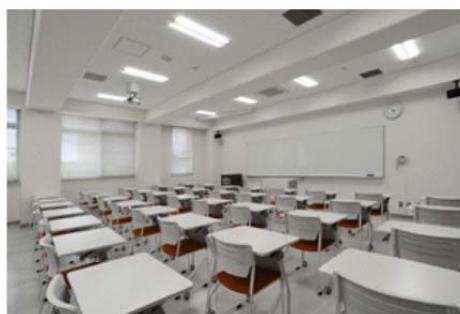
【マルチラーニングスペース】



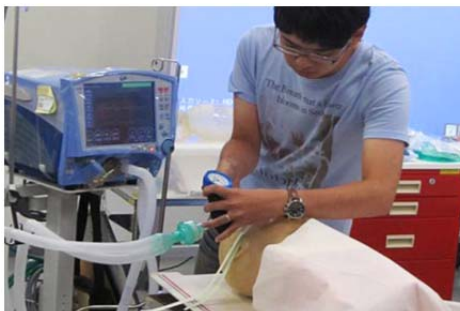
【第1～3小講義室】



【第1～3小講義室】



【シミュレーションルーム(福井メディカルシミュレーションセンター)】



(事務局資料)

資料 1-2-4-9 医学図書館改修

医学図書館の増改築を行うとともに自動入退出設備による24時間利用化やシラバス掲載教科書および学生希望図書等の積極的購入により学生の図書館利用環境を整備した。

1. 平成23年度の増築により少人数グループ学習室（情報工房）14室を新設し、140座席を増設した。各室はテュートリアルや小規模ゼミ、グループ学習などで使用されており、年間5,000回ほどの利用が見られる。
2. 平成25年度の増築・改修により言語開発センター（LDC）を新設し、個別ブース、多目的演習室、DVDステーションなど自主的語学学習に適した教材や設備を備えた。また図書閲覧室の改修整備により開架用書架を増設した。

【医学図書館外観】



【2階 図書閲覧室（個人机）】



【2階 グループ学習室（情報工房）】



【1階 言語開発センター（LDC）】

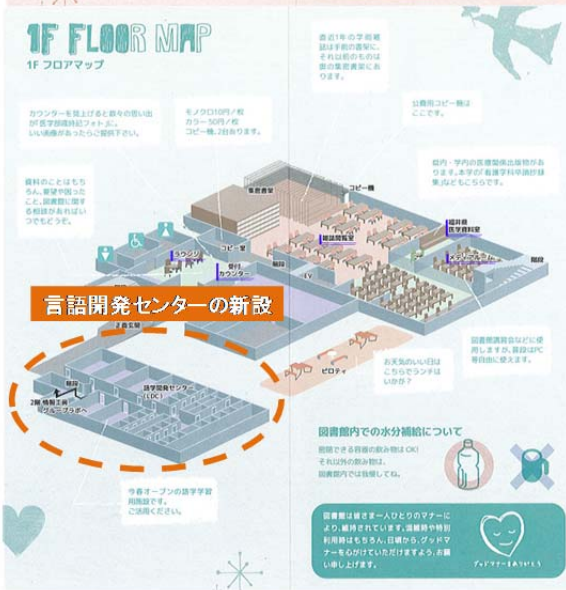


【1階 言語開発センター個別ブース】



【学生の利用状況】

年度(開館日数)	学生入館者数	(うち時間外利用)	学生貸出冊数	グループ学習室 利用回数
平成22年度(361日)	164,859名	(71,031名)	14,719冊	—
平成23年度(352日)	161,786名	(69,851名)	14,201冊	825回
平成24年度(354日)	170,835名	(68,589名)	14,786冊	5,390回
平成25年度(361日)	163,480名	(65,799名)	17,252冊	4,870回
平成26年度(360日)	159,943名	(60,759名)	17,704冊	5,371回
平成27年度(362日)	151,519名	(59,835名)	17,263冊	4,850回



(事務局資料)

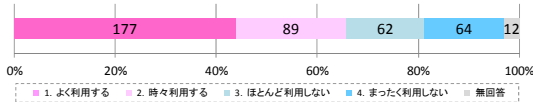
資料 1-2-4-10 学生による医学図書館使用実績

学生が普段の学習を行っている場所についてアンケート調査を行った所、自宅で学習するものも多いが大学施設としては医学図書館の個人机（個人学習スペース）とグループ学習室を利用するものが多く図書館整備が学生の学習環境整備に役立っている。

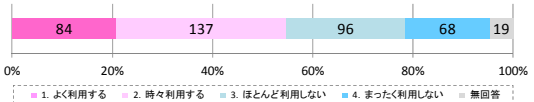
設問 「普段の講義以外の学習（試験期間中を含む）」を、あなたはどの場所で行っていますか。次の場所について、どの程度利用しているか教えてください。

【医学科】

		1年	3年	4年	6年	(計)
医学図書館 (個人机)	1. よく利用する	40名	32名	44名	61名	177名
	2. 時々利用する	26名	25名	27名	11名	89名
	3. ほとんど利用しない	11名	23名	17名	11名	62名
	4. まったく利用しない	9名	16名	30名	9名	64名
	無回答	4名	4名	2名	2名	12名
(計)	90名	100名	120名	94名	404名	

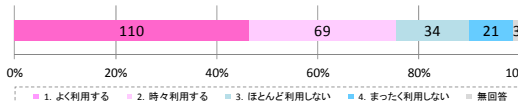


		1年	3年	4年	6年	(計)
医学図書館 (グループ学習室)	1. よく利用する	22名	22名	13名	27名	84名
	2. 時々利用する	34名	19名	34名	50名	137名
	3. ほとんど利用しない	14名	34名	42名	6名	96名
	4. まったく利用しない	14名	20名	28名	6名	68名
	無回答	6名	5名	3名	5名	19名
(計)	90名	100名	120名	94名	404名	

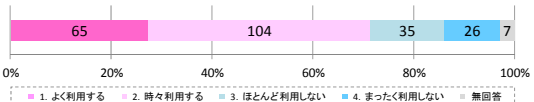


【看護学科】

		1年	2年	3年	4年	(計)
医学図書館 (個人机)	1. よく利用する	26名	35名	18名	31名	110名
	2. 時々利用する	21名	13名	21名	14名	69名
	3. ほとんど利用しない	9名	8名	9名	8名	34名
	4. まったく利用しない	6名	3名	7名	5名	21名
	無回答	0名	0名	1名	2名	3名
(計)	62名	59名	56名	60名	237名	



		1年	2年	3年	4年	(計)
医学図書館 (グループ学習室)	1. よく利用する	22名	13名	10名	20名	65名
	2. 時々利用する	21名	30名	27名	26名	104名
	3. ほとんど利用しない	5名	10名	11名	9名	35名
	4. まったく利用しない	13名	4名	6名	3名	26名
	無回答	1名	2名	2名	2名	7名
(計)	62名	59名	56名	60名	237名	



(平成 27 年度医学科・看護学科カリキュラム評価アンケート結果より抜粋)

資料 1-2-4-11 ICT 環境の整備

■ 学生の PC 利用スペース

学生用パソコンは 24 時間使用可能に整備されており、講義演習「情報の科学 1」「情報科学」や CBT、自学自習及び講義レポート作成に利用されている。

【情報（統計情報）処理演習室】



	情報処理	統計情報処理	(計)
端末数	126 台	71 台	197 台
利用時間	24 時間	8:30-21:00	

【医学図書館】



	ライブラリー	グループ学習室	ラウンジ	(計)
端末数	15 台	14 台	4 台	33 台
利用時間	24 時間	24 時間	24 時間	

■ 学生無線 LAN 登録状況（平成 27 年度）

学生の要望を受け（前掲資料）学内ネットワークを改善し、登録により各自無線 LAN の使用（無料）を可能とした。

	1 年次生	2 年次生	3 年次生	4 年次生	5 年次生	6 年次生
医学科	95 名	51 名	63 名	91 名	82 名	96 名
看護学科	25 名	23 名	6 名	4 名		

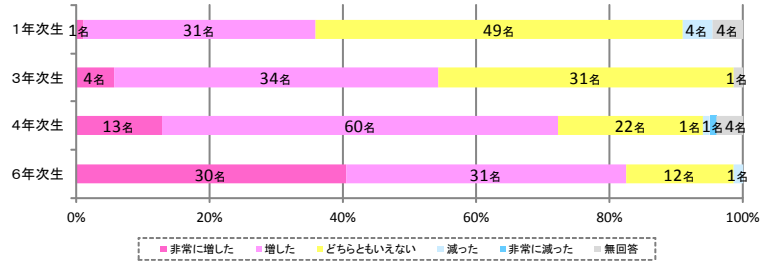
(事務局資料)

③ 過半の学生に医学・医療に対する学習意欲が喚起されており、その割合は向上しており（資料 1-2-4-12），学生の主体的学習が促されていることの証左である。

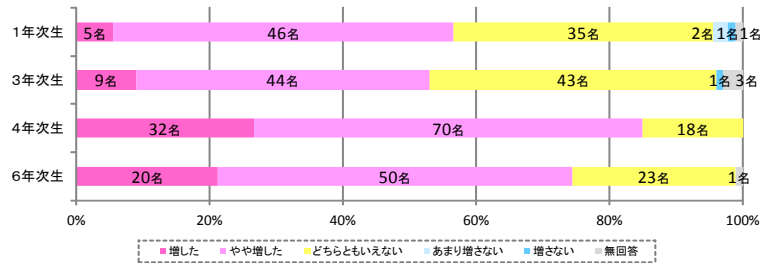
資料 1-2-4-12 学生の主体的学習意欲

■ 医学科

平成 21 年度設問_この学年のカリキュラムを履修して、医学・医療に対する興味、（次年度以降のカリキュラムに対する）履修意欲が増しましたか？



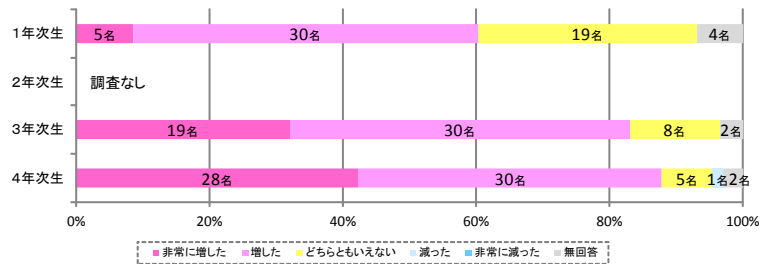
平成 27 年度設問_これまでのカリキュラムを履修して、医療（医学）に対する興味や履修意欲が増しましたか？



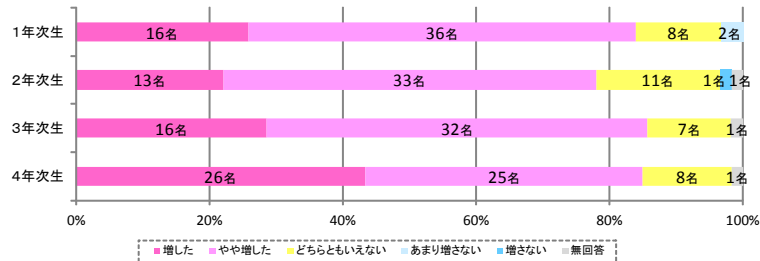
* 全学年の累計により、肯定的評価（増した）をする学生の割合が第 1 期末の 61.1%から第 2 期末の 68.3%へと 7.2%増加した。

■ 看護学科

平成 21 年度設問_この学年のカリキュラムを履修して、看護学・医療に対する興味、（次年度以降のカリキュラムに対する）履修意欲が増しましたか？



平成 27 年度設問_これまでのカリキュラムを履修して、医療（看護学）に対する興味や履修意欲が増しましたか？



* 全学年の累計により、肯定的評価（増した）をする学生の割合が第 1 期末の 77.6%から第 2 期末の 83.1%へと 5.5%増加した。

（平成 21 年度および平成 27 年度カリキュラム評価アンケート結果より抜粋）

(水準) 期待される水準を上回る

(判断理由)

- ① 本邦における医学・看護学教育内容・指導に準拠した教育課程を整備しており¹⁾、新たに策定したディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー²⁾に沿ったカリキュラムマップを提示し³⁾、その体系性を明確化した。これら教育課程に対して、学生は第1期よりも高く評価している⁴⁾。

1)	資料 1-2-1-5	: 医学科における教育の特徴	P4-74
	資料 1-2-1-6	: 医学科カリキュラム	P4-75
	資料 1-2-1-10	: 看護学科における教育の特徴	P4-79
	資料 1-2-1-11	: 看護学科カリキュラム	P4-80
2)	資料 1-2-1-1	: 医学科ディプロマ・ポリシー	P4-70
	資料 1-2-1-2	: 看護学科ディプロマ・ポリシー	P4-71
	資料 1-2-1-4	: 医学科カリキュラム・ポリシー	P4-73
	資料 1-2-1-9	: 看護学科カリキュラム・ポリシー	P4-78
3)	資料 1-2-1-7	: 医学科カリキュラムマップ	P4-76
	資料 1-2-1-8	: 医学科カリキュラムツリー	P4-77
	資料 1-2-1-12	: 看護学科カリキュラムマップ	P4-81
	資料 1-2-1-13	: 看護学科カリキュラムツリー	P4-82
4)	資料 1-2-1-14	: カリキュラムに対する学生の評価 (医学科)	P4-83
	資料 1-2-1-15	: カリキュラムに対する学生の評価 (看護学科)	P4-84

- ② 研究マインド醸成プログラム⁵⁾、チーム医療の基盤となる本邦初の医看合同プログラム⁶⁾やグローバル人材育成に向けた教育・留学推進⁷⁾等を取り入れ、医療人・研究者としての能力涵養を図り、其々の取り組みに対する学生の評価や能力涵養状況は概ね良好であり⁸⁾、学生の期待に応えている。

5)	資料 1-2-1-20	: 研究室配属 (医学科3年次)	P4-88
	資料 1-2-1-22	: アドバンストコース	P4-89
	資料 1-2-1-23	: ATM プログラムによる早期大学院教育受講	P4-90
	資料 1-2-1-24	: 4大学コンソーシアムリトリートにおける他大学学生との交流	P4-91
	資料 1-2-1-25	: 研究に必要な知識・方法の修得 (看護学科)	P4-92
6)	資料 1-2-1-26	: 医学科・看護学科合同講義	P4-93
7)	資料 1-1-1-27	: 海外留学する学生数の大幅な増加	P4-26
	資料 1-2-2-12	: 医学科英語カリキュラム	P4-106
	資料 1-2-2-13	: 看護学科英語カリキュラム	P4-107
	資料 1-2-2-14	: 「グローバル人材育成支援事業」海外留学・研修プログラム (医学部)	P4-108
	資料 1-2-2-17	: 看護学科キャリアアップ実習シラバス	P4-110
8)	資料 1-2-1-21	: 研究室配属の学生による評価	P4-89
	資料 1-2-1-27	: 医学科・看護学科合同講義に対する学生の評価	P4-94
	資料 1-2-2-15	: 留学した学生の自己評価	P4-109
	資料 1-2-2-18	: 看護学科キャリアアップ実習 (海外) に対する学生の評価	P4-111
	資料 1-2-2-19	: 「卒業時にグローバルな視野を有する人材として備えるべき能力等」の涵養状況	P4-112

③ 地域医療への理解を深める地域医療人育成プログラムの構築・実施⁹⁾も一助となり、福井県内就職率が第1期より向上する等¹⁰⁾、地域医療機関で働く医療者を多数輩出していることは、地域社会の期待に応えるものである。

- 9) 資料 1-2-2-2 : 地域医療人育成プログラムの概要 (医学科) P4-96
 資料 1-2-2-3 : 入門テュートリアル「地域医療」(1年次) P4-97
 資料 1-2-2-4 : 地域医療学講義(2年次および4年次) P4-98
 資料 1-2-2-5 : 地域医療に関する臨床実習 P4-99
 資料 1-2-2-6 : 地域医療へ参加を促す取組(医学科) P4-100
 資料 1-2-2-7 : 看護学科における地域医療教育 P4-101
 10) 資料 2-2-1-3 : 卒業者の地域別就職状況 P4-170
 資料 2-2-1-4 : 福井県内就職状況 P4-171

④ 医学・看護学の知識・技能習得のための教育方法の工夫¹¹⁾及びクリニカルクラークシップや看護実践能力を高める取組は学生から概ね高い評価を得ており¹²⁾、関係者の期待に応えている。福井メディカルシミュレーションセンターの新設と臨床実習での活用¹³⁾、医学部附属先進イメージング教育研究センターによる画像医学教育の推進¹⁴⁾は学生の能力涵養に寄与するものとして特記できる。

- 11) 資料 1-2-3-1 : 授業における学習指導法の工夫状況 P4-113
 資料 1-2-3-2 : 教育方法に対する学生の評価 P4-114
 12) 資料 1-2-3-3 : 臨床実習の概要 P4-115
 資料 1-2-3-4 : 診療参加型実習の工夫 P4-116
 資料 1-2-3-5 : 臨床実習に対する評価 P4-117
 資料 1-2-3-8 : 看護学実習 P4-120
 資料 1-2-3-9 : 臨地実習に対する評価 P4-121
 資料 1-2-3-10 : 「看護基本技術の記録」による自己評価システムの工夫 P4-122
 資料 1-2-3-11 : 「看護基本技術実習」と「看護基本技術の記録」に対する学生の評価 P4-123
 資料 1-2-3-12 : 看護基本技術の到達度評価 P4-123
 資料 1-2-3-19 : 統合型講義と学生による評価 P4-130
 資料 2-1-1-3 : 臨床実習の手引(医学科5年次) P4-147
 資料 2-1-1-4 : 卒前臨床医学研修(医学科6年次)での評価 P4-148
 13) 資料 1-2-3-6 : 福井メディカルシミュレーションセンターの概要 P4-118
 資料 1-2-3-7 : シミュレーションセンターの学生利用状況 P4-119
 14) 資料 1-2-3-18 : 画像医学教育の工夫 P4-129

⑤ 「単位の実質化」や「主体的な学習の促進」への適切な対応として¹⁵⁾、学生の授業外学習を促す取組み¹⁶⁾、学習意欲向上や課題探求・解決能力を涵養する科目の開講¹⁷⁾、主体的学習環境の整備¹⁸⁾等を積極的に進め、その結果、全国平均を大きく上回る授業外学習時間の確保¹⁹⁾や医学・医療への興味・学習意欲の涵養状況の向上²⁰⁾がなされ、学生の期待に応えている。

- 15) 資料 1-2-4-1 : 単位の実質化への全学的取組方針 P4-131
 16) 資料 1-2-4-3 : 時間外学習を促す取組 P4-133
 17) 資料 1-2-3-13 : テュートリアル教育 P4-124
 資料 1-2-3-14 : 「テュートリアル」に対する学生の評価 P4-125
 資料 1-2-3-15 : 「テュートリアル」に対するテューターの評価 P4-126

- | | | | |
|-----|-------------|--------------------|--------|
| | 資料 1-2-3-18 | : 画像医学教育の工夫 | P4-129 |
| 18) | 資料 1-2-4-7 | : 学生の自習スペース | P4-137 |
| | 資料 1-2-4-8 | : 総合研究棟（講義棟）改修 | P4-138 |
| | 資料 1-2-4-9 | : 医学図書館改修 | P4-139 |
| | 資料 1-2-4-11 | : ICT 環境の整備 | P4-140 |
| 19) | 資料 1-2-4-4 | : 学生の授業外学習時間（医学科） | P4-134 |
| | 資料 1-2-4-5 | : 学生の授業外学習時間（看護学科） | P4-135 |
| 20) | 資料 1-2-4-2 | : 課題探求・解決型能力の涵養 | P4-132 |
| | 資料 1-2-4-12 | : 学生の主体的学習意欲 | P4-141 |

以上のように、教育内容・方法の適切な工夫は学生の期待「医療人として備えるべき学力や資質・能力の涵養」等に極めてよく応えるものであり、期待される水準を上回る。

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

観点 学業の成果

(観点に係る状況)

●履修・修了状況から判断される学習成果の状況

【成果測定手法】

- ① 学習成果は、学科試験、医学科卒業試験、看護学科卒業論文、医学科 CBT と OSCE、医師・看護師・保健師・助産師国家試験結果により直接的に測定している。学生は CBT・OSCE による全国比較、看護師・保健師国家試験全国模擬試験や「看護基本技術の記録」(P4-122 前掲資料 1-2-3-10) により自己評価を行っている。学内外の試験の関連検証は教学 IR 担当者及び関連委員会が行っている(資料 2-1-1-1)。

資料 2-1-1-1 CBT と学内学科試験との関連性検証

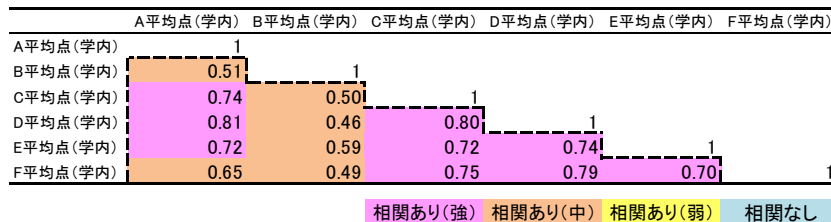
■ 医学部では、松岡キャンパス学務室に教育評価担当の専門職員を平成 25 年度に配置し、外部試験結果と学内の成績分布との関連性の検証を進めている。

医学科の学生は、4 年次末に、医学教育モデル・コア・カリキュラム(以下の A~F の 6 つの学習区分にまとめられた全国標準カリキュラム、以下「コア・カリ」)の学習成果として共用試験医学系 CBT(以下「CBT」)を受験し、その結果は客観性ある評価として本学の進級判定(5 年次臨床実習参加の可否)にも用いている。

A…基本事項(授業科目:「コミュニケーションとチーム医療」,「入門テュートリアル」等), B…医学・医療と社会(授業科目:「医学・医療と社会1~3」,「死と法」等), C…医学一般(授業科目:「人体解剖学1~2」,「生体と微生物」等), D…人体器官の正常構造と機能, 病態, 診断, 治療(授業科目:「人体各器官の正常構造と機能」,「神経系」,「循環器系」等), E…全身におよぶ生理的变化, 病態, 診断, 治療(授業科目:「感染症」,「腫瘍」等), F…診断の基本(授業科目:「基礎医学」,「診療の基本」)

平成 22~24 年度入学者(第 2 期以降)の CBT 受験者 336 名を対象に、本学の各授業科目をコア・カリ区分にまとめて平均点を算出し、区分間で相関をみると、すべてにおいて中程度以上の関連がみられる。この結果から、学生全体としての良好な学修状況、および本学カリキュラム編成の妥当性が確認できる。

【学内学科試験結果の学習区分間関連】



さらに、本学の成績判定の妥当性検証のため、本学のコア・カリ区分ごとの平均点と、それに対応する CBT 試験正答率の相関をみると、概ね中程度の相関がみられ、本学の成績評価についても妥当性が確認できる。

これらの分析結果は、教育成果およびその仕組み等の妥当性の証左となっている。

【学内学科試験結果と全国試験との関連】

	A平均点(学内)	B平均点(学内)	C平均点(学内)	D平均点(学内)	E平均点(学内)	F平均点(学内)
A正答率(CBT)	0.12	0.14	0.12	0.13	0.15	0.10
B正答率(CBT)	0.46	0.40	0.48	0.53	0.46	0.50
C正答率(CBT)	0.45	0.31	0.54	0.61	0.49	0.50
D正答率(CBT)	0.55	0.33	0.57	0.61	0.52	0.51
E正答率(CBT)	0.50	0.32	0.47	0.49	0.46	0.43
F正答率(CBT)	0.36	0.21	0.37	0.42	0.37	0.37

相関あり(強)
相関あり(中)
相関あり(弱)
相関なし

(事務局資料)

【臨床能力の評価】

- ① 医学科において、4年次に全員が CBT 及び OSCE を受験し、合格者のみが臨床実習を行っている。OSCE では模擬患者の標準化等工夫を行っている（資料 2-1-1-2）。

資料 2-1-1-2 OSCE 実施の工夫

OSCE 実施に当たり、教職員等は「OSCE 評価者研修会」や「OSCE 医療面接模擬患者標準化に関するワークショップ」に参加し新たな情報を得ると共に、平成 25 年度から正確な成績評価を目的とした外部協力者の技術向上等のため「模擬患者事前説明会」を開催し、さらに平成 27 年度からは実施後に模擬患者・学外評価者を含む関係者全体での「振り返り研修会」も追加した。これらの実施のため、福井大学「競争的配分経費（教育評価に基づく競争的経費）」としてプログラム「クリニカルクラークシップの充実・推進のための体制整備」（平成 22～26 年度）の配分を受けた。

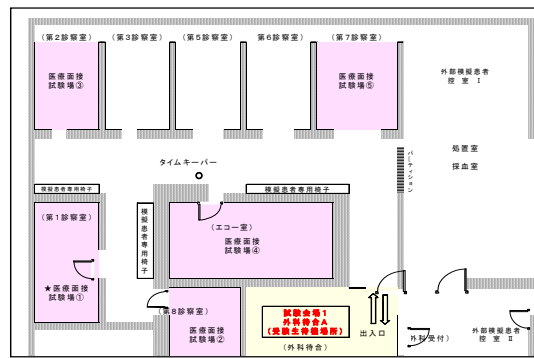
■ 模擬患者事前説明会



外部の OSCE 運営協力者（模擬患者）に対し、OSCE の意義や重要性を説明すると共に、ロールプレイによる標準化、技術向上を行う場を設定した。

■ 実施体制

実施会場として休診日の診察室（医学部附属病院）を使い、実際の臨床実習に近い環境で試験を行っている。



(事務局資料)

- ② 医学科臨床実習の到達目標は「臨床実習の手引」（資料 2-1-1-3）, 「卒前臨床医学研修手引」（資料 2-1-1-4）に明記し, 各診療科（部）の実習評価と臨床実習委員会による総合判定を行っている。

資料 2-1-1-3 臨床実習の手引（医学科 5 年次）

■ 臨床実習の評価

実習の評価は, 各診療科（部）の方針により, 教育目標を達成しているかどうか評価し, 医学科臨床実習委員会で可否を判定します。（「臨床実習の手引」より）

■ 臨床実習の手引

臨床実習は全 23 診療科（部）において実習内容と到達目標を定め, 定められた「医行為」によるクリニカルクラークシップを実施している。「臨床実習の手引」には各診療科（部）実習スケジュールとともに「実習内容」「到達目標」が明記されている

第 二 内 科	
1 集合時刻	午前 8 時 30 分
2 実習場所	(1) 月曜日：北 3 F 病棟 (2) 火曜日：北 3 F 病棟 (3) 水曜日：北 3 F 病棟 (4) 木曜日：北 5 F カンファレンスルーム (5) 金曜日：北 3 F 病棟
3 実習内容	(1) <u>消化器・神経疾患診断法の習得</u> (2) <u>病棟入院患者（受持患者）の担当</u> (3) <u>患者の検査見学</u> (4) <u>受持ち患者の検討（1 日目に man to man 指導の医師を割り当てる。）</u>
4 到達目標	外来患者および担当入院患者に対して (1) <u>医療面接ができる。</u> (2) <u>一般内科的・神経学的診察ができる。</u> (3) <u>検査結果の意味が理解でき、説明できる。</u> (4) <u>患者の効果的プレゼンテーションができる。</u> (5) <u>デイケアを体験し、内容と問題点が説明できる。</u> (6) <u>重症心身障害病棟を体験し、内容と問題点が説明できる。</u>

臨床実習の手引

（クリニカル・クラークシップ）

（平成 27 年 4 月 20 日～平成 28 年 3 月 18 日）

福井大学医学部

（平成 27 年度臨床実習の手引より抜粋）

資料 2-1-1-4 卒前臨床医学研修（医学科6年次）での評価

卒前臨床医学研修の評価として「研修評価表」を用いている。評価項目は1. 知能（基本的知識及び病態生理学的知識，判断力），2. 態度（患者とのラポール形成，主治医との討論・自習，看護師への理解，実習の有効度）を設定し，学生の自己評価ついで指導医の評価（ともにA～D評価）によるフィードバックを行っている。

平成28年度からの新カリキュラム実施に合わせ，臨床実習評価として教員と学生による双方向性評価を導入することとし，教員からの共通項目ルーブリック評価および各診療科（部）特性に応じた独自評価（実技や態度を含む）と学生からの診療科評価（ルーブリック評価）を合わせて実施する。最終的には統一型卒業試験および卒業時 OSCE (Post-cc OSCE) を実施することで臨床能力の多面的評価を行うこととしている。

■ 学外研修病院による学生臨床実習評価

卒前臨床医学研修 実習評価表

あらゆる学習は，評価とそのフィードバックで終了となる。評価は知能（知識・判断力），技能，態度の3領域でなされる。実習の主目標は，医師としての態度の学習にあるので，この点を主として評価する。学生諸君にも自己評価を試みていただく。スケールは，A，B，C，Dの4段階とする。

A：すぐれている B：良い C：努力が必要 D：不良

氏名		学籍番号		実習科		病棟	
				整形外科		9南	
実習期間		自 27年 5月 25日		至 27年 6月 5日			
項 目		自己評価		指導医評価			
1 知 能							
【知 識】							
・ 基本的な生理学的，解剖学的知識は		A B C D		B C D			
・ 診断に必要な病態生理学的知識は		A B C D		A B C D			
【判断力】							
・ 受け持ちの患者について指導医と討論できたかどうか（知識が有効に使えたか）		A B C D		A B C D			
2 態 度							
・ 患者とのラポール（良好な関係）の形成は		A B C D		A B C D			
・ 主体的に指導医に質問し，分からないところを自習できたかどうか		A B C D		A B C D			
・ 看護師の仕事を理解し，協力できたかどうか		A B C D		A B C D			
・ 実習の時間を有効に使えたか		A B C D		A B C D			

実習の感想（別紙に追加記入してもよい）

実習期間はあっという間に過ぎた。この期間での学習は非常に有意義で、特に整形外科の病態生理学的知識や診断力、患者とのコミュニケーション能力が向上した。また、指導医のアドバイスを参考に、自分の実習内容を振り返ることができた。今後の実習でも、積極的に指導医とコミュニケーションを取りたい。また、看護師の仕事を理解し、協力することができた。実習の時間を有効に使えた。指導医のアドバイスも非常に参考になった。整形外科の病態生理学的知識もかなり理解することができた。将来的には、整形外科の医師として活躍することを目標としている。

診療科名（本学附属病院の場合）
病 院 名 福井
指 導 医 名

卒前臨床医学研修手引

前期：本学附属病院
平成27年4月6日～平成27年4月17日

中期：教育関連病院
平成27年5月25日～平成27年6月26日

後期：本学附属病院
平成27年7月6日～平成27年7月17日

福井大学医学部

(事務局資料)

- ③ 看護学科では、臨地実習の到達目標をシラバス、看護学実習要項、実習オリエンテーション時に示し、学生、臨地実習指導者、教員間で共有したうえで、評価についても三者による総合的評価を行っている（資料2-1-1-5）。

資料2-1-1-5 臨地実習における臨床能力評価

■ 学生による自己評価

看護基本技術の記録、看護基本技術チェック表を自ら記載する（P4-122 前掲資料1-2-3-10）。

■ 教員による評価

各実習分野担当教員により、実習評価シートを用いて学生の評価がなされている。

公衆衛生看護学実習 評価シート			
実習期間:			
実習施設:			
実習区分	評価項目(配点)	評価基準(配点)	点数
市町	地域診断 (10)	・具体的に必要な量的データが網羅されている、選択し収集されているか。(3)	
		・地区踏査の内容をわかりやすく図示できているか。(3)	
		・地域住民・関係者からの聞き取りができたか。(2)	
		・保健計画や行政事業との反映があるか。(1)	
		・地域の健康課題を的確に表現できたか。(対象を絞ったか、統計、聞き取り、地区踏査にあったものか) (1)	
	記録 (15)	・事前学習：法的根拠、対象者の把握、市町村データと全国データとの比較、実施上の留意点、発達課題まで網羅されているか。(3)	
		・目標：実習目標を絞って明確に表現したか。	
		・ピラミッド：対策・施策・事業の関係が理解できたか。(4)	
		・学び：目標に対する学びとなっているか。	
	健康教育 (10)	・出来事、出来事に対するアセスメント、学びまでわかりやすく表現できていたか。(5)	
・家庭訪問記録：アセスメント、次回計画が適切か。(3)			
カフリス資料 (10)	・企画(大きなねらい、小さなねらい)は適切か。(3)		
	・媒体(みやすい、わかりやすい)は適切か。(3)		
	・発表(憶えている、わかりやすい)は適切か。(4)		
個別だけでなく、集団や地域全体にも視野を広げた内容となったか。(3)			
・オリジナルの対策を計画として具体的に提案できたか。(3)			
・データを適切に選択活用できたか。(2)			
・テーマ〜まとめ までの一連に一貫性があるか。(2)			
市町 実習小計 (45点満点)			①
県	ミカフリス (5)	・テーマ設定ができたか。(2) ・議論として深まったか。(3)	
	記録 (10)	・事前学習：法的根拠、対象者の把握、市町村データと全国データとの比較、実施上の留意点、発達課題まで網羅されているか。(2)	
		・目標：実習目標を絞って明確に表現したか。	
		・ピラミッド：対策・施策・事業の関係が理解できたか。(3)	
地域ケアシステム (15)	・学び：目標に対する学びとなっているか。		
	・出来事、出来事に対するアセスメント、学びまでわかりやすく表現できていたか。(3)		
家庭訪問記録：アセスメント、次回計画が適切か。(2)			
企画(大きなねらい、小さなねらい)は適切か。(5)			
媒体(見やすい、分かりやすい)は適切か。(5)			
発表(憶えている、わかりやすい)、会の運営(ディスカッションへの参加、受け答え)は適切か。(5)			
県 実習小計 (30点満点)			②
総合	事前学習 (5)	・空白なく記入できていたか。 ・誤字や間違いはないか。	
	出席	・1日欠席につきマイナス5点、遅刻マイナス3点	
	実習態度 (10)	・自発的に指導者や住民にかかわっていたか。(3)	
		・リーダーや司会進行等役割を果たしたか(連絡や相談はできたか)。 GM等でメンバーの一員として発言等できたか。(3)	
		・実習の成果物作成に対する取り組み姿勢が熱心であったか。(3)	
実習レポート (10)	・発表資料やレポートなど期限を守って提出ができたか。(1)		
	・自身の言葉で表現したか。 ・行政保健師の役割に内容が埋められていたか。		
総合 小計 (25点満点)			③
合計点 (100点満点) ①+②+③			

■ 臨地実習指導者と教員による総合評価

病棟等において学生を直接指導する実習指導者と看護学科教員の討議を踏まえて、学生の総合的評価を行っている。

(事務局資料)

【単位取得・成績・学位授与状況】

- ① 成績評価の明確化に取り組み、評価法をシラバスに明示するとともに（P4-72 前掲資料 1-2-1-3），平成 24 年度より 4 段階成績評価を秀，優，良，可，不可の 5 段階評価とした。さらに平成 28 年度より GPA 制度の導入を決定した。
- ② 成績評価基準及び成績判定会議の結果に基づき単位認定を行い，単位修得率はほぼ 100%，秀・優・良の判定が過半と学生は各科目において相応な学力や資質・能力を身に付けており，単位取得状況は第 1 期より向上した（資料 2-1-1-6）。

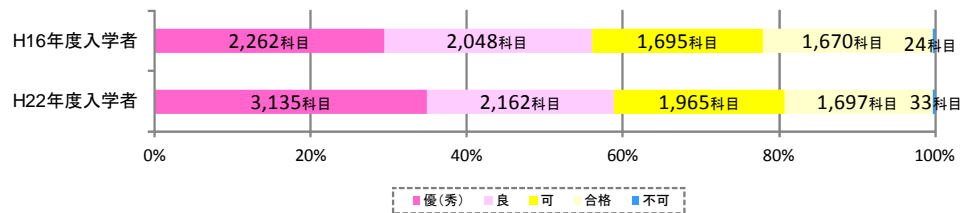
資料 2-1-1-6 学士課程における成績分布及び単位取得状況

第 1 期と第 2 期における学生の取得した単位の成績分布を比較すると，両学科とも優（秀）と評価される科目の割合が増加（医学科で 5.5%，看護学科で 1.9%）しており，また「合格」評価のみの科目を除いた「優（秀）・良・可・不可」と評価される科目の中で優（秀）または良と評価される割合は医学科では第 1 期 71.5%から第 2 期 72.6%，看護学科では第 1 期 83.2%から第 2 期 83.5%へと増加しており，各科目における教育効果が見られる。

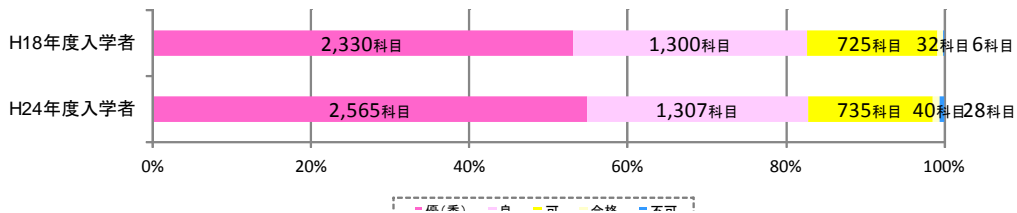
対象 ※1、※2			開講年度	成績評価					単位修得率	
				区分	優(秀) 100~80	良 79~70	可 69~60	合格 優良可の区別なし		不可 ※3 59以下
医学部	医学科	H16年度入学者 (95名)	H16~21	共通教育	687科目	452科目	261科目	0科目	24科目	98.3%
				専門教育	1,575科目	1,596科目	1,434科目	1,670科目	0科目	100.0%
				(計)	(2,262科目)	(2,048科目)	(1,695科目)	(1,670科目)	(24科目)	99.7%
	看護学科	H18年度入学者 (60名)	H18~21	共通教育	272科目	276科目	119科目	0科目	0科目	100.0%
				専門教育	2,058科目	1,024科目	606科目	32科目	6科目	99.8%
				(計)	(2,330科目)	(1,300科目)	(725科目)	(32科目)	(6科目)	99.9%
看護学科	H24年度入学者 (60名)	H24~27	共通教育	477科目	312科目	198科目	11科目	16科目	98.4%	
			専門教育	2,088科目	995科目	537科目	29科目	12科目	99.7%	
			(計)	(2,565科目)	(1,307科目)	(735科目)	(40科目)	(28科目)	99.4%	

※1 留年者（医学科平成 16 年度入学者には 8 名の平成 22 年度まで，看護学科平成 18 年度入学者には 1 名の平成 22 年度までの成績評価）・退学者・除籍者を含む
 ※2 編入学者（医学科 2 年次後期，看護学科 3 年次）を除く
 ※3 不受科目を除く

■ 医学科成績分布（単位取得科目数）



■ 看護学科成績分布（単位取得科目数）



(事務局資料)

- ③ DPに基づいた厳格な成績評価基準や進級・卒業判定により、修業年限内で修了する学生は医学科で8割以上（資料2-1-1-7）、看護学科で9割以上である（資料2-1-1-8）。

資料2-1-1-7 入学者の進級・卒業状況（医学科）

医学科において第2期中に卒業した学生の87.2%（学士編入以外の学生は87.4%、学士編入生は82.8%）は6年間で卒業としており、留年率は12.8%である。

6年間で卒業したストレート卒学生は、医師国家試験の高い合格率97.0%（93.4～100%）を達成している。

■ 医学科（前期・後期・推薦）

入学年度	卒業年度	入学者数	次年度への進級者数						うち国試合格者数	標準修業年限内卒(%)	ストレート卒の国試合格(%)	留年・退学率(%)
			1→2年次	2→3年次	3→4年次	4→5年次	5→6年次	6年次→卒業				
H16年度	H21年度	95名	92名	86名	85名	85名	85名	84名	81名	88.4%	96.4%	11.6%
H17年度	H22年度	95名	91名	85名	85名	85名	85名	84名	84名	88.4%	100.0%	11.6%
H18年度	H23年度	95名	90名	87名	86名	85名	84名	83名	81名	87.4%	97.6%	12.6%
H19年度	H24年度	95名	93名	88名	85名	85名	85名	83名	81名	87.4%	97.6%	12.6%
H20年度	H25年度	95名	92名	81名	81名	81名	81名	81名	78名	85.3%	96.3%	14.7%
H21年度	H26年度	105名	104名	99名	99名	98名	98名	98名	96名	93.3%	98.0%	6.7%
(計)		(580名)	(562名)	(526名)	(521名)	(519名)	(518名)	(518名)	(501名)	(88.4%)	(97.7%)	(11.6%)
(進級率)			(96.9%)	(90.7%)	(89.8%)	(89.5%)	(89.3%)	(88.4%)				
H22年度	H27年度	110名	108名	94名	91名	91名	91名	91名	85名	82.7%	93.4%	17.3%
H23年度	在学中	110名	109名	99名	98名	98名	97名					
H24年度	在学中	110名	107名	104名	103名	100名						
H25年度	在学中	110名	109名	97名	97名							
H26年度	在学中	110名	108名	101名								
H27年度	在学中	110名	109名									
(計)		(660名)	(650名)	(495名)	(389名)	(289名)	(188名)	(91名)	(85名)	(82.7%)	(93.4%)	(17.3%)
(進級率)			(98.5%)	(90.0%)	(88.4%)	(87.6%)	(85.5%)	(82.7%)				

…H16-21年度（第1期中）に進級・卒業判定を行った学年
 …H22-27年度（第2期中）に

■ 医学科（学士編入学）

入学年度	卒業年度	入学者数	次年度への進級者数						うち国試合格者数	標準修業年限内卒(%)	ストレート卒の国試合格(%)	留年・退学率(%)
			1→2年次	2→3年次	3→4年次	4→5年次	5→6年次	6年次→卒業				
H16年度	H20年度	5名	2年次 後期入学	5名	5名	5名	5名	5名	5名	100.0%	100.0%	0.0%
H17年度	H21年度	4名		4名	4名	4名	4名	4名	4名	100.0%	100.0%	0.0%
H18年度	H22年度	5名		4名	4名	4名	4名	4名	4名	80.0%	100.0%	20.0%
H19年度	H23年度	5名		5名	5名	5名	5名	5名	5名	100.0%	100.0%	0.0%
H20年度	H24年度	5名		4名	4名	4名	4名	4名	4名	80.0%	100.0%	20.0%
H21年度	H25年度	5名		3名	3名	3名	3名	3名	3名	60.0%	100.0%	40.0%
(計)		(29名)		(25名)	(25名)	(25名)	(25名)	(25名)	(20名)	(86.2%)	(80.0%)	(13.8%)
(進級率)				(83.3%)	(83.3%)	(83.3%)	(83.3%)	(83.3%)				
H22年度	H26年度	5名	2年次 後期入学	5名	5名	5名	5名	5名	5名	100.0%	100.0%	0.0%
H23年度	H27年度	4名		4名	3名	3名	3名	3名	3名	75.0%	100.0%	25.0%
H24年度	在学中	5名		5名	5名	5名	5名					
H25年度	在学中	5名		5名	5名	5名						
H26年度	在学中	4名		4名	4名							
H27年度	在学中	5名		5名								
(計)		(28名)		(28名)	(22名)	(18名)	(13名)	(8名)	(8名)	(88.9%)	(100.0%)	(11.1%)
(進級率)				(100.0%)	(95.7%)	(94.7%)	(92.9%)	(88.9%)				

…H16-21年度（第1期中）に進級・卒業判定を行った学年
 …H22-27年度（第2期中）に

(事務局資料)

資料 2-1-1-8 入学者の進級・卒業状況（看護学科）

看護学科において第2期中に卒業した学生の94.0%（編入以外の学生は93.6%，編入生は97.6%）は4年間で卒業しており，留年率は6.0%である。

4年間で卒業したストレート卒学生は，看護師国家試験の非常に高い合格率99.4%を示している。

■ 看護学科（前期・後期・推薦）

入学年度	卒業年度	入学者数	次年度への進級者数				うち国試合格者数	標準修業年限内卒(%)	ストレート卒の国試合格(%)	留年・退学率(%)
			1→2年次	2→3年次	3→4年次	4年次→卒業				
H16年度	H19年度	60名	58名	57名	56名	56名	56名	93.3%	100.0%	6.7%
H17年度	H20年度	60名	57名	54名	53名	51名	49名	85.0%	96.1%	15.0%
H18年度	H21年度	60名	60名	59名	58名	56名	56名	93.3%	100.0%	6.7%
H19年度	H22年度	60名	59名	58名	58名	56名	56名	93.3%	100.0%	6.7%
H20年度	H23年度	60名	60名	57名	57名	57名	57名	95.0%	100.0%	5.0%
H21年度	H24年度	60名	58名	56名	53名	52名	52名	86.7%	100.0%	13.3%
(計)		(360名)	(352名)	(341名)	(335名)	(328名)	(326名)	(91.1%)	(99.4%)	(8.9%)
(進級率)			(97.8%)	(94.7%)	(93.1%)	(91.1%)				
H22年度	H25年度	60名	59名	58名	58名	58名	58名	96.7%	100.0%	3.3%
H23年度	H26年度	60名	60名	60名	58名	56名	55名	93.3%	98.2%	6.7%
H24年度	H27年度	60名	60名	58名	58名	58名	58名	96.7%	100.0%	3.3%
H25年度	在学中	60名	60名	59名	59名					
H26年度	在学中	60名	60名	57名						
H27年度	在学中	62名	62名							
(計)		(362名)	(361名)	(292名)	(233名)	(172名)	(171名)	(95.6%)	(99.4%)	(4.4%)
(進級率)			(99.7%)	(97.3%)	(97.1%)	(95.6%)				

…H16-21年度(第1期中)の進級学年

…H22-27年度(第2期中)の "

■ 看護学科（3年次編入学）

入学年度	卒業年度	入学者数	次年度への進級者数				うち国試合格者数	標準修業年限内卒(%)	ストレート卒の国試合格(%)	留年・退学率(%)
			1→2年次	2→3年次	3→4年次	4年次→卒業				
H16年度	H17年度	7名	3年次前期入学		7名	7名	入学時に資格有	100.0%	入学時に資格有	0.0%
H17年度	H18年度	8名		8名	8名	100.0%		0.0%		
H18年度	H19年度	8名		8名	7名	87.5%		12.5%		
H19年度	H20年度	10名		10名	10名	100.0%		0.0%		
H20年度	H21年度	8名		8名	8名	100.0%		0.0%		
H21年度	H22年度	10名		10名	10名	100.0%		0.0%		
(計)		(51名)		(51名)	(50名)		(98.0%)		(2.0%)	
(進級率)				(100.0%)	(97.2%)					
H22年度	H23年度	6名	3年次前期入学		6名	5名	入学時に資格有	83.3%	入学時に資格有	16.7%
H23年度	H24年度	9名		9名	9名	100.0%		0.0%		
H24年度	H25年度	6名		6名	6名	100.0%		0.0%		
H25年度	H26年度	10名		10名	10名	100.0%		0.0%		
H26年度	H27年度	0名		0名	0名	-		-		
H27年度	制度廃止									
(計)		(31名)		(31名)	(30名)		(96.8%)		(3.2%)	
(進級率)				(100.0%)	(96.8%)					

…H16-21年度(第1期中)の進級学年

…H22-27年度(第2期中)の "

(事務局資料)

●資格取得状況、学外の試験の結果、学生が受けた様々な賞の状況からの学習成果の状況
【資格取得】

- ① 医師国家試験の合格率(全受験者)は、全国平均合格率を上回るあるいは同等であり、
新卒者の合格率は常に90%以上、平均ではともに第1期を上回り、過半の学生が卒業時
点で相応な学力や資質・能力を身につけたことの証左である(資料2-1-2-1)。

資料2-1-2-1 医師国家試験の合格率

医師国家試験合格率をみると第1期と比べて第2期中の平均合格率は全受験者(第1期88.8%から第2期91.9%)および新卒受験者(第1期93.9%から第2期95.4%)ともに高くなっており、全国平均を上回るあるいは同等であることから当該期間中の学生がより相応な能力を身につけている。

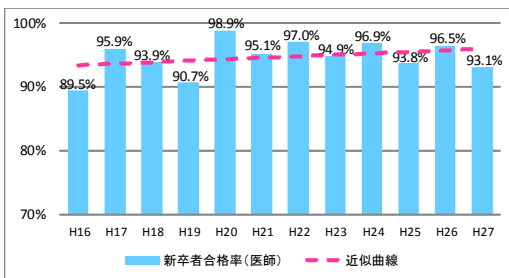
■ 受験状況(新卒・既卒別)

受験年度	回	新卒者			既卒者			合計			全国平均 合格率
		受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率	
H16年度	第99回	95名	85名	89.5%	10名	2名	20.0%	105名	87名	82.9%	89.1%
H17年度	第100回	98名	94名	95.9%	15名	10名	66.7%	113名	104名	92.0%	90.0%
H18年度	第101回	114名	107名	93.9%	12名	6名	50.0%	126名	113名	89.7%	87.9%
H19年度	第102回	107名	97名	90.7%	12名	5名	41.7%	119名	102名	85.7%	90.6%
H20年度	第103回	88名	87名	98.9%	15名	8名	53.3%	103名	95名	92.2%	91.0%
H21年度	第104回	103名	98名	95.1%	8名	2名	25.0%	111名	100名	90.1%	89.2%
(計)		(605名)	(568名)	(93.9%)	(72名)	(33名)	(45.8%)	(677名)	(601名)	(88.8%)	
H22年度	第105回	101名	98名	97.0%	9名	5名	55.6%	110名	103名	93.6%	89.3%
H23年度	第106回	98名	93名	94.9%	7名	1名	14.3%	105名	94名	89.5%	90.2%
H24年度	第107回	97名	94名	96.9%	9名	5名	55.6%	106名	99名	93.4%	89.8%
H25年度	第108回	96名	90名	93.8%	8名	5名	62.5%	104名	95名	91.3%	90.6%
H26年度	第109回	113名	109名	96.5%	9名	5名	55.6%	122名	114名	93.4%	91.2%
H27年度	第110回	101名	94名	93.1%	8名	4名	50.0%	109名	98名	89.9%	91.5%
(計)		(606名)	(578名)	(95.4%)	(50名)	(25名)	(50.0%)	(656名)	(603名)	(91.9%)	

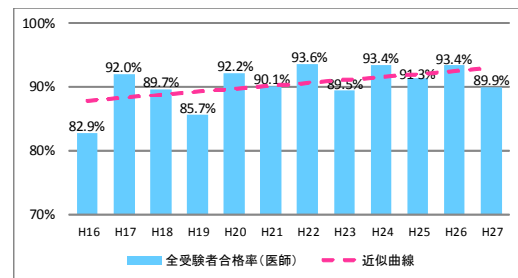
■ 合格率推移

第1期および第2期の合格率をもとに近似曲線を描くと、新卒受験者及び全受験者の合格率が上昇している。

【新卒のみ】



【新卒+既卒】



(事務局資料)

- ② 看護師，保健師及び助産師国家試験の合格率において，常に全国平均合格率を上回り，平均すると第1期を上回り，学生が卒業時点で相応な学力や資質・能力を身につけたことの証左である（資料2-1-2-2～4）。ほぼ全てにおいて合格率100%であることは特筆できる。

資料2-1-2-2 看護師国家試験の合格率

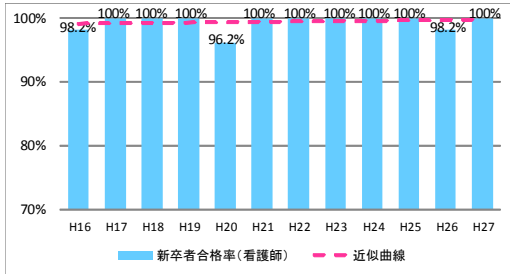
看護師国家試験合格率をみると第1期と比べて第2期中の平均合格率は高く（第1期99.1%から第2期99.4%），うち4回の合格率100%と当該期間中の学生が十分な能力を身につけている。

■ 受験状況（新卒・既卒別）

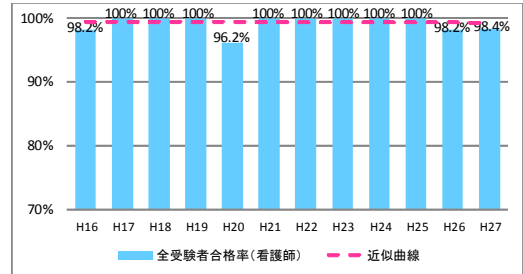
受験年度	回	新卒者			既卒者			合計			全国平均合格率
		受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率	
H16年度	第94回	55名	54名	98.2%	2名	2名	100.0%	57名	56名	98.2%	91.4%
H17年度	第95回	56名	56名	100.0%	1名	1名	100.0%	57名	57名	100.0%	88.3%
H18年度	第96回	56名	56名	100.0%	0名	0名	—	56名	56名	100.0%	90.6%
H19年度	第97回	58名	58名	100.0%	2名	2名	100.0%	60名	60名	100.0%	90.3%
H20年度	第98回	52名	50名	96.2%	0名	0名	—	52名	50名	96.2%	89.9%
H21年度	第99回	56名	56名	100.0%	2名	2名	100.0%	58名	58名	100.0%	89.5%
(計)		(333名)	(330名)	(99.1%)	(7名)	(7名)	(100.0%)	(340名)	(337名)	(99.1%)	
H22年度	第100回	56名	56名	100.0%	1名	1名	100.0%	57名	57名	100.0%	91.8%
H23年度	第101回	59名	59名	100.0%	1名	1名	100.0%	60名	60名	100.0%	90.1%
H24年度	第102回	52名	52名	100.0%	0名	0名	—	52名	52名	100.0%	88.8%
H25年度	第103回	59名	59名	100.0%	0名	0名	—	59名	59名	100.0%	89.8%
H26年度	第104回	57名	56名	98.2%	0名	0名	—	57名	56名	98.2%	90.0%
H27年度	第105回	61名	61名	100.0%	1名	0名	0.0%	62名	61名	98.4%	89.4%
(計)		(344名)	(343名)	(99.7%)	(3名)	(2名)	(66.7%)	(347名)	(345名)	(99.4%)	

■ 合格率推移

【新卒のみ】



【新卒+既卒】



(事務局資料)

資料 2-1-2-3 保健師国家試験の合格率

保健師国家試験合格率をみると第1期と比べて第2期中の平均合格率は高く（第1期 93.3%から第2期 98.3%）、また平成24年以降では全ての受験者が合格していることから当該期間中の学生が十分な能力を身につけている。

■ 受験状況（新卒・既卒別）

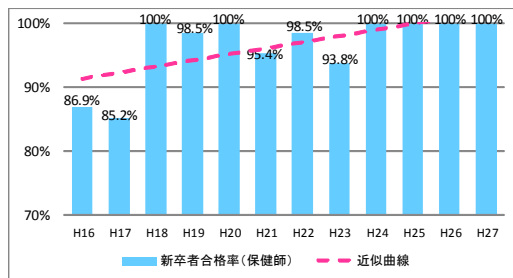
受験年度	回	新卒者			既卒者			合計			全国平均 合格率
		受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率	
H16年度	第91回	61名	53名	86.9%	3名	0名	0.0%	64名	53名	82.8%	81.5%
H17年度	第92回	61名	52名	85.2%	9名	8名	88.9%	70名	60名	85.7%	78.7%
H18年度	第93回	64名	64名	100.0%	8名	7名	87.5%	72名	71名	98.6%	99.0%
H19年度	第94回	65名	64名	98.5%	1名	1名	100.0%	66名	65名	98.5%	91.1%
H20年度	第95回	62名	62名	100.0%	1名	1名	100.0%	63名	63名	100.0%	97.7%
H21年度	第96回	65名	62名	95.4%	1名	0名	0.0%	66名	62名	93.9%	86.6%
(計)		(378名)	(357名)	(94.4%)	(23名)	(17名)	(73.9%)	(401名)	(374名)	(93.3%)	
H22年度	第97回	66名	65名	98.5%	2名	1名	50.0%	68名	66名	97.1%	86.3%
H23年度	第98回	64名	60名	93.8%	1名	1名	100.0%	65名	61名	93.8%	86.0%
H24年度	第99回	62名	62名	100.0%	0名	0名	—	62名	62名	100.0%	96.0%
H25年度	第100回	65名	65名	100.0%	0名	0名	—	65名	65名	100.0%	86.5%
H26年度	第101回	67名	67名	100.0%	0名	0名	—	67名	67名	100.0%	99.4%
H27年度	第102回	28名	28名	100.0%	0名	0名	—	28名	28名	100.0%	89.8%
(計)		(352名)	(347名)	(98.6%)	(3名)	(2名)	(66.7%)	(355名)	(349名)	(98.3%)	

※ 平成27年度卒業者（平成24年度入学者）より、保健師国家試験受験資格取得に必要な科目を選択化している

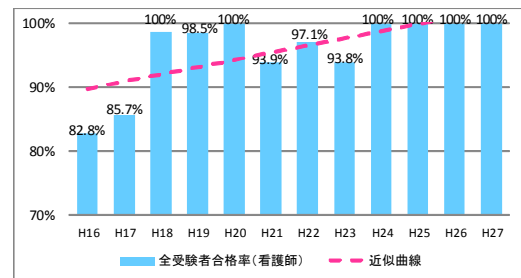
■ 合格率推移

第1期および第2期の合格率をもとに近似曲線を描くと、新卒受験者及び全受験者の合格率が上昇している。

【新卒のみ】



【新卒+既卒】



(事務局資料)

資料 2-1-2-4 助産師国家試験の合格率

助産師国家試験合格率をみると第2期中の受験者は全員合格しており、学生は十分な能力を身につけている。

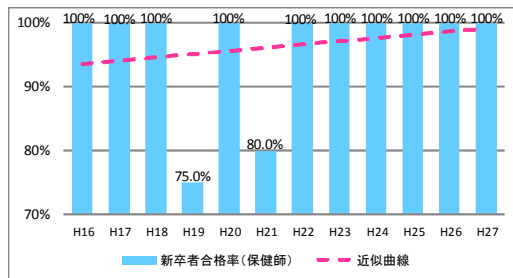
■ 受験状況（新卒・既卒別）

受験年度	回	新卒者			既卒者			合計			全国平均 合格率
		受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率	
H16年度	第88回	4名	4名	100.0%	0名	0名	—	4名	4名	100.0%	99.7%
H17年度	第89回	3名	3名	100.0%	0名	0名	—	3名	3名	100.0%	98.1%
H18年度	第90回	3名	3名	100.0%	0名	0名	—	3名	3名	100.0%	94.3%
H19年度	第91回	4名	3名	75.0%	0名	0名	—	4名	3名	75.0%	98.1%
H20年度	第92回	2名	2名	100.0%	1名	1名	100.0%	3名	3名	100.0%	99.9%
H21年度	第93回	5名	4名	80.0%	0名	0名	—	5名	4名	80.0%	83.1%
(計)		(21名)	(19名)	(90.5%)	(1名)	(1名)	(100.0%)	(22名)	(20名)	(90.9%)	
H22年度	第94回	4名	4名	100.0%	1名	1名	100.0%	5名	5名	100.0%	97.2%
H23年度	第95回	4名	4名	100.0%	0名	0名	—	4名	4名	100.0%	95.0%
H24年度	第96回	5名	5名	100.0%	0名	0名	—	5名	5名	100.0%	98.1%
H25年度	第97回	6名	6名	100.0%	0名	0名	—	6名	6名	100.0%	96.9%
H26年度	第98回	5名	5名	100.0%	0名	0名	—	5名	5名	100.0%	99.9%
H27年度	第99回	6名	6名	100.0%	0名	0名	—	6名	6名	100.0%	99.8%
(計)		(30名)	(30名)	(100.0%)	(1名)	(1名)	(100.0%)	(31名)	(31名)	(100.0%)	

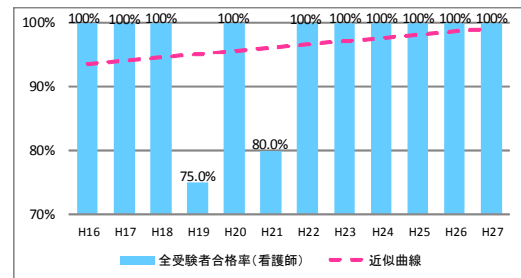
■ 合格率推移

第1期および第2期の合格率をもとに近似曲線を描くと、新卒受験者及び全受験者の合格率が上昇している。

【新卒のみ】



【新卒+既卒】



(事務局資料)

【共用試験】

医学科において、CBT 及び OSCE の成績は全国平均を概ね上回り、学生が臨床実習前教育課程修了時に本邦で求められる相当な学力や資質・能力を身に付けたことの証左である（資料 2-1-2-5、6）。

資料 2-1-2-5 医学科 CBT の得点状況

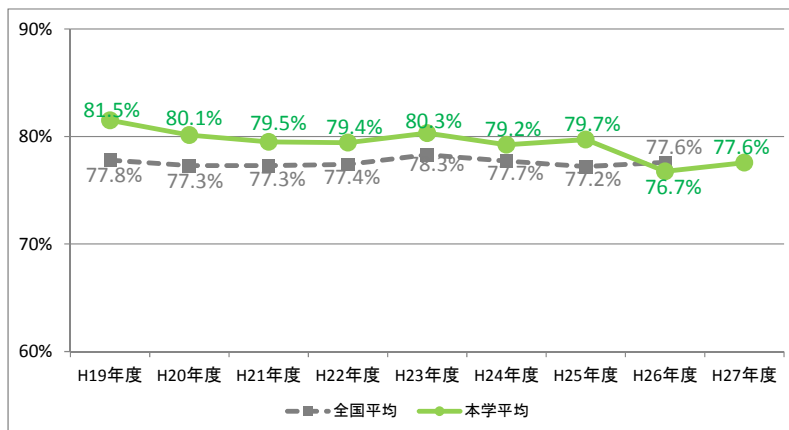
CBT の合格基準は「IRT 標準スコア 359 以上」（平成 26 年度までは 43 以上）と全国標準を設定している。本学での成績はほぼ全国平均を上回り、これまでに不合格となり進級できなかったものは 3 名である。

■ 年度別・問題タイプ別正答率

主な 入学年度	CBT 受験年度	IRT 標準 スコア※	全体	問題タイプ別正答率								
				五肢択一						多選択肢	順次回答 4連問	
				コアカリA	コアカリB	コアカリC	コアカリD	コアカリE	コアカリF			
H16年度	H19年度	本学平均	60.7	81.5%	89.5%	80.1%	83.2%	81.6%	75.5%	73.8%	90.2%	76.2%
		(全国平均)	(56.9)	(77.8%)	(87.4%)	(75.5%)	(78.2%)	(78.7%)	(73.3%)	(74.2%)	(86.6%)	(71.9%)
H17年度	H20年度	本学平均	62.3	80.1%	84.8%	77.2%	82.1%	81.7%	79.2%	75.3%	87.1%	72.2%
		(全国平均)	(59.2)	(77.3%)	(84.8%)	(74.8%)	(78.5%)	(79.3%)	(74.9%)	(75.0%)	(84.6%)	(67.9%)
H18年度	H21年度	本学平均	61.1	79.5%	89.3%	74.9%	81.3%	81.4%	76.9%	75.6%	86.4%	72.6%
		(全国平均)	(59.2)	(77.3%)	(88.3%)	(74.4%)	(78.6%)	(78.7%)	(73.8%)	(75.4%)	(84.3%)	(69.5%)
H19年度	H22年度	本学平均	60.6	79.4%	88.9%	76.6%	80.6%	80.2%	80.3%	76.5%	85.3%	71.8%
		(全国平均)	(58.9)	(77.4%)	(88.8%)	(74.4%)	(78.5%)	(78.7%)	(77.7%)	(76.0%)	(83.0%)	(69.0%)
H20年度	H23年度	本学平均	61.2	80.3%	86.5%	76.8%	81.8%	81.4%	78.8%	79.6%	87.5%	72.3%
		(全国平均)	(58.9)	(78.3%)	(86.4%)	(75.4%)	(79.2%)	(79.4%)	(76.9%)	(79.1%)	(84.2%)	(70.2%)
H21年度	H24年度	本学平均	60.9	79.2%	85.5%	75.9%	80.3%	81.0%	75.7%	76.2%	87.8%	72.2%
		(全国平均)	(58.9)	(77.7%)	(86.2%)	(74.6%)	(78.6%)	(79.7%)	(75.7%)	(76.4%)	(85.0%)	(69.2%)
H22年度	H25年度	本学平均	61.9	79.7%	85.3%	76.0%	81.6%	80.9%	74.2%	77.0%	87.6%	73.6%
		(全国平均)	(59.0)	(77.2%)	(85.2%)	(73.8%)	(78.2%)	(79.0%)	(75.1%)	(76.5%)	(84.2%)	(69.4%)
H23年度	H26年度	本学平均	58.1	76.7%	87.0%	73.7%	79.3%	77.1%	71.9%	73.0%	84.0%	68.9%
		(全国平均)	(59.5)	(77.6%)	(85.1%)	(74.5%)	(78.8%)	(79.3%)	(75.9%)	(76.3%)	(84.4%)	(69.1%)
H24年度	H27年度	本学平均	504.5	77.6%	85.5%	73.3%	73.9%	78.6%	78.7%	75.8%	84.8%	72.2%
		(全国平均)										

未公表

■ 正答率の推移



■ CBT 合格基準（共用試験の合格基準に関する申合せ）（抜粋）

- (1) 共用試験 CBT は、実施評価機構で採点された IRT 標準スコア 359 以上を取得すること。
- (2) 病気その他やむを得ない理由により共用試験 CBT を受験できなかった者は「追試験」を、本試験において IRT 標準スコア 359 未満の者で希望する者は「再試験」を受験することができる。
- (3) 上記(1)及び(2)により合格した者で、4 年次履修科目に不合格科目があり留年した場合は、次年度の共用試験 CBT を受験し、合格しなければならない。

(事務局資料)

資料 2-1-2-6 医学科 OSCE の得点状況

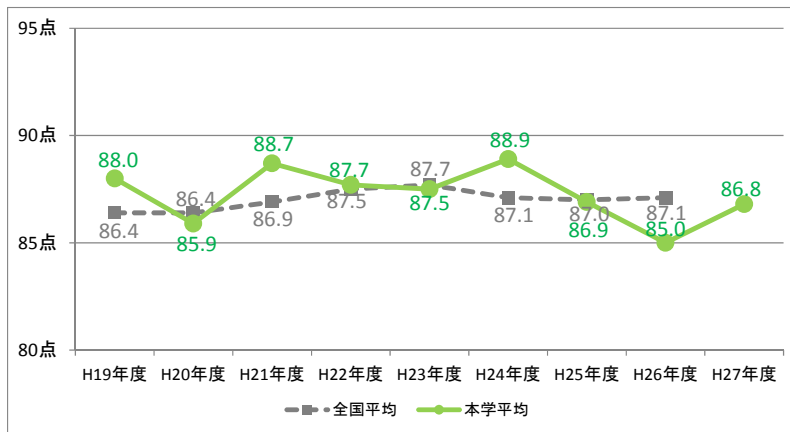
OSCE の成績はほぼ全国平均と同程度であり、これまで全員が本学の合格基準に達している。

■ 年度別・診察区分別平均点

主な 入学年度	OSCE受験年度		診察区分(ステーション)別平均点								
			全体	医療面接	頭頸部診察	胸部診察	ハイタルサイン	腹部診察	神経診察	基本的手技	救急
H16年度	H19年度	本学平均	88.0点	85.1点	86.6点	86.3点	—	85.8点	90.1点	—	94.2点
		(全国平均)	(86.4点)	(80.7点)	(86.6点)	(87.2点)	(86.6点)	(87.6点)	(89.3点)	(82.8点)	(81.7点)
H17年度	H20年度	本学平均	85.9点	84.2点	85.2点	89.8点	—	85.8点	75.3点	—	94.9点
		(全国平均)	(86.4点)	(79.8点)	(87.8点)	(88.8点)	(86.4点)	(87.2点)	(87.1点)	(83.6点)	(92.1点)
H18年度	H21年度	本学平均	88.7点	82.9点	93.6点	90.9点	—	84.9点	89.1点	—	91.0点
		(全国平均)	(86.9点)	(80.7点)	(88.5点)	(89.6点)	(87.0点)	(87.1点)	(87.2点)	(84.5点)	(92.4点)
H19年度	H22年度	本学平均	87.7点	84.2点	85.7点	84.4点	—	90.2点	87.6点	—	94.2点
		(全国平均)	(87.5点)	(81.3点)	(87.9点)	(89.6点)	(87.1点)	(88.6点)	(89.6点)	(84.7点)	(92.3点)
H20年度	H23年度	本学平均	87.5点	85.8点	89.3点	85.7点	—	88.9点	88.4点	—	86.8点
		(全国平均)	(87.7点)	(81.8点)	(88.1点)	(89.4点)	(87.7点)	(89.0点)	(88.8点)	(84.4点)	(93.2点)
H21年度	H24年度	本学平均	88.9点	84.4点	91.2点	87.0点	—	89.8点	88.9点	—	92.1点
		(全国平均)	(87.1点)	(81.2点)	(89.0点)	(87.4点)	(85.7点)	(89.4点)	(88.6点)	(84.4点)	(94.0点)
H22年度	H25年度	本学平均	86.9点	79.3点	92.5点	—	81.5点	87.3点	87.4点	—	93.6点
		(全国平均)	(87.0点)	(81.5点)	(88.8点)	(87.4点)	(84.6点)	(88.8点)	(87.2点)	(84.5点)	(93.7点)
H23年度	H26年度	本学平均	85.0点	76.9点	88.0点	82.6点	—	83.3点	87.9点	—	91.3点
		(全国平均)	(87.1点)	(81.3点)	(89.4点)	(87.6点)	(85.3点)	(89.1点)	(87.1点)	(83.9点)	(94.1点)
H24年度	H27年度	本学平均	86.8点	80.1点	89.1点	87.9点	—	84.4点	85.5点	—	93.9点
		(全国平均)									

未公表

■ 平均点の推移



■ OSCE 合格基準 (共用試験の合格基準に関する申合せ) (抜粋)

- (1) 共用試験 OSCE は、「基本的診療技能」の成績として扱う。
- (2) 共用試験 OSCE の成績を、100 点満点に換算し、60 点以上を取得すること。
- (3) 「再試験」は、原則として実施しない。
- (4) 病気その他やむを得ない事由により共用試験 OSCE を受験できなかった者は「追試験」を受験することができる。
- (5) 上記(2)及び(4)により合格した者で、4 年次履修科目に不合格科目があり留年した場合は、次年度以降の共用試験 OSCE を受験し、合格しなければならない。

(事務局資料)

【学生の研究実績】

研究室配属や卒業研究において得られた研究成果は適宜学会や学術雑誌等で公表している（資料2-1-2-7）。

資料2-1-2-7 学生の研究成果

■ 論文発表		
学科等	講座等	内容 ※赤字は医学部生を示す
医学部	分子生体情報学	Yazawa, T., Kawabe, S., Inaoka, Y., Okada, R., Mizutani, T., Imamichi, Y., Ju, Y., Yamazaki, Y., Usami, Y., *Kuriyashiki, M*, Umezawa, A., Miyamoto, K.: Differentiation of mesenchymal stem cells and embryonic stem cells into steroidogenic cells using steroidogenic factor-1 and liver receptor homolog-1. Mol. Cell. Endocrinol. 336, 127-132, 2011.
		Yazawa, T., Kawabe, S., Kanno, M., Mizutani, T., Imamichi, Y., Ju, Y., Matsumura, T., Yamazaki, Y., Usami, Y., *Kuriyashiki, M*, Shimada, M., Kitano, T., Umezawa, A., Miyamoto, K.: Androgen/Androgen receptor pathway regulates expression of the genes for cyclooxygenase-2 and amphiregulin in periovulatory granulosa cells. Molecular and Cellular Endocrinology 369, 42-51, 2013. DOI:10.1016/j.mce.2013.02.004
	脳脊髄神経外科	Mizutani, T., Ju, Y., Imamichi, Y., Osaki, T., Yazawa, T., Kawabe, S., Ishikane, S., Matsumura, T., Kanno, M., *Kamiki, Y*, *Kimura, K*, Minamino, N., Miyamoto, K.: C/EBPβ (CCAAT/enhancer-binding protein β) mediates progesterone production through transcriptional regulation in co-operation with SF-1 (steroidogenic factor-1). Biochem. J. 460,459-471, 2014. DOI:10.1042/BJ20131522
子どものこころの発達研究センター		Measurement and cellular sources of the soluble interleukin-2 receptor in primary central nervous system lymphoma. Kitai R, *Sasaki H*, Matsuda K, Tsunetoshi K, Yamauchi T, Neishi H, Matsumura K, Tsunoda A, Takeuchi H, Sato K, Kikuta K. Brain Tumor Pathol. 2013 Jan;30(1):34-9. doi: 10.1007/s10014-012-0093-1. Epub 2012 Mar 8.
		Shiro Tochitani, *Takahiro Ikeno*, *Tatsuhito Ito*, *Asuka Sakurai*, *Tomoki Yamauchi*, Hideo Matsuzaki Administration of Non-Absorbable Antibiotics to Pregnant Mice to Perturb the Maternal Gut Microbiota Is Associated with Iterations in Offspring Behavior. PLoS One. <http://www.ncbi.nlm.nih.gov/pubmed/26789865> 1(1):e0138293. 2016年1月21日
■ 学会発表		
学科等	講座等	内容 ※赤字は医学部生を示す
医学部	分子生体情報学	水谷哲也, 具 云峰, 今道力敬, 松村健大, 矢澤隆志, 河邊真也, 菅野真史, 松浦かおる *上木康衣*, 梅澤明弘, 尾崎 司, 南野直人, 宮本 薫: SF-1によるクロマチン構造変換を介した新たな転写調節機構. 第84回日本内分泌学会学術集会. 2011. 4. 21-23, 神戸. 日本内分泌学会雑誌. 87(1), 282, 2011.
		水谷哲也, 具 云峰, 今道力敬, 松村健大, 矢澤隆志, 河邊真也, 菅野真史, 松浦かおる, *上木康衣*, 梅澤明弘, 尾崎 司, 南野直人, 宮本 薫: SF-1複合体C/EBPβによるHSD3B2の転写調節機構の解明. 第85回日本内分泌学会学術集会. 2012.4.19-21, 愛知. 日本内分泌学会雑誌 88(1),309,2012.
	内科学(2)	発表者: *佐々木 宏仁*, 濱野 忠則, 白藤 法道, 石田 智恵美, 岸谷 融, Yen S-H, 米田 誠, 栗山 勝, 中本 安成 発表タイトル: ドネペジルのタウ蛋白リン酸化に及ぼす影響 -細胞モデルを用いた検討- 発表学会: 第54回日本神経化学学会大会 発表年月日等: 2011.9.26講演(口演) 国内学会(全国レベル)
	脳脊髄神経外科	発表者: *佐々木 宏仁*, 濱野 忠則, 白藤 法道, 上野 亜佐子, 石田 愛子, Shu-Hui Yen, 林 浩嗣, 山村 修, 栗山 勝, 中本 安成 発表タイトル: 塩酸ドネペジルのタウ蛋白リン酸化におよぼす影響 発表学会: 第33回日本神経治療学会総会 発表年月日等: 2015.11.28 一般講演(ポスター) 国内学会(全国レベル)
	看護学科	抗生剤含有フィブリンゲルンについての基礎研究 福井大学 脳脊髄神経外科(医学部学生基礎配属プロジェクト) *楠 望子*, *遠辺由佳*, 荒井大志, 山田真輔, 多田愛弓, 根石弘行, 常俊顕三, 磯崎 誠, 有島英孝, 小寺俊昭, 北井隆平, 竹内浩明, 菊田健一郎 北陸間脳下垂体腫瘍研究会2012年、夏 本邦健常老年者におけるEvans indexの年齢別推移 福井大学医学部 脳脊髄神経外科 *江森功一*, 北井隆平、五十嵐篤、杉戸悠紀、菊田健一郎 日本正常圧水頭症学会、2014年 大阪
	母子看護学・助産学(卒後発表)	発表者: *下村朋代*, *遠辺由佳* 演題名: 3人以上の子どもを妊娠中の高齢経産婦における心身の負担と支援のあり方 学会名: 第24回福井県母性衛生学会学術集会 発表年月: 2011.06.19
		発表者: *黒川明可*, *林田真由美* 演題名: 4人目の子どもを育児中の母親における現状と課題 学会名: 第24回福井県母性衛生学会学術集会 発表年月: 2011.06.19
		発表者: *久保田遥香* 演題名: 看護系と教育系女子大生における子宮頸がん検診・HPVワクチンの接種に関する実態と認識 学会名: 第24回福井県母性衛生学会学術集会 発表年月: 2011.06.19
		発表者: *古藤夕梨* 演題名: HPVワクチン接種対象の娘を持つ母親の子宮頸がん検診及びワクチン接種に関する認識 学会名: 第25回福井県母性衛生学会学術集会 発表年月: 2011.06.19
		発表者: *久保田遥香* 演題名: Implementation and Evaluation of a Cervical and Breast Cancer Awareness Education Program for Non-Medical Female University Students 学会名: ICOWHI 19th International Congress on "Women's Health" 発表年月: 2012. 11 Thailand
		発表者: *田邊奈緒子*, *羽柴あぐり* 演題名: 看護系女子大生の子宮頸がん予防行動および母親との会話の実態 学会名: 第26回福井県母性衛生学会学術集会 発表年月: 2013. 06.23
		発表者: *吉田仁美*, *堂笠未紗*, *岩田紗希*, *大竹口友香*, *谷口香留* 演題名: 経口避妊薬におけるピア・エデュケーションの効果に関する研究 学会名: 第26回福井県母性衛生学会学術集会 発表年月: 2013. 06.23
		発表者: *木下奈都美*, *大坂美菜* 演題名: 女子大生の初めての子宮頸がん検診受診過程における体験 学会名: 第27回福井県母性衛生学会学術集会 発表年月: 2014. 06.22
		発表者: *林希*, *西畑恵莉加*, *寺井里奈*, *額見結子*, *廣瀬千夏*, *野坂亜莉沙* 演題名: ファティリティ・アウェアネス教育プログラム効果の検討 学会名: 第27回福井県母性衛生学会学術集会 発表年月: 2014. 06.22
		発表者: *清水朋佳*, *山田祐規子*, *小谷奈緒佳*, *栗本ちほ*, *齋藤みか*, *中川知香* 演題名: 看護系大学生に対する男女の付き合い方と性意識に関する健康教育プログラムの効果 学会名: 第28回福井県母性衛生学会学術集会 発表年月: 2015. 06.21
		発表者: *岩崎菜穂* 演題名: 乳幼児との触れ合いが中学生の意識にもたらす効果についての検討 学会名: 第28回福井県母性衛生学会学術集会 発表年月: 2015. 06.21

(事務局資料)

●学生の成果の達成度や満足度に関する学生アンケート等の調査結果とその分析結果

【学生アンケートの内容】

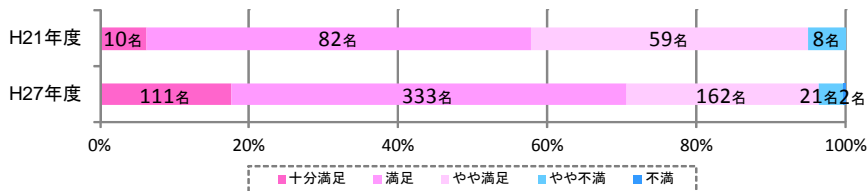
- ① 学生の成果についての各種アンケート調査を、医学部独自及び大学全体として行い、その回収率は概ね高く（P4-58 前掲資料 1-1-5-4），学生の声を聴取できている。第1期調査と比較すると多数の項目において満足度や能力の上昇が見られ、教育の成果が上がっている（資料 2-1-3-1）。

資料 2-1-3-1 医学部教育に対する学生の満足度

平成 21 年度及び平成 27 年度に実施した「教育・研究に対する意識・満足度調査」について、医学部学生（医学科・看護学科学生全体）の結果を取りまとめ比較した。

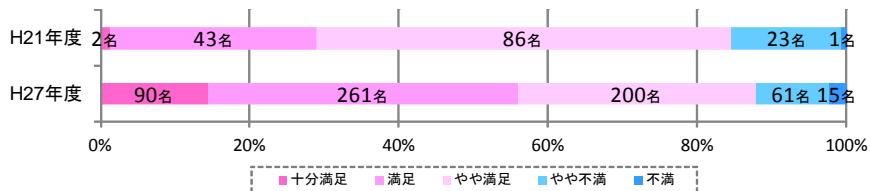
「教育全般」及び「教養・専門教育」において満足している割合は増加し、「基礎学力・専門知識技能・実践能力・考える力」が身についたとするものは非常に多い。「ディスカッション・ディベート力」「社会等の変化への対応する力」が身についたとするものも多く、「他学生と協調する力」はほとんどの学生が身につけたとしている。「外国語でのコミュニケーション力・想像力」は「十分～ある程度身についた」とするものの割合が第1期より 27.9%増加している。

設問_教育全般について、あなたはどの程度満足していますか



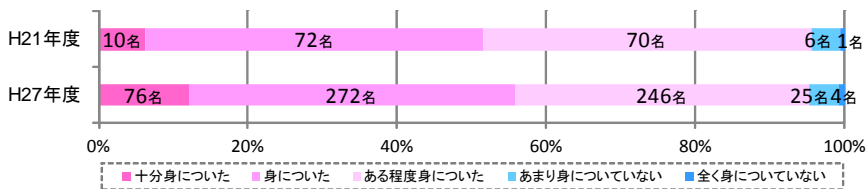
* 第1期末と比較して、第2期末では学生の評価（十分満足～やや満足とした割合）は、1.3%向上している。

設問_幅広い教養を身につけられる教育について、あなたはどの程度満足していますか



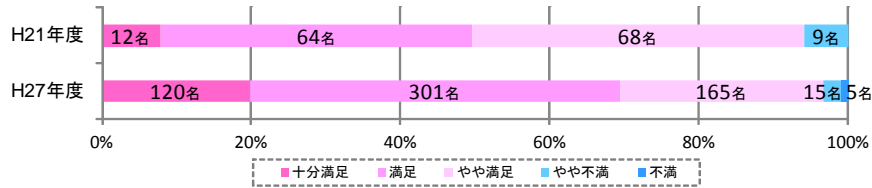
* 第1期末と比較して、第2期末では学生の評価（十分満足～やや満足とした割合）は、3.4%向上している。

設問_基礎学力がどの程度身についた（あるいは身につく）と思いますか



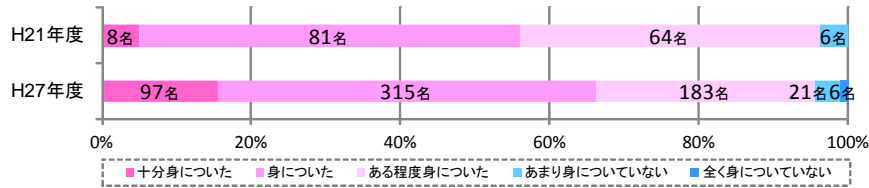
* 第1期末と比較して、第2期末では学生の評価（十分～ある程度身についたとした割合）は、0.3%減であるが、全体として身についたと考えるものは95.3%と大多数を占める。

設問_専門の教育全般について、あなたはどの程度満足していますか



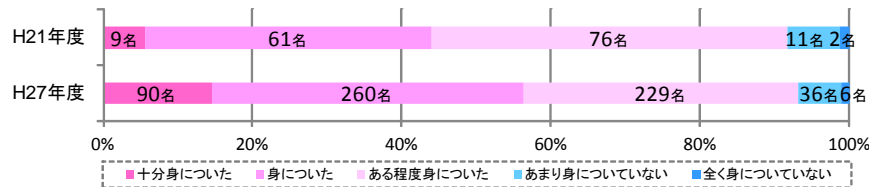
* 第1期末と比較して、第2期末では学生の評価（十分満足～やや満足とした割合）は、2.6%向上している。

設問_専門知識や技能がどの程度身についた（あるいは身につく）と思いますか



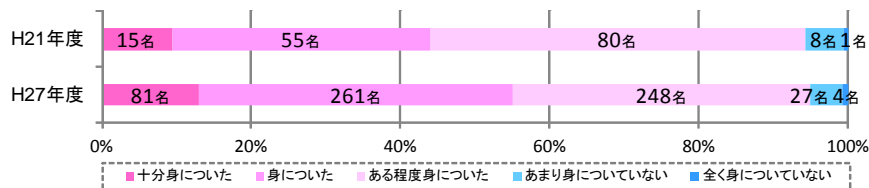
* 第1期末と比較して、第2期末では学生の評価（十分～ある程度身についたとした割合）は、0.5%減であるが、全体として身についたと考えるものは95.7%と大多数を占める。

設問_実践的な能力がどの程度身についた（あるいは身につく）と思いますか



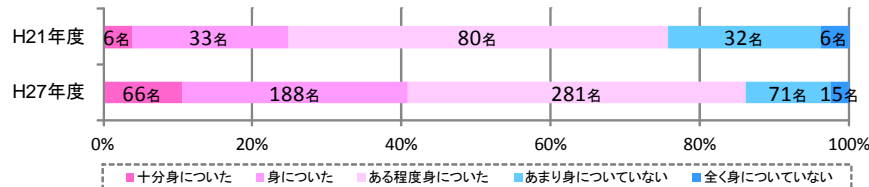
* 第1期末と比較して、第2期末では学生の評価（十分～ある程度身についたとした割合）は、1.4%向上している。

設問_論理や証拠を重視し、それらに基づいて考える力がどの程度身についた（あるいは身につく）と思いますか



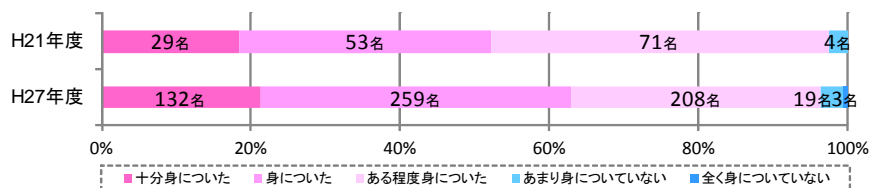
* 第1期末と比較して、第2期末では学生の評価（十分～ある程度身についたとした割合）は、0.7%向上している。

設問_ディスカッションやディベートをする力がどの程度身についた（あるいは身につく）と思いますか



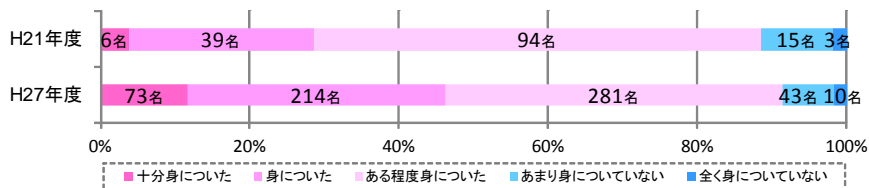
* 第1期末と比較して、第2期末では学生の評価（十分～ある程度身についたとした割合）は、10.4%向上している。

設問_他の学生と協調する力がどの程度身についた（あるいは身につく）と思いますか



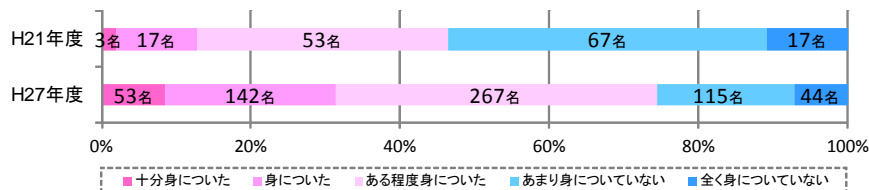
* 第1期末と比較して、第2期末では学生の評価（十分～ある程度身についたとした割合）は、1.0%減少しているが、全体として身についたと考えるものは96.5%と大多数を占める。

設問_社会や技術の変化に対応する力がどの程度身についた（あるいは身につく）と思いますか



* 第1期末と比較して、第2期末では学生の評価（十分～ある程度身についたとした割合）は、2.9%向上している。

設問_外国語でコミュニケーションをする力、豊かな想像力がどの程度身についた（あるいは身につく）と思いますか



* 第1期末と比較して、第2期末では学生の評価（十分～ある程度身についたとした割合）は、27.9%と大きく向上している。

（平成21年度および平成27年度「教育・研究に対する意識・満足度調査」結果より抜粋）

- ② 医学科学生への意見聴取の結果、教育目標に関して修得が「できる／できた」と回答した学生は過半でありかつ高学年ほどその割合が高く、これは学生が相応な学力や資質・能力を身につけ、学業の成果に概ね満足していることの証左である(資料 2-1-3-2)。

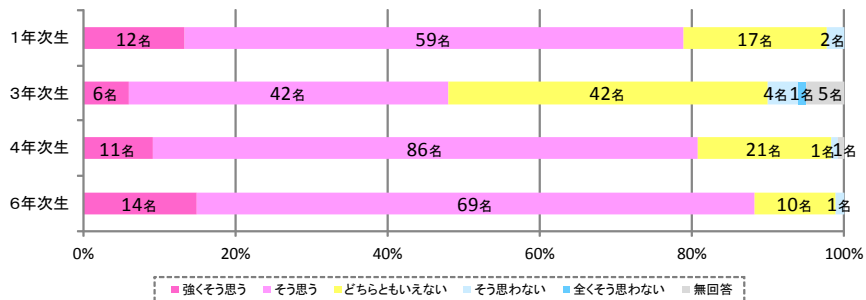
資料 2-1-3-2 教育目標に対する学生の評価 (医学科)

医学科において達成しようとする基本的な成果である、医学知識、臨床能力、コミュニケーション能力、高い倫理観、学ぶ習慣、根拠に立脚した臨床能力の取得についてアンケート調査を行ったところ、過半の学生が肯定的な回答を行っている。3年次生は肯定的回答が他学年より少ないが4年、6年次生になると肯定的回答が増加しており、本学の教育が特に高学年においてより高い成果を上げている証左である。

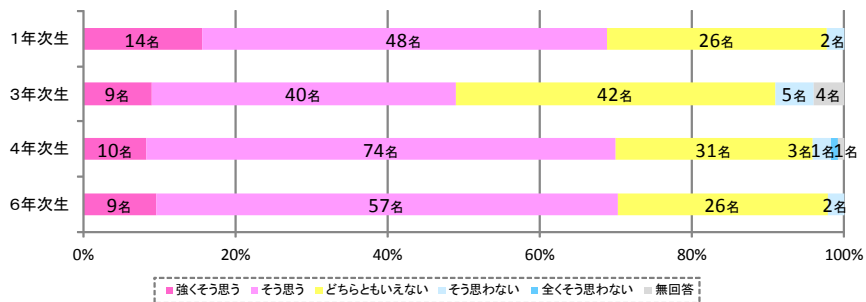
設問_医学科では、①幅広い医学知識を持ち、質の高い臨床能力を身に付け、②コミュニケーション能力に優れ、高い倫理観をもって患者中心の医療を実践でき、③日々進歩する医学知識・医療技術を生涯にわたり学ぶ習慣を身につけ、根拠に立脚した医療を実践できる医療人を育成し、④世界をリードする生命科学研究者や医学教育者となりうる人や、⑤個人と地域・国際社会の健康増進と疾病の予防・根絶に寄与し、国際的な視野でまたは地域に根ざした活動ができる人を育成することを教育目標としています。

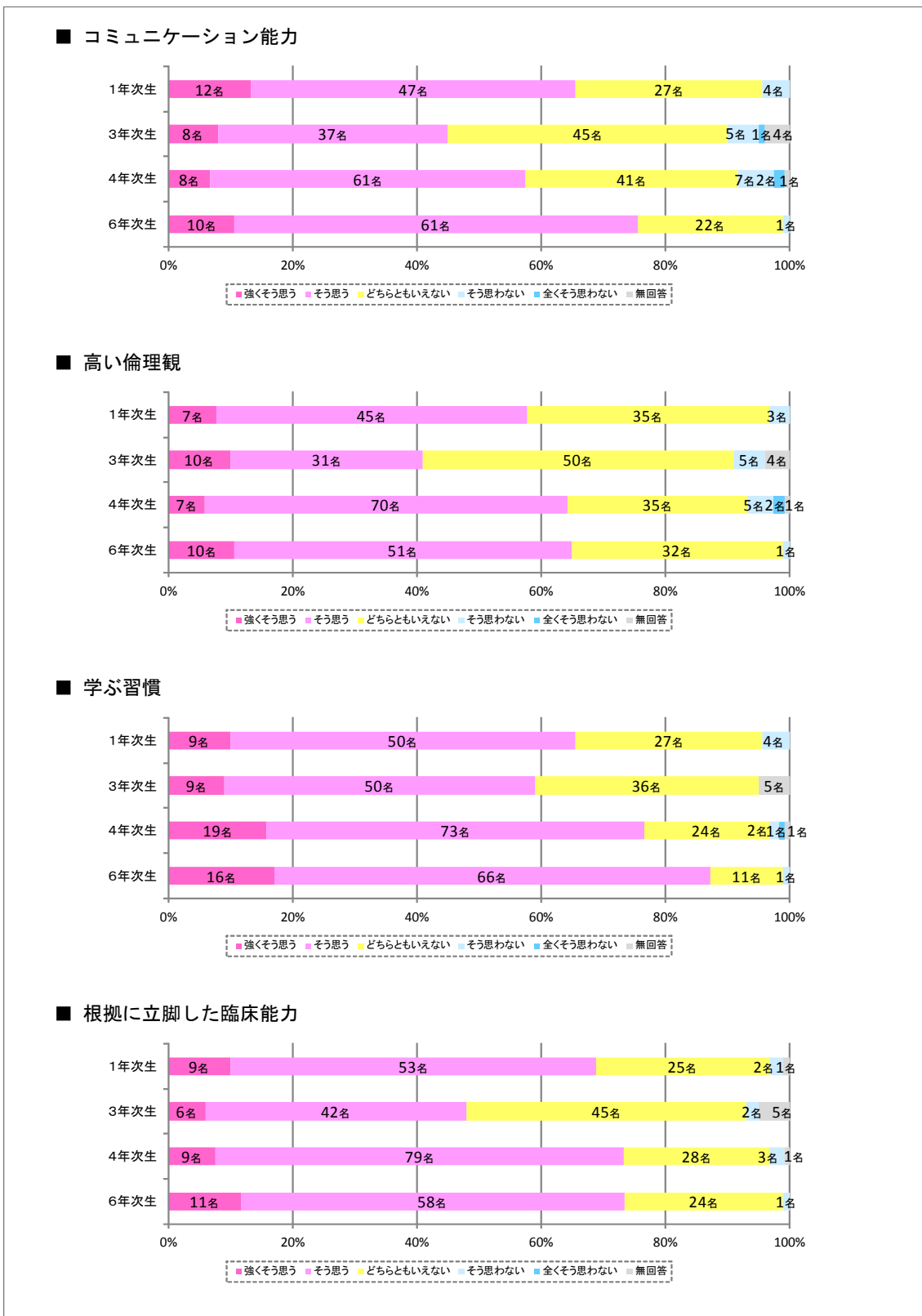
そこで、これまでのカリキュラムの履修状況から考えて、今後のカリキュラムを適切に履修すればこれらに対応した以下の事項が卒業時に修得できる(6年次…できた)と思いますか？

■ 医学知識



■ 臨床能力





(平成 27 年度カリキュラム評価アンケート結果より抜粋)

- ③ 看護学科学生への意見聴取の結果，教育目標に関して修得が「できる／できた」と回答した学生が過半であり，これは学生が相応な学力や資質・能力を身につけ，学業の成果に概ね満足していることの証左である（資料 2-1-3-3）。

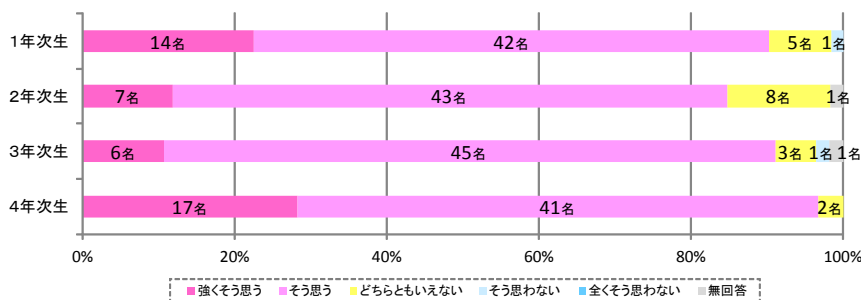
資料 2-1-3-3 教育目標に対する学生の評価（看護学科）

看護学科の達成しようとする基本的な成果である，看護の対象となる人間の総合的理解，高い倫理観，学ぶ習慣，コミュニケーション能力，看護業務を発展させる能力の取得についてアンケート調査を行った所，大方の学生が肯定的な回答を行っており，かつ4年次生はその割合が他学年よりも高い傾向にあり，本学における教育が成果を上げている証左である。

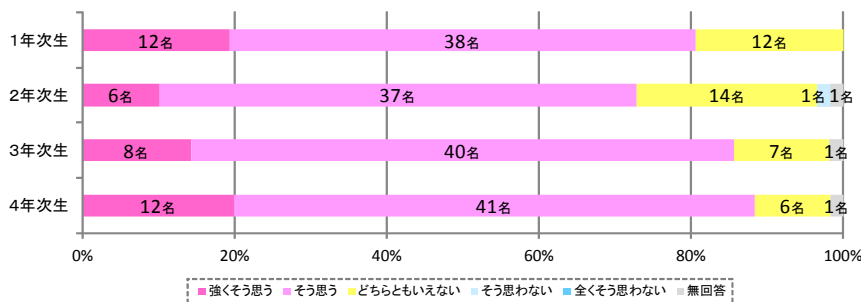
設問 看護学科では，①看護の対象となる人間を総合的に理解でき，②高い倫理観を持ち，看護の対象となる人間の権利を守ることでできる医療人，③健康に関わる諸問題の解決に必要な知識・技術を主体的に学び，創造する能力，④関連領域の専門家と協力し，必要に応じて調整的な役割を果たす能力，⑤看護を批判的に吟味し，建設的・創造的に発展させる能力を育成することを教育目標としています。

そこで，これまでのカリキュラムの履修状況から考えて，今後のカリキュラムを適切に履修すればこれらに対応した以下の事項が卒業時に修得できる（4年次…できた）と思いますか？

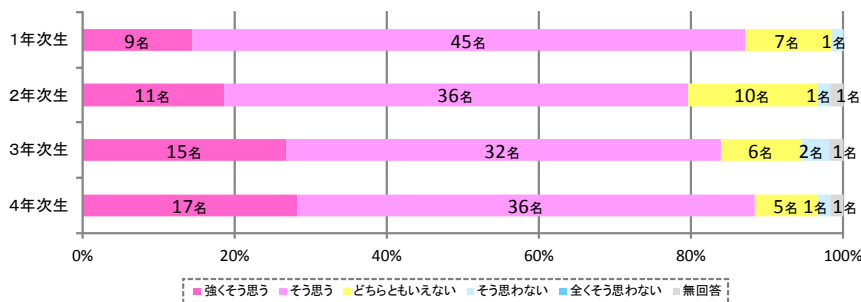
■ 看護の対象となる人間の総合的理解

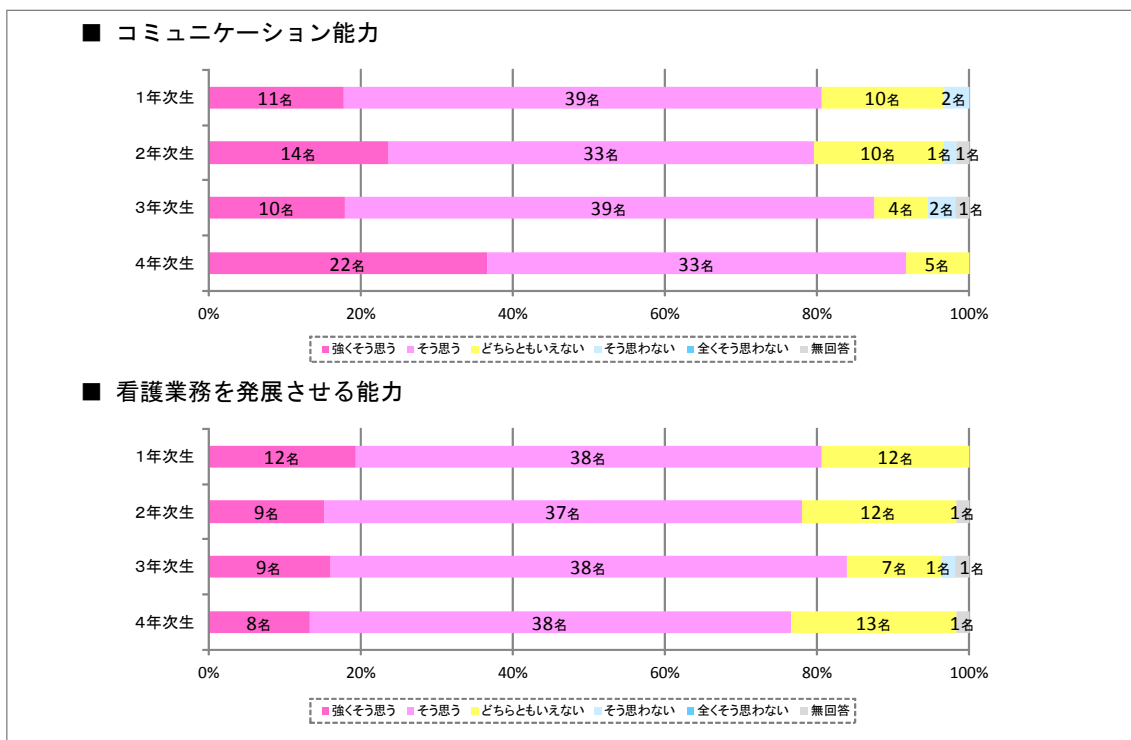


■ 高い倫理観



■ 学ぶ習慣





(水準) 期待される水準を上回る

(判断理由)

- ① 学生の単位取得状況はほぼ100%であり、優(秀)と評価された科目は医学科で72.6%、看護学科で83.5%と高く¹⁾、かつ第1期より向上している。修業年限内で終了する学生は医学科87.2%、看護学科94.0%である²⁾。学生は各学年修了及び卒業時点で相応な学力や資質・能力を身に付けており、関係者の期待に応えている。

¹⁾ 資料 2-1-1-6 : 学士課程における成績分布及び単位取得状況 P4-150

²⁾ 資料 2-1-1-7 : 入学者の進級・卒業状況(医学科) P4-151

資料 2-1-1-8 : 入学者の進級・卒業状況(看護学科) P4-152

- ② 医学科学生は共用試験結果において概ね全国平均を上回り³⁾、医師国家試験合格率は91.9%と高くかつ第1期を上回っている⁴⁾。看護学科学生の看護師・保健師・助産師国家試験合格率は常に全国平均を上回り概ね100%であり、かつ第1期より高い⁵⁾。学生は卒業時点において相応な学力や資質・能力を修得しており、関係者の期待に応えている。

³⁾ 資料 2-1-2-5 : 医学科 CBT の得点状況 P4-157

資料 2-1-2-6 : 医学科 OSCE の得点状況 P4-158

⁴⁾ 資料 2-1-2-1 : 医師国家試験の合格率 P4-153

⁵⁾ 資料 2-1-2-2 : 看護師国家試験の合格率 P4-154

資料 2-1-2-3 : 保健師国家試験の合格率 P4-155

資料 2-1-2-4 : 助産師国家試験の合格率 P4-156

- ③ 学生に対する意見聴取結果を鑑みると、医学部教育に対して満足あるいは能力が身についたとするものは第1期を上回り、概ね80%以上である⁶⁾。また医学科・看護学科それぞれの教育目標に対して過半の学生が達成できた／できるとしており⁷⁾、本学部における教育により相応な学力や資質・能力が修得されたことが窺える。これは学生の期待に応えている証左である。

⁶⁾ 資料 2-1-3-1 : 医学部教育に対する学生の満足度 P4-160

⁷⁾ 資料 2-1-3-2 : 教育目標に対する学生の評価(医学科) P4-163

資料 2-1-3-3 : 教育目標に対する学生の評価(看護学科) P4-165

以上のように、学生の学業成果は関係者の期待である「医療人として備えるべき学力や資質・能力の涵養」が第1期以上に、かつ全国的に比較しても極めてよく達成されている証左であり、教育の成果や効果は期待される水準を上回る。

観点 進路・就職の状況

(観点に係る状況)

●進路・就職状況, その他の状況から判断される在学中の学業の成果の状況

【就職・進学率やキャリアパス】

- ① 医師国家試験合格者の全員, 看護師国家試験, 保健師国家試験及び助産師国家試験合格者のほぼ全員が医療人として医療機関等に就職しており(資料 2-2-1-1), 本学部の教育理念「高度な医学・看護学知識を修得した, 信頼しうる医療人を育成する」に合致し, 関係者からの期待に応えている。

資料 2-2-1-1 卒業生の職種別就職状況

医学科卒業生(新卒国試合格者)は, 第2期期間中において第1期期間中の568名に比べ若干多い578名全員が医療機関へ就職している。

看護学科卒業生(新卒国試合格者)は進学者を除くと, 第1期より高い割合(第1期平均98.3%, 第2期平均99.2%)で医療機関へ看護師, 保健師あるいは助産師等として就職している。

■ 卒業年度別・職種別就職状況(新卒者・国試合格のみ)

【医学科】

就職先	職種	第1期							第2期						
		H16年度卒	H17年度卒	H18年度卒	H19年度卒	H20年度卒	H21年度卒	(計)	H22年度卒	H23年度卒	H24年度卒	H25年度卒	H26年度卒	H27年度卒	(計)
医療機関	臨床研修医 ※	85名	94名	107名	97名	87名	98名	(568名)	98名	93名	94名	90名	109名	94名	(578名)
	(医療職への就職率)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)

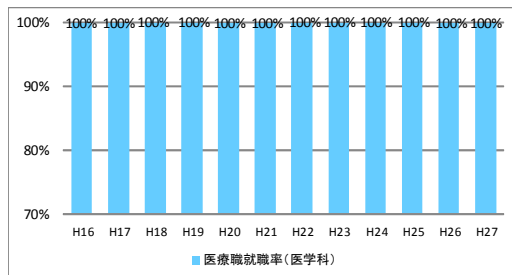
【看護学科】

就職先	職種	第1期							第2期						
		H16年度卒	H17年度卒	H18年度卒	H19年度卒	H20年度卒	H21年度卒	(計)	H22年度卒	H23年度卒	H24年度卒	H25年度卒	H26年度卒	H27年度卒	(計)
医療機関	看護師 ※	54名	50名	51名	52名	50名	59名	(316名)	60名	50名	50名	53名	60名	51名	(324名)
	保健師 ※	0名	0名	0名	1名	2名	0名	(3名)	1名	0名	1名	0名	0名	0名	(2名)
	助産師 ※	4名	2名	3名	3名	2名	4名	(18名)	4名	4名	5名	6名	5名	6名	(30名)
地方公共団体 (医療機関除く)	保健師 ※	1名	3名	5名	5名	2名	0名	(16名)	0名	4名	2名	3名	0名	3名	(12名)
	その他	0名	0名	0名	0名	1名	0名	(1名)	0名	1名	0名	0名	0名	0名	(1名)
その他		0名	1名	0名	1名	0名	0名	(2名)	0名	0名	0名	0名	0名	0名	(0名)
不明		0名	0名	3名	0名	0名	0名	(3名)	1名	0名	1名	0名	0名	0名	(2名)
進学		4名	6名	4名	3名	3名	2名	(22名)	0名	5名	3名	3名	1名	1名	(13名)
	(計)	63名	62名	66名	65名	60名	65名	(381名)	66名	64名	62名	65名	66名	61名	(384名)
	(医療職への就職率)	(100.0%)	(98.2%)	(95.2%)	(98.4%)	(98.2%)	(100.0%)	(98.3%)	(98.5%)	(98.3%)	(98.3%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(99.2%)

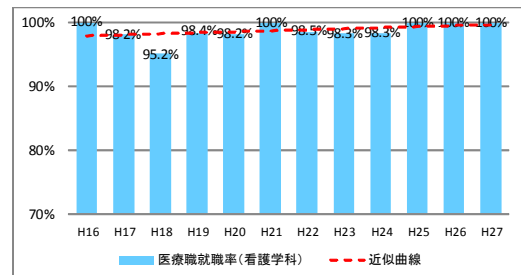
※ 医療職…医療職への就職率は進学者を除いて算出

■ 医療職への就職割合

【医学科】



【看護学科】



(事務局資料)

- ② 卒業生の一部はより高度な専門職医療人となるべく大学院へ進学している（資料 2-2-1-2）。

資料 2-2-1-2 医学部卒業生の本学医学系研究科（博士/修士課程）進学状況

医学科卒業生のうち本学医学系研究科（博士課程）に進学したものは、第2期期間中に83名（本学大学院への進学率9.7%）である。

看護学科卒業生のうち本学医学系研究科（修士課程）に進学したものは、第2期期間中に15名（本学大学院への進学率2.6%）である。

■ 医学科卒の本学医学系研究科（博士課程）進学者

入学年度	福井大学（福井医科大学） 医学部医学科卒業年度												
	H16年度 85名卒	H17年度 94名卒	H18年度 107名卒	H19年度 97名卒	H20年度 87名卒	H21年度 98名卒	H22年度 98名卒	H23年度 93名卒	H24年度 94名卒	H25年度 90名卒	H26年度 109名卒	H27年度 94名卒	(H16-24計) 853名卒
H22年度入学者	1名	3名	0名	2名	臨床研修中	臨床研修中	—	—	—	—	—	—	(11名)
H23年度 "	1名	6名	3名	1名	1名	臨床研修中	臨床研修中	—	—	—	—	—	(15名)
H24年度 "	1名	2名	10名	5名	2名	0名	臨床研修中	臨床研修中	—	—	—	—	(23名)
H25年度 "	0名	2名	2名	3名	2名	4名	1名	臨床研修中	—	—	—	—	(19名)
H26年度 "	0名	1名	1名	2名	2名	4名	0名	2名	臨床研修中	臨床研修中	—	—	(13名)
H27年度 "	0名	0名	2名	1名	0名	5名	4名	2名	4名	臨床研修中	臨床研修中	—	(19名)
(計)	3名	14名	18名	14名	7名	13名	5名	5名	4名	—	—	—	(83名)
本学大学院進学率	3.5%	14.9%	16.8%	14.4%	8.0%	13.3%	5.1%	5.4%	4.3%	—	—	—	(9.7%)

※ 卒業生数は国家試験合格・新卒者のみ

※ 卒後2年間は臨床研修期間（平成23年度卒→平成25年度入学者1名は、ATMプログラム（初期研修同時履修コース）利用者）

■ 看護学科卒の本学医学系研究科（修士課程）進学者

入学年度	福井大学 医学部看護学科卒業年度												
	H16年度 63名卒	H17年度 62名卒	H18年度 66名卒	H19年度 65名卒	H20年度 60名卒	H21年度 65名卒	H22年度 66名卒	H23年度 64名卒	H24年度 62名卒	H25年度 65名卒	H26年度 66名卒	H27年度 61名卒	H16-24計 573名卒
H22年度入学者	0名	1名	0名	0名	実務2年未満	実務2年未満	—	—	—	—	—	—	(4名)
H23年度 "	0名	1名	1名	0名	0名	実務2年未満	実務2年未満	—	—	—	—	—	(3名)
H24年度 "	0名	0名	0名	0名	0名	0名	実務2年未満	実務2年未満	—	—	—	—	(0名)
H25年度 "	0名	0名	0名	0名	0名	1名	0名	実務2年未満	実務2年未満	—	—	—	(1名)
H26年度 "	0名	0名	0名	0名	0名	1名	0名	0名	実務2年未満	実務2年未満	—	—	(1名)
H27年度 "	0名	1名	0名	0名	1名	0名	1名	0名	0名	実務2年未満	実務2年未満	—	(6名)
(計)	0名	3名	1名	0名	1名	2名	1名	0名	0名	—	—	—	(15名)
本学大学院進学率	0.0%	4.8%	1.5%	0.0%	1.7%	3.1%	1.5%	0.0%	0.0%	—	—	—	(2.6%)

※ 卒業生数は国家試験合格・新卒者のみ

※ 医学系研究科（修士課程）は、入学前に2年程度の実務経験を推奨

(事務局資料)

【就職先の特徴】

- ① 医師国家試験合格者の3～4割が毎年、医師として福井県内の医療機関に就職しており、県内就職率は第1期より増加していることから地域医療に携わる医療人の育成は地域社会の期待に十分応えている（資料2-2-1-3）。
- ② 看護師・保健師国家試験合格者の6～7割、助産師国家試験合格者の約9割が福井県内の医療機関に就職しており、県内就職率は第1期より増加していることから地域社会の期待に十分応えている（資料2-2-1-3）。

資料2-2-1-3 卒業生の地域別就職状況

第2期における医学科の県内就職率は第1期に比して増加しており（平均33.1%→35.1%）、入試の地域枠・福井健康推進枠の導入および地域医療に関連した教育の効果が現れている。看護学科は看護学科奨学金の効果もあり、第1期と比べて卒業生の県内就職率は増加している（平均57.2%→65.2%）。看護師としては60.4%→65.4%、保健師としては31.6%→78.6%と県内就職率は増加している。

■ 卒業年度別・地域別就職状況（新卒者・国試合格のみ）

【医学科】

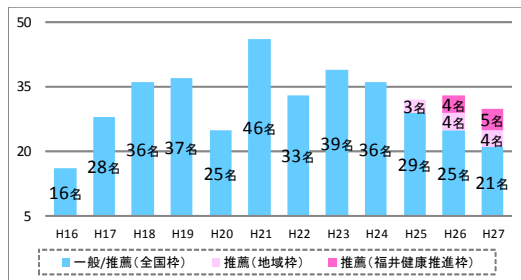
職種	就職地域	第1期						第2期							
		H16年度卒	H17年度卒	H18年度卒	H19年度卒	H20年度卒	H21年度卒	(計)	H22年度卒	H23年度卒	H24年度卒	H25年度卒	H26年度卒	H27年度卒	(計)
臨床研修医	福井県内 (うち推薦/地域枠入学) (うち推薦/福井健康推進枠入学)	16名	28名	36名	37名	25名	46名	(188名)	33名	39名	36名	32名 (3名)	33名 (4名)	30名 (5名)	(203名)
	福井県外 (うち推薦/地域枠入学) (うち推薦/福井健康推進枠入学)	69名	65名	70名	59名	62名	52名	(377名)	65名	53名	58名	58名 (2名)	76名 (1名)	64名 (1名)	(374名)
	未定	0名	1名	1名	1名	0名	0名	(3名)	0名	1名	0名	0名	0名	0名	(1名)
(計)		85名	94名	107名	97名	87名	98名	(568名)	98名	93名	94名	90名	109名	94名	(578名)
(県内就職率)		18.8%	29.8%	33.6%	38.1%	28.7%	46.9%	(33.1%)	33.7%	41.9%	38.3%	35.6%	30.3%	31.9%	(35.1%)

【看護学科】

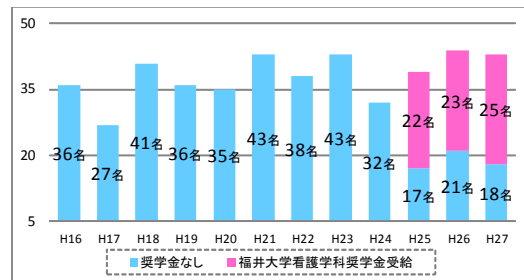
職種	就職地域	第1期						第2期							
		H16年度卒	H17年度卒	H18年度卒	H19年度卒	H20年度卒	H21年度卒	(計)	H22年度卒	H23年度卒	H24年度卒	H25年度卒	H26年度卒	H27年度卒	(計)
看護師	福井県内 (うち看護学科奨学金受給者)	31名	23名	36名	31名	31名	39名	(191名)	34名	35名	28名	33名 (22名)	44名 (23名)	38名 (25名)	(212名)
	福井県外 (うち看護学科奨学金受給者)	23名	27名	15名	21名	19名	20名	(125名)	26名	15名	22名	20名 (2名)	16名 (1名)	13名 (3名)	(112名)
保健師	福井県内 (うち看護学科奨学金受給者)	1名	1名	2名	1名	1名	0名	(6名)	1名	3名	1名	3名 (2名)	0名 (2名)	3名 (4名)	(11名)
	福井県外	0名	2名	3名	5名	3名	0名	(13名)	0名	1名	2名	0名	0名	0名	(3名)
助産師	福井県内 (うち看護学科奨学金受給者)	4名	2名	3名	3名	2名	4名	(18名)	3名	4名	3名	6名 (2名)	5名 (3名)	6名 (5名)	(27名)
	福井県外	0名	0名	0名	0名	0名	0名	(0名)	1名	0名	2名	0名	0名	0名	(3名)
その他	福井県内	0名	1名	0名	1名	1名	0名	(3名)	0名	1名	0名	0名	0名	0名	(1名)
不明		0名	0名	3名	0名	0名	0名	(3名)	1名	0名	1名	0名	0名	0名	(2名)
進学 (うち看護学科奨学金受給者)		4名	6名	4名	3名	3名	2名	(22名)	0名	5名	3名	3名 (1名)	1名 (1名)	1名 (2名)	(13名)
(計)		63名	62名	66名	65名	60名	65名	(381名)	66名	64名	62名	65名	66名	61名	(384名)
(県内就職率)		57.1%	43.5%	62.1%	55.4%	58.3%	66.2%	(57.2%)	57.6%	67.2%	51.6%	64.6%	74.2%	77.0%	(65.4%)

■ 県内就職者数の推移

【医学科】



【看護学科】



(事務局資料)

- ③ 地域医療を指向する入学者選抜や地域医療人育成プログラム、奨学金制度により、対象となった学生は福井県内で医療職に従事するものの割合が非常に高く、関係者からの期待に込めている（資料 2-2-1-4）。

資料 2-2-1-4 福井県内就職状況



(事務局資料)

●在学中の学業の成果に関する卒業・修了生および進路先・就職先等の関係者への意見聴取等の結果とその分析結果

【卒業生調査内容】

- ① 医学科平成 20～22 年度卒業生への意見聴取において、過半の卒業生は教育目標に対応する諸資質・能力を身に付け、在学中のカリキュラムへの評価は高く、履修することで医学・医療に対する興味・履修意欲が増し、教員の指導のもと十分に内容を消化できたと回答している。これらは、医学科の教育が学生の期待に十分応えたものであることの証左であり、第 1 期の調査と比較すると肯定的意見の割合が増加していることから、本学の教育がより適切となっていることの証左でもある（資料 2-2-2-1）。

資料 2-2-2-1 卒業生による本学教育に対する評価（医学科）

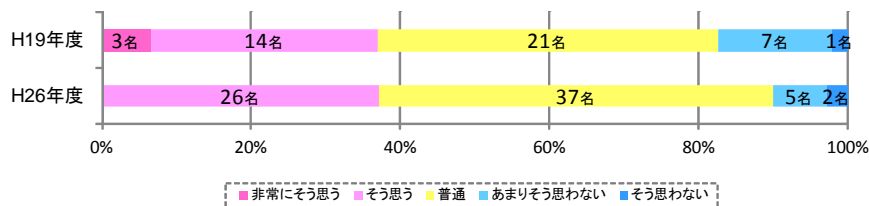
医学科卒業生に実施した平成 19 年度調査（卒業生 46 名回答 回収率 16.4%）と平成 26 年度調査（卒業生 70 名回答 回収率 27.7%）において同等の質問項目について比較した結果を示す。

■ 教育目標について

H19 設問_医学部では、①幅広い医学知識を持ち、質の高い臨床能力を身に付け、②コミュニケーション能力に優れ、高い倫理観を持って患者様中心の医療を実践でき、③日々進歩する医学知識・医療技術を生涯にわたり学ぶ習慣を身に付け、根拠に立脚した医療を実践できる医療人を育成することを教育目標としています。そこで、本学のカリキュラム全般を履修してこれらに対応した以下の事項を修得することができましたかお聞きます。

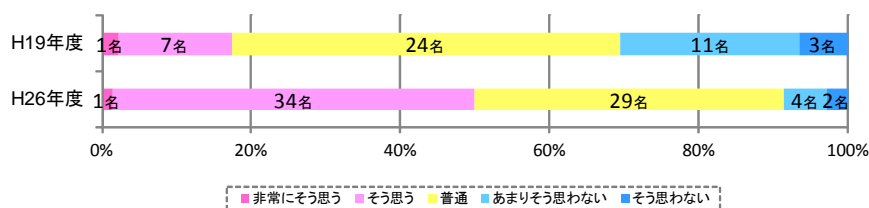
H26 設問_本学では、以下の能力を育成することを教育の目標としています。そこで、大学教育を土台として培われたあなたの知識や臨床を含みさまざまな能力についてご回答ください。

- ・臨床医として必要な医学知識を有していますか（H19…「医学知識」）



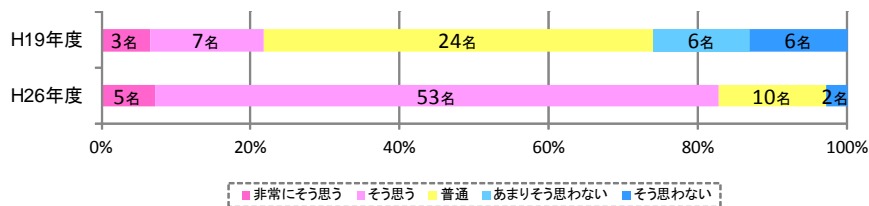
- * 第 1 期と比較して、第 2 期では卒業生の否定的評価（あまりそう思わない～そう思わないとした割合）は、7.4%減少している。

- ・臨床医として必要な臨床能力を有していますか（H19…「臨床能力」）



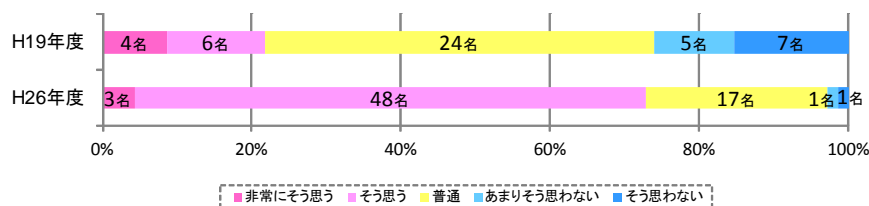
- * 第 1 期と比較して、第 2 期では卒業生の評価（非常にそう思う～そう思うとした割合）は、32.6%向上している。

- 患者様やご家族様への対応など、必要なコミュニケーション能力を有していますか (H19…コミュニケーション能力)



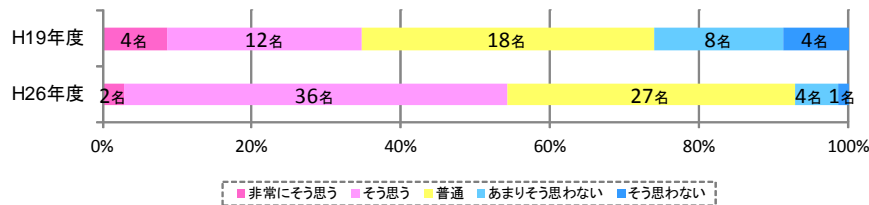
* 第1期と比較して、第2期では卒業生の評価（非常にそう思う～そう思うとした割合）は、61.2%と大きく向上している。

- 患者様の尊厳や利益を重んじるなど、十分な医療倫理観を有していますか (H19…「高い倫理観」)



* 第1期と比較して、第2期では卒業生の評価（非常にそう思う～そう思うとした割合）は、51.2%と大きく向上している。

- 新しい医学知識や医療技術の修得に対する積極性を有していますか (H19…「学ぶ習慣」)

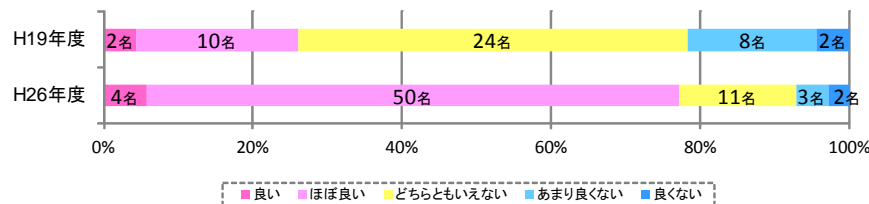


* 第1期と比較して、第2期では卒業生の評価（非常にそう思う～そう思うとした割合）は、19.5%向上している。

■ カリキュラムについて

H19 設問_医学教育カリキュラム全体（科目構成，開講時期など）は適切なものでしたか

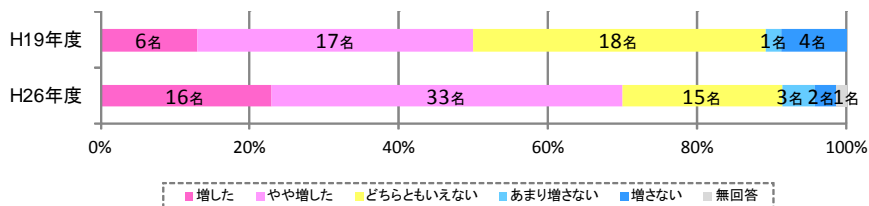
H26 設問_あなたが履修したカリキュラム全体の構成（科目構成，開講時期など）は，医師として備えるべき能力・技能を修得するうえで適切なものでしたか。



* 第1期と比較して、第2期では卒業生の評価（良い～ほぼ良い）は、51.0%と大きく向上している。

H19 設問_本学の医学教育カリキュラムを履修して、医学・医療に対する興味または履修意欲が増しましたか

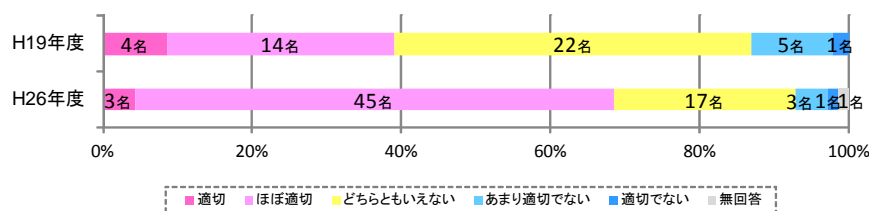
H26 設問_本学のカリキュラムを履修して、医療に対する興味や履修意欲が増しましたか



* 第1期と比較して、第2期では卒業生の評価（増した～やや増したとした割合）は、20.0%向上している。

H19 設問_臨床研修の前提となる基礎的な診断技術・知識を習得する上で、福井大学医学部教員の助言・指導は全般的に適切でしたか

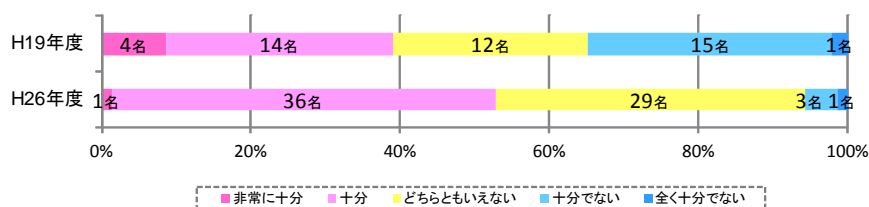
H26 設問_カリキュラムや各科目等を履修する上で、教員の指導・助言は全般的に適切でしたか



* 第1期と比較して、第2期では卒業生の評価（適切～ほぼ適切とした割合）は、29.5%向上している。

H19 設問_学習内容を消化・理解するための学習時間は十分に使いましたか

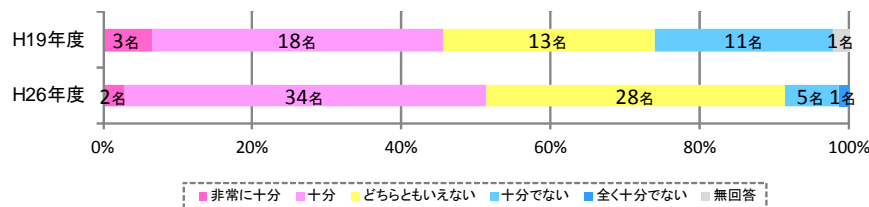
H26 設問_在学中、カリキュラム全体の学修内容を消化・理解するためにあなた自身が費やした学修時間は十分でしたか



* 第1期と比較して、第2期では卒業生の評価（非常に十分～十分とした割合）は、13.8%向上している。

H19 設問_カリキュラム全体の学習内容を十分に消化できましたか

H26 設問_あなたはカリキュラム全体の学修内容を十分に消化できましたか



* 第1期と比較して、第2期では卒業生の評価（非常に十分～十分とした割合）は、5.7%向上している。

（平成19年度卒業生対象福井大学医学部医学教育カリキュラムに関するアンケートおよび平成26年度卒業生に対する大学教育の成果調査【医学部医学科卒業生対象】アンケート結果より抜粋）

② 看護学科平成 20～22 年度卒業生への意見聴取において、過半の卒業生は教育目標に対応する諸資質・能力を身に付け、在学中のカリキュラムへの評価は高く、履修することで医学・医療に対する興味・履修意欲が増し、教員の指導のもと学習内容を消化でき、人間的に成長できたと回答している。これらは、看護学科の教育が学生の期待に十分応えたものであることの証左である（資料 2-2-2-2）。

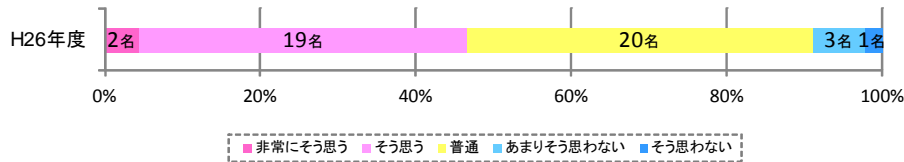
資料 2-2-2-2 卒業生による本学教育に対する評価（看護学科）

看護学科卒業生に実施した平成 26 年度調査（卒業生 45 名回答 回収率 31.3%）の結果を示す。

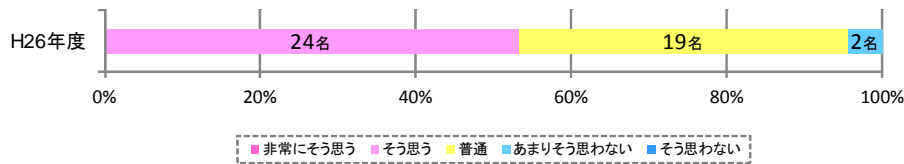
■ 教育目標について

H26 設問_本学では、以下の能力を育成することを教育の目標としています。そこで、大学教育を土台として培われたあなたの知識や臨床を含むさまざまな能力についてご回答ください。

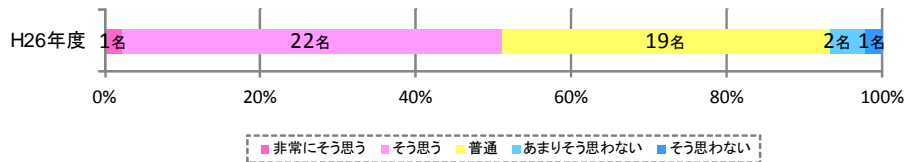
・看護師（保健師・助産師）として必要な知識を有していますか



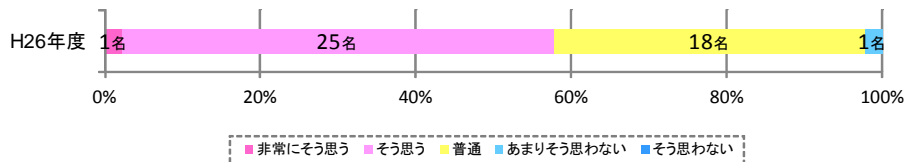
・患者様・利用者様やご家族様、住民への対応など、必要なコミュニケーション能力を有していますか？



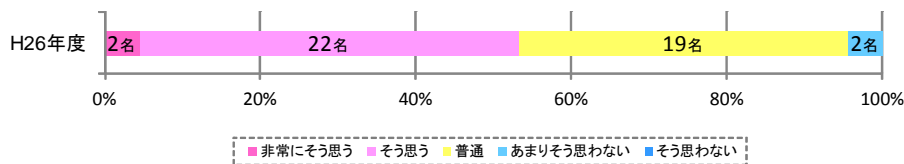
・患者様・利用者様やご家族様、住民から信頼される献身的な態度を有していますか



・福祉・医療チームに必要な協調性を有していますか

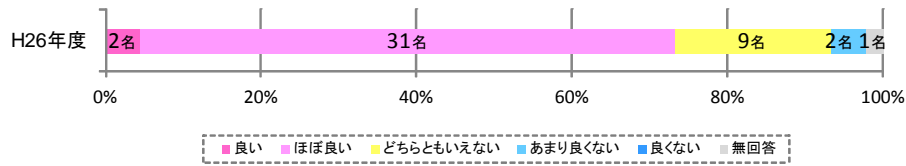


・患者様・利用者様、住民の尊厳や利益を重んじるなど、十分な医療倫理観を有していますか

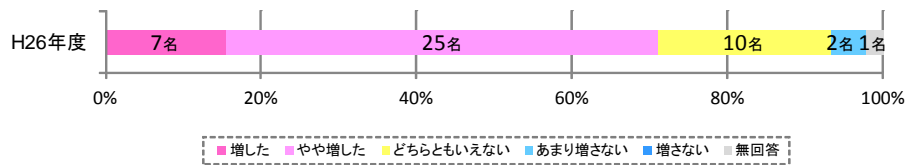


■ カリキュラムについて

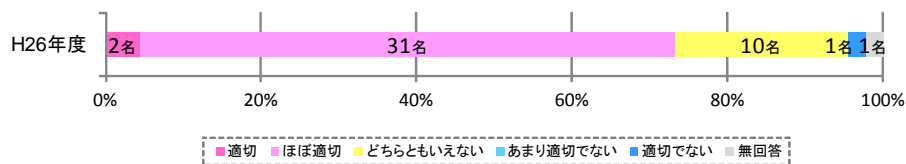
・H26 設問_あなたが履修したカリキュラム全体の構成（科目構成，開講時期など）は，看護師・保健師および助産師として備えるべき能力・技能を修得するうえで適切なものでしたか。



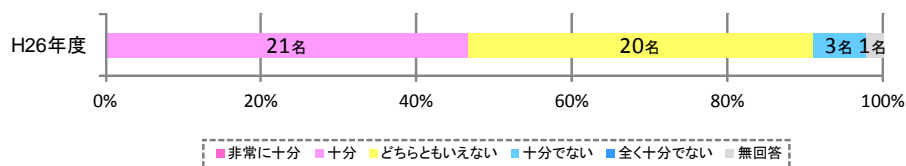
・H26 設問_本学のカリキュラムを履修して，医療に対する興味や履修意欲が増しましたか



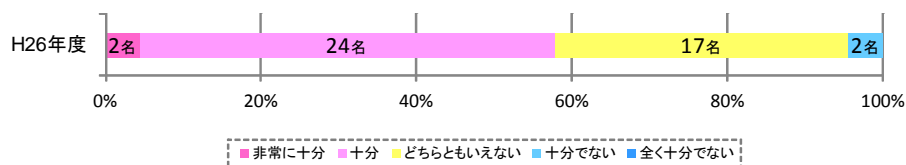
・H26 設問_カリキュラムや各科目等を履修する上で，教員の指導・助言は全般的に適切でしたか



・H26 設問_在学中，カリキュラム全体の学修内容を消化・理解するためにあなた自身が費やした学修時間は十分でしたか

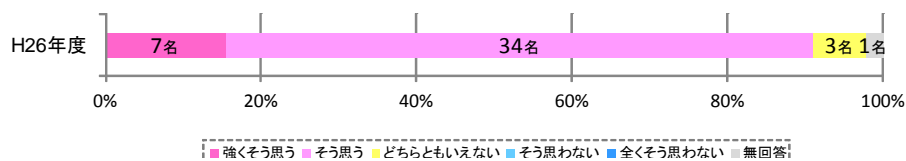


・H26 設問_あなたはカリキュラム全体の学修内容を十分に消化できましたか



■ 人間的成長について

H26 設問_本学の医学教育全体についてお聞きます。本学での学生生活の中で，自分自身は人間的に成長できたと思えますか



(平成 26 年度卒業生に対する大学教育の成果調査【医学部看護学科卒業生対象】 アンケート結果より抜粋)

【就職先調査内容】

- ① 平成 21～23 年度医学科卒業生の就職(研修)先医療機関において、卒業生は教育目標に対応した諸資質・能力を概ね備えていると評価され本学教育への満足度は高く、卒業生を積極的に受け入れたいとする施設の割合は第 1 期より増加している。これらは医学科の教育が関係者の期待に十分応えたものであることの証左である(資料 2-2-2-3)。

資料 2-2-2-3 医学科卒業生の就職先による本学教育に対する評価

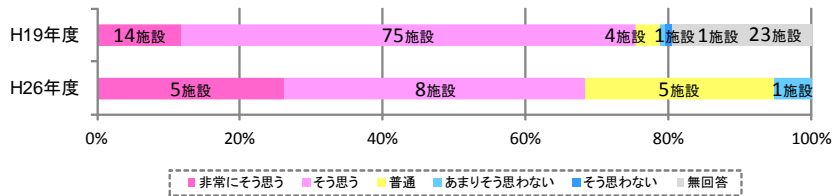
医学科卒業生の就職実績がある施設・診療科に実施した平成 19 年度調査(118 施設・診療科回答 回収率 55.9%)と平成 26 年度調査(平成 21～23 年度卒業生の就職先 19 施設・診療科回答 回収率 95.0%)において同等の質問項目について比較した結果を示す。なお調査は匿名アンケートによる。

■ 教育目標について

H19 設問_医学部では、①幅広い医学知識を持ち、質の高い臨床能力を身に付け、②コミュニケーション能力に優れ、高い倫理観を持って患者様中心の医療を実践でき、③日々進歩する医学知識・医療技術を生涯にわたり学ぶ習慣を身に付け、根拠に立脚した医療を実践できる医療人を育成することを教育目標としています。そこで、以下の観点における本学卒業生の全般的評価をお教えてください。

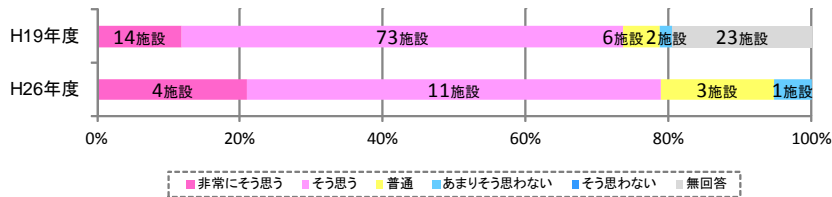
H26 設問_本学卒業生(医学科)の知識や臨床を含むさまざまな能力についてお尋ねします。

- ・臨床医として必要な医学知識を有していますか(H19…必要な知識を有している)



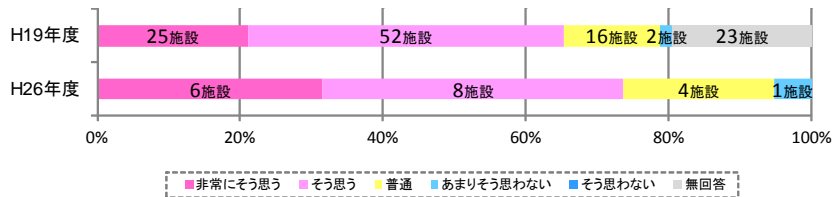
- * 第 1 期と比較して、第 2 期では就職先の高評価(非常にそう思うとした割合)は 14.4%向上しているが、そう思うを含めると全体の評価はやや低下している。平成 28 年度からの新カリキュラム等により必要な医学知識を修得できるよう 1 年次より医学専門教育を実施するなど工夫を行うこととしている。

- ・臨床医として必要な臨床能力を有していますか(H19…必要な臨床能力を有している)



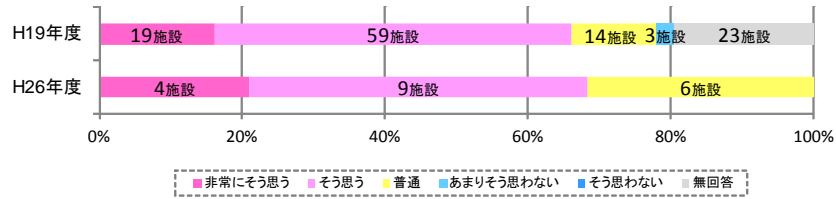
- * 第 1 期と比較して、第 2 期では就職先の評価(非常にそう思う～そう思うとした割合)は、5.2%向上している。

- ・患者様やご家族様への対応など、必要なコミュニケーション能力を有していますか(H19…患者様やご家族様への対応など、必要なコミュニケーション能力を有している)



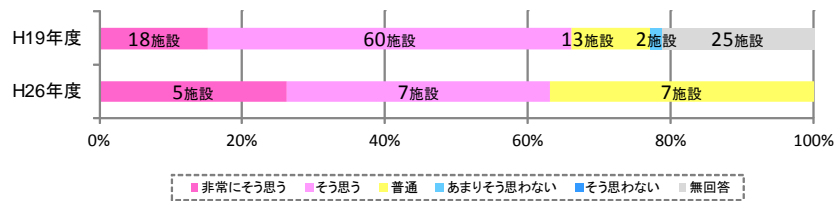
- * 第 1 期と比較して、第 2 期では就職先の評価(非常にそう思う～そう思うとした割合)は、8.4%向上している。

- ・患者様の尊厳や利益を重んじるなど、十分な医療倫理観を有していますか (H19…患者様の尊厳や利益を重んじるなど、十分な医療倫理観を有している)



- * 第1期と比較して、第2期では就職先の評価（非常にそう思う～そう思うとした割合）は、2.3%向上しており、加えて否定的評価をする施設が見られない。

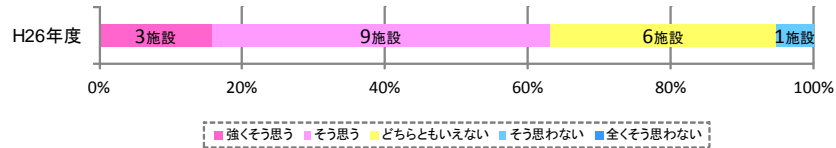
- ・新しい医学知識や医療技術の修得に対する積極性を有していますか (H19…新しい知識・技術の修得に対する積極性を有している)



- * 第1期と比較して、第2期では就職先の高評価（非常にそう思う）は、11.0%向上しており、加えて否定的評価をする施設が見られない。

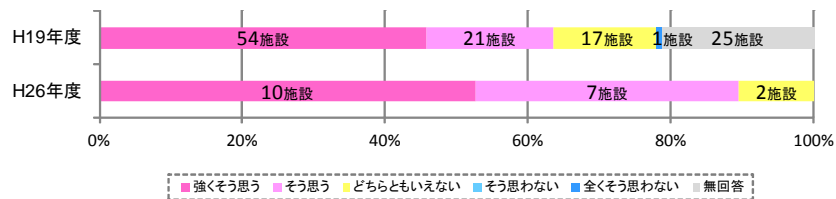
■ 本学教育への満足度

H26 設問_本学卒業生から判断して、本学の教育は満足できるものとお考えですか (平成19年度設問なし)



■ 本学卒業生への評価

H26 設問_本学卒業生を積極的に貴院（貴領域）に雇用しようとお考えですか (H19…本学卒業生を積極的に研修医として受け入れたいとお考えですか)



- * 第1期と比較して、第2期では就職先の評価（強くそう思う～そう思うとした割合）は、25.9%向上し、ほとんどの施設（89.5%）において本学卒業生の雇用を希望している。

(平成19年度関連病院対象福井大学医学部卒業生に関するアンケートおよび平成26年度医学部医学科卒業生の就職先へのアンケート結果より抜粋)

- ② 平成 23-25 年度看護学科卒業生の就職先医療機関において、卒業生の有する教育目標に対応した諸資質・能力について、過半の機関が本学の教育に満足し、卒業生を積極的に受け入れたいとしている。これらは看護学科の教育が関係者の期待に十分応えたものであることの証左である（資料 2-2-2-4）。

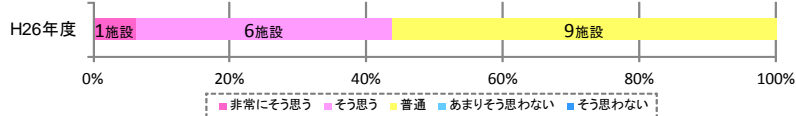
資料 2-2-2-4 看護学科卒業生の就職先による本学教育に対する評価

看護学科卒業生の就職実績がある施設・病棟に実施した平成 26 年度調査（平成 23～25 年度卒業生の就職先 16 施設・病棟回答 回収率 88.9%）の結果を示す。なお調査は匿名アンケートによる。

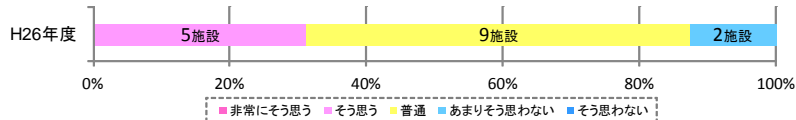
■ 教育目標について

設問_本学卒業生（看護学科）の知識や臨床を含むさまざまな能力についてお尋ねします。

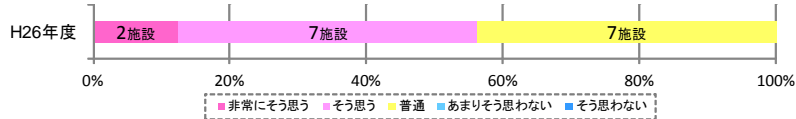
- ・ 看護師（助産師）として必要な医学知識を有していますか



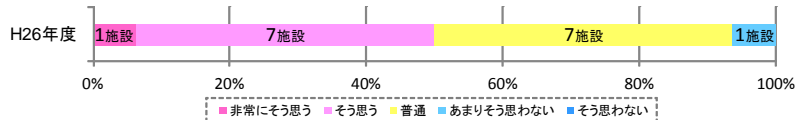
- ・ 患者様やご家族様への対応など、必要なコミュニケーション能力を有していますか



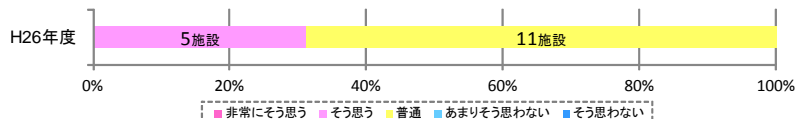
- ・ 患者様やご家族様から信頼される献身的な態度を有していますか



- ・ 医療チームに必要な協調性を有していますか

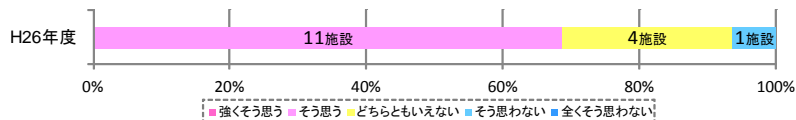


- ・ 患者様の尊厳や利益を重んじるなど、十分な医療倫理観を有していますか



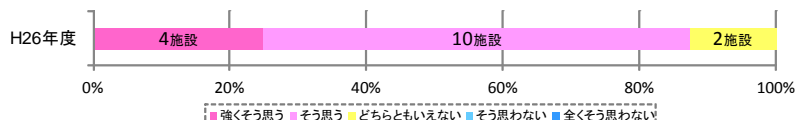
■ 本学教育の満足度

設問_本学卒業生から判断して、本学の教育は満足できるものとお考えですか



■ 本学卒業生の評価

設問_本学卒業生を積極的に貴院に雇用しようとお思いですか



* ほとんどの施設（87.5%）において本学卒業生の雇用を希望している。

（平成 26 年度医学部・看護学科卒業生の就職先へのアンケート結果より抜粋）

(水準) 期待される水準を上回る

(判断理由)

- ① 第2期期間中に関連国家試験に合格した卒業生のほぼ全員が医療職に従事しており¹⁾、医療人養成機関として関係者の期待に十分応えている。県内医療機関への卒業生の就職率は医学科 35.1%、看護学科 65.2%とともに第1期より向上しており²⁾、地域医療に携わる医療人育成により関係者の期待に十分応えている。地域医療人の育成のための入試制度や奨学金制度、地域医療に特化した寄附講座設置は特記できる³⁾。

1)	資料 2-2-1-1	: 卒業生の職種別就職状況	P4-168
2)	資料 2-2-1-3	: 卒業生の地域別就職状況	P4-170
	資料 2-2-1-4	: 福井県内就職状況	P4-171
3)	資料 1-1-1-7	: 医学部寄附講座	P4-10
	資料 1-1-1-23	: 医学部学生対象の奨学金一覧	P4-24
	資料 1-1-3-11	: 地域枠を設けた入学者志願状況 (医学科推薦入試Ⅱ)	P4-41

- ② 卒業生に対する意見聴取結果を鑑みると、在学中のカリキュラム等が適切であり教育目標に掲げる学力・能力を十分修得できたと回答しており、これらの達成度は第1期より向上している⁴⁾。このことは、本学部の教育が関係者の期待に第1期にも増して応えていることの証左である。

4)	資料 2-2-2-1	: 卒業生による本学教育に対する評価 (医学科)	P4-172
	資料 2-2-2-2	: 卒業生による本学教育に対する評価 (看護学科)	P4-175

- ③ 卒業生の就職先医療機関からは、本学卒業生が教育目標に掲げる学力・能力を概ね有しているとされ、それらの達成度の評価は第1期よりも向上し、かつ卒業生を積極的に雇用したいとしており⁵⁾、本学部の教育は関係者の期待に十分応えている。

5)	資料 2-2-2-3	: 医学科卒業生の就職先による本学教育に対する評価	P4-177
	資料 2-2-2-4	: 看護学科卒業生の就職先による本学教育に対する評価	P4-179

以上のように、進路・就職の状況は医療機関や地域社会の期待「人材育成」や「地域医療人育成」に極めてよく応えるものであり、期待される水準を上回る。

Ⅲ 「質の向上度」の分析

(1) 分析項目Ⅰ 教育活動の状況

- ① 教育目的を達成するための組織・体制の整備に努め、医学部長統括による医学部教育委員会等¹⁾と教育担当副医学部長統括による医学部教育支援センター²⁾の整備を行い、国際基準に則った医学科新カリキュラムを構築³⁾した。また教育の質保証・向上への体制や学生統合データベースによる教学 IR 体制⁴⁾を整備した。これらにより質の高い教育を実施するための体制が整備され、重要な質の変化があったと判断した。

- 1) 資料 1-1-1-1 : 医学部教育実施体制 P4-4
資料 1-1-1-2 : 医学部教育委員会 P4-5
2) 資料 1-1-1-4 : 医学部教育支援センターの概要 P4-7
3) 資料 1-2-2-1 : 平成 28 年度医学科新カリキュラム P4-95
4) 資料 1-1-5-1 : 医学部学生統合データベース P4-55
資料 1-1-5-4 : 教育評価アンケート一覧 P4-58

- ② 全学生に対するきめ細かな学生支援体制⁵⁾として、教員によるアドバイザー制度⁶⁾、専任カウンセラーを配した学生総合相談室による対応⁷⁾、リメディアル教育による学力補完教育等⁸⁾、5種類の独自奨学金制度等を整備した⁹⁾。学生の満足度は第1期に比べ第2期では向上しており¹⁰⁾、重要な質の変化があったと判断した。

- 5) 資料 1-1-1-11 : 学生支援活動一覧 P4-15
6) 資料 1-1-1-12 : 学習支援を含めた学生支援体制 P4-16
7) 資料 1-1-1-13 : 保健管理センターおよび学生総合相談室 P4-17
8) 資料 1-1-1-20 : リメディアル教育実施状況 P4-22
資料 1-1-1-21 : 医学科国家試験への支援 P4-23
資料 1-1-1-22 : 看護学科国家試験対策システム P4-23
9) 資料 1-1-1-23 : 医学部学生対象の奨学金一覧 P4-24
10) 資料 1-1-1-16 : 学生支援活動に対する学生の評価 P4-19
資料 1-1-1-19 : 看護学科学生支援活動(初年次学生グループ)に対する評価 P4-21
資料 1-1-1-26 : 経済的支援に対する学生の満足度 P4-25

- ③ カリキュラム・ポリシーに基づく体系的な教育課程を整備・明示¹¹⁾するとともに、地域医療人育成プログラムやグローバル人材育成プログラムなど特徴的教育の整備を行い、各プログラムに対して学生の評価は高く、能力涵養状況は良好である¹²⁾。これらにより、第2期ではカリキュラムに対する満足度の向上や海外留学学生数増加が見られ¹³⁾、重要な質の変化があったと判断した。

- 11) 資料 1-2-1-4 : 医学科カリキュラム・ポリシー P4-73
資料 1-2-1-7 : 医学科カリキュラムマップ P4-76
資料 1-2-1-8 : 医学科カリキュラムツリー P4-77
資料 1-2-1-9 : 看護学科カリキュラム・ポリシー P4-78
資料 1-2-1-12 : 看護学科カリキュラムマップ P4-81
資料 1-2-1-13 : 看護学科カリキュラムツリー P4-82
12) 資料 1-2-2-2 : 地域医療人育成プログラムの概要(医学科) P4-96
資料 1-2-2-7 : 看護学科における地域医療教育 P4-101
資料 1-2-2-12 : 医学科英語カリキュラム P4-106

- 資料 1-2-2-13 : 看護学科英語カリキュラム P4-107
 資料 1-2-2-14 : 「グローバル人材育成事業」海外留学・研修プログラム (医学部) P4-108
 資料 1-2-2-17 : 看護学科キャリアアップ実習シラバス P4-110
 資料 1-2-2-19 : 「卒業時にグローバルな視野を有する人材として備えるべき能力等」の
 涵養状況 P4-112
 13) 資料 1-1-1-27 : 海外留学する学生数の大幅な増加 P4-26
 資料 1-2-1-14 : カリキュラムに対する学生の評価 (医学科) P4-83
 資料 1-2-1-15 : カリキュラムに対する学生の評価 (看護学科) P4-84

④ ディプロマ・ポリシーに基づき学生の能力涵養に努め¹⁴⁾、単位の実質化を目指した学生指導に取り組み¹⁵⁾、課題探求・解決能力涵養科目など多様な教育方法・形態を取り入れ¹⁶⁾、臨床能力・技術取得のための実習の工夫¹⁷⁾や学生の自学自習環境の整備¹⁸⁾を行った。一連の取り組みにより授業外学習時間の確保¹⁹⁾や教育に対する満足度、良好な教育目標の涵養状況など顕著な成果が得られ²⁰⁾、重要な質の変化があったと判断した。

- 14) 資料 1-2-1-1 : 医学科ディプロマ・ポリシー P4-70
 資料 1-2-1-2 : 看護学科ディプロマ・ポリシー P4-71
 15) 資料 1-2-4-1 : 単位の実質化への全学的取り組み方針 P4-131
 資料 1-2-4-3 : 時間外学習を促す取組 P4-133
 16) 資料 1-2-3-1 : 授業における学習指導法の工夫状況 P4-113
 資料 1-2-3-13 : テュートリアル教育 P4-124
 17) 資料 1-2-3-3 : 臨床実習の概要 P4-115
 資料 1-2-3-4 : 診療参加型実習の工夫 P4-116
 資料 1-2-3-8 : 看護学実習 P4-120
 資料 1-2-3-10 : 「看護基本技術の記録」による自己評価システムの工夫 P4-122
 18) 資料 1-2-4-7 : 学生の自習スペース P4-137
 資料 1-2-4-8 : 総合研究棟 (講義棟) 改修 P4-138
 資料 1-2-4-9 : 医学図書館改修 P4-139
 資料 1-2-4-11 : ICT 環境の整備 P4-140
 19) 資料 1-2-4-4 : 学生の授業外学習時間 (医学科) P4-134
 資料 1-2-4-5 : 学生の授業外学習時間 (看護学科) P4-135
 20) 資料 1-2-3-14 : 「テュートリアル」に対する学生の評価 P4-125
 資料 1-2-4-12 : 学生の主体的学習意欲 P4-141
 資料 2-1-3-1 : 医学部教育に対する学生の満足度 P4-160
 資料 2-1-3-2 : 教育目標に対する学生の評価 (医学科) P4-163
 資料 2-1-3-3 : 教育目標に対する学生の評価 (看護学科) P4-165
 資料 1-2-4-2 : 課題探求・解決型能力の涵養 P4-132

⑤ 画像医学教育推進のため、医学部附属先進イメージング教育研究センターを設置し²¹⁾本学独自の画像教育システムの整備を行った。教育コンテンツは 6,000 以上と本邦随一であり、学生の良好な能力涵養状況など成果が得られ²²⁾、重要な質の変化があったと判断した。

- 21) 資料 1-1-1-8 : 医学教育を支援する施設等 P4-11
 22) 資料 1-2-3-18 : 画像医学教育の工夫 P4-129

(2) 分析項目Ⅱ 教育成果の状況

- ① 教育目的である「高度な医学・看護学知識を修得した信頼しうる医療人」の育成に努め、医師・看護師・保健師・助産師国家試験における高い合格率¹⁾が示すように医療人を順調に育成しており、卒業生の教育目標に対する能力涵養状況²⁾及び卒業生就職先からの卒業生評価³⁾が第2期において向上していることから、重要な質の変化があったと判断した。

- | | | | |
|----|------------|----------------------------|--------|
| 1) | 資料 2-1-2-1 | : 医師国家試験の合格率 | P4-153 |
| | 資料 2-1-2-2 | : 看護師国家試験の合格率 | P4-154 |
| | 資料 2-1-2-3 | : 保健師国家試験の合格率 | P4-155 |
| | 資料 2-1-2-4 | : 助産師国家試験の合格率 | P4-156 |
| 2) | 資料 2-2-2-1 | : 卒業生による本学教育に対する評価 (医学科) | P4-172 |
| | 資料 2-2-2-2 | : 卒業生による本学教育に対する評価 (看護学科) | P4-175 |
| 3) | 資料 2-2-2-3 | : 医学科卒業生の就職先による本学教育に対する評価 | P4-177 |
| | 資料 2-2-2-4 | : 看護学科卒業生の就職先による本学教育に対する評価 | P4-179 |

- ② 教育目的である「地域医療の向上に寄与すること」を目指し、入試改革、地域医療人育成プログラムや奨学金制度⁴⁾により卒業生の福井県内就職率は⁵⁾、第1期よりも向上し、重要な質の変化があったと判断した。

- | | | | |
|----|-------------|-----------------------------|--------|
| 4) | 資料 1-1-1-23 | : 医学部学生対象の奨学金一覧 | P4-24 |
| | 資料 1-1-3-11 | : 地域枠を設けた入学者志願状況 (医学科推薦入試Ⅱ) | P4-41 |
| | 資料 1-2-2-2 | : 地域医療人育成プログラムの概要 (医学科) | P4-96 |
| | 資料 1-2-2-7 | : 看護学科における地域医療教育 | P4-101 |
| 5) | 資料 2-2-1-3 | : 卒業生の地域別就職状況 | P4-170 |
| | 資料 2-2-1-4 | : 福井県内就職状況 | P4-171 |